

西中中
喜村村
光田田
地所所
遺東遺
跡跡跡

中 村 田 所 遺 跡 中 村 田 所 東 遺 跡 西 喜 光 地 遺 跡

— 一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線
埋蔵文化財調査報告書 —

二〇二二・三

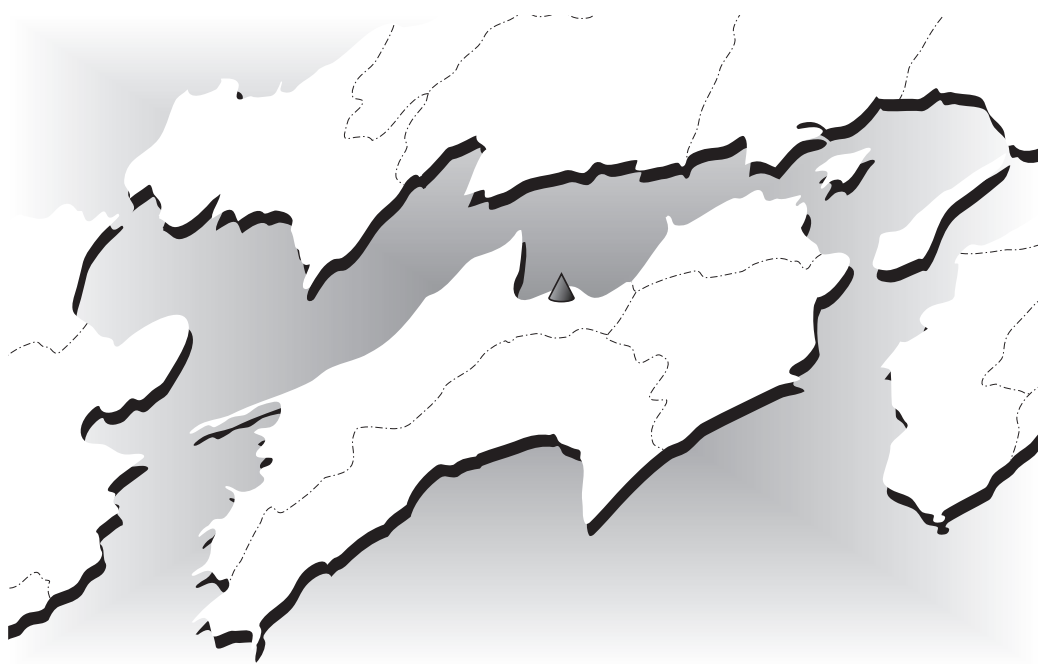
公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

2022.3

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

中村田所遺跡 中村田所東遺跡 西喜光地遺跡

－ 一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線
埋蔵文化財調査報告書 －



2022.3

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

序 文

このたび、一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線の建設に伴い、愛媛県(事業主体・国土交通省)ならびに新居浜市からの委託を受け、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが、平成29年度から令和2年度に発掘調査を実施した愛媛県新居浜市中村松木・土橋・西喜光地町に所在する中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡について報告書を刊行することとなりました。

新居浜平野における縄文時代後期から中世の各時期におよぶまとまった集落遺跡の調査となり、とくに弥生時代の遺構・遺物は新居浜地域の低地部における弥生時代集落の変遷を考える上で重要な手がかりとなるものと考えられます。

今後、本報告書が地域の歴史や考古学研究の資料として、多くの方々に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査に対しましてご理解とご協力を賜りました国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所・新居浜市・新居浜市教育委員会をはじめ、ご指導いただいた関係諸機関および地元の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本報告書は、愛媛県新居浜市中村松木・土橋・西喜光地町に所在する中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および報告書の作成は、一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線の建設に伴い、愛媛県(事業主体・国土交通省四国地方整備局)ならびに新居浜市の委託を受け、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成29年度から令和2年度に実施し、整理作業および報告書の作成は平成30年度ならびに令和3年度に実施した。

- 4 発掘調査および整理・報告書の作成は、次の職員が担当した。

発掘調査

首藤久士 青木聡志 田中いづみ 佐野祐樹

整理作業

首藤久士 岡美奈子 田中いづみ

- 5 発掘調査および報告書作成において、下記の職員および作業員の協力を得た。

職員

池尻伸吾 石貫弘泰 柴田圭子 多田仁 中野良一 乗松真也 松村さを里
眞鍋昭文 三好裕之 山口莉歩

現場外業作業員

青野徳扇 有安史一 安藤賢治 伊藤志穂 伊東準治 大田順一 大森夏子
長船浩司 小野荘太郎 神山典久 糸野祥子 黒瀬久義 近藤聖治 佐々木敏幸
白石均 高橋光子 西原丈晴 深川伸一 山内智千 山下裕次 山根義人

現場内業作業員

伊藤日奈子 川又洋子 村上志帆

衣山内業作業員

泉藤江 越智直美 川村りか 福山多恵子 藤山幸子 八木美薫

- 6 委託業務に関しては以下のように実施した。
基準点・水準点の設定は、有限会社東洋光測量設計(平成29年度・令和2年度)・株式会社西条設計コンサルタント(平成30年度・令和2年度)に委託し、世界測地系に準拠した。
理化学分析は株式会社古環境研究所に委託した。
金属製品の保存処理は株式会社イビソクに委託した。
- 7 本報告書の執筆は、第7章第2節2を乗松、それ以外を首藤が行い、編集は首藤・岡が行った。
- 8 本書に掲載した図のうち図1,9～11,63,64,105,106で使用した都市計画図については、新居浜市長の承認を得て、同市作成の2,500分の1都市計画図を複製したものである。(測量法第43条に基づく成果複製承認 令和4年新建都第23号)
- 9 出土遺物は愛媛県教育委員会文化財保護課が、遺構原図・遺物実測図・写真類は公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターがそれぞれ保管している。
- 10 発掘調査および報告書作成では、多くの方々や関係機関のご指導・ご助言をいただきました。記して謝意を表します。(50音順・敬称略)
岡田敏彦 桑内章裕 柴田昌兎 高橋洋毅 土岐幸司
新居浜市教育委員会 信里芳紀 村上恭通

凡 例

一覧表の略記号表記例

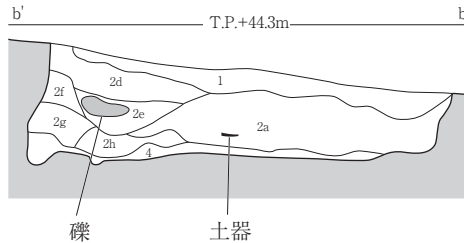
遺構の略号

遺 構 種 別	略 号
竪 穴 建 物	SI..
掘 立 柱 建 物	SB..
土 坑	SK..
墓	ST..
溝	SD..
不 明 遺 構	SX..
柱 穴 ・ 小 穴	SP..

遺物一覧の略分類

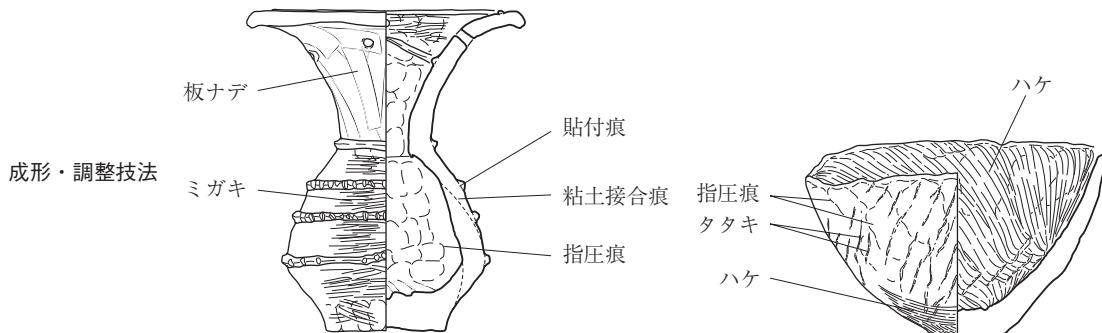
略記号	内 容
L	長 寸 法
W	幅
H	器高・高さ
T	厚 寸 法
R	直 径
MR	最 大 径
HR	孔 径
TR	口 径
NR	頸 部 径
LR	底 径
g	重 量
()	推 定 値
[]	残 存 値

遺構の表現例

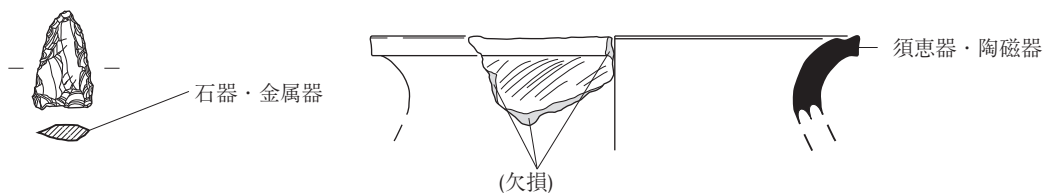


土層断面図中の網伏せは礫、塗りつぶしは土器を示す。

遺物の表現例



断面・欠損表記



土色・土器の色調については、『新版 標準土色帖(2014年度版)』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に拠る。煩雑さを避けるために、弥生土器の壺形土器・甕形土器などの「形土器」は省略した。

本文目次

第1章 調査にいたる経緯と経過.....	1
第1節 調査にいたる経緯.....	1
1 試掘調査.....	1
第2節 調査の経過.....	1
1 発掘調査の経過.....	1
2 調査成果報告会の実施.....	5
3 整理作業.....	5
4 調査体制.....	5
第2章 遺跡の立地と環境.....	7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境.....	7
1 縄文時代.....	7
2 弥生時代.....	7
3 古墳時代.....	8
4 古代.....	8
5 中世.....	10
6 近世以降.....	13
第3章 中村田所遺跡の成果.....	15
第1節 中村田所遺跡の概要.....	15
1 地形と調査区.....	15
2 基本層序.....	15
3 遺構と遺物の概要.....	15
第2節 縄文時代の遺構と遺物.....	29
1 概要.....	29
2 土坑.....	29
3 小穴の出土遺物.....	30
4 遺構外の遺物.....	30
第3節 弥生時代の遺構と遺物.....	31
1 概要.....	31
2 竪穴建物.....	33

3 掘立柱建物.....	54
4 土坑.....	56
5 壺棺墓.....	56
6 溝.....	57
7 小穴.....	58
8 遺構外の出土遺物.....	61
第4節 中世の遺構と遺物.....	64
1 概要.....	64
2 掘立柱建物.....	64
3 土坑.....	66
4 小穴の出土遺物.....	67
5 遺構外の出土遺物.....	67
第5節 時期不明の遺構.....	67
1 土坑.....	67
2 溝.....	67
3 小穴.....	68
4 性格不明遺構.....	68
第6節 時期不明の遺物.....	71
第7節 小結.....	72
第4章 中村田所東遺跡の成果.....	85
第1節 中村田所東遺跡の概要.....	85
1 地形と調査区.....	85
2 基本層序.....	85
3 遺構と遺物の概要.....	85
第2節 弥生時代の遺構と遺物.....	99
1 概要.....	99
2 竪穴建物.....	99
3 掘立柱建物.....	99
4 土坑.....	101
5 溝.....	103
6 小穴.....	105
7 自然流路.....	108
8 遺構外の出土遺物.....	108
第3節 中世の遺物.....	114
1 遺構外の出土遺物.....	114

第4節	時期不明の遺構.....	115
1	土坑.....	115
2	溝.....	115
3	小穴.....	116
4	性格不明遺構.....	116
第5節	時期不明の遺物.....	116
第6節	小結.....	118
第5章	西喜光地遺跡の成果.....	131
第1節	西喜光地遺跡の概要.....	131
1	地形と調査区.....	131
2	基本層序.....	131
3	遺構と遺物の概要.....	132
第2節	弥生時代の遺構と遺物.....	145
1	概要.....	145
2	掘立柱建物.....	145
3	土坑.....	154
4	遺構外の出土遺物.....	163
第3節	古代の遺構と遺物.....	163
1	概要.....	163
2	溝.....	163
第4節	中世の遺構と遺物.....	169
1	概要.....	169
2	溝.....	169
3	遺構外の出土遺物.....	170
第5節	時期不明の遺構.....	170
1	掘立柱建物.....	170
2	土坑.....	170
3	溝.....	170
4	小穴.....	183
第6節	時期不明の遺物.....	185
第7節	小結.....	186
第6章	自然科学分析.....	201
第1節	目的.....	201
第2節	概要.....	201

第3節	火山灰分析.....	201
第4節	SK7出土炭化材の放射性炭素年代測定.....	206
第5節	SK7出土炭化材の樹種同定.....	208
第6節	SI2～4出土炭化材の樹種同定.....	210
第7節	まとめ.....	214
第7章	総括.....	217
第1節	遺構の変遷.....	217
1	縄文時代以前.....	217
2	弥生時代.....	217
3	古代以降.....	220
第2節	特徴的な遺構・遺物.....	220
1	中村田所遺跡出土の火山灰.....	220
2	中村田所東遺跡出土のサヌカイト石器.....	221
3	西喜光地遺跡出土の掘立柱建物.....	221
4	中村田所遺跡出土の讃岐系土器.....	222
5	中村田所遺跡出土の壺棺墓.....	222
6	中村田所東遺跡出土の瀬戸美濃卸皿.....	223
第3節	出土した弥生土器について.....	223
1	弥生土器の変遷.....	223
第4節	新居浜バイパス関連遺跡群における遺跡分布と弥生時代集落.....	224
1	これまでの調査状況.....	224
2	遺跡の分布傾向.....	225
3	弥生時代集落の変遷.....	225

目 次

図1	試掘の位置.....	2
図2	試掘トレンチ土層柱状図1.....	2
図3	試掘トレンチ土層柱状図2.....	3
図4	試掘トレンチ土層柱状図3.....	4
図5	遺跡周辺の地質.....	9
図6	周辺の遺跡分布.....	11
図7	中村田所遺跡現場作業.....	15
図8	2区東壁火山灰出土状況.....	15
図9	調査区的位置.....	16

図10	中村田所遺跡(1・2区)調査区位置図.....	17
図11	中村田所遺跡調査区基本層序測量位置図.....	18
図12	中村田所遺跡基本層序模式図および土層説明.....	19
図13	1区基本層序(A-A'-A'',B-B',C-C').....	21
図14	2区基本層序(D-D'-D'').....	23
図15	2区基本層序(E-E',F-F').....	25
図16	1・2区遺構配置図.....	27
図17	SK1平断面図および礫出土状況および出土遺物.....	29
図18	SK7平断面図および遺物・礫出土状況および出土遺物.....	30
図19	SK8平断面図および遺物・礫出土状況および出土遺物.....	31
図20	小穴の出土遺物(縄文時代).....	31
図21	包含層出土遺物(縄文時代).....	32
図22	出土地不明遺物(縄文時代).....	32
図23	SI1平断面図および遺物ドット.....	33
図24	SI1出土遺物.....	34
図25	SI2平断面図.....	35
図26	SI2遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層).....	37
図27	SI2出土遺物(1).....	39
図28	SI2出土遺物(2).....	40
図29	SI2出土遺物(3).....	41
図30	SI2出土遺物(4).....	42
図31	SI3平断面図および遺物・焼土・炭化物出土状況.....	43
図32	SI3出土遺物.....	44
図33	SI4平断面図.....	45
図34	SI4遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層).....	47
図35	SI4出土遺物(1).....	49
図36	SI4出土遺物(2).....	50
図37	SI4出土遺物(3).....	51
図38	SI4出土遺物(4).....	52
図39	SB1平断面図および礫出土状況.....	53
図40	SK9平断面図および遺物ドット・炭化物出土状況および出土遺物.....	54
図41	ST1平断面図および遺物出土状況.....	55
図42	ST1出土遺物(1).....	55
図43	ST1出土遺物(2).....	56
図44	SD1平断面図.....	57
図45	SD5平断面図.....	57
図46	SD10,12,13平断面図および出土遺物.....	59
図47	SP140,142,236平断面図および遺物出土状況および出土遺物.....	61
図48	包含層出土遺物(弥生時代)(1).....	62
図49	包含層出土遺物(弥生時代)(2).....	63
図50	包含層出土遺物(弥生時代)(3).....	64

図51	SB2平断面図および遺物出土状況および出土遺物.....	65
図52	SK5平断面図.....	66
図53	その他SP出土遺物(中世).....	66
図54	包含層出土遺物(古代～中世).....	66
図55	SK3平断面図.....	67
図56	SD2,3,4平断面図.....	67
図57	SD6～9,11平断面図.....	69
図58	SP8,112～115,127,183平断面図および遺物出土状況.....	70
図59	SX1平断面図.....	71
図60	包含層出土遺物(時期不明).....	71
図61	中村田所東遺跡現場作業1.....	85
図62	中村田所東遺跡現場作業2.....	85
図63	中村田所東遺跡(1・2区)調査区位置図.....	86
図64	中村田所東遺跡調査区基本層序測量位置図.....	87
図65	中村田所東遺跡基本層序模式図および土層説明.....	88
図66	1区基本層序(A-A',B-B').....	89
図67	1区基本層序(C-C',D-D'-D").....	91
図68	2区基本層序(E-E',F-F',G-G',H-H').....	93
図69	2区基本層序(I-I',J-J').....	95
図70	1・2区遺構配置図.....	97
図71	SII平断面図および焼土・炭化物出土状況.....	100
図72	SI1出土遺物.....	101
図73	SB1平断面図.....	101
図74	SB2平断面図.....	102
図75	SK1平断面図および遺物・礫出土状況.....	103
図76	SK1出土遺物(1).....	104
図77	SK1出土遺物(2).....	105
図78	SK4平断面図および遺物ドットおよび出土遺物.....	106
図79	SD2平断面図および出土遺物.....	107
図80	SP72平断面図および遺物出土状況および出土遺物.....	107
図81	その他SP出土遺物(弥生時代).....	107
図82	SR1,2平断面図および遺物ドット.....	109
図83	SR1出土遺物(1).....	110
図84	SR1出土遺物(2).....	111
図85	SR2出土遺物.....	111
図86	包含層出土遺物(弥生時代)(1).....	112
図87	包含層出土遺物(弥生時代)(2).....	113
図88	包含層出土遺物(弥生時代)(3).....	114
図89	包含層出土遺物(中世).....	115
図90	出土地点不明遺物(中世).....	115
図91	SK3平断面図および礫出土状況.....	115

図92	SD1,3平断面図.....	116
図93	SP58,118,206,332平断面図および遺物出土状況および出土遺物.....	117
図94	SX1平断面図.....	117
図95	包含層出土遺物(時期不明).....	118
図96	中村田所東遺跡現場作業3.....	118
図97	中村田所東遺跡現場作業4.....	118
図98	黒褐色礫層の隆起.....	131
図99	西喜光地遺跡現場作業1.....	131
図100	西喜光地遺跡現場作業2.....	132
図101	西喜光地遺跡現場作業3.....	132
図102	西喜光地遺跡現場作業4.....	132
図103	西喜光地遺跡現場作業5.....	132
図104	西喜光地遺跡現場作業6.....	132
図105	西喜光地遺跡(1・2区)調査区位置図.....	133
図106	西喜光地遺跡調査区基本層序測量位置図.....	135
図107	1区基本層序模式図および土層説明(A-A'-A",B-B'-B").....	137
図108	1区基本層序(A-A'-A",B-B'-B").....	139
図109	2区基本層序模式図および基本層序(C-C',D-D'-D",E-E'-E",F-F'-F").....	141
図110	1・2区遺構配置図.....	143
図111	SB2平断面図および遺物出土状況.....	146
図112	SB2出土遺物.....	147
図113	SB3平断面図および遺物出土状況.....	148
図114	SB4平断面図.....	149
図115	SB5平断面図および礫出土状況.....	151
図116	SB6平断面図および遺物出土状況.....	152
図117	SB7平断面図および遺物出土状況.....	153
図118	SB7出土遺物.....	154
図119	SB8平断面図および遺物出土状況.....	155
図120	SB8出土遺物.....	156
図121	SB9平断面図および礫出土状況.....	157
図122	SB10平断面図および礫出土状況.....	158
図123	SK1,2平断面図および遺物出土状況.....	159
図124	SK1,2出土遺物(1).....	160
図125	SK2出土遺物(2).....	161
図126	SK1,2出土遺物.....	162
図127	SK3平断面図.....	162
図128	SK5平断面図および遺物出土状況.....	163
図129	SK5出土遺物.....	164
図130	SK6平断面図および出土遺物.....	165
図131	SK7平断面図および遺物出土状況および出土遺物.....	166
図132	包含層出土遺物(弥生時代)(1).....	167

図133	包含層出土遺物(弥生時代)(2).....	168
図134	SD1~4平断面図.....	171
図135	SD6,13,14平断面図および出土遺物.....	173
図136	SD5,9~12平断面図および出土遺物.....	175
図137	SD7,8,19平断面図および出土遺物.....	177
図138	包含層出土遺物(中世).....	179
図139	SB1平断面図.....	180
図140	SK4平断面図.....	180
図141	SK8平断面図.....	181
図142	SD15~18平断面図.....	182
図143	SP6,13,30,31,51,83平断面図.....	183
図144	SP103,126,152,277,293,294平断面図.....	184
図145	SP392,393,395,396平断面図.....	185
図146	包含層出土遺物(時期不明).....	186
図147	出土地点不明遺物(時期不明).....	186
図148	2区東壁火山灰分析試料採取地点.....	202
図149	中村田所遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム.....	204
図150	火山灰顕微鏡写真.....	205
図151	暦年較正結果.....	207
図152	SK7出土炭化材顕微鏡写真.....	209
図153	SI2炭化材試料採取地点(試料1~12).....	211
図154	SI3炭化材試料採取地点(試料13).....	211
図155	SI4炭化材試料採取地点(試料14~20).....	211
図156	SI1~3出土炭化材顕微鏡写真(1).....	215
図157	SI1~3出土炭化材顕微鏡写真(2).....	216
図158	中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(1).....	218
図159	中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(2).....	219
図160	石器の大きさの階級別点数.....	221
図161	石器種類別点数比率(不明剥片除く).....	221
図162	石器種類別点数比率.....	221
図163	香川県における弥生時代の掘立柱建物事例.....	222
図164	東予地方における讃岐系土器の出土遺跡.....	223
図165	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(1).....	226
図166	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(2).....	227
図167	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(1).....	228
図168	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(2).....	229

表 目 次

表1	調査体制.....	5
----	-----------	---

表2	主要遺構一覽(中村田所遺跡).....	73
表3	柱穴一覽(中村田所遺跡).....	74~78
表4	掲載遺物一覽(中村田所遺跡).....	79~81
表5	出土遺物一覽(中村田所遺跡).....	82,83
表6	主要遺構一覽(中村田所東遺跡).....	119
表7	柱穴一覽(中村田所東遺跡).....	120~127
表8	掲載遺物一覽(中村田所東遺跡).....	128,129
表9	出土遺物一覽(中村田所東遺跡).....	130
表10	主要遺構一覽(西喜光地遺跡).....	187
表11	柱穴一覽(西喜光地遺跡).....	188~195
表12	掲載遺物一覽(西喜光地遺跡).....	196,197
表13	出土遺物一覽(西喜光地遺跡).....	198,199
表14	テフラ分析結果.....	203
表15	火山ガラス比分析結果.....	203
表16	屈折率測定結果.....	204
表17	測定試料及び処理.....	206
表18	測定結果.....	207
表19	樹種同定結果.....	210
表20	愛媛県内の瀬戸美濃卸皿.....	224
表21	新居浜バイパス関連発掘調査一覽.....	225

図 版 目 次

図版1	遺跡遠景(滝の宮公園より)
図版2	上:1区調査前状況(南西より)／下:2区調査前状況(北東より)
図版3	上:1区東半遺構検出状況(南東より)／下:1区中央北半遺構検出状況(南東より)
図版4	上:1区西半北側遺構検出状況(南東より)／下:1区東半南側遺構検出状況(北東より)
図版5	上:2区北半遺構検出状況(南東より)／下:2区南半遺構検出状況(北西より)
図版6	上:1区東半北側完掘状況(南西より)／下:1区東半南側完掘状況(南西より)
図版7	上左:1区西半北側完掘状況(南東より)／上右:1区北端部完掘状況(南東より) 中上左:2区南半完掘状況(北西より)／中上右:2区北端部完掘状況(北西より) 下:2区北半完掘状況(南東より)
図版8	上左:SI1完掘状況(東より)／上右:SI1土層断面(北西より)／中上右:SI1土層断面(南東より) 下:SI1遺物出土状況(北西より)
図版9	上:SI2完掘状況(西より)／中下左:SI2土層断面(北西より)／中下右:SI2土層断面(南東より) 下左:SI2遺物出土状況(南東より)／下右:SI2遺物出土状況(北東より)
図版10	上:SI2焼土・炭化物出土状況(西より)／中下左:SI2焼土・炭化物出土状況(南より)

- 中下右:SI2焼土・炭化物出土状況(南東より)／下左:SI2焼土・炭化物出土状況(北西より)
 下右:SI2焼土・炭化物出土状況(北より)
- 図版11 上:SI2下層遺物出土状況(北西より)／中下左:SI2下層遺物出土状況(南より)
 中上左:SI2下層遺物出土状況(北西より)／下左:SI2-SK10土層断面(北西より)
 下右:SI2-SP239土層断面(西より)
- 図版12 上左:SI3完掘状況(南より)／上右:SI3土層断面(東より)／中上右:SI3土層断面(西より)
 下:SI3焼土・炭化物出土状況(南より)
- 図版13 上:SI4完掘状況(北西より)／中下左:SI4土層断面(北西より)／下左:SI4土層断面(南東より)
 下右:SI4床面検出状況(北西より)
- 図版14 上:SI4焼土・炭化物出土状況(北西より)／下左:SI4焼土・炭化物出土状況(西より)
 中下右:SI4焼土・炭化物出土状況(南東より)／下右:SI4下層遺物出土状況(南東より)
- 図版15 上左:SI4下層遺物出土状況(北西より)／上右:SI4下層遺物出土状況(北東より)
 中上右:SI4下層遺物出土状況(東より)／中下左:SI4-SK12遺物出土状況(南西より)
 中下右:SI4-SK12土層断面(南東より)／下左:SI4-SP244土層断面(南より)
 下右:SI4-SP246土層断面(南西より)
- 図版16 上:SB1完掘状況(南東より)／中下左:SB1-SP169礫出土状況(西より)
 中下右:SB1-SP174礫出土状況(西より)／下左:SB1-SP169土層断面(西より)
 下右:SB1-SP171土層断面(南西より)
- 図版17 上:SB2完掘状況(北西より)／中下左:SB2-SP177遺物出土状況(北より)
 中下右:SB2-SP177土層断面(南東より)／下左:SB2-SP181土層断面(南より)
 下右:SB2-SP182土層断面(南西より)
- 図版18 上:SK1遺物・礫出土状況(北より)／下左:SK1完掘状況(北より)／中下右:SK1土層断面(南より)
 下右:SK1土層断面(北より)
- 図版19 上:SK7,8完掘状況(南東より)／中下左:SK7遺物出土状況(南東より)／中下右:SK7土層断面(南東より)
 下左:SK8遺物出土状況(南西より)／下右:SK8土層断面(南東より)
- 図版20 上:SK9遺物出土状況(西より)／中下左:SK9完掘状況(南西より)／中下右:SK9土層断面(南東より)
 下左:SK3土層断面(南より)／下右:SK5完掘状況(西より)
- 図版21 上:ST1内部完掘状況(北より)／中下左:ST1検出状況(北より)／中下右:ST1内部完掘状況(下層)(北西より)
 下左:ST1内部土層断面(北より)／下右:ST1土層断面(北より)
- 図版22 上左:1区東半北側溝群完掘状況(北西より)／上右:SD10,11完掘状況(西より)
 中上左:SD12完掘状況(北西より)／中上右:SD13西半完掘状況(南より)
 中下左:SD13東半完掘状況(東より)／中下右:SD1b-b'土層断面(北より)／下左:SD2土層断面(北東より)
 下右:SD6土層断面(南より)
- 図版23 上左:SD8土層断面(東より)／上右:SD10土層断面(西より)／中上左:SD11土層断面(西より)
 中上右:SD12土層断面(西より)／中下左:SD13a-a'土層断面(北より)／中下右:SD13b-b'土層断面(西より)
 下左:SP8土層断面(北より)／下右:SP112土層断面(東より)

- 図版24 上左:SP113土層断面(南東より)／上右:SP114礫出土状況(東より)／中上左:SP140遺物出土状況(北西より)
中上右:SP142遺物出土状況(南西より)／中下左:SP144土層断面(西より)
中下右:SP183土層断面(南東より)／下左:SP236土層断面(南より)／下右:SP1土層断面(南より)
- 図版25 上:1区北壁(A-A'-A'')東半断面(南西より)／中下左:1区北壁(A-A'-A'')西半断面(南東より)
下左:1区西壁(B-B')断面(南東より)／下右:2区南壁(F-F')断面(北西より)
- 図版26 上:2区北壁(D-D'-D'')断面(南西より)／下:2区東壁(E-E')断面(南西より)
- 図版27 弥生時代 出土遺物 集合写真／縄文時代 出土遺物 SK・SP・包含層 (1～15)
- 図版28 縄文時代 出土遺物 包含層・出土地不明／弥生時代 出土遺物 SI (16～28,30,33～35)
- 図版29 弥生時代 出土遺物 SI (29,31,32,36～43,47～50)
- 図版30 弥生時代 出土遺物 SI (44～46,51～57,62)
- 図版31 弥生時代 出土遺物 SI (58～61,63～70,73～76,78)
- 図版32 弥生時代 出土遺物 SI・SK・SD・SP・包含層 (71,72,77,79,83～91,94)
- 図版33 弥生時代 出土遺物 ST (80～82)
- 図版34 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 SB・SP・包含層 (92,93,95～105,107～113)
- 図版35 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 包含層 (106,114～122)
- 図版36 上:1区東側調査前状況(南東より)／下左:1区西側調査前状況(南西より)／下右:2a区調査前状況(北より)
- 図版37 上:1区中央遺構検出状況(北西より)／中下左:1区東側遺構検出状況(南東より)
中下右:1区西側遺構検出状況(南より)／下左:2a区遺構検出状況(北東より)
下右:2c区東半遺構検出状況(西より)
- 図版38 上:1区中央完掘状況(南西より)／下左:1区東側完掘状況(南東より)／下右:1区西側完掘状況(南西より)
- 図版39 上:2c区東半完掘状況(西より)／下左:2a区完掘状況(南より)／下右:2b区完掘状況(北東より)
- 図版40 上:SI1完掘状況(南東より)／中下左:SI1-SP170土層断面(南より)／中下右:SI1-SK2土層断面(南より)
下左:SI1-SK2土層断面(北西より)／下右:SI1-SK2周辺焼土・炭化物出土状況(東より)
- 図版41 上:SB1,2完掘状況(南西より)／中下左:SK4完掘状況(南西より)／下左:SK4土層断面(北より)
中下右:SK4遺物出土状況(南西より)／下右:SK4遺物出土状況近景(南西より)
- 図版42 上左:SK1完掘状況(南西より)／上右:SK1土層断面(西より)／中上右:SK1土層断面(北より)
下:SK1遺物出土状況(南東より)
- 図版43 上左:SK3完掘状況(南西より)／上右:SK3土層断面(南西より)／中上左:SD1完掘状況(南より)
中上右:SD1土層断面(北東より)／中下左:SD3完掘状況(北より)／中下右:SD3土層断面(南西より)
下左:SD2土層断面(南西より)／下右:SP1土層断面(南より)
- 図版44 上左:SR1完掘状況(東より)／上右:SR1a-a'土層断面(西より)／中上右:SR1b-b'土層断面(東より)
中下左:SR2c-c'土層断面(東より)／中下右:SR2遺物出土状況(北東より)
下左:SP72遺物出土状況(南東より)／下右:SP332遺物出土状況(北東より)
- 図版45 上:1区北壁(D-D'-D'')西半断面(南西より)／下:1区北壁(D-D'-D'')東半断面(南東より)
- 図版46 上左:1区北壁(C-C')断面(南東より)／上右:1区東壁(A-A'・B-B')北半断面(南西より)
中上右:2a区北壁(F-F')断面(南より)／中下左:2a区東壁(G-G')断面(北西より)

- 中下右:2b区西壁(H-H')断面(東より)／下左:2c区東壁(J-J')断面(南西より)
 下右:2c区北壁(I-I')断面(南西より)
- 図版47 弥生時代 出土遺物 集合写真・SI・SK(123～137,139)
- 図版48 弥生時代 出土遺物 SK・SD・SP・SR (138,140～160)
- 図版49 弥生時代 出土遺物 SR・包含層 (161～170,172～176)
- 図版50 弥生時代 出土遺物 包含層・出土地不明／中世 出土遺物 SP・包含層 (171,177～187)
- 図版51 上:1区調査前状況(南東より)／下:2a区調査前状況(南西より)
- 図版52 上:1区中央部南半遺構検出状況(北より)／下:1区中央部北半遺構検出状況(南より)
- 図版53 上左:1区南端部遺構検出状況(南より)／上右:1区北端部遺構検出状況(南より)
 下:2a区南半西側遺構検出状況(北より)
- 図版54 上左:2a区南東側遺構検出状況(北東より)／上右:2a区北端部遺構検出状況(南東より)
 下左:2a区北側遺構検出状況(西より)／下右:2a区中央部遺構検出状況(西より)
- 図版55 上:1区中央部南半完掘状況(北より)／下:1区中央部北半完掘状況(南より)
- 図版56 上:1区南端部完掘状況(北より)／下左:1区北端部完掘状況(北より)／下右:2b区完掘状況(北より)
- 図版57 上:2a区南半完掘状況(北より)／下:2a区北半完掘状況(南より)
- 図版58 上左:SB1完掘状況(南より)／上右:SB2-SP1遺物出土状況(南東より)／中上右:SB2-SP1土層断面(南より)
 中下左:SB2-SP2遺物出土状況(北東より)／下右:SB2-SP2下層遺物出土状況(北東より)
 下左:SB2-SP2最下層遺物出土状況(北東より)
- 図版59 上左:SB3完掘状況(北西より)／上右:SB3-SP346土層断面(南西より)／中上左:SB4-SP355土層断面(北より)
 下:SB4完掘状況(北西より)
- 図版60 上:SB5.9,10完掘状況(北西より)／中下左:SB5-SP358土層断面(北西より)
 中下右:SB5-SP360土層断面(南東より)／下左:SB9-SP381土層断面(北東より)
 下右:SB10-SP388土層断面(北東より)
- 図版61 上左:SB6完掘状況(北西より)／上右:SB6-SP365土層断面(南より)／中上右:SB6-SP367土層断面(北東より)
 下左:SB7北半完掘状況(北東より)／中下右:SB7-SP368遺物出土状況(南より)
 下右:SB7-SP153礫出土状況(東より)
- 図版62 上左:SB8完掘状況(南東より)／上右:SB8-SP376礫出土状況(南より)
 中上左:SB8-SP372遺物出土状況(南より)／中上右:SB8-SP372下層遺物出土状況(北西より)
 中下左:SB8-SP375遺物出土状況(南東より)／中下右:SB8-SP375土層断面(北東より)
 下左:SB8-SP377遺物出土状況(北西より)／下右:SB8-SP378遺物出土状況(南より)
- 図版63 上左:SK1,2完掘状況(南西より)／上右:SK1,2遺物出土状況(北西より)
 中下左:SK1,2遺物出土状況(北西より)／中下右:SK1,2遺物出土状況(北より)
 下左:SK1,2遺物出土状況(南より)／下右:SK1土層断面(南東より)
- 図版64 上左:SK5完掘状況(北より)／上右:SK5遺物出土状況(北より)／下左:SB5,10・SK6完掘状況(北東より)
 中下右:SK6遺物出土状況(東より)／下右:SK6土層断面(南東より)
- 図版65 上左:SK7完掘状況(南東より)／上右:SK7遺物出土状況(南東より)

- 中上右:SK7北側遺物出土状況(北より)／中下左:SK3完掘状況(北西より)
- 中下右:SK4完掘状況(北より)／下左:SD5,6土層断面(南より)／下右:SD5b-b'土層断面(北より)
- 図版66 上左:1区中央南半溝群完掘状況(南東より)／上右:SD1a-a'土層断面(南より)
- 中上右:SD1b-b'土層断面(南より)／中下左:SD2d-d'土層断面(南より)／中下右:SD2f-f'土層断面(南より)
- 下左:SD3土層断面(南より)／下右:SD4土層断面(北より)
- 図版67 上左:1区北側溝群完掘状況(北より)／上右:SD6c-c'土層断面(西より)／中上左:SD9d-d'土層断面(北より)
- 中上右:SD10土層断面(南より)／中下左:SD7,8完掘状況(南西より)／中下右:SD7,19完掘状況(南西より)
- 下左:SD15完掘状況(南東より)／下右:SD14完掘状況(南東より)
- 図版68 上左:SD7,8a-a'土層断面(東より)／上右:SD7c-c'土層断面(東より)／中上左:SD15a-a'土層断面(南より)
- 中上右:SD19d-d'土層断面(西より)／中下左:SD19e-e'土層断面(東より)／中下右:SP30土層断面(西より)
- 下左:SP51土層断面(西より)／下右:SP277土層断面(西より)
- 図版69 上左:1区西壁(A-A'-A")南半断面(南東より)／上右:1区西壁(A-A'-A")北半断面(南東より)
- 中上右:1区西壁(B-B'-B")南半断面(南東より)／中下左:1区西壁(B-B'-B")北半断面(北東より)
- 中下右:2b区西壁(C-C')断面(北東より)／下左:2a区西壁(D-D'-D")南半断面(南東より)
- 下右:2a区西壁(D-D'-D")北半断面(南東より)
- 図版70 上左:2a区南壁(E-E'-E")東半断面(北西より)／上右:2a区南壁(E-E'-E")西半断面(北西より)
- 中上左:2a区東壁(F-F'-F")北側断面(南西より)／中上右:2a区東壁(F-F'-F")北半断面(南西より)
- 下:2a区東壁(F-F'-F")南半断面(北西より)
- 図版71 弥生時代 出土遺物 集合写真・SB・SK (188～191,200～202)
- 図版72 弥生時代 出土遺物 SB・SK (192～197,199,206)
- 図版73 弥生時代 出土遺物 SK (198,203～205,207,208,211)
- 図版74 弥生時代 出土遺物 SK (209,210,212～217,219)
- 図版75 弥生時代 出土遺物 SK・包含層 (218,220～228,230,231)
- 図版76 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 SD・包含層・出土地不明 (229,232～251)

第1章 調査にいたる経緯と経過

第1節 調査にいたる経緯

1 試掘調査(図1～4)

国土交通省四国地方整備局(以下「国交省」)は一般国道11号新居浜バイパス建設工事に伴い、あわせて新居浜市は新居浜市道西喜光地町副道1号線建設工事に伴い、建設予定地内に遺跡が存在する可能性があることから愛媛県教育委員会(以下、「県教委」)と協議を行い、平成28年5月～令和2年9月に県教委が試掘調査を行った。その結果、中村松木土橋地区(平成28年5月:T1～3、同年11月:T3・4、同29年:T8・10～14)および西喜光地地区(令和元年:T1、同2年5月:T6)において合計3箇所で弥生時代を中心とする遺跡の存在が明らかとなった。

試掘調査の結果、工事に先立つ発掘調査が必要となったため、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが愛媛県(国交省からの再委託による)ならびに新居浜市の委託を受け、発掘調査を実施することとなった。また、試掘調査で出土した遺物については、中村田所東遺跡に該当する平成29年度調査分3点を第4章第2節に記載した。

第2節 調査の経過

1 発掘調査の経過

中村田所遺跡の発掘調査は平成29年9月から調査準備を行い、9月25日に着手した。現地における発掘調査は平成30年3月9日に終了した。また北端部分については用地買収の関係上、令和元年10月1日に着手し29日に終了した。中村田所東遺跡については、平成30年4月18日～8月31日に調査を実施した。また現況道路部分は、令和2年4月14日～17日に行った。西喜光地遺跡については、令和2年4月20日～7月17日および10月1日～12月28日に調査を実施した。

中村田所遺跡については中央に位置する水路を挟み西側を1区、東側を2区とし、1区から2区の順で調査を進めた。調査中の遺構検出状況や土層観察ならびに試掘調査により、調査区西側および南東側へ遺跡の展開が確認できたため、調査区を拡張した。

調査では、重機によりトレンチを掘削し、直ちに人力で壁面精査を行い土層の堆積状況を確認した。その後、重機を用いて調査区内の造成土等のIII層までを除去し人力でIV層上面の遺構の検出作業を行った。耕作土下には包含層が厚く堆積しており、包含層が堆積する時間の途中で遺構が形成された可能性が考えられたため、包含層除去時に精査を繰り返し遺構検出に努めた。しかし、検出に至らなかったため複数のトレンチを掘削し土層確認ののち、一部畦を残し地山面まで掘削を行った結果、遺構が検出されたため順次掘り下げを行い遺構の検出を進めた。

検出後は遺構の掘削を行い、それらの作業と並行して平・断面図の測量および写真撮影などの観察・記録を実施した。また、遺物の取り上げについては層位・遺構ごとに行い、必要に応じて



図1 試掘の位置

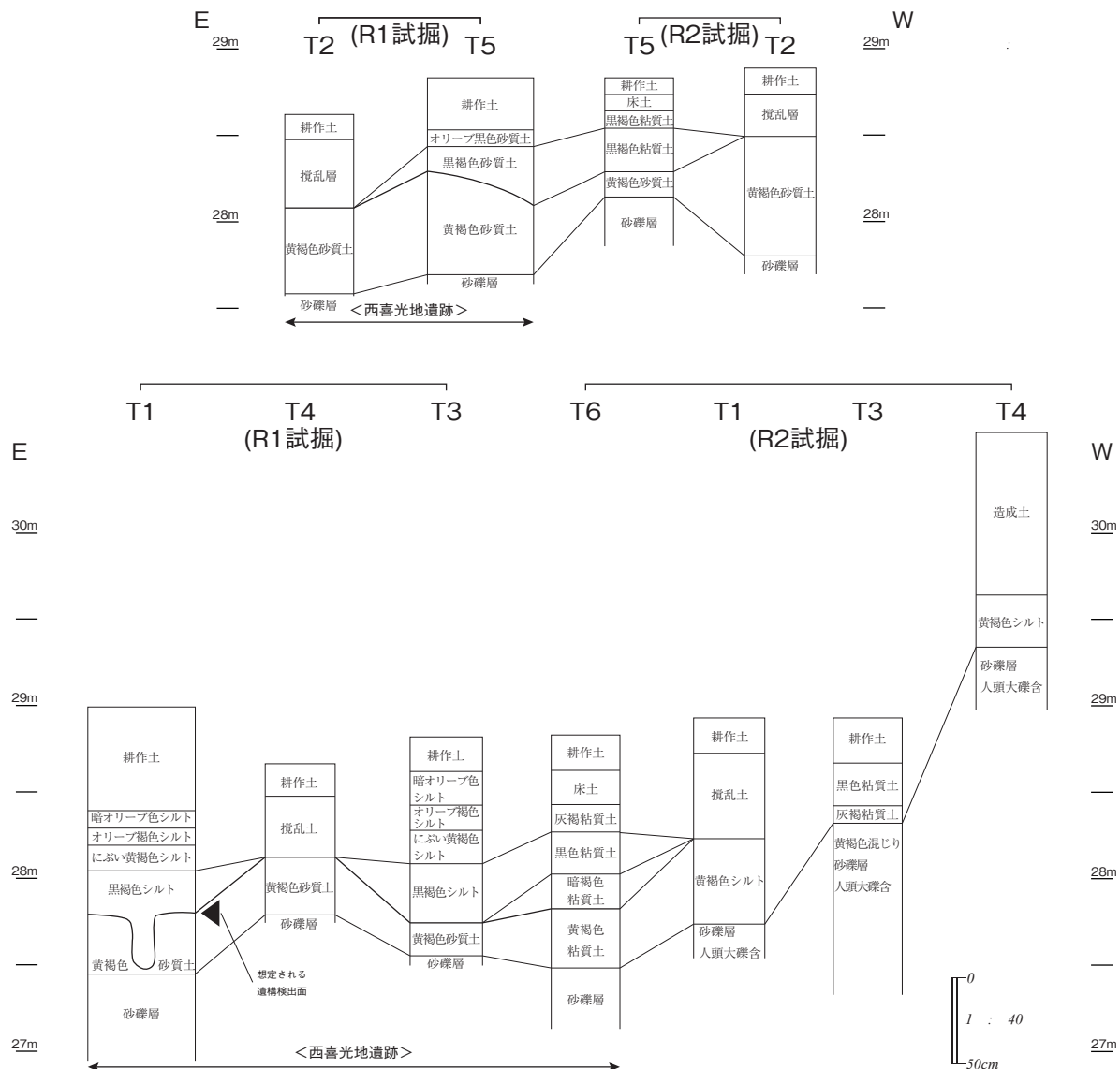


図2 試掘トレンチ土層柱状図 1

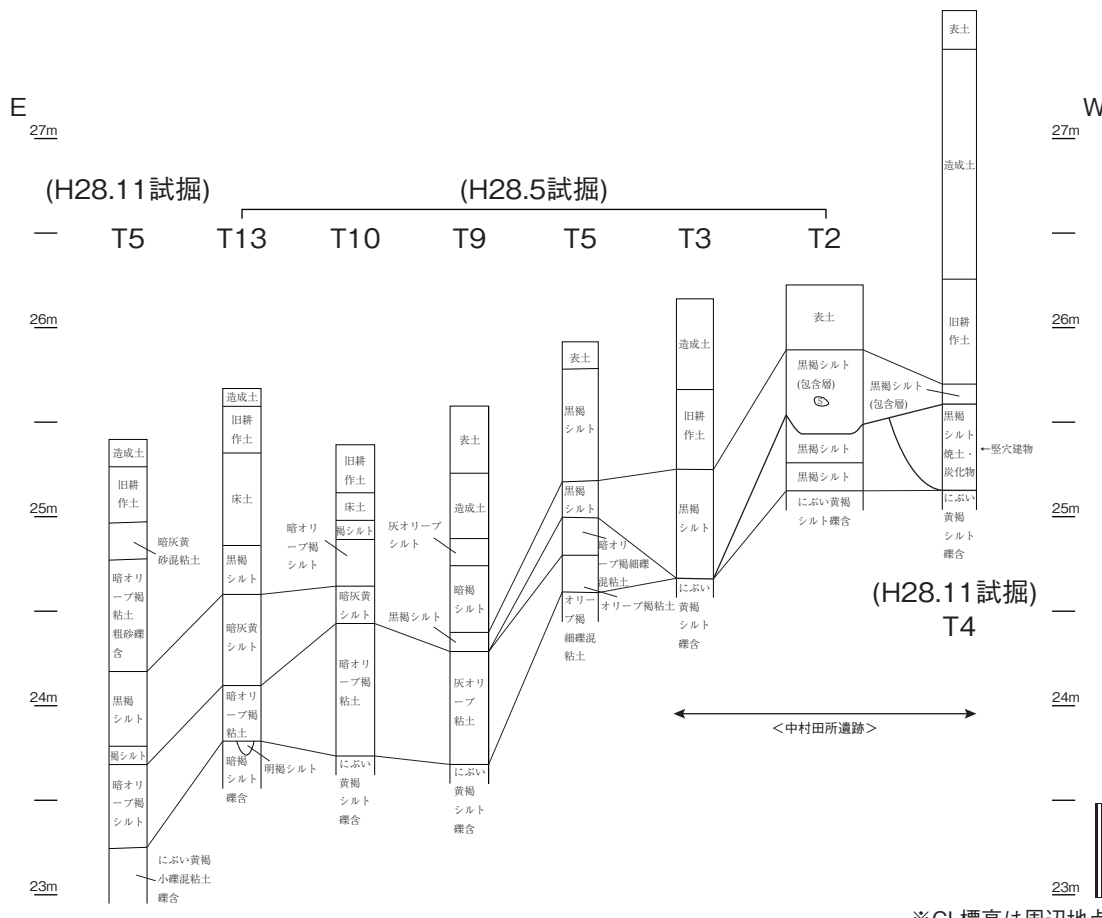
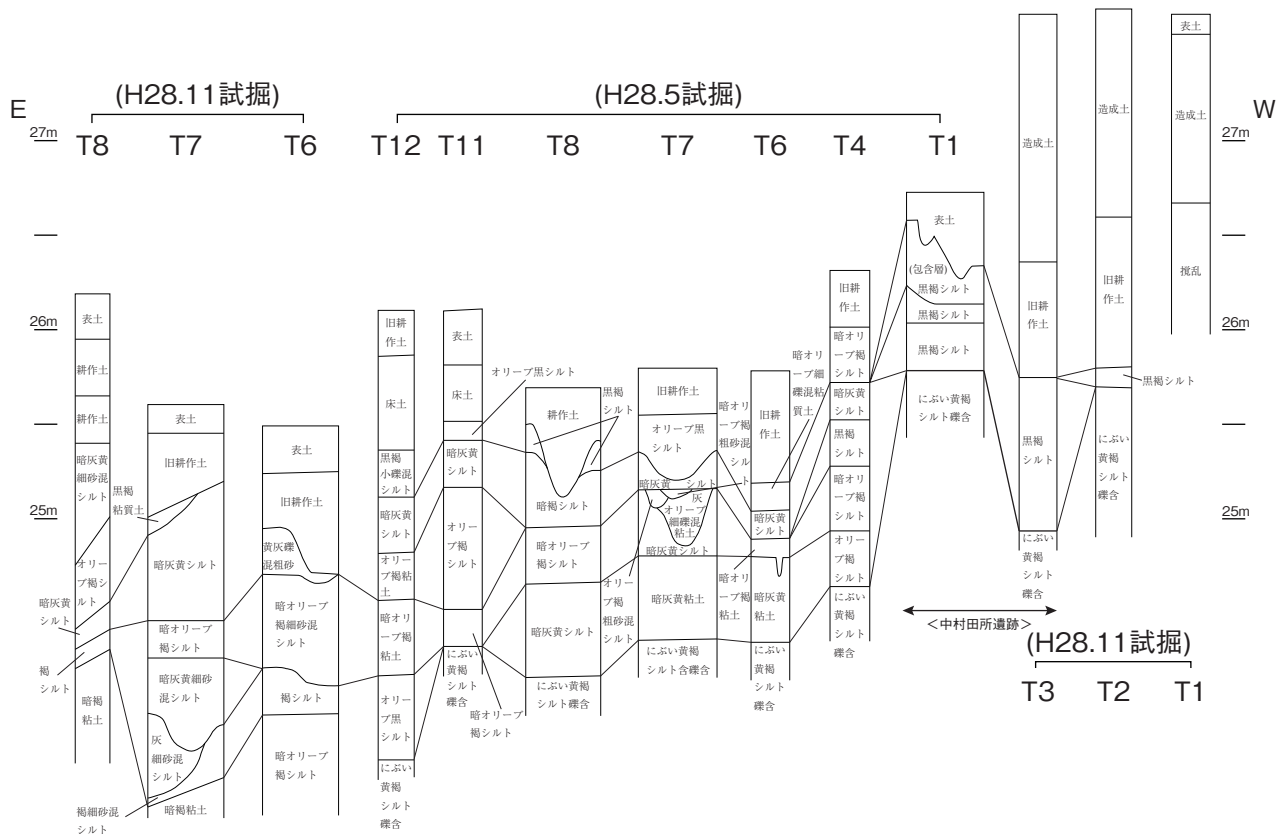
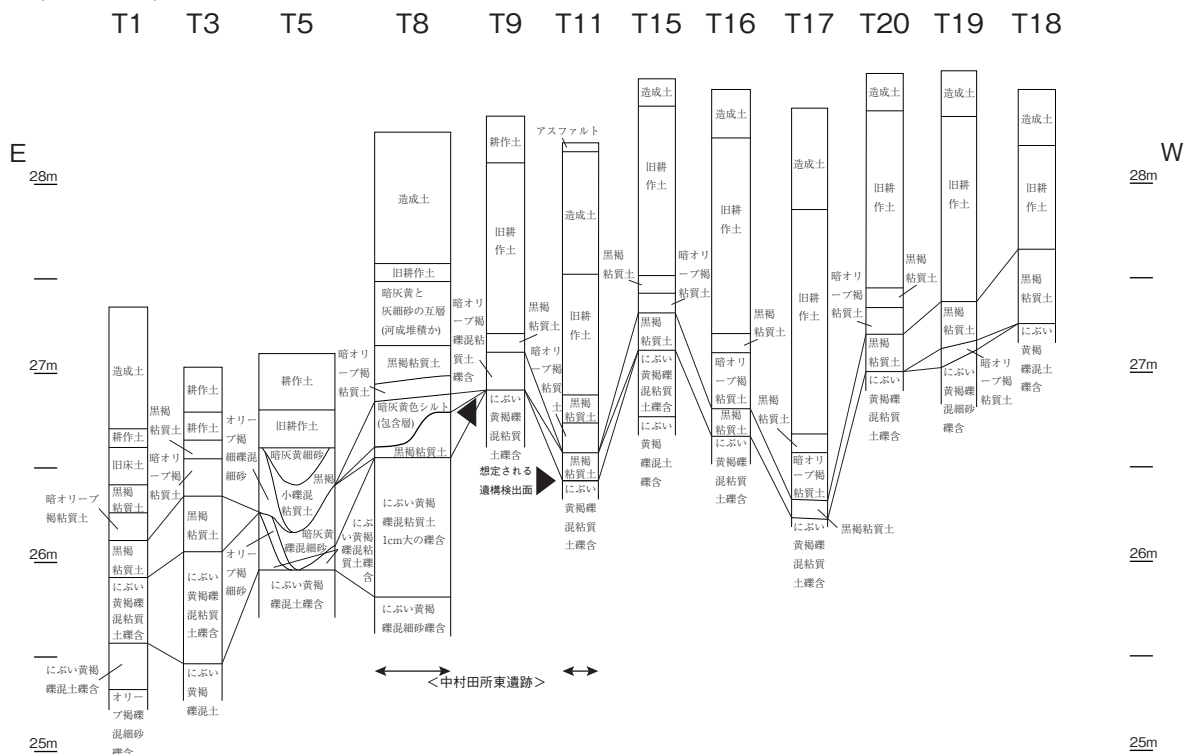


図3 試掘トレンチ土層柱状図 2

出土状況図を作成した。なお、測量については基準点(WGS84系測値成果2000)を調査区周辺に打設してこれを用いた。

中村田所東遺跡については、中央西寄りに位置する水路を挟み東側を1区、西側を2区とし、1区から2区の順で調査を進めた。調査は用地引き渡しの関係により各区を細分し、1区では東部→

(H29試掘)



(H29試掘)

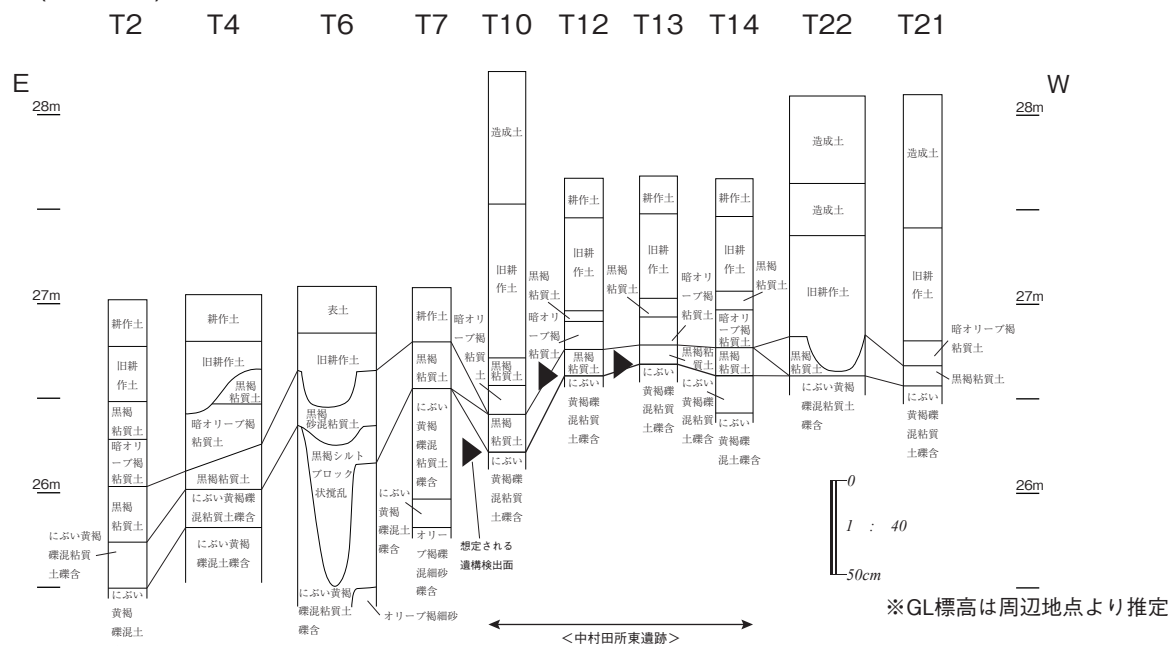


図4 試掘トレンチ土層柱状図 3

西部→中央部分の順で、2区は北側(2a区)→南側(2c区)→現況道路部分(2b区)の順で調査を行なっている。

西喜光地遺跡については、水路の西側を1区とし調査を開始したが調査中に遺跡の東側への広がり確認されたため2区として、あわせて調査を実施した。両調査区ともに排土処理の都合により追って返しを行い、南北半分に分割して調査を実施した。

なお、国交省と新居浜市の事業について調査を行ったため、調査費用は調査対象面積による按分にて行うこととなった。発掘調査費については国交省が100%負担したが、西喜光地遺跡2区の発掘調査費については国交省と新居浜市が94対6の割合で負担した。整理作業費については3遺跡合計面積での比率としたため負担の割合は国交省と新居浜市の負担が98対2となった。

2 調査成果報告会の実施

平成30年8月19日には調査報告会を中萩公民館において実施し、30名の参加を得た。

3 整理作業

平成30年9月～10月に中村田所遺跡の基礎整理作業を行った。また、令和3年5月～令和4年3月には中村田所遺跡の残りの中村田所東遺跡・西喜光地遺跡について遺構図面作成、遺物実測、原稿執筆などの報告書作成業務を実施し、報告書の印刷を行った。

4 調査体制(表1)

発掘調査および報告書作成の調査体制は、表1の通りである。

表1 調査体制

平成29年度		平成30年度		令和元年度	
理事長	前園 實知雄	理事長	前園 實知雄	理事長	前園 實知雄
常務理事兼事務局長	岩 國 元	常務理事兼事務局長	岩 國 元	常務理事兼事務局長	岩 國 元
総務課長	大西 正善	総務課長	藤田 享	総務課長	藤田 享
調査課長	中野 良一	調査課長	中野 良一	調査課長	柴田 圭子
調査課副課長兼調査第一係長	柴田 圭子	調査課副課長兼調査第一係長	柴田 圭子	調査第一係長	多田 仁
調査員	首藤 久士	調査員	首藤 久士	主任調査員	首藤 久士
嘱託員	田中 いづみ	嘱託員	田中 いづみ	調査助手	佐野 祐樹
令和2年度		令和3年度			
理事長	前園 實知雄	理事長	前園 實知雄		
常務理事兼事務局長	藤田 享	常務理事兼事務局長	藤田 享		
総務課長	柴田 圭子	総務課長	柴田 圭子		
調査課長	柴田 圭子	調査課長	柴田 圭子		
担当係長	松村 さを里	担当係長	乗松 真也		
主任調査員	首藤 久士	主任調査員	首藤 久士		
調査員	青木 聡志	主任調査助手	岡 美奈子		
調査助手	佐野 祐樹				

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境(図5)

中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡は愛媛県東部の新居浜市に所在する。新居浜市は行政区分上、東は四国中央市、西は西条市、南は高知県の町に接している。北側は瀬戸内海の燧灘、新居浜平野南部を東西に走る中央構造線の南側は三波川帯に属する黒森山や笹ヶ峰などが連なる四国山地石鎚山系の山岳部が広がっている。

新居浜市北半部に広がる新居浜平野は、大部分が黒森山・西山・西赤石山・兜山山系を源とし中央部を流れる国領川の堆積作用により形成された扇状地や沖積地より成る。東西は平野部に突出する和泉層群の新居浜東部山地・金子山山地、南側は洪積世の扇状地が活断層の隆起によって形成された大生院台地・東川低位台地が広がる。

今回報告する3遺跡はいずれも平野西寄りの国領川扇状地性氾濫原に位置し、中村田所遺跡および中村田所東遺跡は尻無川左岸に、西喜光地遺跡は尻無川右岸に立地している。

第2節 歴史的環境(図6)

1 縄文時代以前

旧石器時代の遺跡は新居浜市内では発見されておらず、現在のところ様相は不明である。

縄文時代では、早期および後期、晩期の遺跡が確認される。中萩の横山遺跡(36)ならびに横山古墳群(37)より早期中葉の押型文土器(山形文・楕円文)や後期の土器が確認されている。萩生の大師泉遺跡(39)では後期中葉の磨消縄文土器が採取されている。また、外山町の星原市東遺跡(25)では後期の縁帯文土器が出土しており、滝の宮町の滝の宮遺跡(11)では縁帯文系もしくは凹線文系縄文土器や晩期の土器が出土している。国領川右岸に位置する郷の上郷遺跡(20)では、晩期の土坑や土器埋設遺構より突帯文土器が出土している。これらの遺跡は台地上および丘陵裾部に位置しており、おおむね標高40m以上の扇状地上で人的な活動痕跡がみられる。

2 弥生時代

前期では、滝の宮遺跡で包含層から遺物が出土しているほか、国領川右岸で阿方式に類する土器が採取された東田遺跡(26)や尻無川右岸の割ヶ内遺跡(22)がある。国領川左岸の星原市遺跡(24)では前期末～中期初頭の竪穴建物などが検出されている。

中期では国領川左岸の若宮遺跡(17)で土器や多量の石鏃・石庖丁が採取されている。上郷遺跡では中期中葉の竪穴建物が検出されている。国領川右岸の桧端遺跡(28)では凹線文をもつ壺や甕が出土し、いわゆる「桧端式」として中期後半の標識資料とされてきた。尻無川右岸の松原遺跡(23)では、中期後葉～後期初頭の竪穴建物が検出され、低地部における集落の一端が明らかになっている。また、政枝遺跡(15)や正光寺山古墳群(16)で土器が出土している。集落域は低地部か

ら段丘上へ分布し、拡大傾向が見受けられる。また、中期では戸屋ノ鼻遺跡(46)があり、隣接地域の医王寺遺跡群(四国中央市土居町)や半田山遺跡(西条市)と同様に新居浜市域においても丘陵部へ弥生集落が展開するものと考えられる。

後期～古墳時代初頭では尻無川左岸の金栄遺跡(12)から複合口縁壺や、タタキ目を残す甕などが出土している。滝の宮遺跡や本郷遺跡(33)、尻無川右岸の尻無遺跡(14)で布留式土器が出土しているほか、中村遺跡(34)・角野遺跡(32)があり、大師泉遺跡からは平形銅剣の出土が報告されている。

3 古墳時代

集落遺跡に関しては現在までに調査例が無いため詳細は不明ながら、赤土遺跡(40)のほか金栄遺跡や政枝遺跡が当期の遺跡である可能性が想定されている。また、金子遺跡(7)や上小深遺跡(8)で遺物が出土しており、低地部である標高10m台まで人的活動が認められる。生産遺跡としては、からつ山窯跡(41)が知られる。

古墳については、前期では確認されていない。中期後半には5世紀後半の金子山古墳(10)が築造される。1号墳は新居浜地域の首長墓と推定されており、金子山東部に張り出した尾根上に位置する。直径約25m、高さ約5mの円墳で墳丘裾部には円筒・朝顔形埴輪が並んでいた。内部主体は竪穴式石室であり、内部からは珠文四鈴鏡や鉄剣、直刀のほか多量の玉類など多数の副葬品が出土している。なかでも、画文帯神獸鏡は熊本県江田船山古墳と同形の鏡であり金銅製垂飾付耳飾は技術的に朝鮮半島との強い関係性がうかがえ、これらの副葬品を入手する際には在地首長層と大和政権との結びつきが想定される。

後期に入ると古墳数が急増する。上郷遺跡で検出された円墳1基と溝3条は、数基の群集墳であった可能性が指摘されている。1号墳は直径約9mの円墳で横穴式石室からは須恵器や土製切子玉が出土し、時期は6世紀中頃～後半とされる。昭和期に松岡文一氏により調査された正光寺山古墳群では、近年JR新居浜駅前土地区画整理の公園整備に伴い調査が行われ、丘陵上に6世紀後半～7世紀の円墳6基が確認された。1号墳は6世紀後半に築造された直径約15.2mの円墳で、冠と推定される歩揺付金銅製品や多量の玉類などの副葬品が出土している。2号墳からは鹿角製把の刀子が出土した。計5基の横穴式石室から多くの須恵器・鉄製品・玉類が出土し、10基以上で構成される地域の有力者層の群集墳であったと推定されている。

また、横山古墳群では5世紀末～6世紀前葉・7世紀前半の群集墳が調査され、垣生山の小山古墳(1)は後期後半の群集墳であったとされるほか、唐津塚古墳(38)・東田古墳群(27)・下泉古墳(18)・大生院王塚古墳(44)・西之谷古墳(5)・轟塚古墳(29)などが知られ、継続して古代寺院が建立される大生院地区をはじめ市内各所に古墳の築造が広がる。

4 古代

古代において新居浜地域の平野部はおおむね伊予国新居郡に該当する。大宝元(701)年の大宝律令制定による郡設置当初は神野郡であったが、『類聚国史』によれば大同4(809)年即位の嵯峨天

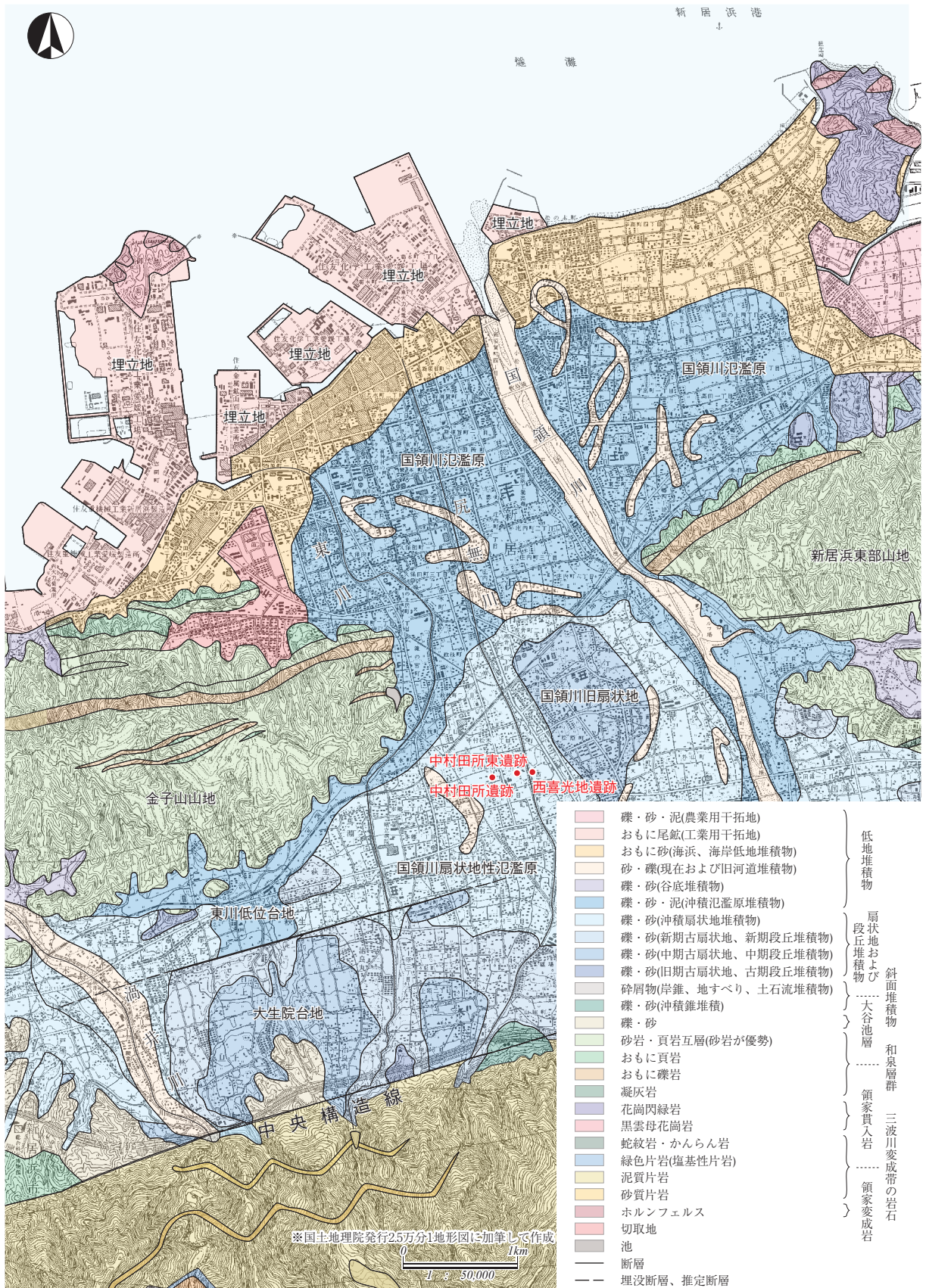


図5 遺跡周辺の地質

皇の諱(神野親王)と重なることを避け、郡名を新居郡と改称したとされる。郡内5郷のうち、市域では尻無川周辺を境として東側に井上郷、西側に新居郷が置かれたと考えられている。

古代寺院についてはまず河内寺遺跡(13)があげられる。尻無川左岸に位置する当遺跡からは白鳳期の素弁九葉蓮華文や複弁八葉蓮華文軒丸瓦、均整忍冬唐草文軒平瓦などが出土しており、塔の礎石は心礎を含め元位置から移動しているものの現存している。法隆寺の寺庄と同寺瓦の分布が類似することは知られているが、当遺跡より出土した法隆寺系の均整忍冬唐草文軒平瓦と法隆寺が天平19(747)年に神野郡内に置いたとされる「庄一処」との関連は詳らかでない。このほか、大生院の正法寺遺跡(43)でも多くの泥塔・泥仏・布目瓦などが出土しており古代寺院と考えられる。また、『延喜式』式内社としては黒島神社があり、海沿いの立地からは海上交通との関連も想定される。

古代官道である南海道は東田以西でおおむね現在の旧国道付近を通過したとされ、中村松木の地名は「馬継(うまつぎ)」から転訛したものとして新居駅家に比定されている。また、近隣の本郷遺跡は建物群の配置や火葬墓の出土より、郡家別院などの末端官衙もしくは富豪層や有力豪族等の居宅といった当地域における下部組織と推定される。

東大寺領新居庄は、『東大寺諸荘文書并絵図目録』によると天平勝宝8(756)年に東大寺領となり、その領域は東限が関戸、西限が国領川、南限が駅路(船木南方山麓部)、北限が郷山にいたる船木地区に比定されている。カメ谷窯跡のある池田池は、かつて点在した小規模な池を江戸期に改修したとされる。過去に灰原が調査され、須恵器の椀皿類や甕・壺・硯などのほか瓦が出土しており、小規模な池の近くに営まれた8世紀後半頃の瓦陶兼業窯であったと考えられる。なかでも、獣足硯や「庄」・「加」の刻書須恵器からは窯の公的な性格もうかがえる。庄域とされる船木地区では、現在のところ生産遺跡であるカメ谷窯跡以外の古代遺跡は見つかっておらず、今後の調査によって文献史料との対比ができる好例となりうる。

下分組遺跡(6)は市役所南側から金子小学校方向にかけて広がり、一宮神社にも近隣している。金子遺跡でも土師器や須恵器・磁器が出土することから、新居氏もしくは官衙との関連が推定されている。渦井川右岸の喜来遺跡(42)は、7世紀後半～8世紀が中心で、土師器甕を再利用した煙道を持つ小型竪穴建物が流路際で検出されたほか、権状石製品や赤色塗彩土師器、内面黒色土器、企救型甕などが出土し、流路の上流域に官衙関連遺跡が想定される。政枝遺跡や滝の宮遺跡、上小深遺跡では8世紀～10世紀の遺物が見られるが、集落構造等は不明である。古宮経塚(21)からは平安時代後期と考えられる青銅製経筒や陶製外容器が出土している。現在認められている古代の遺跡数は前時代に比して少ないが、尻無川周辺域でも特に左岸周辺部への分布傾向がある。

5 中世

新居氏は古代から中世前期において新居郡新居郷を本拠とし、東予各所に所領(得恒名)を有する在地豪族であった。『与州新居系図』によれば、新居氏は古代氏族・越智氏を出自とし、越智(拜志)為成の子・成俊は「新居大夫」を称しており伊予国衙の在庁官人と考えられる。新居氏の

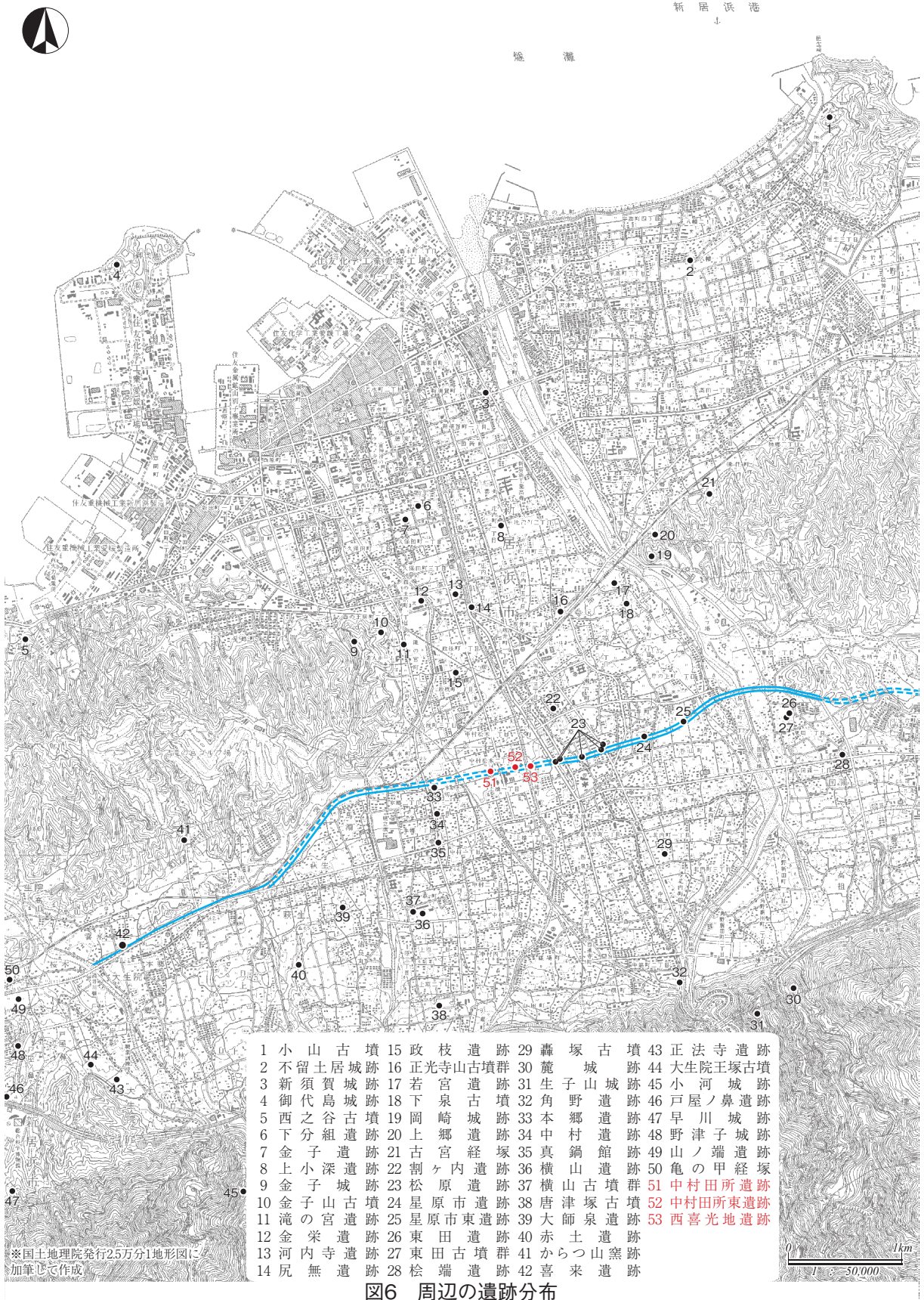


図6 周辺の遺跡分布

居館は久保田町付近に昭和初期まで存在したホノギ「新居殿屋敷」に想定され、東側を尻無川に接することから河川交通との関連も指摘される。新居氏は治承・寿永の乱で河野氏と同じく幕府方と推定され鎌倉御家人となるが、承久の乱(1221年)で後鳥羽上皇側に味方して敗北し、本拠地の新居郡を没収され桑村郡へ移る。

新居氏の没落後、新居郷の新補地頭として西遷御家人の金子氏が武蔵国より移り住んだとみられ、弘安5(1282)年の『将軍政所下文』が史料上の初見となる。鎌倉幕府滅亡後、南北朝の動乱で伊予府中(今治市)より南朝勢力が一掃されると河野氏と細川氏の争いが顕著化する。佐志久原での河野通堯(通直)戦死後に和議が成立し、新居郡・宇摩郡の東予2郡は細川京兆家が分郡守護となったため、新居郡には代官として備中守護代の石川氏が入部した。石川氏は高峠城(西条市)を本拠とし、実質的な領主として支配を行っていくこととなる。

また、南北朝期には若水町の「葛籠(つづら)淵」が焼き討ちされたと伝わり尻無川河口部に港津や倉が想定できることから、当地域における河川交通の要衝であったと考えられる。中世後期の新居浜地域には、金子城の金子氏・岡崎城の藤田氏・生子山城の松木氏が軍記物『澄水記』などに見える「六人の郡衆」とされるほか、富留土居城の高橋氏・真鍋館の真鍋氏など多くの在地領主層がひしめく中、天文・弘治年間の「当郡錯乱」・「郡中錯乱」で功績のあった金子元成や石川氏と婚姻関係を結んだ元宅父子により金子氏が台頭し、のちに周桑方面へ勢力拡大を図るようになる。

天正9(1581)年、金子元宅は進出してきた土佐の長宗我部氏と同盟を結び人質を土佐へ送っている。こうした事象を背景として、一部の城郭(金子城・岡崎城)には長宗我部系の築城技術が導入されたとの見解もある。天正13(1585)年に羽柴(豊臣)秀吉による四国征伐に伴い小早川隆景軍が今治浦へ上陸する。氷見高尾城(西条市)に籠った金子元宅を中心とする在地勢力は野々市原へ打って出て討ち死を遂げ、一連の小早川氏による侵攻はのちに「天正の陣」と呼ばれる。四国国分により伊予国主となった小早川氏が戦後処理として城割を敢行したため、新居浜地域の中世城郭は廃城になったものとみられる。

関連する石造物として、境内に石塔群を残す慈眼寺の北側に位置し、金子城北麓に所在する五輪塔群が注目される。伊予の白石のほか天霧石・国分寺石など讃岐系石材を含む様相から、鎌倉後期以降の金子氏関連とみられる。岡崎城の所在する郷山北側裾部の薬師堂には鎌倉後期の宝篋印塔が位置している。

古代末から中世前期遺跡の調査例は少なく、滝の宮遺跡や上郷遺跡、上小深遺跡で和泉型瓦器碗などが見られるが13世紀以降が中心である。13世紀の例として松原遺跡と政枝遺跡があり、後者では県内最古級となる13世紀代の備前焼壺が出土している。14世紀に入ると滝の宮遺跡や星原市遺跡があり、後者では土師器の一括出土や備前焼播鉢と東播系須恵器捏鉢との共伴事例が見られ、上郷遺跡でも同様の共伴例がある。また、中村・岡の久保では「ゼニガメ」が耕作中に発見された。常滑焼甕を容器に使用し約6万枚の古代から中世にいたる銭貨が埋納されており、埋納銭の時期は14世紀頃とされる。

15世紀以降の遺跡は調査例が多い。政枝遺跡では16世紀にかけて金子城東側に近接する集落遺

跡が、滝の宮遺跡では金子城東隣で16世紀以降の溝が検出される。上郷遺跡からは硯や朝鮮陶磁瓶が出土しているが、隣接する岡崎城との関連は不明である。上小深遺跡では理化学分析により建物の柱材が中世後期以降と推定され、遺跡所在の庄内地域には岡崎城主藤田氏の里館があったと伝えられる。ほかに星原市東遺跡では鍛冶関連とみられる廃滓遺構が検出されている。

6 近世以降

江戸期には伊予八藩体制となる中、新居浜地域では西条藩主一柳氏改易ののち、寛文10(1670)年に御三家紀州藩主の徳川頼宣次男である松平頼純が西条藩三万石の定府大名として入封し、西条藩領は幕末まで続く。西条一柳家分家の小松藩領も幕末まで継続する。

元禄3(1690)年に別子鉱床の露頭が山師により発見され、翌年には泉屋住友の請負により銅の採掘が開始される。元禄11(1698)年には江戸期の最大産出量(約1,500t)を記録し、銅山は当時の長崎貿易輸出品としての銅生産に貢献した。また別子銅山が天領となるに伴い、輸送路も西条藩領との替え地により天領化され、新居浜浦の口屋にいたるルートが新設された。

このように江戸期の新居浜地域は西条藩領(新居浜浦など十五村)、小松藩領(大生院村など二村)、天領(大永山村など七村)が入り組む複雑な様相を呈していた。また西条藩を中心に沿岸部の干拓が進められ、元禄16(1703)年には深尾権太輔により多喜浜塩田の開発が始まり、のちに240町歩あまりの規模となった。

別子銅山は、江戸期の旧別子大火災をはじめ明治期の政府による接收危機や山崩れなどの困難を乗り越え採掘が続けられた。住友家の初代総理事となった広瀬幸平は、海外技術を導入し近代化に努め明治26(1883)年には日本初の山岳鉄道となる上部鉄道を整備し銅鉱石輸送を効率化した。加えて、採掘の発展にともない公害対策にも取り組むこととなり煙害のため精錬所を山根の生子山(通称・煙突山)などへ移動したのち、燧灘沖の四阪島(今治市)へ移転した。なお、鉱毒による土壤汚染対策として昭和期には上部地区(泉川・角野・中萩)や金子地区などで、田畑の上下の土を入れ替える「天地返し」が広範囲に行われている。

約300年続いた採掘作業も海面下1,000mを超え地下水の排水問題や、鉱石価格の下落もあり採掘が困難となった。採掘作業は昭和48(1973)年に終焉を迎えたが、この別子銅山や銅山ゆかりの人々が、現在にいたる新居浜の風土や地域文化を形成する大きな原動力となった。

遺跡としては、星原市東遺跡・松原遺跡・政枝遺跡・上小深遺跡で江戸期の遺構・遺物が報告されている。

参考文献

石岡ひとみ2009「四国出土の中世備前焼」『備前歴史フォーラム鎌倉・BIZEN～中世備前焼のスガタ～』

備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館

内海清慈1992「伊予国新居荘小史」『四国中世史研究』第2号,四国中世史研究会

愛媛県史編さん委員会1986『愛媛県史資料編考古』

愛媛県教育委員会1987『愛媛県中世城館跡分布調査報告書』

川岡勉2006a『中世の地域権力と西国社会』清文堂出版

- 川岡勉2006b「中世の新居郡と領主支配」『政枝遺跡』新居浜市教育委員会
- 鬼頭清明1977「法隆寺の庄倉と軒瓦分布-忍冬唐草文軒平瓦について-」『古代研究』11
- 久葉裕可1986「伊予国の新居氏について」『伊予史談』263号,伊予史談会
- 久葉裕可1990「続伊予国の新居氏について」『四国中世史研究』創刊号,四国中世史研究会
- 島方洗一編2009『地図でみる西日本の古代』平凡社
- 柴田昌児2002「瀬戸内海燧灘南岸の中期弥生集落その1-中期後半丘陵性集落の動態-」
『環瀬戸内海の考古学上巻』
- 白石友治1934『金子備後守元宅』帝国教育学会
- 曾我幸弘2002「別子銅山の鉍毒水について(3)」『新居浜史談』第325号,新居浜郷土史談会
- 十亀幸雄1984「新居浜市大師泉遺跡の縄文土器」『遺跡』第25号,遺跡発行会
- 常磐茂1985「新居浜市金子山古墳の円筒埴輪」『遺跡』第27号,遺跡発行会
- 中萩古文書を読む会2011『中萩の歴史探訪』
- 長井数秋2010「新居浜市内の中世ならびに中世様式の宝篋印塔」『ふたな』第8号,愛媛考古学研究所
- 名本二六雄1988「金子山城跡と出土明三彩」『遺跡』第31号,遺跡刊行会
- 新居浜市編2021『新居浜市の歴史』新居浜市総務部市史編さん室
- 新居浜市教育委員会1980『地名の由来新居浜』
- 新居浜市史編纂委員会1980『新居浜市史』
- 新居浜市文化財保護委員会1986『新居浜の文化財』新居浜市教育委員会
- 新居浜市文化財保護委員会2007『新居浜の文化財』新居浜市教育委員会
- 橋本雄一2015「南海道伊予」『古代の都市と条里』吉川弘文館
- 日和佐宣正2001「伊予国における長宗我部氏築城技術の導入について-愛媛県東部の事例を中心に-」
『城館研究論集』発刊準備号
- 兵庫埋蔵銭調査会編1999『中村岡の久保出土銭』新居浜市教育委員会
- 藤田達生1991「戦国期分国に関する一考察-四国分国を中心に-」『日本史研究』342
- 藤田達生2000「伊予国における近世の開幕」『日本中・近世移行期の地域構造』校倉書房
- 藤田達生2016「伊予国新居郡の景観復元-寛永伊予国絵図研究序説-」『新居浜史談』第395号
- 正岡陸夫・十亀幸雄1985『日本の古代遺跡22愛媛』保育社
- 松田朝由2011「香川県から来た石造物」『石造物が語る中世の佐田岬半島』岩田書院
- 真鍋修身1984「新居浜の弥生遺物について」『遺跡』第25号,遺跡発行会
- 真鍋修身1985「新居浜市大師泉出土の平形銅剣について」『遺跡』第27号,遺跡発行会
- 真鍋修身1990「新居浜の弥生遺物について(2)」『遺跡』第32号,遺跡発行会
- 山内治朋2016「小早川期伊予の城郭政策-統一政権下の城割と領国統制」
『戦国大名の土木事業中世日本の「インフラ」整備』戒光祥出版
- 山内讓1989『中世伊予の領主と城郭』青葉図書
- 山内讓1996「室町時代の新居・宇摩郡と細川氏」『西条史談』第37号,西条史談会
- 山内讓2020「細川京兆家と伊予国宇摩郡」『伊予史談』396号,伊予史談会
- 吉本拓2015「金子氏・村上(義弘)氏の盛衰譚(II-南北朝動乱と新居津倉淵焼討ち事件-)」『新居浜史談』
第393号,新居浜郷土史談会

第3章 中村田所遺跡の成果

第1節 中村田所遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・10)

中村田所遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川左岸約300mに位置する。行政上は愛媛県新居浜市中村松木二丁目で、調査区の絶対位置は北緯33° 56' 16" ・東経133° 17' 23" の交差する付近である。調査前は西側が畑地および宅地、東側は耕地を造成した宅地であった。

現地面の標高は西側約26.2m・東側約27.7mで、南東側から北西方向へ緩やかに傾斜している。調査区は東西約66.8m・南北約40.8mの長方形を呈する。調査対象面積は2,772m²である。

2 基本層序(図11～15)

基本層序は近現代の客土を除き、大きく4層に分かれる。

I層は耕作土である。II層は耕作盛土で2層に細分できる。

III層は包含層で4層に分かれる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし縄文時代～中世の遺物が出土する。

IV層は上面が遺構検出面となる。調査区西側では、国領川扇状地性氾濫原および段丘堆積物と考えられる、礫を含む褐色粘質土がみられる。東端では火山灰由来の黒ボクと思われる黒褐色層(IV7層)および火山灰を含む黄褐色層(IV8層)が分布する。いずれも遺物の出土はない。

3 遺構と遺物の概要(図16)

検出した遺構は竪穴建物4棟・掘立柱建物2棟・土坑10基・壺棺墓1基・溝15条・小穴250穴・性格不明遺構1基である。これらの遺構は縄文時代から中世にかけてのもので、IV層上面で検出された。

出土遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・瓦器・土師質土器・石器・石製品・鉄製品・ガラス製品である。



図7 中村田所遺跡 現場作業



図8 2区東壁火山灰出土状況



図9 調査区の位置

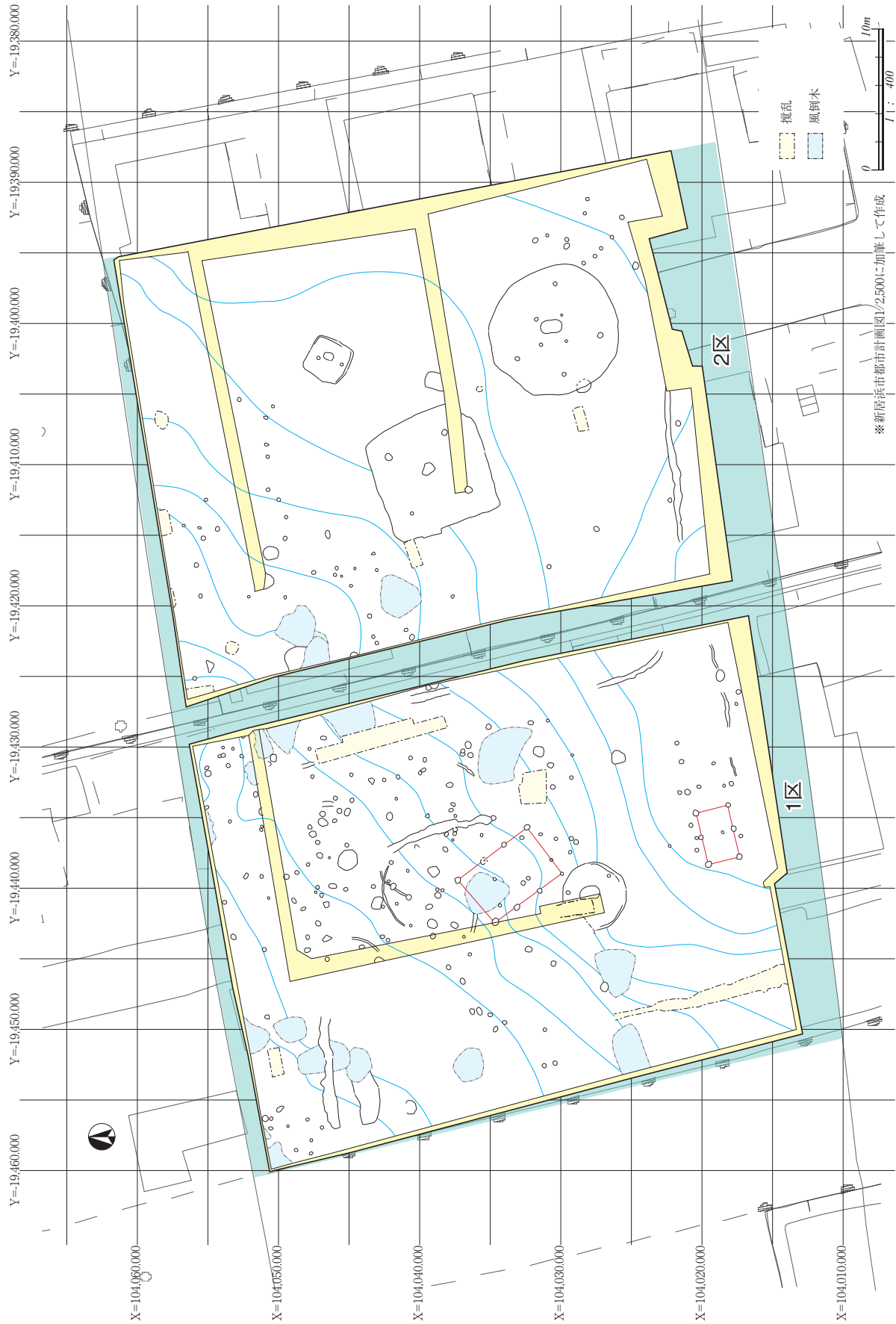


図10 中村田所遺跡(1・2区) 調査区位置図

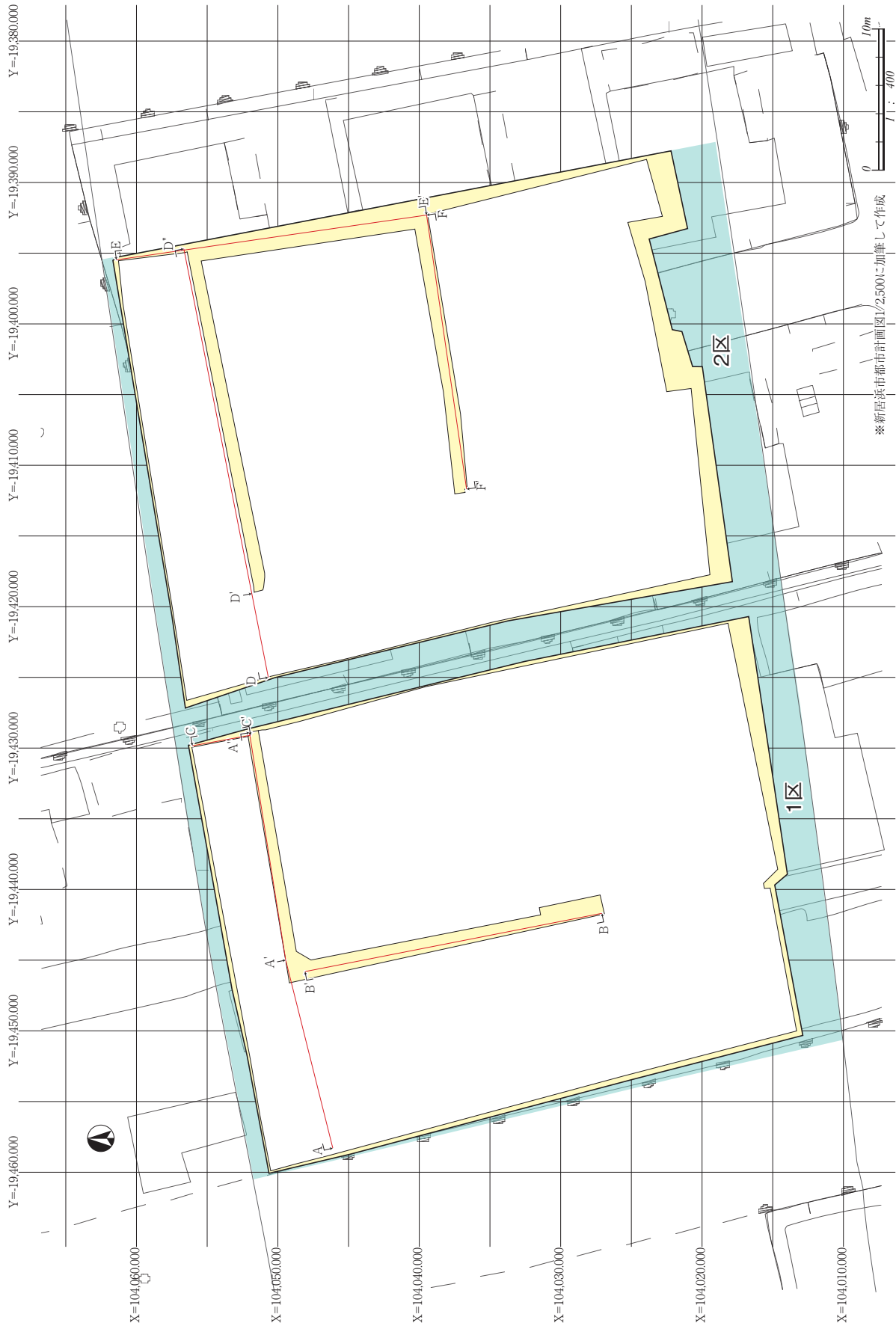


図11 中村田所遺跡 調査区基本層序測量位置図

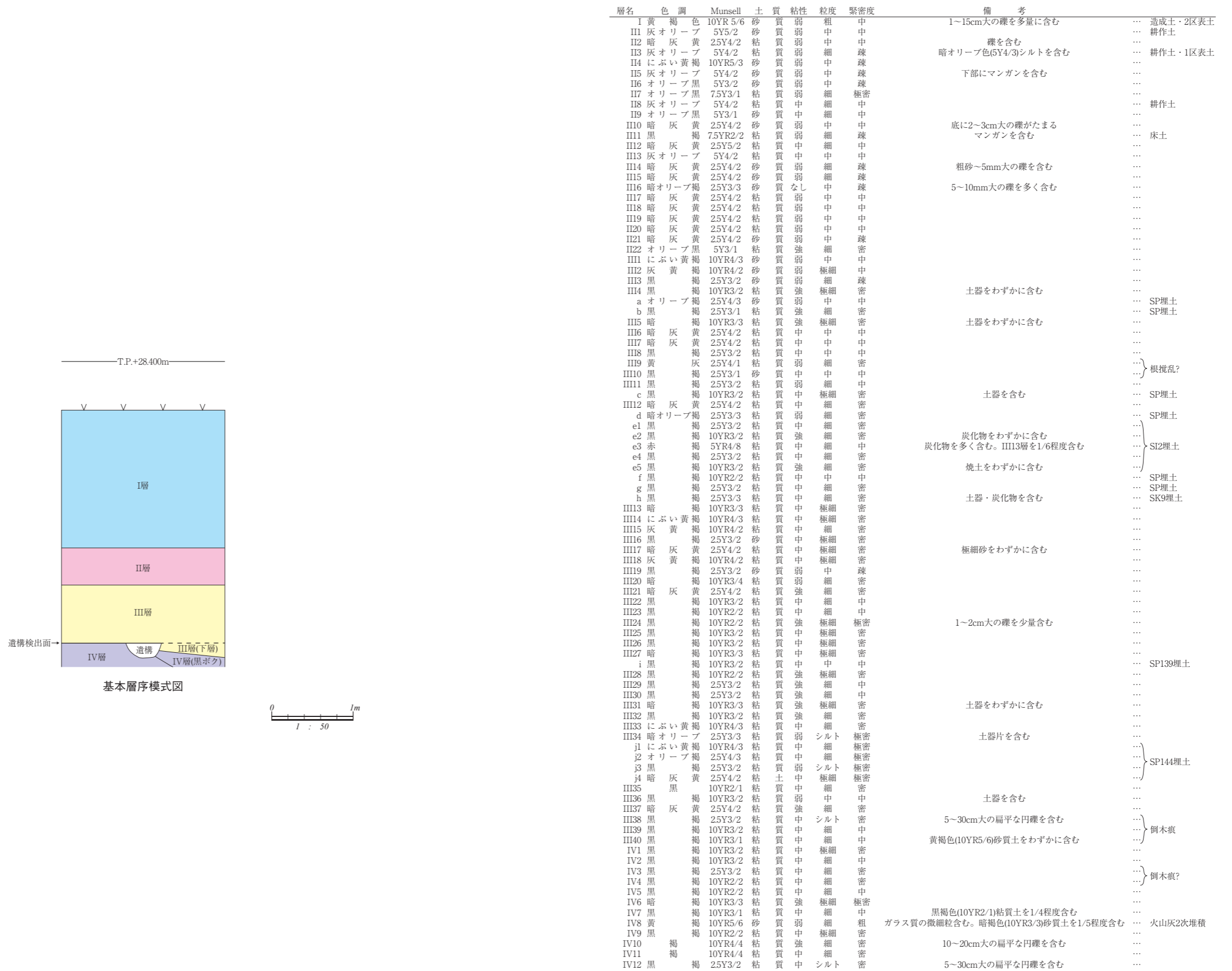
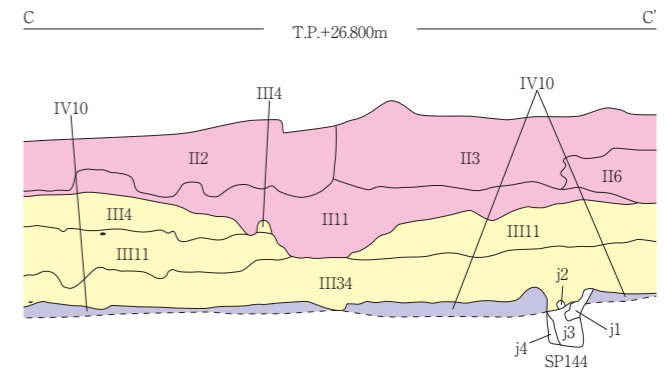
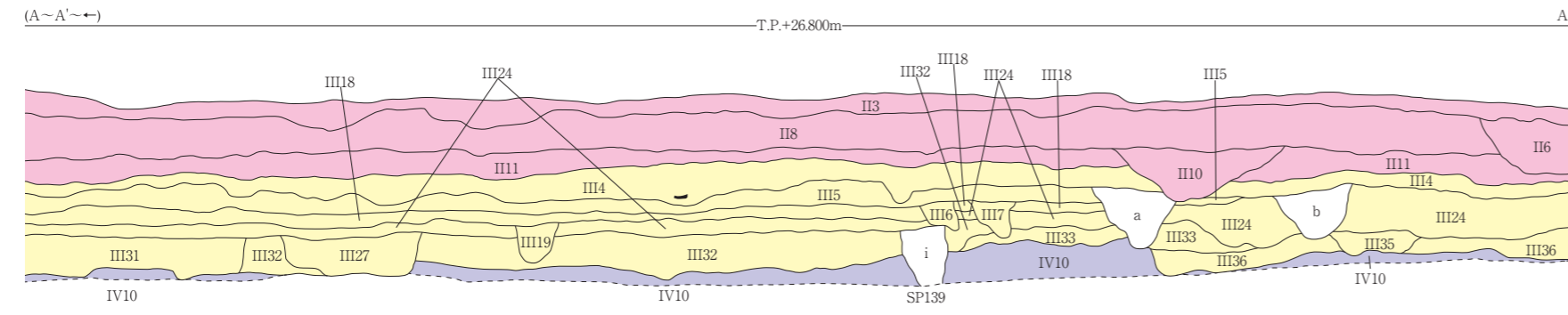
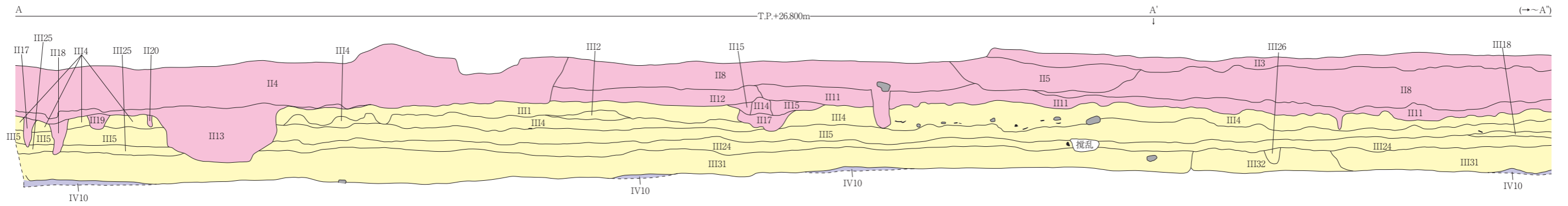
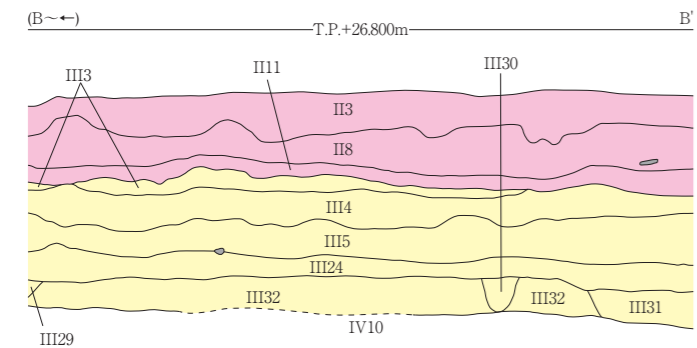
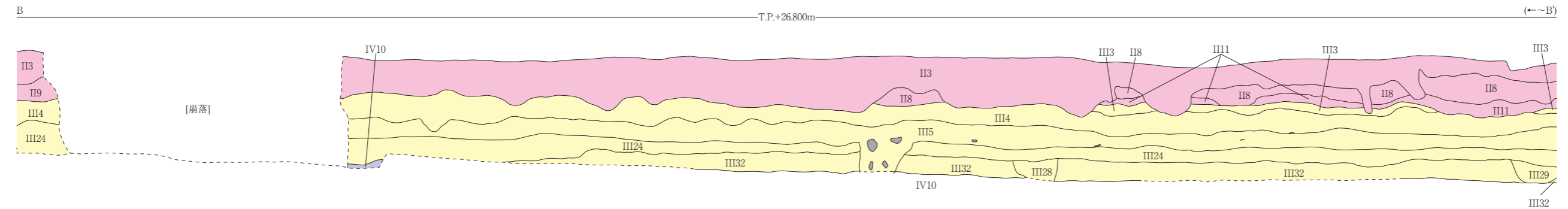


図12 中村田所遺跡 基本層序模式図および土層説明



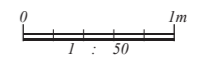
1区 調査区中央北壁 A-A'-A''

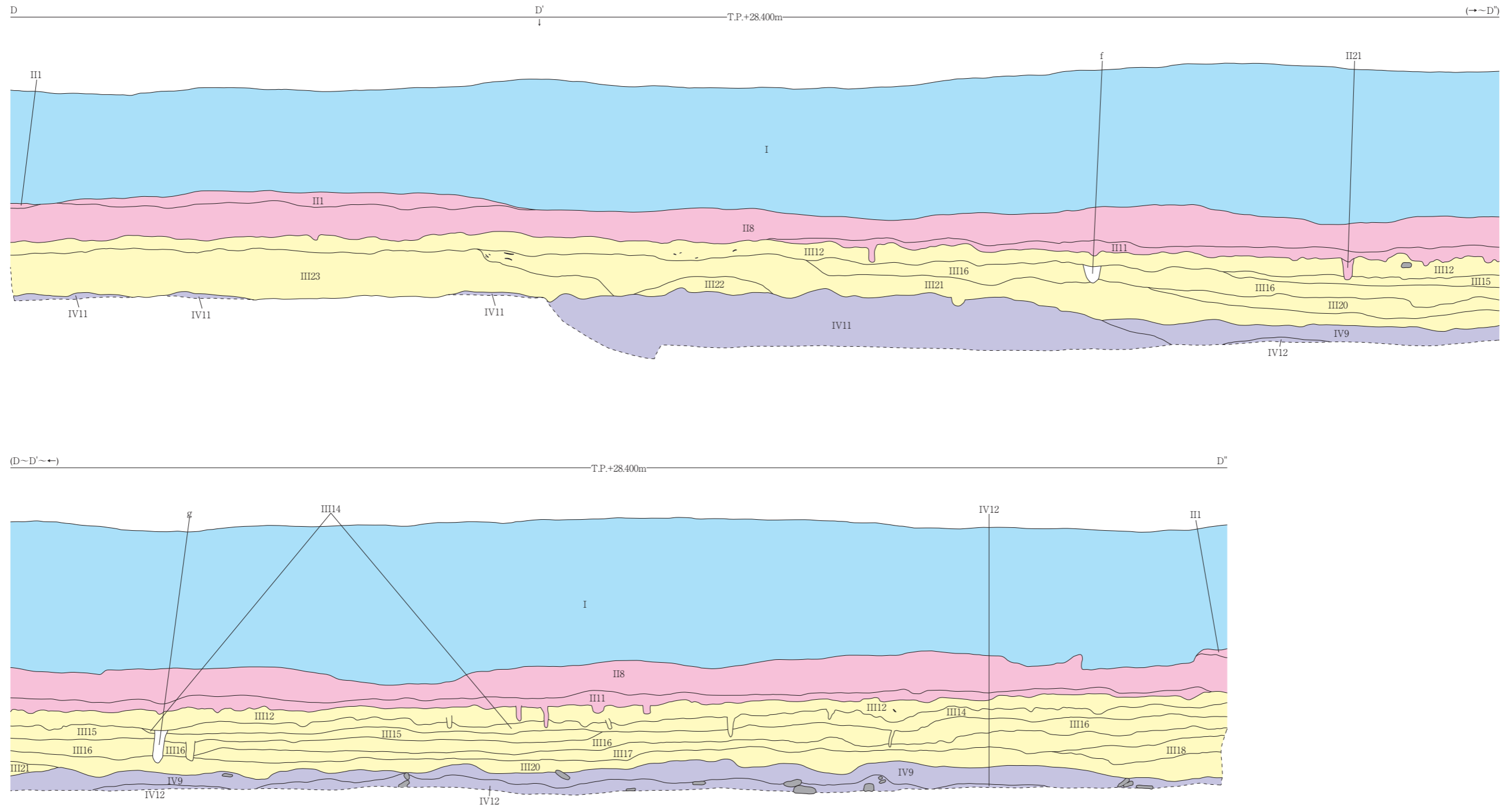
1区 調査区東壁 C-C'



1区 調査区中央西壁 B-B'

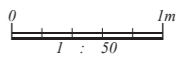
図13 1区 基本層序(A-A'-A'',B-B',C-C')

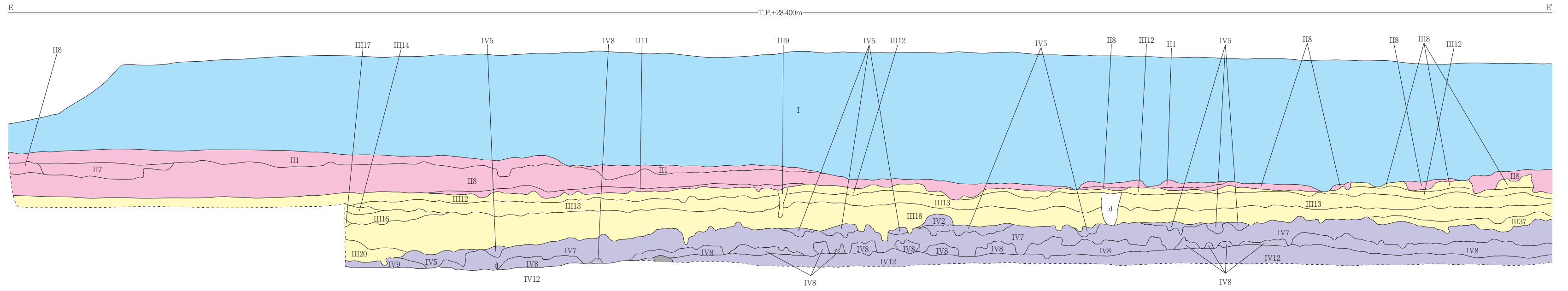




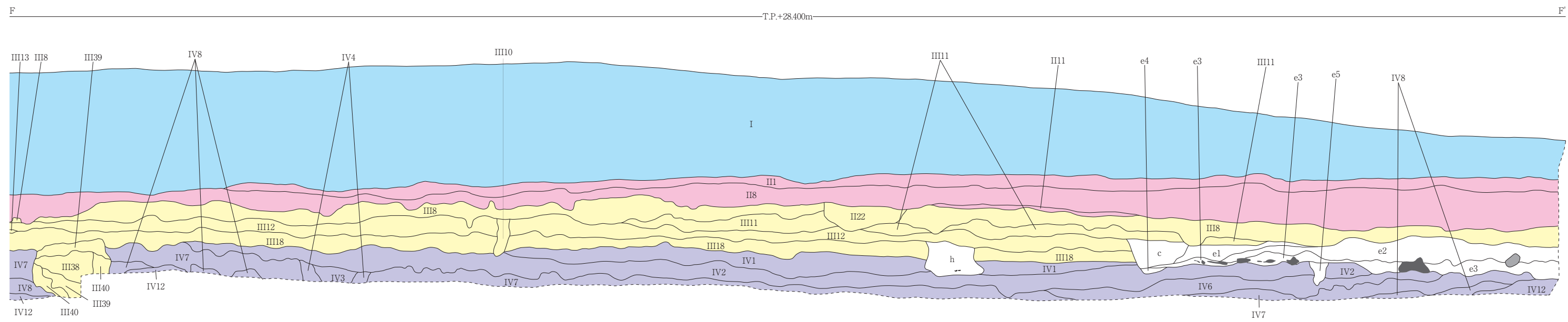
2区 調査区中央北壁 D-D'-D'''

図14 2区 基本層序(D-D'-D''')





2区 調査区東壁 E-E'



2区 調査区中央南壁 F-F'

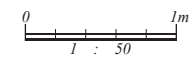


図15 2区 基本層序(E-E',F-F')

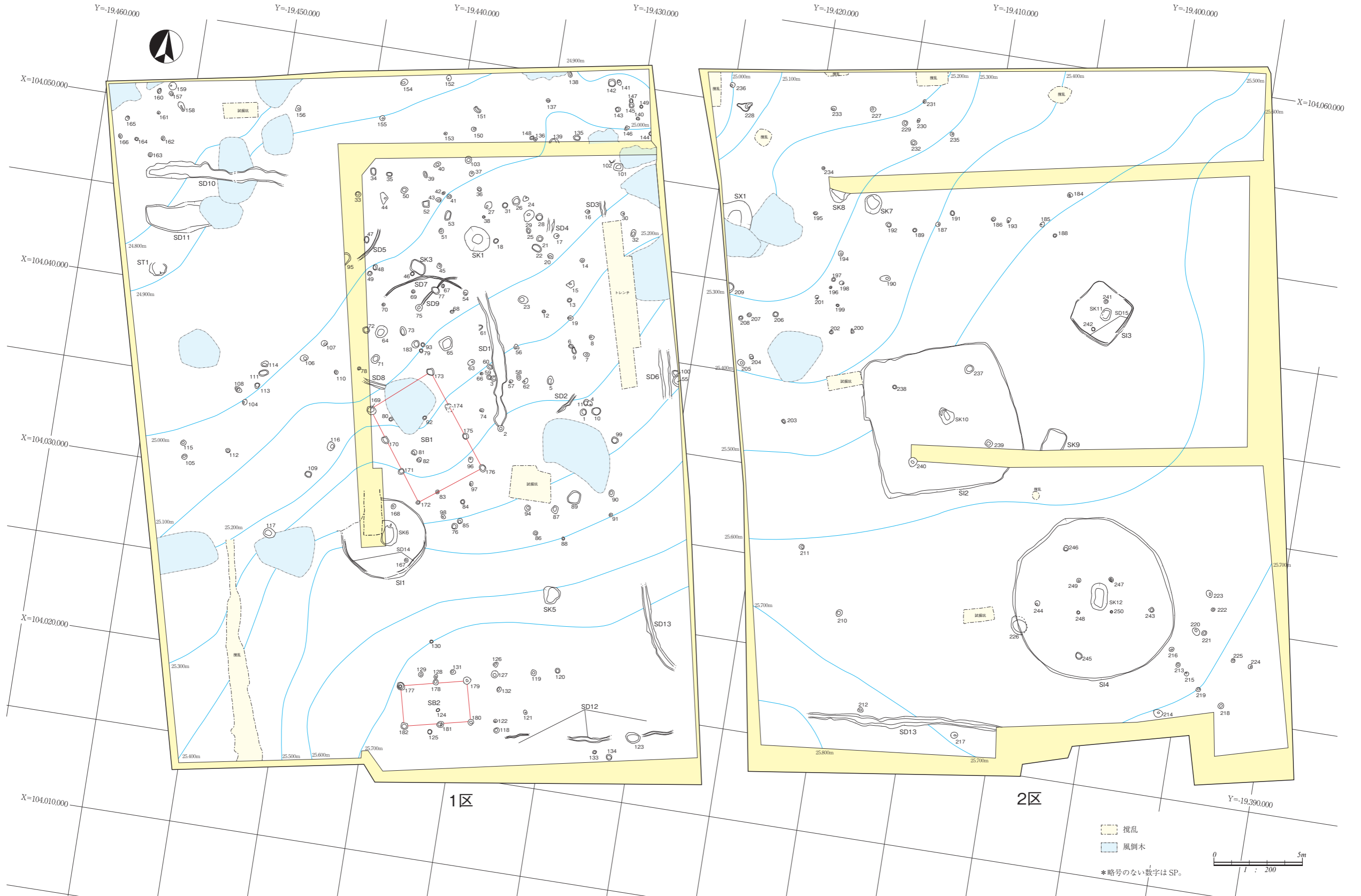


図16 1・2区 遺構配置図

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1 概要

検出した遺構は土坑3基・小穴1穴である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は縄文時代後期前葉が中心である。主に調査区北半部に分布しており、遺構はさらに北方向へ続くものと考えられる。出土遺物には縄文土器深鉢・浅鉢、石器がある。

2 土坑

(1) SK1(図17)

遺構 1区北寄りにあり、検出標高は約25.1mである。平面形は直径152cmの円形を呈し、検出面からの深さは52cmである。直径方向はN-57.71° -Wを指向する。土坑内に堆積した土は黒色粘質土で2層に分かれ、中央付近に掘方の底面より若干浮いた状態で集石がみられた。遺物は縄文土器が出土している。SK1の時期は検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 1は鉢の胴部である。外面には縄文、内面はミガキが施される。

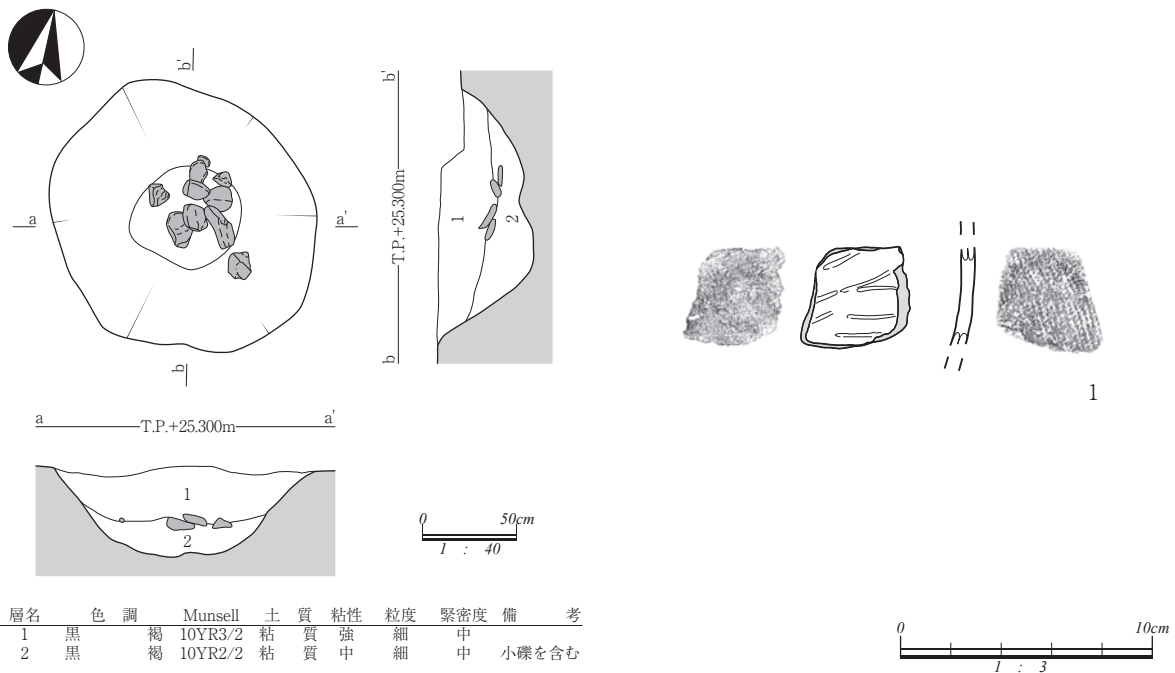


図17 SK1平面図および礫出土状況および出土遺物

(2) SK7(図18)

遺構 2区北西側にあり、検出標高は約25.23mである。平面形は直径約110cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは17cmである。長軸方向はN-26.16° -Eを指向する。土層は黒色粘質土で、中央付近では縄文土器および礫の集積が少量認められた。出土した炭化材については樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節を含むことが判明した。

また、同炭化材の放射性炭素年代測定の結果、補正¹⁴C年代が3450±20年BPの結果が得られた(第6章第4節・第5章参照)。SK7の時期は、検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 2は深鉢である。内面は条痕を残す。

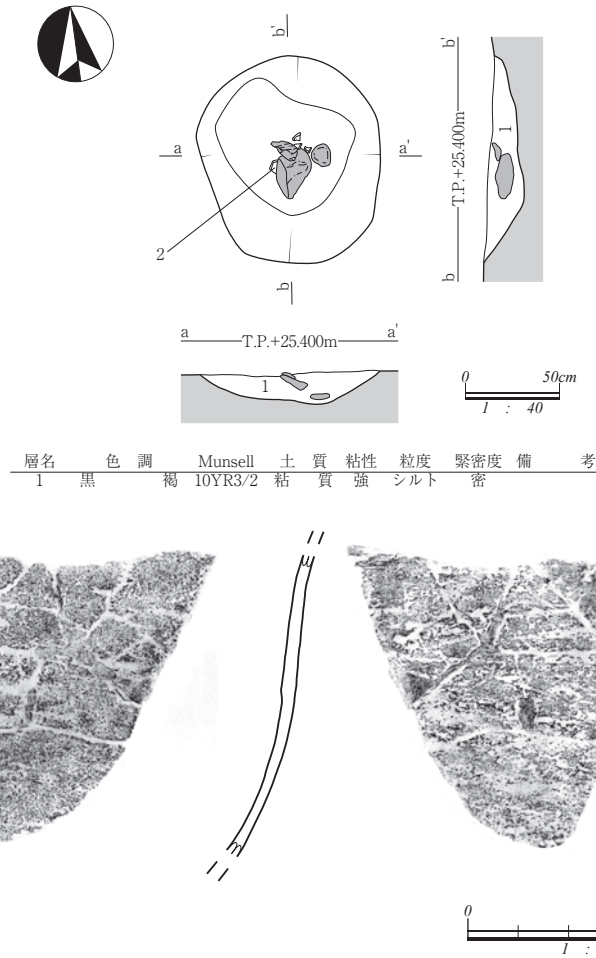


図18 SK7平断面図および遺物・礫出土状況および出土遺物

(3)SK 8(図19)

遺構 2区北西側にあり、検出標高は25.23mである。平面形は長径約108cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは21cmである。土層は黒色粘質土で、中央付近では縄文土器や石器を含む礫の集積が少量認められた。SK8の時期は検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 3は精製浅鉢である。外面に磨消縄文、内面にミガキが施される。4は鉢の胴部である。5は鉢の口縁部である。口唇部にキザミが施され、外面に条痕を残している。6は緑色片岩製で打製石器の石鋏である。

3 小穴の出土遺物(図20)

7はSP191より出土した鉢の胴部である。外面に磨消縄文が施される精製浅鉢と考えられる。

4 遺構外の遺物(図21・22)

8~15は1区、16~20は2区、21は排土より出土した。8~12は鉢の口縁である。8・9は口縁部に

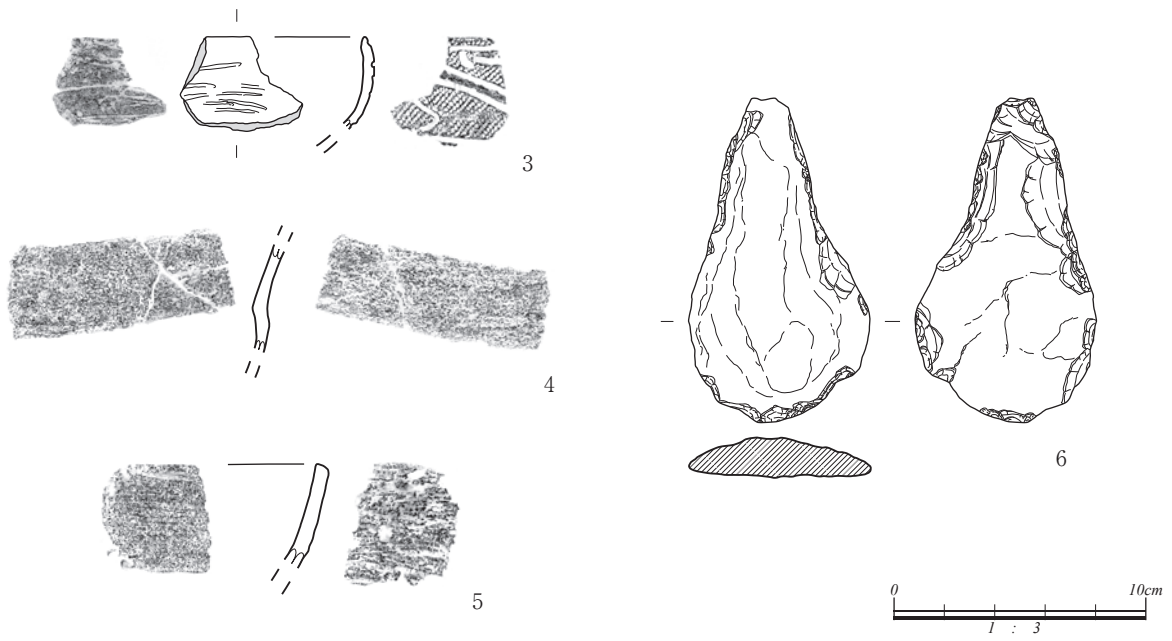
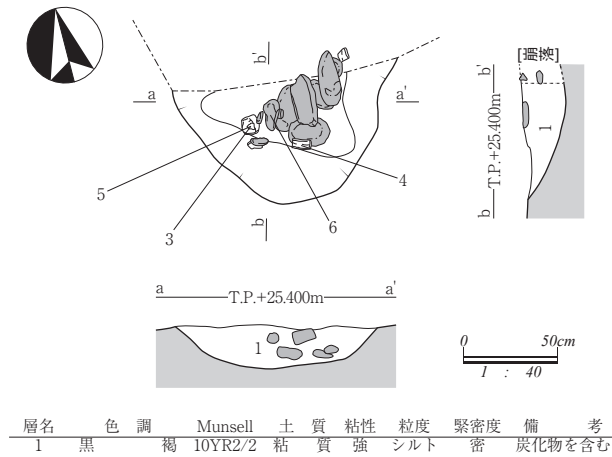


図19 SK8平断面図および遺物・礫出土状況および出土遺物

磨消縄文が施される。10～12は外面に条痕を残す。13は鉢の高台状の底部である。14・15は鉢の胴部である。14は磨消縄文、15は縄文を外面に施している。16～19は鉢の口縁である。16は縄文、17・18は沈線、19は条痕が外面に見られる。20は鉢の口縁部付近である。21は鉢の口縁部である。口縁部に縄文、外面に縦や横方向の沈線を刻む。

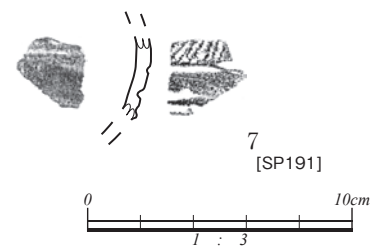


図20 小穴の出土遺物(縄文時代)

第3節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、竪穴建物4棟・掘立柱建物1棟・土坑1基・壺棺墓1基・溝5条・小穴20穴で

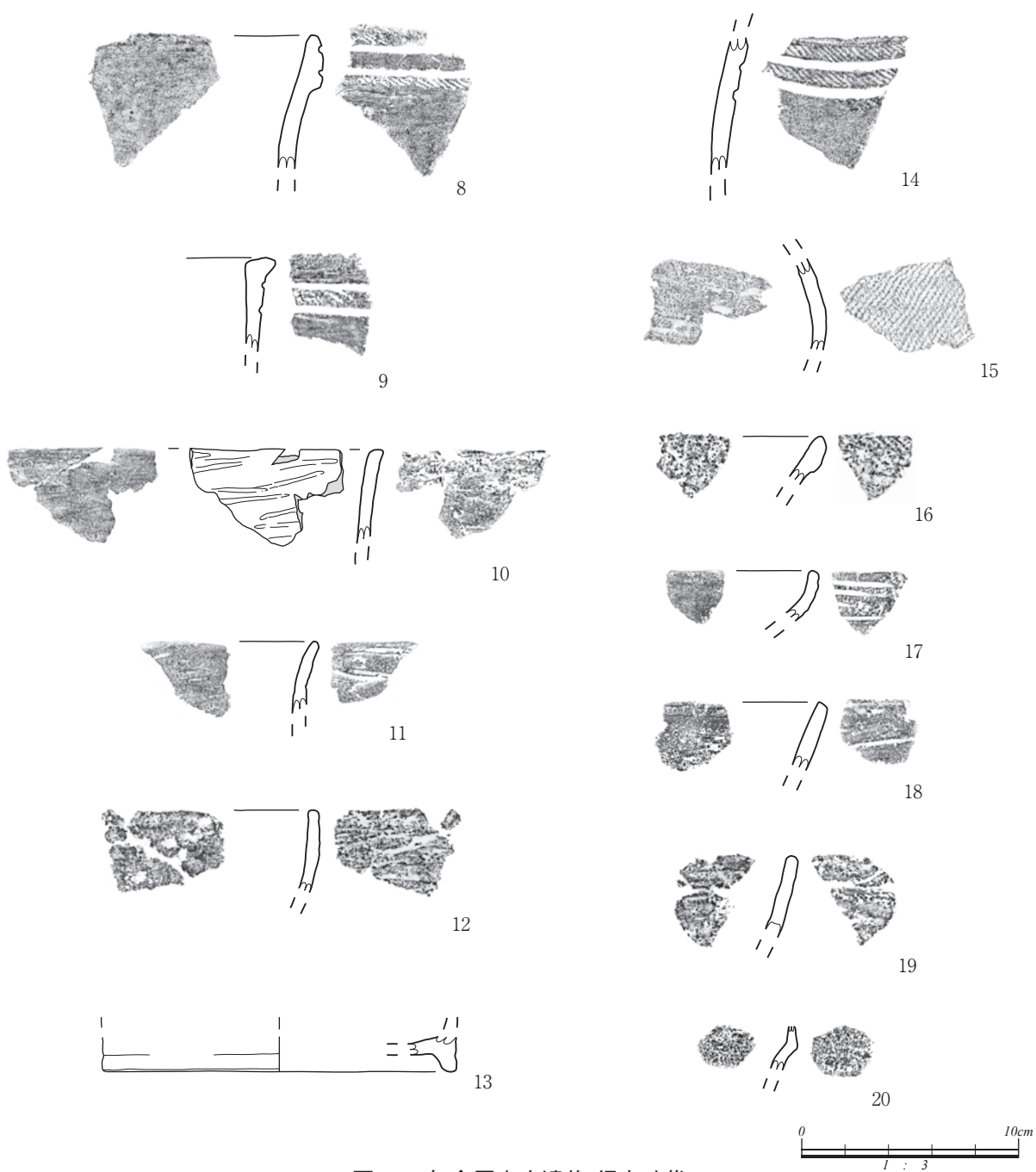


図21 包含層出土遺物(縄文時代)

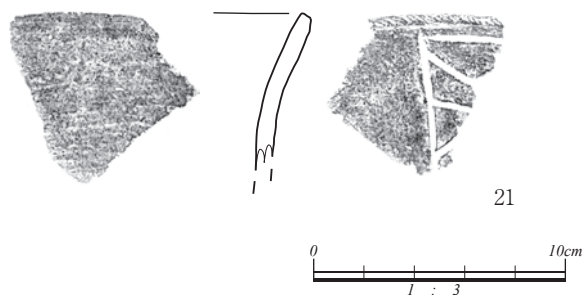


図22 出土地不明遺物(縄文時代)

ある。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は弥生時代中期以降と考えられ、弥生時代終末期を中心とする。なお、出土遺物は終末期を中心とし中期～後期を含んでいる。出土遺物は弥生土器壺・甕・高杯・鉢、石器、石製品、鉄製品、ガラス製品がある。

2 竪穴建物

(1) SI1(図23・24)

遺構 SI1は1区南寄りにあり、検出標高は約25.37mである。平面形は円形で、直径約4.78m、検出面からの深さは0.19mであった。小穴が2穴検出されたが、いずれも浅く明確な支柱穴は検出できなかった。壁溝(SD14)は幅2~11cmで南半分で部分的に確認した。床面からの深さは最深部で16cmである。床面はほぼ平坦であるが、若干南側が高い。土層は黒褐色粘質土が主体である。建物中央付近で中央土坑(SK6)を検出した。SK6底面付近に堆積した6・7層中には多量の炭化物が

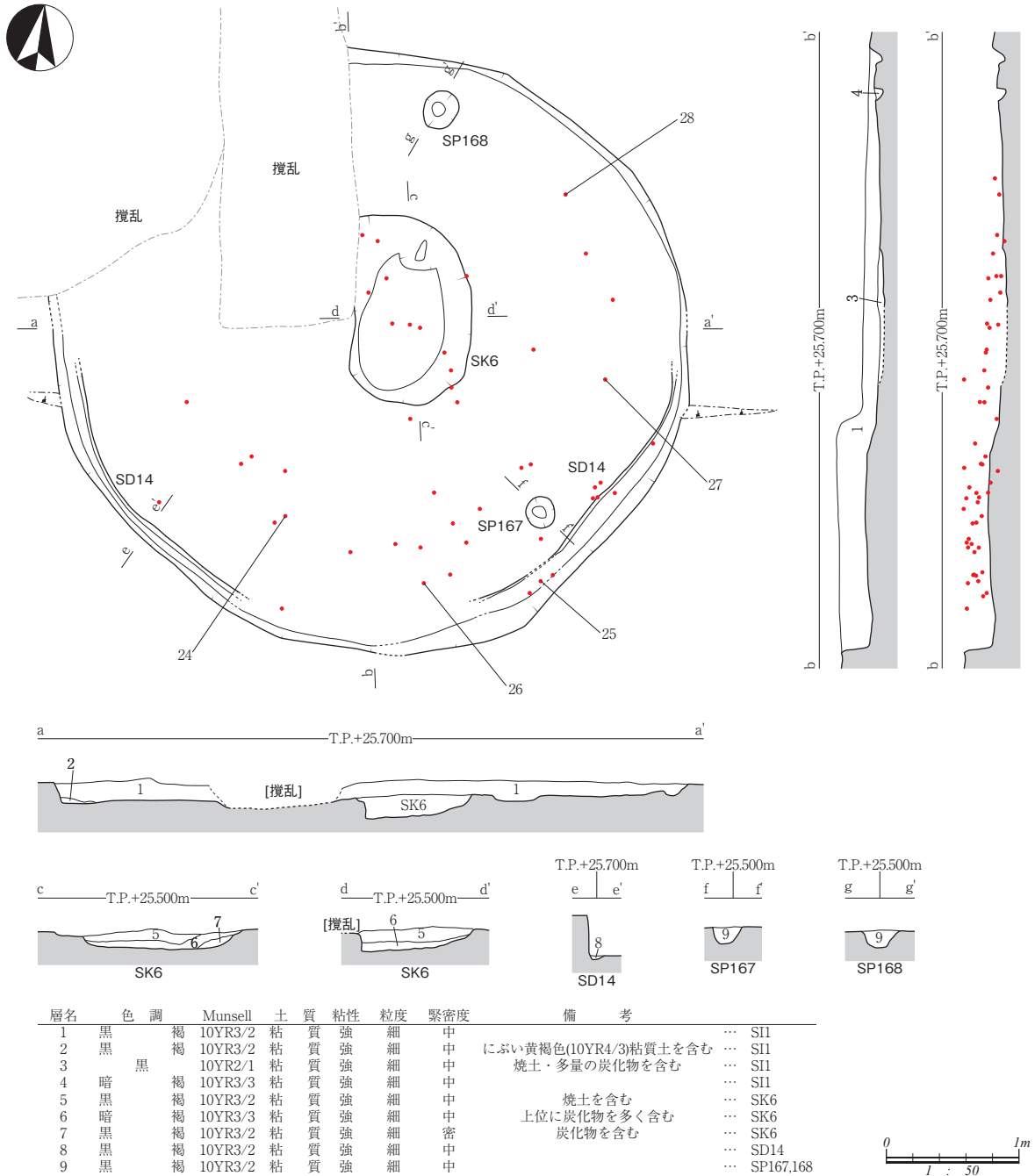


図23 SI1平面断面図および遺物ドット

含まれる。建物北西側では壁面の立ち上がりが不明瞭であるとともに礫層の持ち上がりが確認されたことから、攪乱を受けているものと考えられる。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・鉄製品が出土している。SI1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末と考えられる。本遺構の北東部にSB1が位置するが、SI1・SB2は接近しており時間的に隔たりがあるものとみられる。

遺物 22・23は甕である。22の外面はタタキ後にハケを施している。24は小型の鉢である。25は甕または鉢の下半部である。26は緑色片岩の石器素材である。27は鉄鏃である。28は縄文土器鉢の底部で、高台状である。

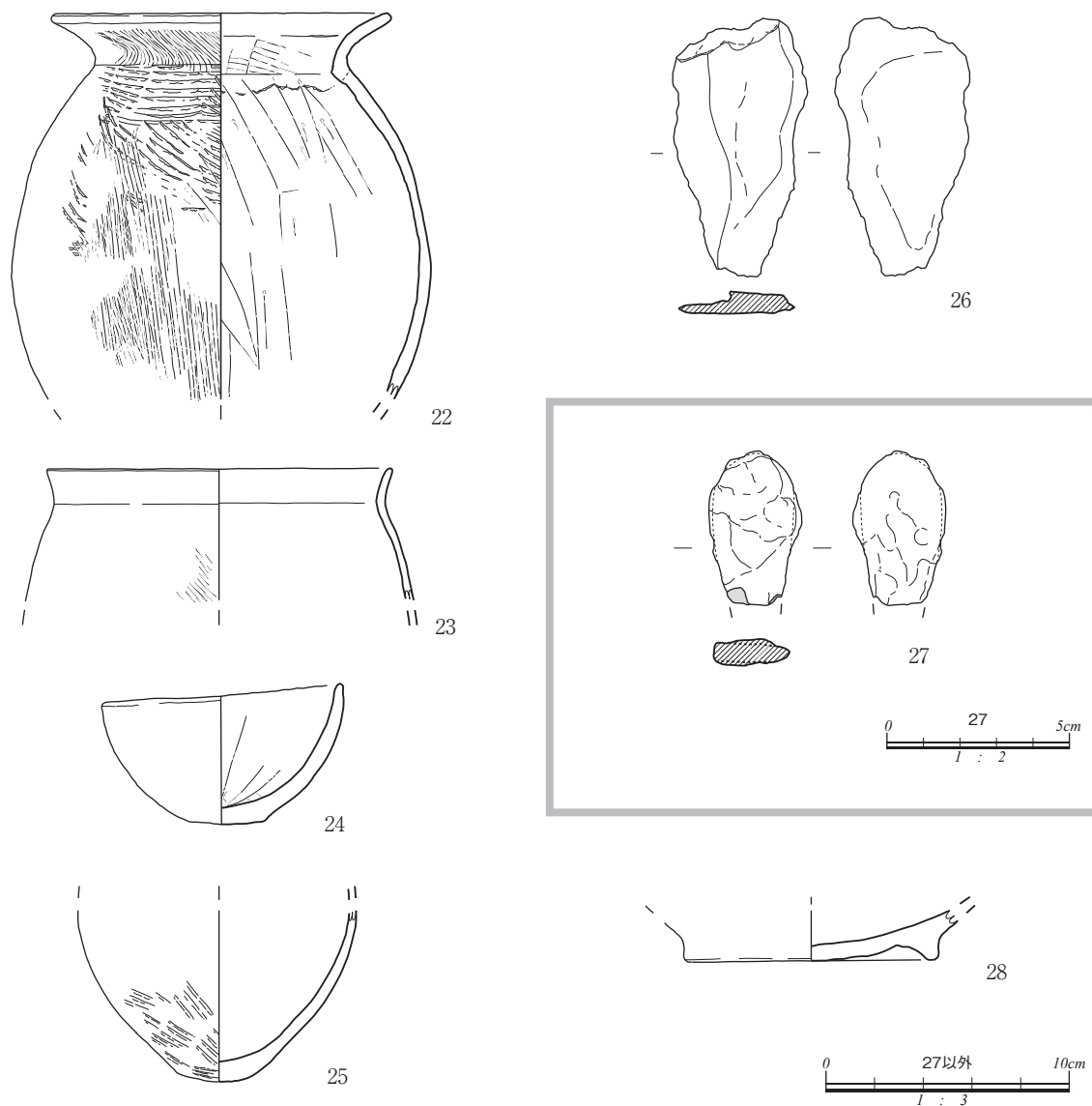
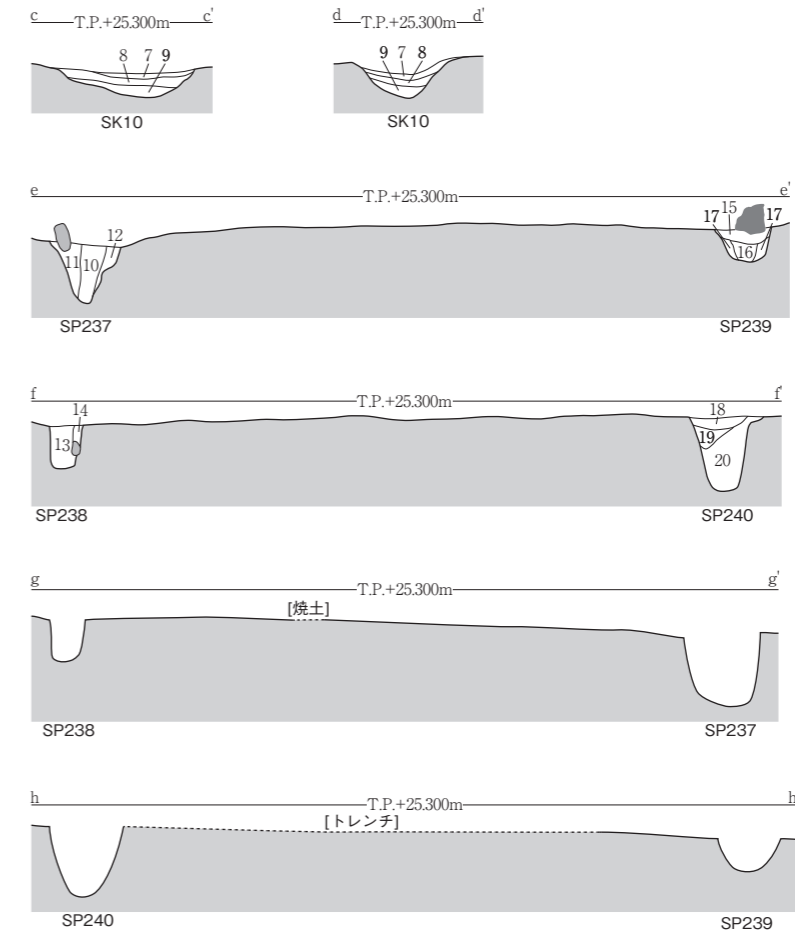
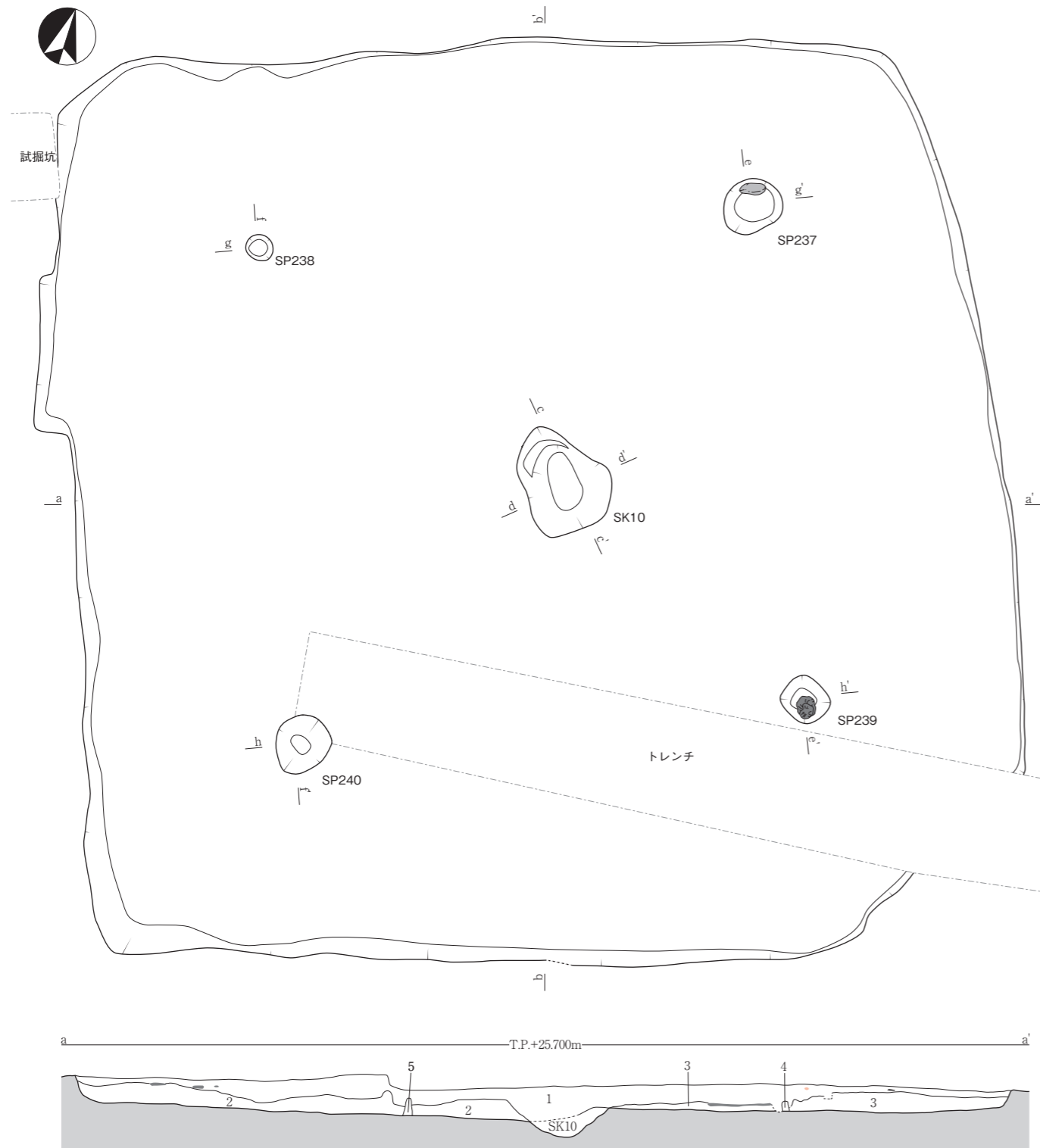


図24 SI1出土遺物

(2) SI2(図25～30)

遺構 SI2は2区中央付近にあり、検出標高は25.43mである。大型の竪穴建物で、平面形は隅丸方形である。長辺8.56m・短辺8.12m・検出面からの深さは0.49mであった。長軸方向はN-23.01° -Wを指向する。壁溝は確認できなかった。床面はほぼ平坦で西側が若干低くなる。支柱穴は4穴検



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	強	細	中	焼土を多く含む。炭化物を含む
2	褐	7.5YR4/4	粘質	強	細	中	焼土・炭化物を含む
3	暗	7.5YR3/3	粘質	強	細	中	焼土・炭化物を含む
4	褐	7.5YR4/4	粘質	強	細	中	炭化物を非常に多く含む
5	褐	7.5YR4/4	粘質	強	細	中	焼土を非常に多く含む
6	暗	10YR3/3	粘質	強	細	中	炭化物を多く含む
7	黒	10YR1.7/1	粘質	強	細	中	炭化物を多く含む
8	黄	2.5YR4/1	粘質	強	中	中	
9	黒	2.5YR3/2	粘質	強	極細	密	
10	灰	5YR4/1	粘土	強	極細	極密	焼土塊・炭化物を含む
11	黒	2.5YR3/2	粘土	強	極細	極密	
12	暗オリーブ	2.5YR3/3	粘土	強	極細	極密	
13	黒	7.5YR2/2	粘質	中	細	中	
14	暗	7.5YR3/3	粘質	中	細	密	
15	黒	10YR2/2	粘質	強	細	密	
16	黒	7.5YR3/2	粘質	強	細	密	焼土を含む
17	黒	10YR3/2	粘質	中	細	密	
18	暗	10YR3/3	粘質	中	細	密	多量の焼土、少量の炭化物を含む
19	黒	10YR3/2	粘質	中	細	密	1cm大の粒状の灰色(5Y4/1)粘質土を少量含む
20	黒	10YR3/2	粘質	強	細	密	炭化物を少量含む

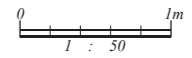


図25 SI2平断面図

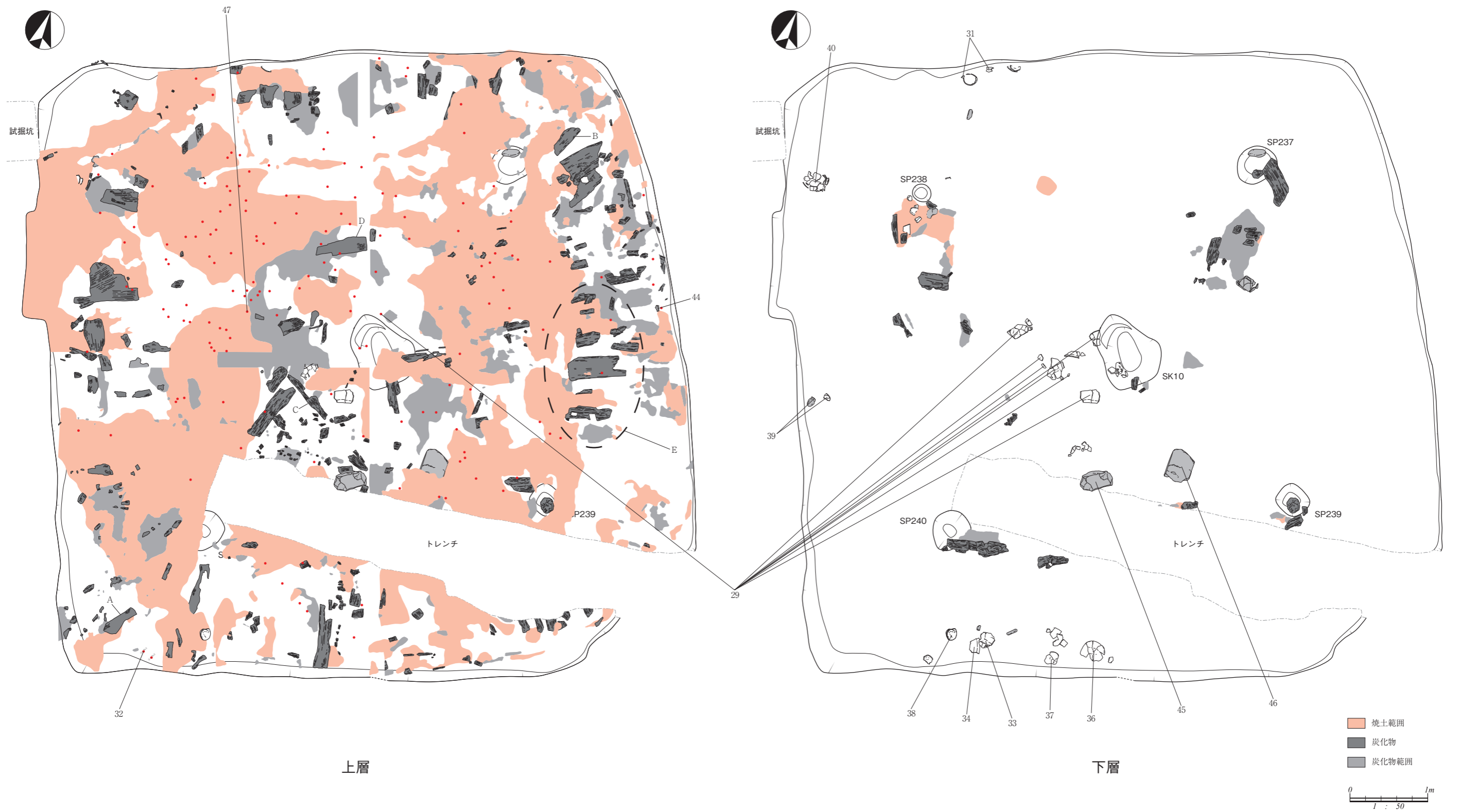


図26 S12遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)

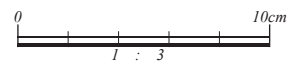
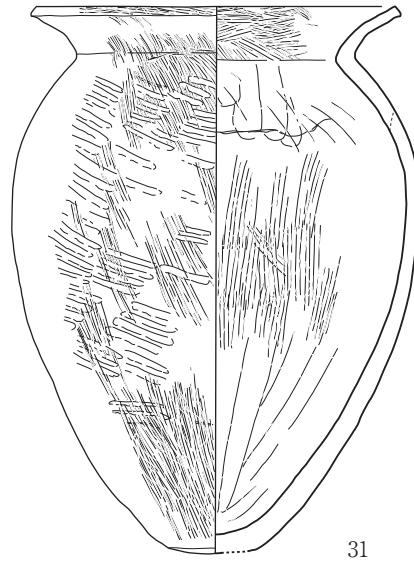
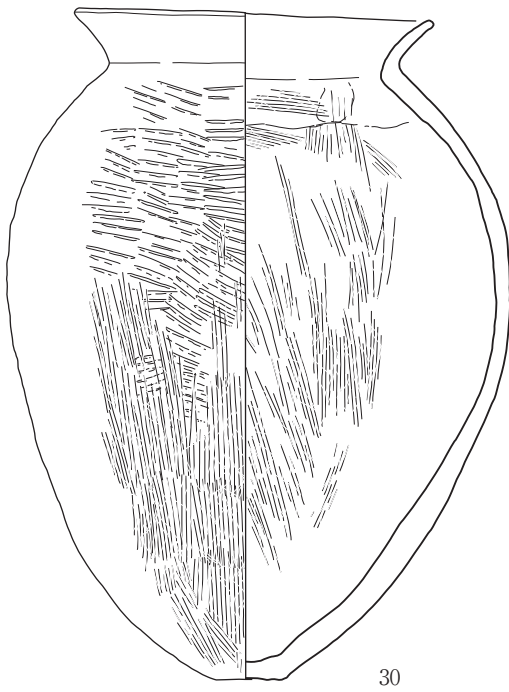
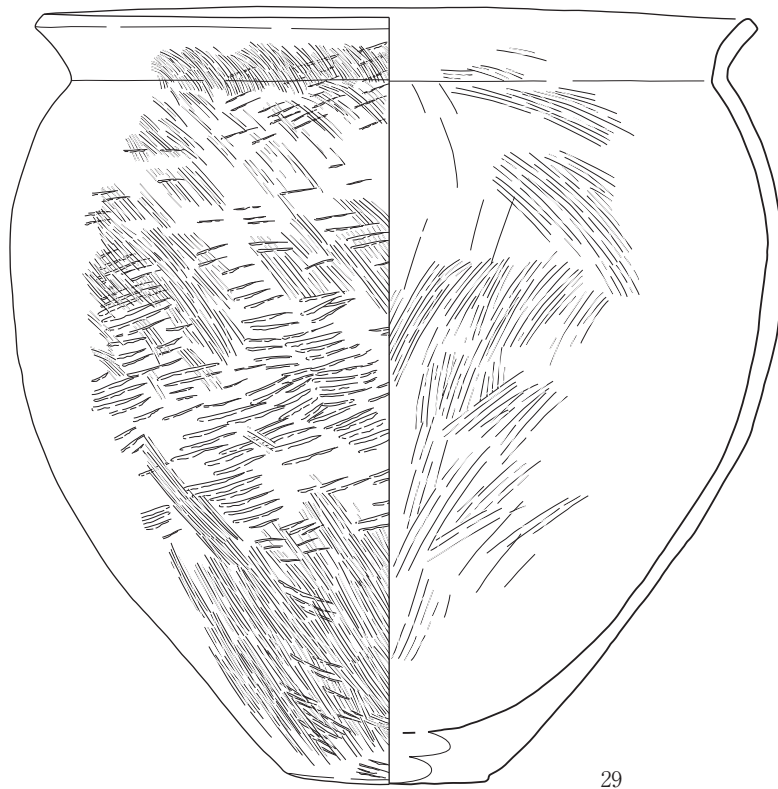


図27 SI2出土遺物(1)

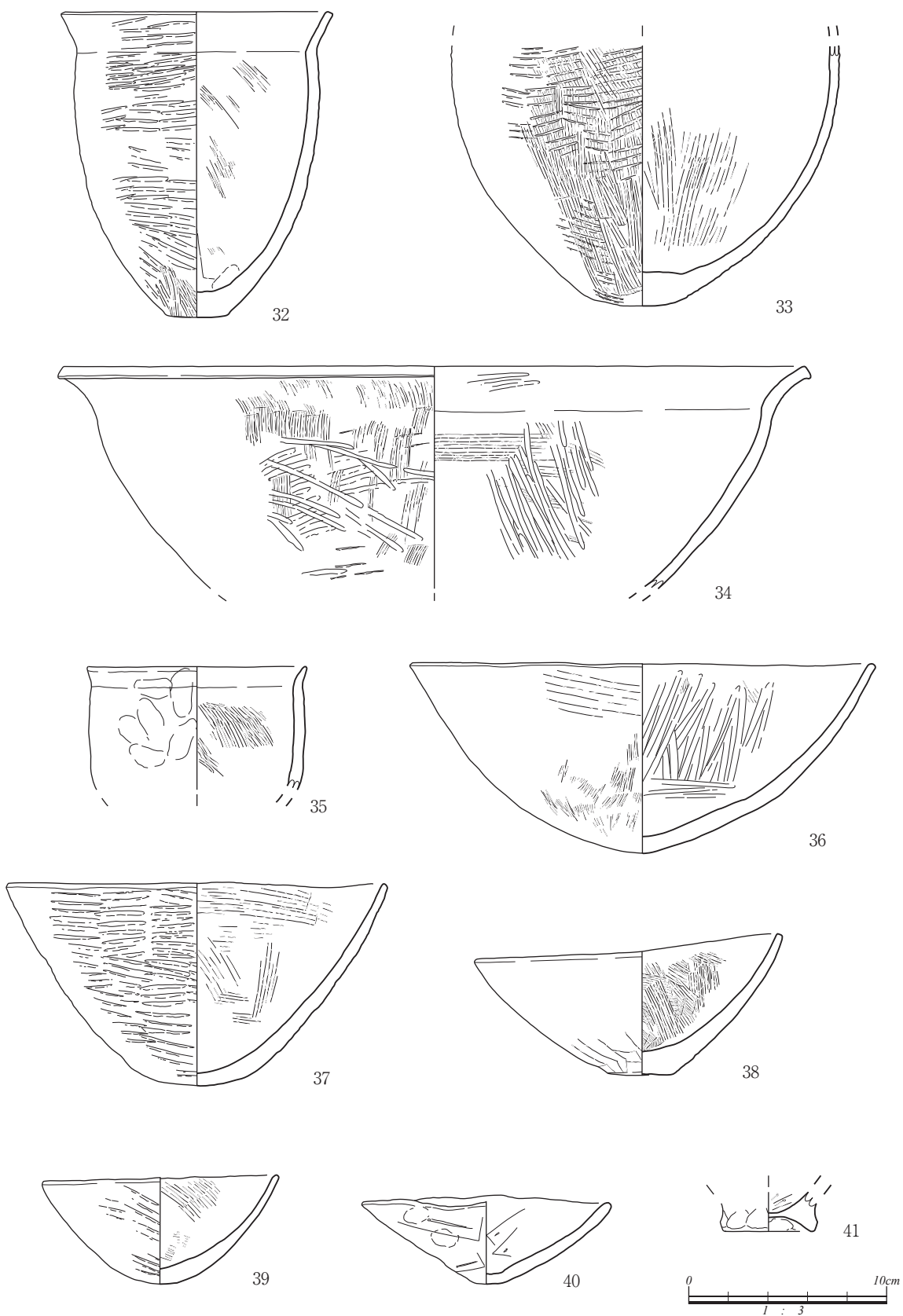
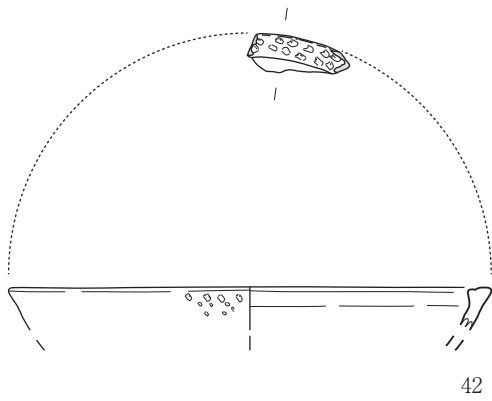
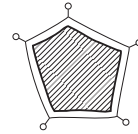
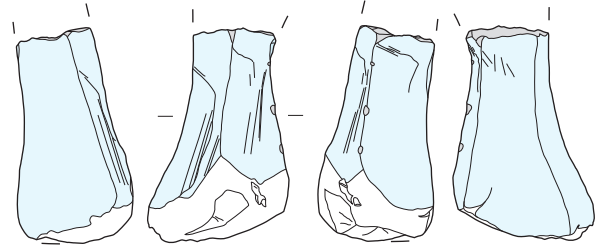


図28 SI2出土遺物(2)

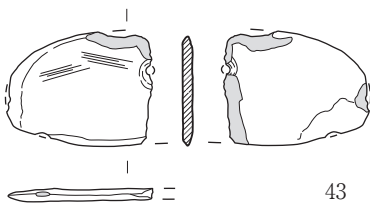


42

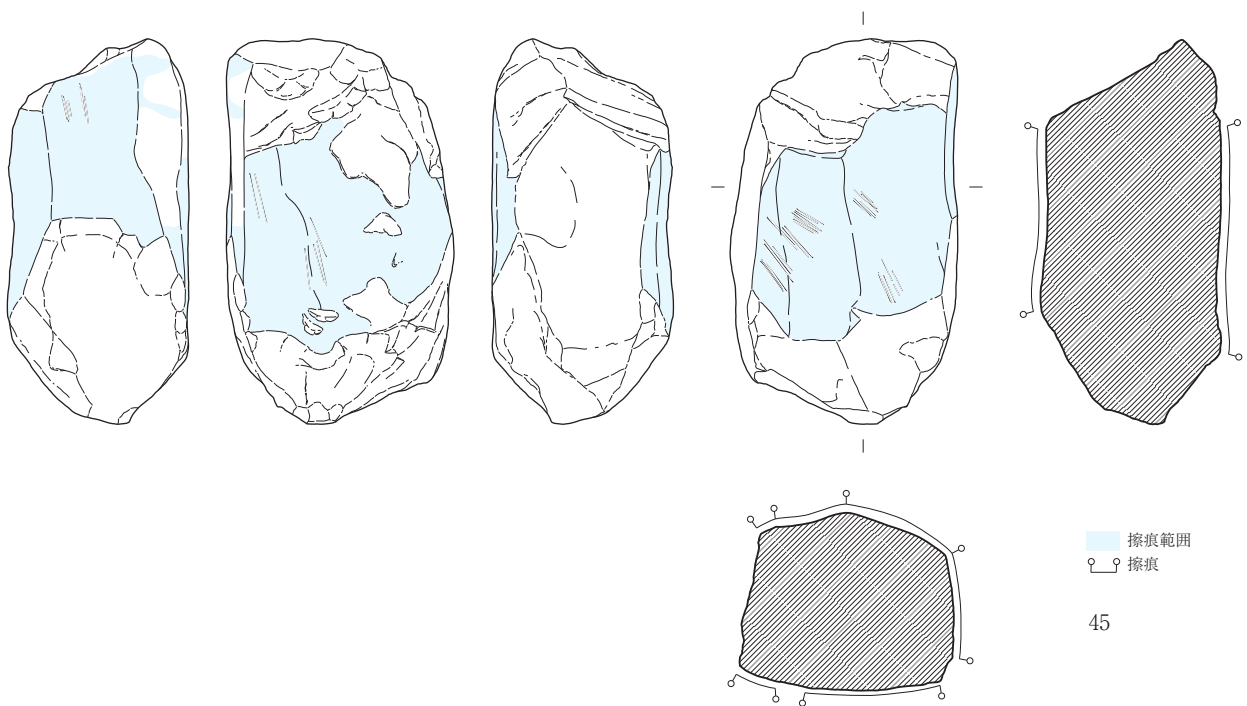
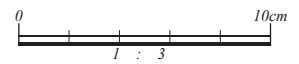


擦痕範囲
擦痕

44



43



擦痕範囲
擦痕

45

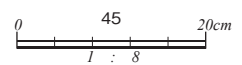


図29 SI2出土遺物(3)

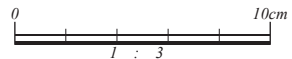
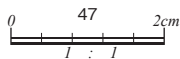
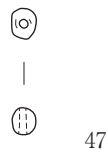
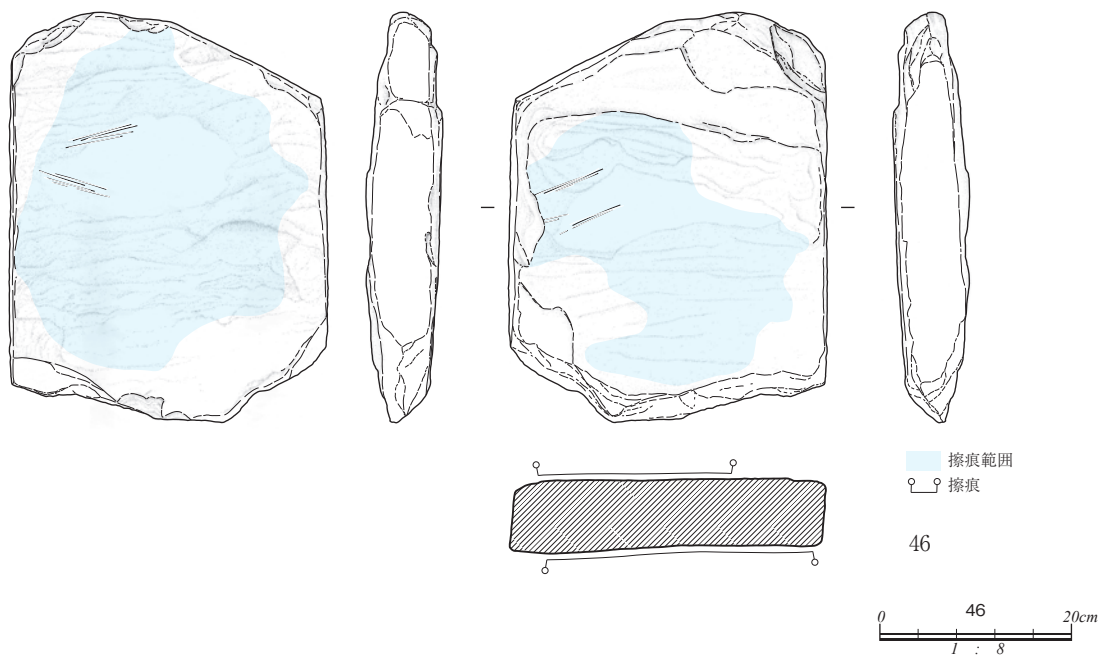


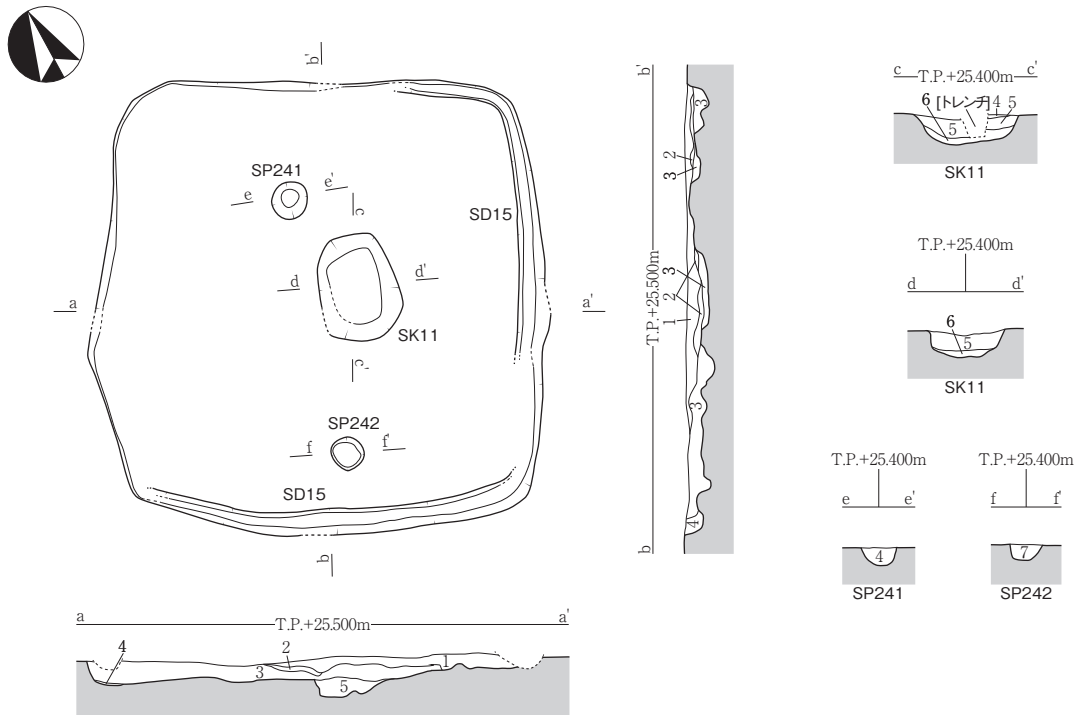
図30 SI2出土遺物(4)

出されたため、建物の柱構造は4本柱構造と考えられる。土層にはいずれも焼土や炭化物が含まれており、主体となる黒褐色粘質土の下位に褐色または暗褐色粘質土がみられる。

建物中央部で土坑(SK10)を検出した。SK10では最上層の7層で炭化物がみられた。

掘方内の全域では多量の焼土および炭化材が検出されたため、焼失建物とみられる。焼土下より炭化物が出土する他、両者の混在もあった。炭化物の中には棒状もしくは板状の木材が含まれており、中心部から放射状に広がる様子(図26中A,B)や直行する様子(図26中C,D)が観察できた。また壁側では炭化材が並んだ様子(図26中E)も観察されることから、これらは建物の屋根材または壁材と考えられる。主柱穴周辺でも柱状の炭化材が確認されているが、どの柱穴にも柱材は遺存していないことから、焼失時に柱材は外されていた可能性がある。これらの炭化材については樹種同定を12点行なった結果、クヌギ節を中心にマツ属複雑管束亜属・スダジイ・ツブラジイ・センダン類似種の5種類が判明している(第6章第6節参照)。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・ガラス製品が出土している。SI2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末と考えられる。

遺物 29は甕または鉢である。外面はタタキ後にハケ、内面は板ナデ後にハケが施される。30～32は甕である。いずれも外面にタタキ痕を残し、法量に差がある。33は甕の下半部である。34・



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	2.5Y3/2	粘質中	中	中	炭化物・焼土を少量含む … SI3
2	黒	褐	10YR2/2	粘質中	中	中	炭化物・焼土を多量に含む … SI3
3	暗黒	褐	10YR3/4	粘質中強	細	中	炭化物・焼土を少量含む … SI3
4	黒	褐	10YR3/1	粘質中	細	中	… SK11,SD15,SP241
5	黒	褐	10YR3/2	粘質中	細	中	… SK11
6	黒	褐	10YR2/1	粘質強	細	中	炭化物を多量に含む … SK11
7	灰黄	褐	10YR4/2	粘質強	中	中	… SP242

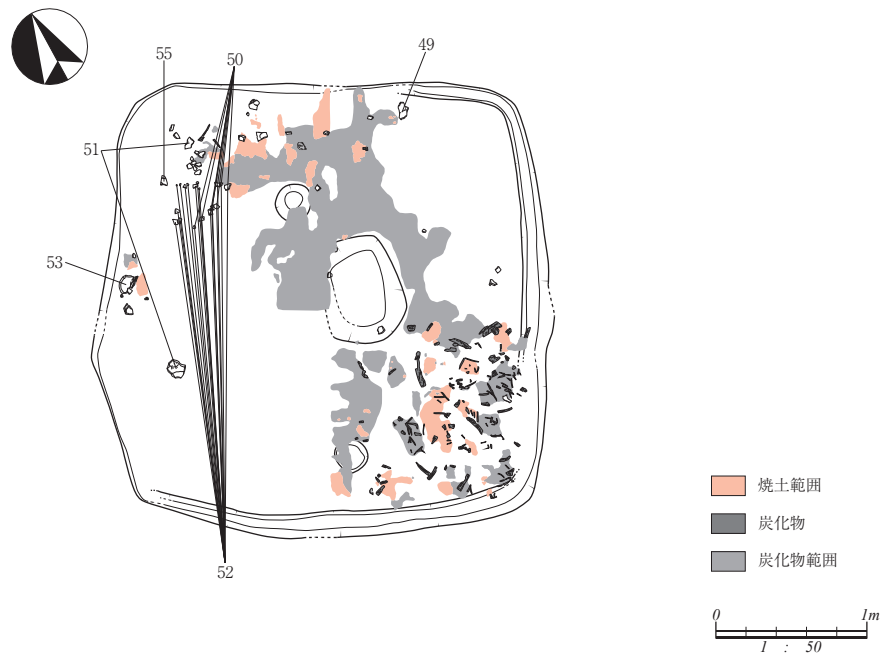


図31 SI3平断面図および遺物・焼土・炭化物出土状況

35は鉢の口縁部である。34は大型品で外面はタタキ後にナデ、内面はハケ後にミガキが施される。35は小型品で外面に指オサエ痕がある。36～40は鉢で法量差がみられる。41は鉢の底部で脚台状である。42は口縁部である。高杯の可能性も考えたが器種は不明である。口縁端部および口縁部外面に列点文が施される。43は緑色片岩製の磨製石庖丁で、穿孔が1箇所みられる。44は流紋岩製の砥石である。45は砂岩製の砥石である。46は緑色片岩製の石皿または台石である。47はガラス小玉である。48は縄文土器鉢の口縁部である。口唇部に縄文が施される。

(3) SI3(図31・32)

遺構 SI3は2区北東側にあり、検出標高は約25.28mである。小型竪穴建物で平面形は隅丸方形である。長辺3.00m・短辺2.98m・検出面からの深さは0.14mであった。長軸方向はN-27.37° -Eを指向する。小穴は2穴検出されたもののいずれも浅く、明確な支柱穴は検出できなかった。壁溝(SD15)は幅9～21cmで主に南側および西側で確認した。床面からの深さは最深部で3cmである。床面はほぼ平坦であるが若干西側が低い。土層は黒褐色または暗褐色粘質土である。建物中央付近で土坑(SK11)を検出した。SK11最下層の6層では炭化物の堆積がみられた。

また、建物埋土には比較的まとまった焼土および炭化材が確認された。炭化物は建物の南東側を中心に分布するが、形状などは不明なものが多い。炭化物の樹種同定ではスダジイの使用が認められた(第6章第6節参照)。遺物は縄文土器・弥生土器・石器が出土している。SI3の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。

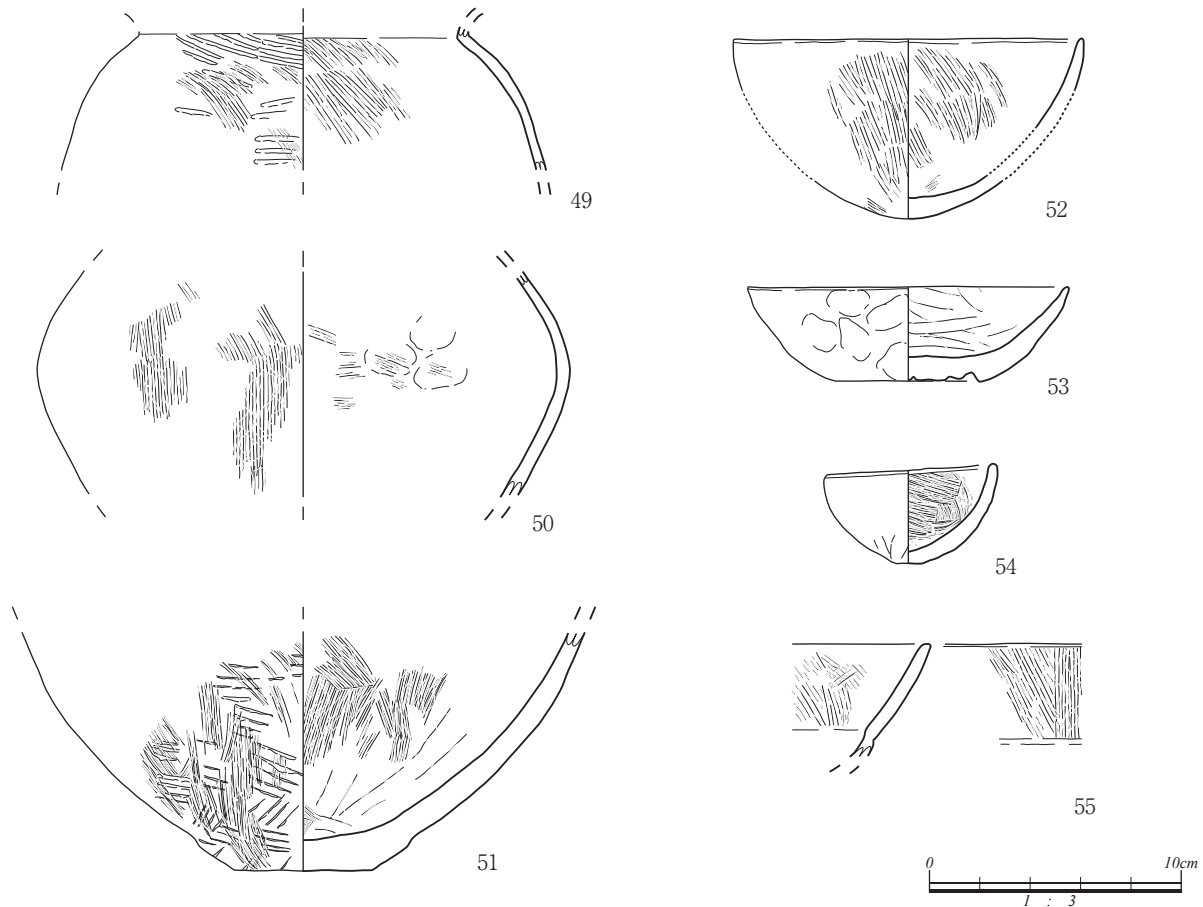
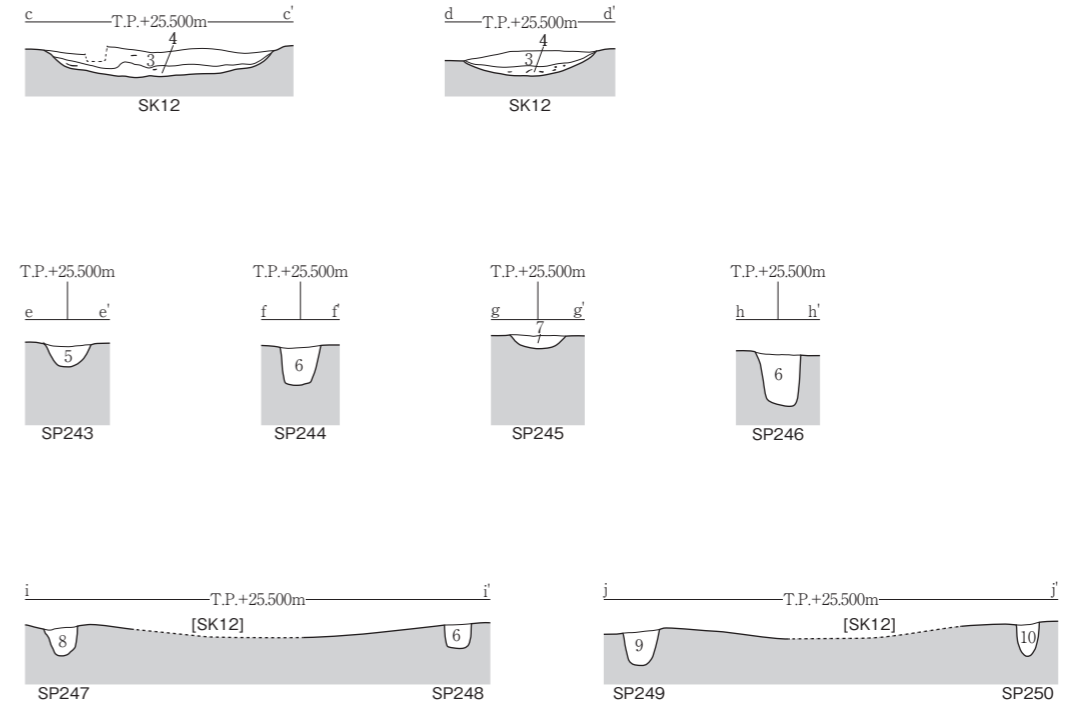
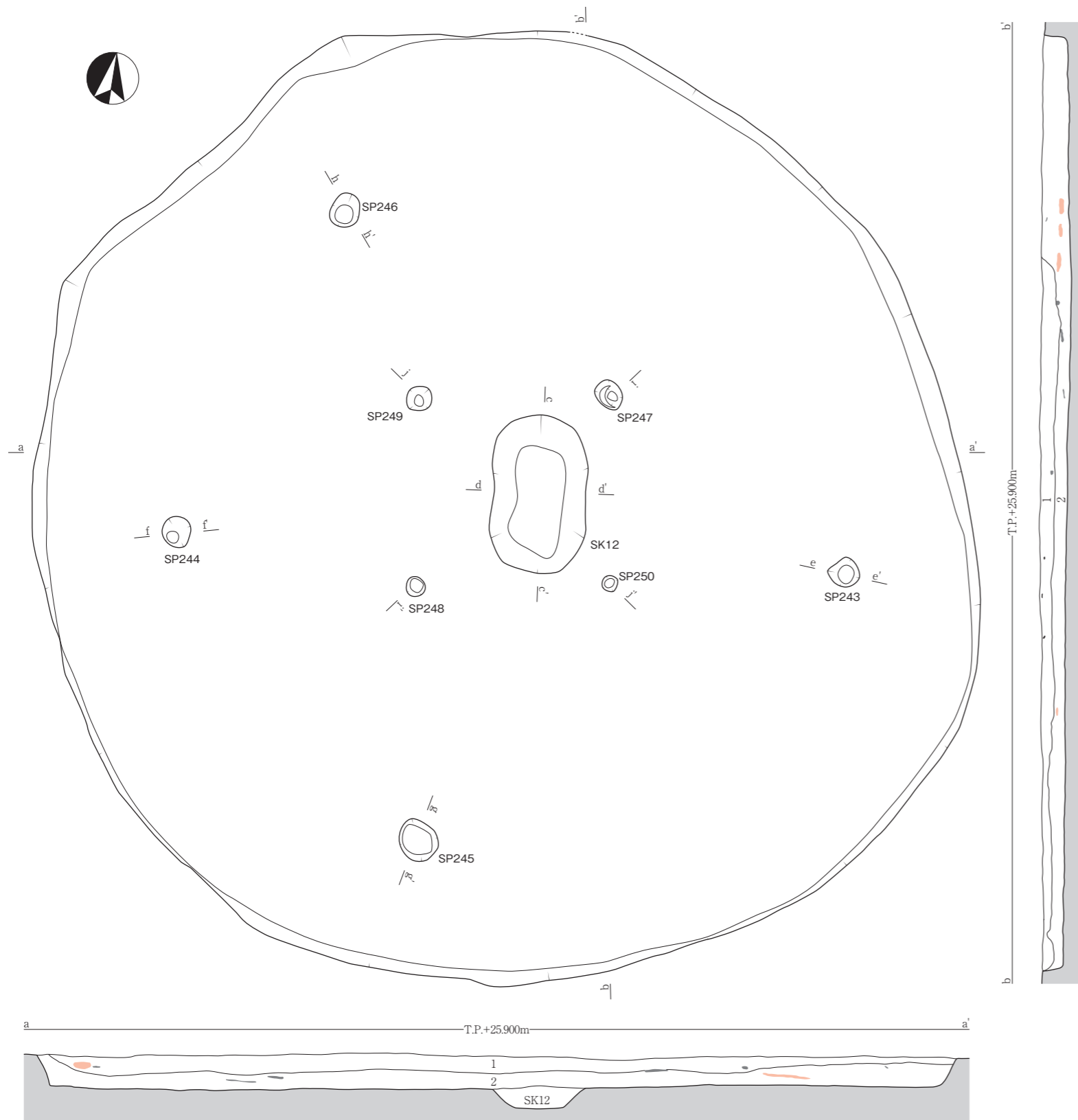


図32 SI3出土遺物



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐 10YR3/2	粘質	強	細	密	炭化物を含む … S14
2	灰黄	褐 10YR4/2	粘質	強	細	密	焼土・炭化物・3~5cm程のにぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土ブロックを含む … S14
3	黒	褐 10YR3/2	粘質	中	細	密	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土を含む … SK12
4	黒	10YR1.7/1	粘質	中	細	密	炭化物を含む … SK12
5	黒	褐 10YR2/2	粘質	中	細	密	焼土・炭化物を含む … SP243
6	黒	褐 10YR3/2	粘質	中	細	中密	焼土・炭化物を含む … SP244,246,248
7	黒	褐 10YR3/2	粘質	中	細	密	… SP245
8	黒	褐 10YR3/2	粘質	中	細	中	炭化物を含む … SP247
9	暗	褐 10YR3/3	粘質	強	細	中	… SP249
10	黒	褐 10YR2/3	粘質	強	細	中	… SP250

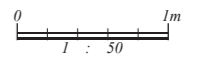


図33 S14平断面図

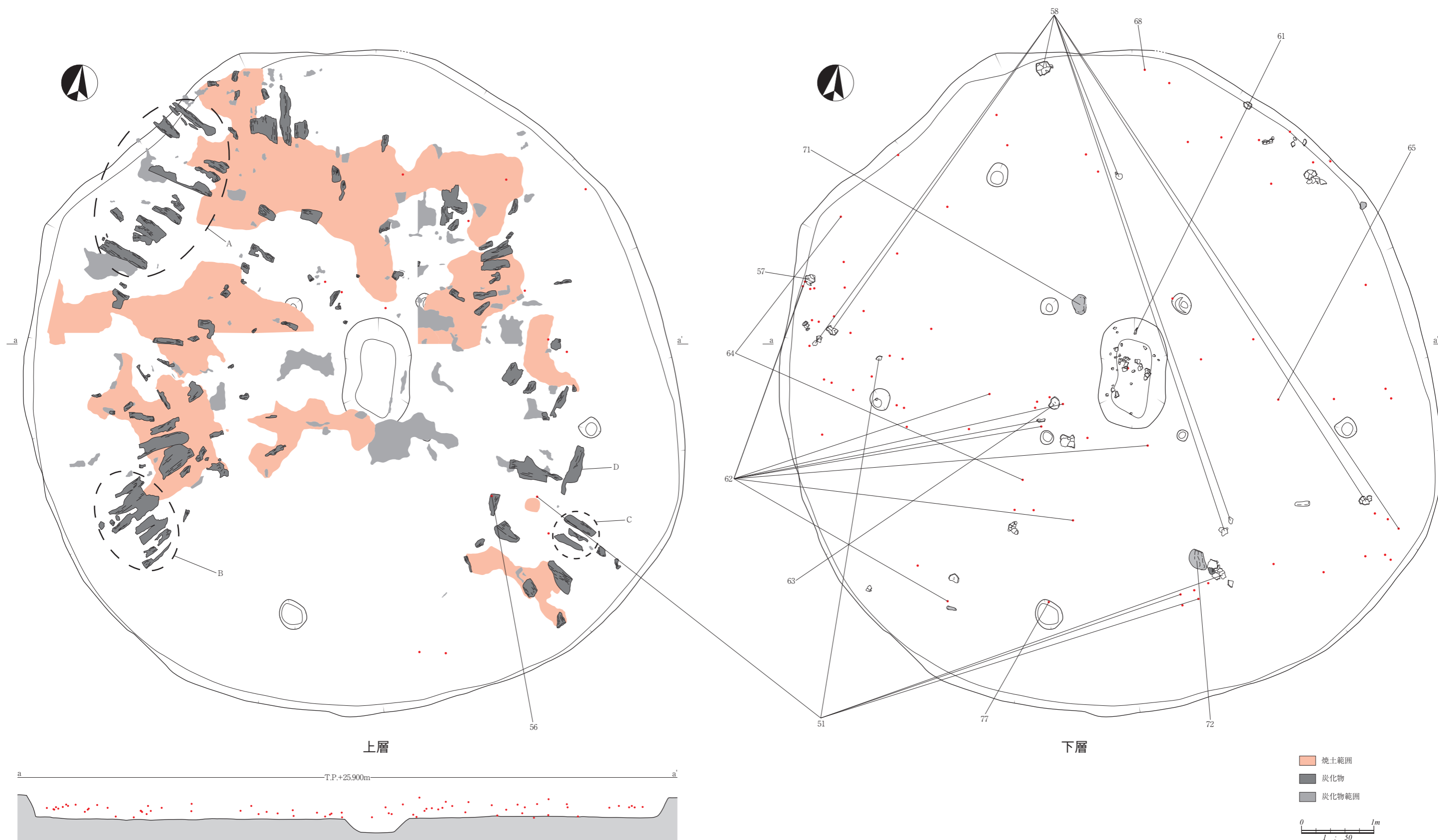


図34 S14遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)

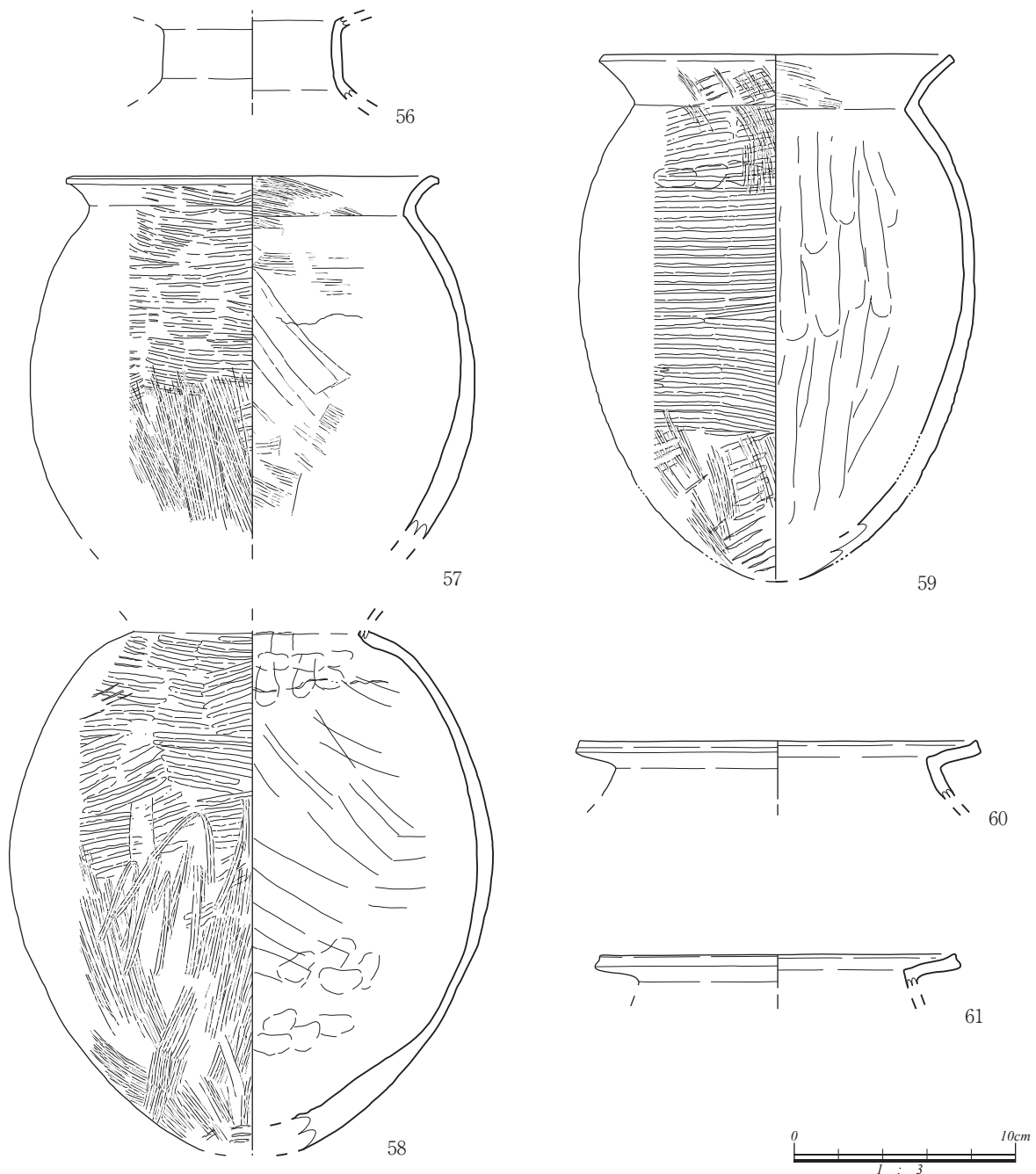


図35 SI4出土遺物(1)

遺物 49・50は甕の胴部である。50は胎土に角閃石を多く含んでいることなどから、讃岐から搬入された香東川下流域産土器と考えられる。51は壺の底部である。52～55は鉢である。52・54ではハケが施され法量差があり、53は外面指オサエ痕の残る浅い椀状、55は小型丸底鉢である。

(4) SI4(図33～38)

遺構 SI4は2区南東側にあり、検出標高は約25.62mである。大型の竪穴建物で平面形は円形、直径約9.56mであった。検出面からの深さは0.32mであった。壁溝は確認できなかった。床面はほぼ平坦である。主柱穴は8穴検出され、建物の柱構造は壁寄りに4穴の柱穴を持つものと捉えられる。土層は黒色粘質土(1層)下位に灰黄褐色粘質土(2層)が堆積しており、焼土および炭化物は2層

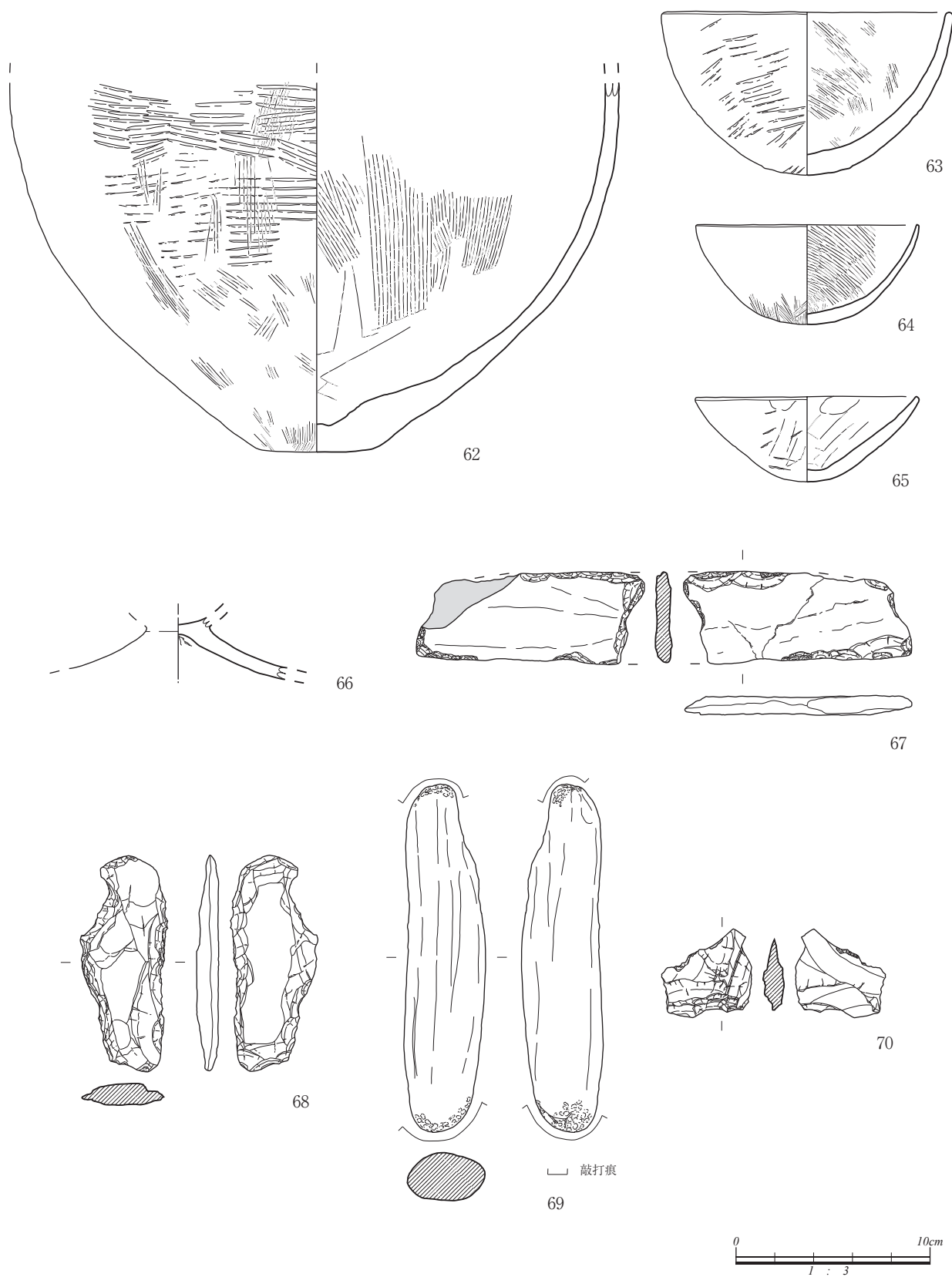


図36 SI4出土遺物(2)

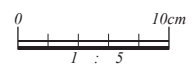
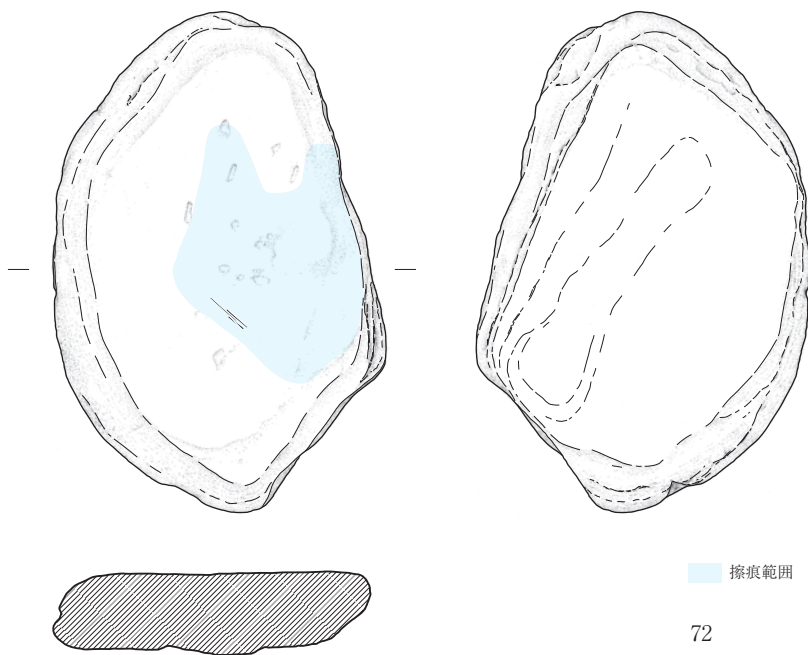
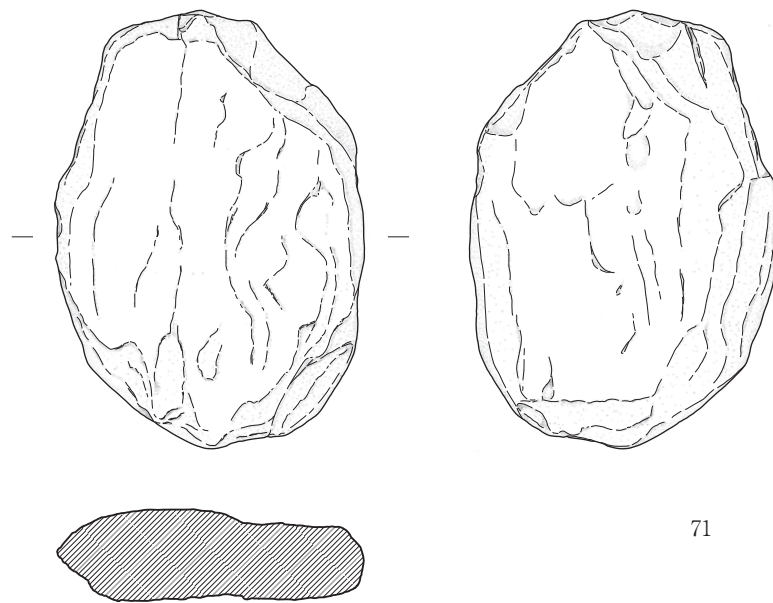


図37 S14出土遺物(3)

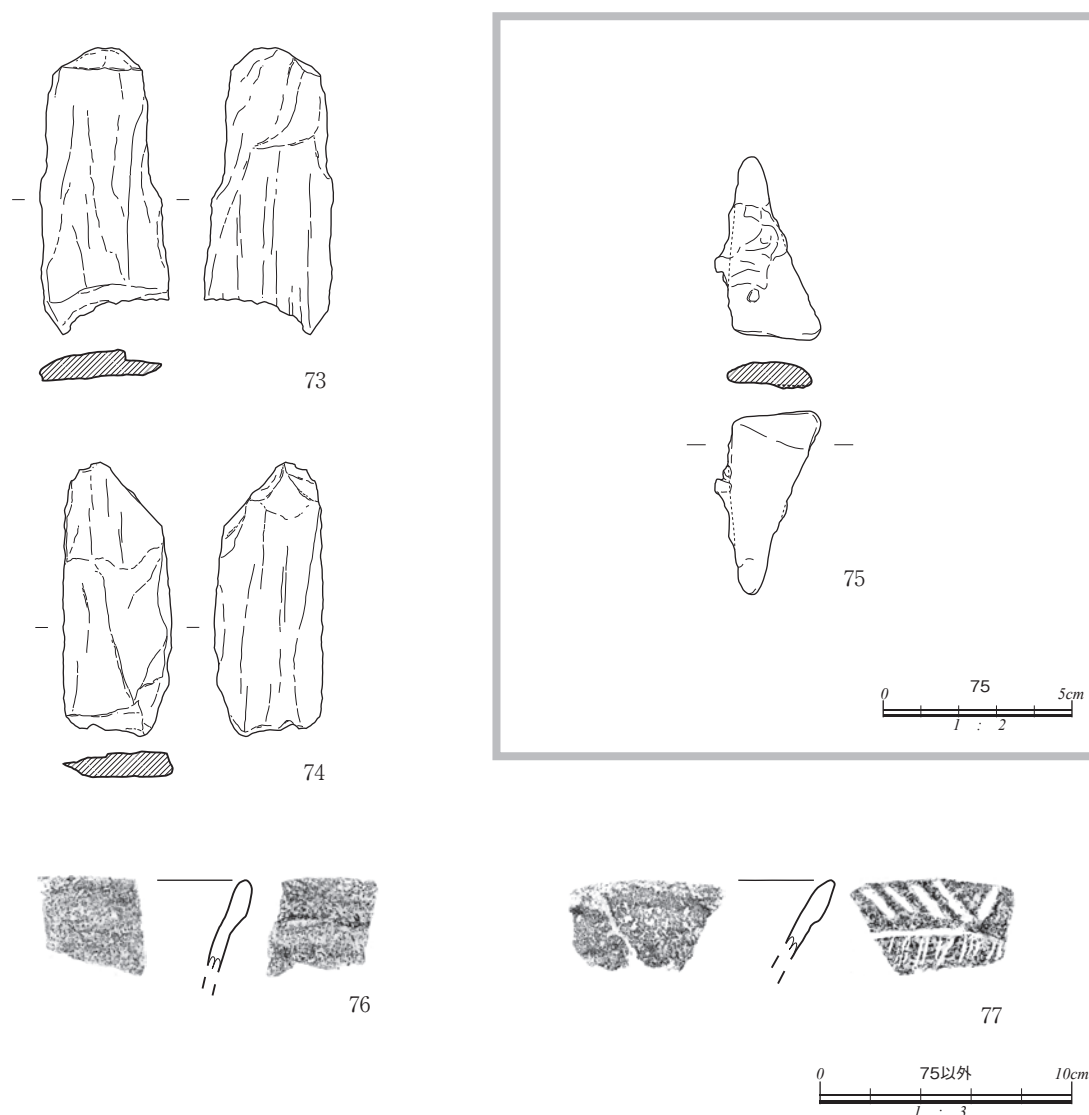
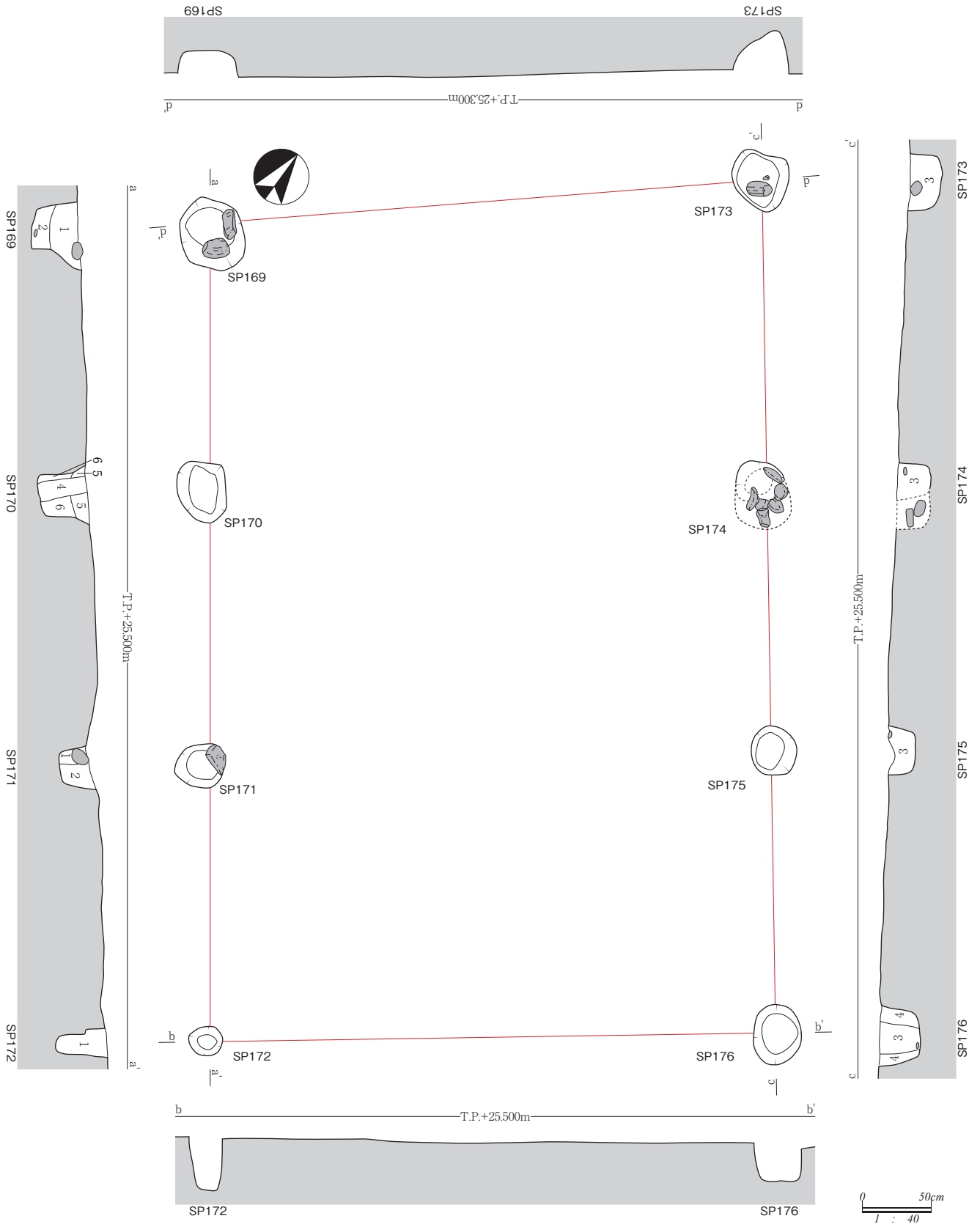


図38 SI4出土遺物(4)

上面を中心にみられた。2層でブロック状の堆積がみられたことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。建物中央部で中央土坑(SK12)を検出した。SK12下位の4層には炭化物の堆積がみられた。

建物の下層埋土を中心に多くの焼土および炭化材が出土した。炭化物は南側を除く建物ほぼ全体より検出され、焼土下より炭化物が出土する場合や両者が混在していることもあった。形状がわかる炭化材は棒状もしくは板状のものが多く、中心から放射状に向く図34-A,B,Cや直行する図34-Dが観察できた。また、図34-Aのように壁際にも炭化材が並ぶような状況が捉えられ、これらは建物の屋根材もしくは壁材を構成していたと考えられる。炭化材については、樹種同定を行った7点全てがクヌギ節であった(第6章第6節参照)。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・鉄製品が出土している。SI4の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代終末期と考えられる。近接するSI2とは約4mと近距離であり、周堤帯重複の場合もあるが両者は並存しない可能性が考えられる。

遺物 56は讃岐系の壺の頸部である。57～61は甕である。57・59は口縁部、58は胴部でタタキ後



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰黄	10YR4/2	粘質	強	細	中	… SP169,171,172
2	にぶい黄	10YR4/3	粘質	強	細	中	… SP169,171
3	黒	10YR2/3	粘質	強	細	中	… SP173,174,175,176
4	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	… SP170
5	暗	10YR3/3	粘質	強	細	中	… SP170,176
6	黒	10YR3/1	粘質	強	細	中	… SP170

図39 SB1平面図および礫出土状況

にハケ調整されている。61は讃岐系の口縁部である。62は壺または甕の底部である。63～65は鉢である。湾曲タイプや直線的に開くものがある。66は高杯の脚部で、ハの字状に大きく開く。67は緑色片岩製の石庖丁である。68は緑色片岩製のスクレイパーである。69は泥質片岩製の敲石である。両端に敲打痕がみられる。70はサヌカイト製の剥片である。71・72は台石であり、72は磨面が天地逆の状態出土している。73・74は緑色片岩の石器素材である。75は三角形状の鉄製品である。鉄鏃の可能性も検討したが、用途は不明である。76・77は縄文土器鉢の口縁部で76は縄文、77はキザミを外面に施している。

3 掘立柱建物

(1) SB1(図39)

遺構 SB1は1区南側にあり、検出標高は約25.27mである。1間×3間の側柱建物で、梁行4.08m、桁行5.9mの規模である。長軸方向はN-36.32° -Wを指向する。各柱穴は直径24～55cmの円形もしくは隅丸方形を呈し、検出面からの深さは22～39cmである。柱間は梁方向が402～408cm、桁方向が187～218cmである。土層は主体となる黒褐色のほか灰黄褐色・にぶい黄褐色粘質土がみられる。半数の柱穴より大型礫が出土しており、中にはSP174のように根固め石とみられる礫群も

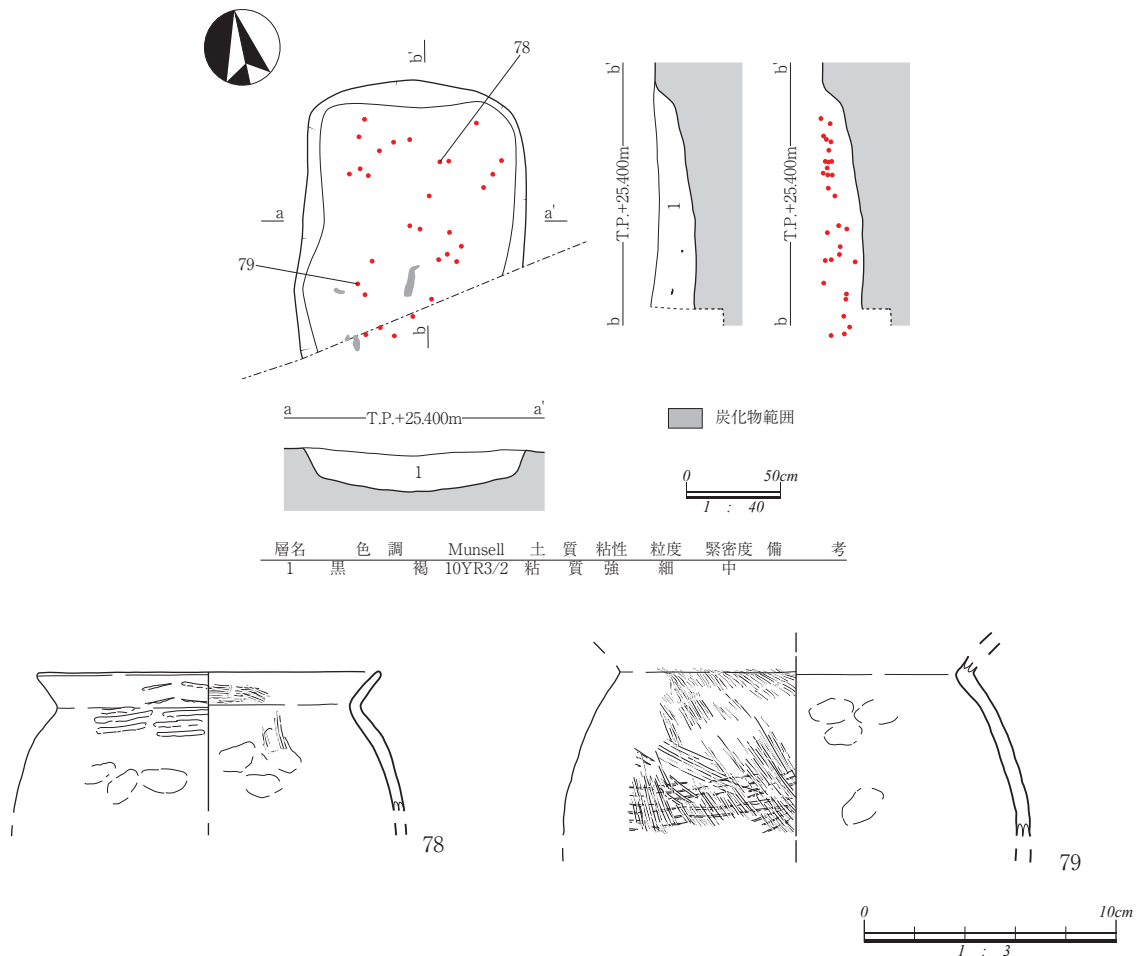


図40 SK9平断面図および遺物ドット・炭化物出土状況および出土遺物

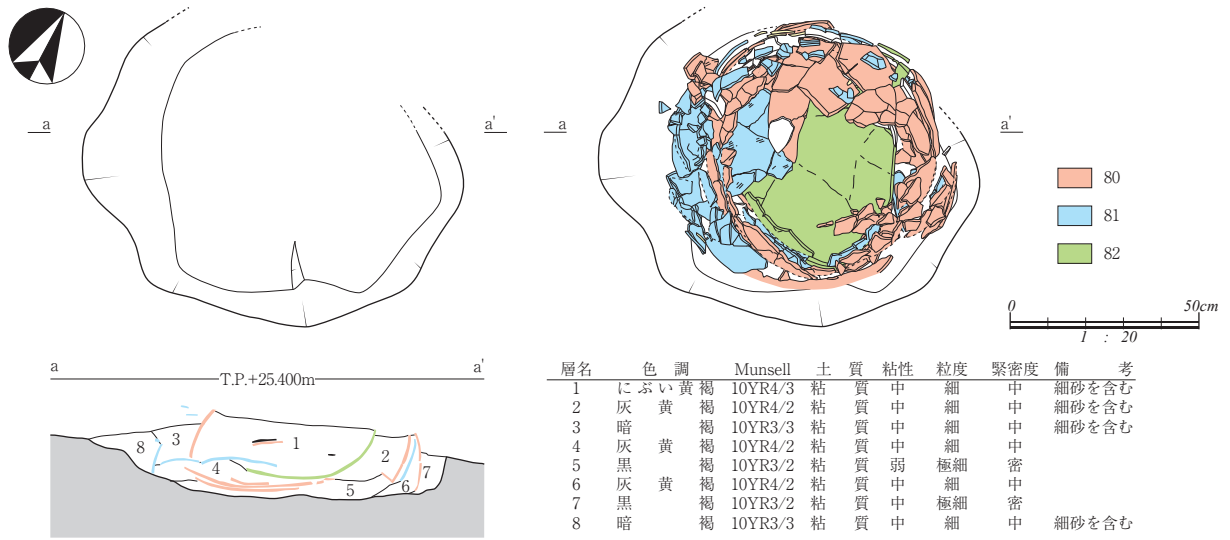


図41 ST1平断面図および遺物出土状況

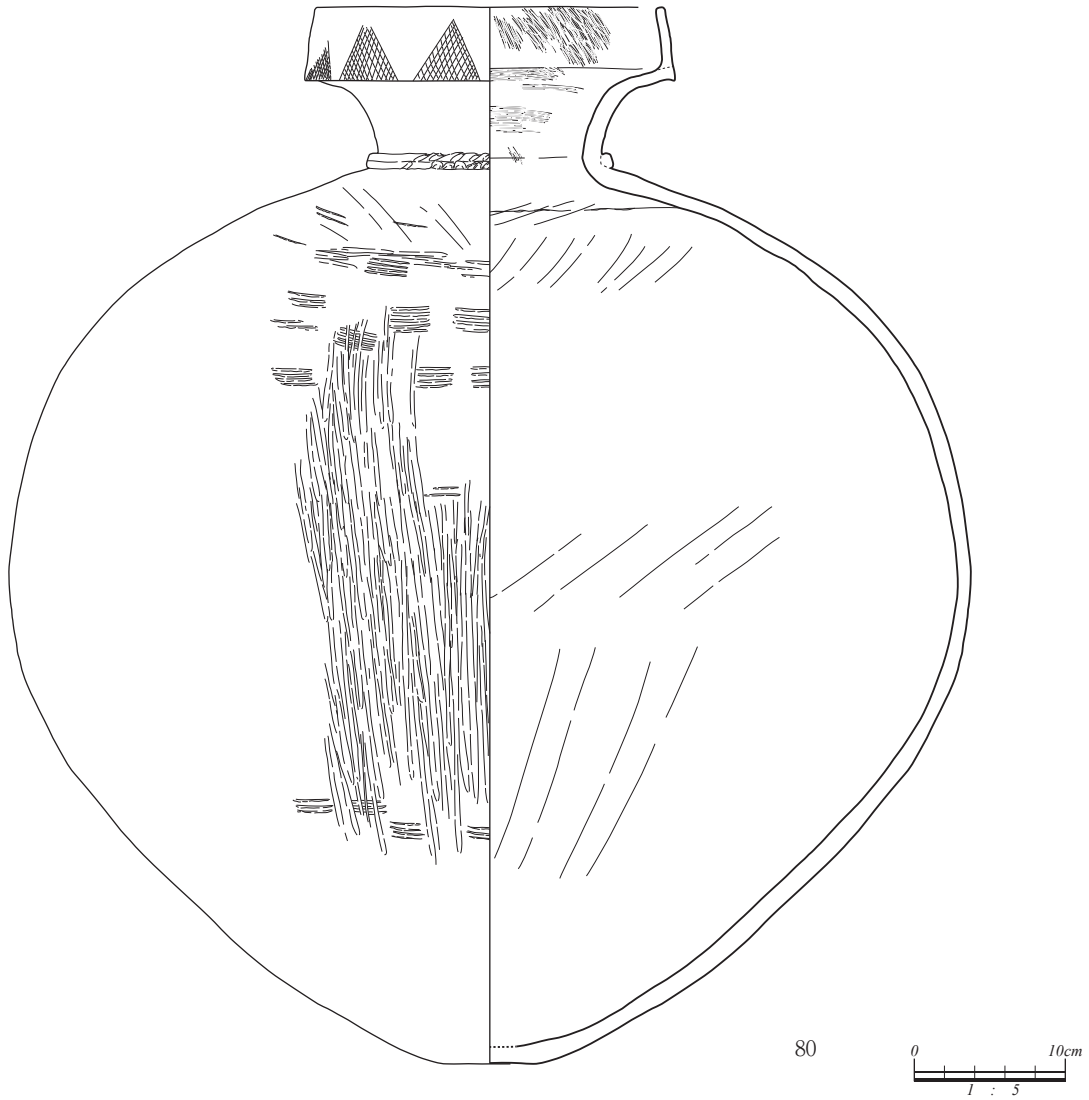


図42 ST1出土遺物(1)

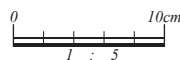
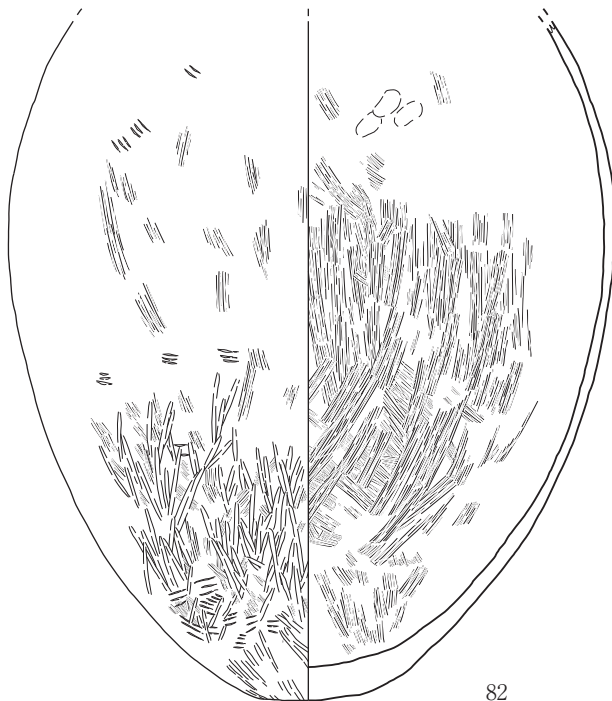
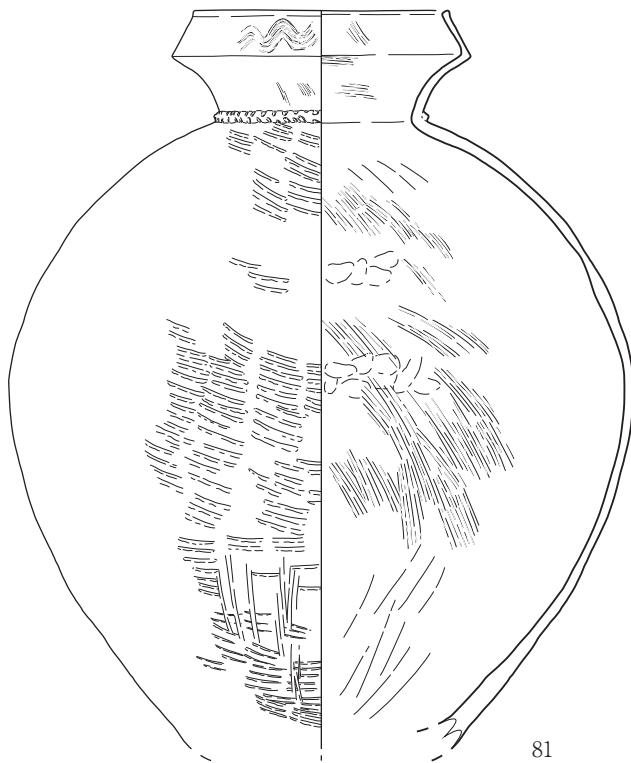


図43 ST1出土遺物(2)

あった。SP170からは図示できないが弥生土器が出土している。SB1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

4 土坑

(1) SK9(図40)

遺構 SK9は2区中央付近にあり、検出標高は約25.23mである。平面形は隅丸長方形と推定され、長軸150cm・短軸117cm・検出面からの深さは25cmであり、さらに南側へ続く。主軸はおおむねN-13.77° -Eと推定される。土層は黒褐色粘質土である。縄文土器・弥生土器が出土し、埋土中には炭化物が含まれる。SK9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。SI2に近いが両者の距離は90cmと接近しており、同時並存ではないものと考えられる。

遺物 78・79は甕で、78は口縁部、79は屈曲部である。

5 壺棺墓

(1) ST1(図41～43)

遺構 1区西端で検出した壺棺墓で掘り方は全長1.01mである。棺は上面が多少削平を受けているが、大型壺(80)および底部を欠く壺(81)、体部下半のみの壺(82)の計3個体で構成されている。構造の詳細は復元できなかったが、壺を割ったのちに入れ子状に重ねていたものと推定される。また、壺(80)の口縁部は他の部位から遊離した状態で検出されており、元位置から転落している可能性がある。棺を支え

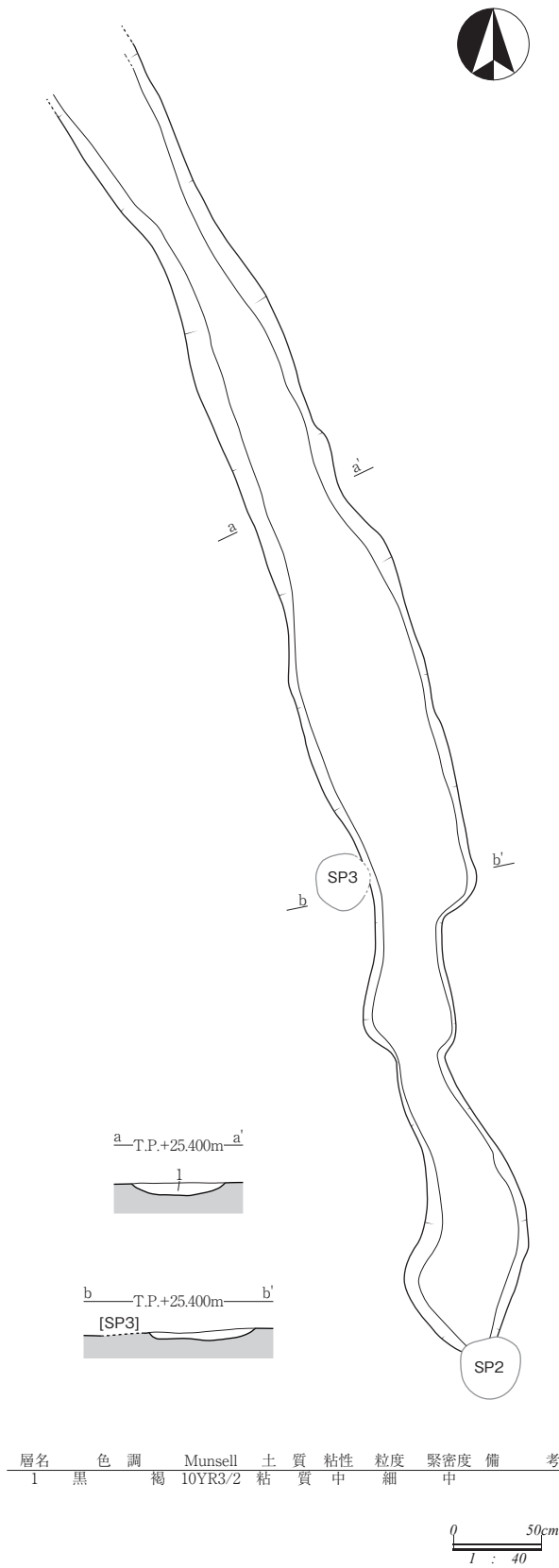


図44 SD1断面図

る石などは認められず、掘り方については基盤層と土質の明確な違いは捉えられなかった。なお、内部の土壌は持ち帰り水洗選別作業を行ったが、骨片などの埋葬を裏付ける資料は得られなかった。ST1の時期は出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。

遺物 80は大型の複合口縁壺である。口縁部に鋸歯文を施し文様内に斜線文を充填している。81は複合口縁壺である。口縁部に波状文を施し頸部に貼付突帯文が巡る。82は壺の胴部～底部である。外面はナデやタタキの後にミガキが施され、内面は全面にハケ調整が行われる。

6 溝

(1) SD1(図44)

遺構 SD1は1区中央付近にあり、検出標高は約25.2mである。重複するSP2・3よりもSD1が古い。検出長770cm・最大幅76cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-17.44° -Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(1) SD5(図45)

遺構 SD5は1区北寄りにあり、検出標高は約

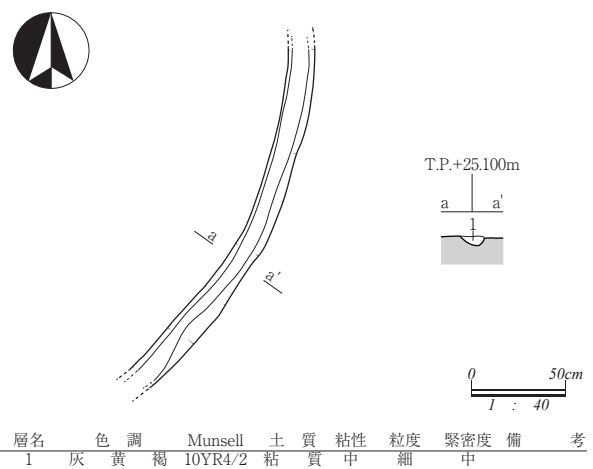


図45 SD5断面図

24.97mである。検出長197cm・最大幅13cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD5の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(2) SD10(図46)

遺構 SD10は1区北西側にあり、検出標高は25.28mである。風倒木よりもSD10が新しい。検出長750cm・最大幅100cm・検出面からの深さは最深部で40cmである。断面は不整形な半円形状である。長軸方向はN-83.36° -Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(3) SD12(図46)

遺構 SD12は1区南端部にあり、検出標高は約25.73mである。本来は1本の溝であったが、削平により深い底部付近のみが複数に分かれて残ったものと考えられる。検出長230cm・最大幅27cm・検出面からの深さは最深部14cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-78.71° -Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD12は出土遺物より、弥生時代として報告するが、埋土にオリブ褐色土を含むことから弥生時代以降の可能性がある。

(4) SD13(図46)

遺構 SD13は調査区南側で1区および2区にまたがり、検出標高は約25.0mである。検出長2,385cm・最大幅57cm・検出面からの深さは最深部で14cmである。断面形は皿状である。長軸方向は1区でN-21.46° -W、2区ではN-84.73° -Eを指向する。遺物は弥生土器が出土している。SD13の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 83は甕である。内外面ともにミガキが施される。

7 小穴

(1) SP140(図47)

遺構 SP140は1区北側にあり、検出標高は約24.79mである。直径約20cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で23cm、断面形はU字形である。土層はにぶい黄褐色粘質土で、図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP140の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(2) SP142(図47)

遺構 SP142は1区北側にあり、検出標高は約24.98mである。直径約47cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で23cmである。断面形はU字形である。土層は黒褐色粘質土で1層が柱痕の可能性はある。底部付近や埋土中より縄文土器・弥生土器・石器が出土している。SP142の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

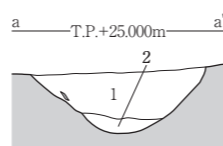
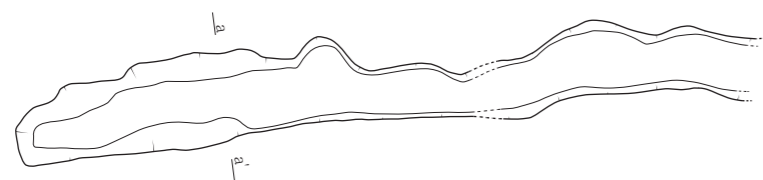
遺物 84は鉢である。外面にタタキが施される。85は泥質片岩製の石棒の可能性があり、一部が研磨されている可能性がある。

(3) SP236(図47)

遺構 SP236は2区北側にあり、検出標高は24.99mである。直径約27cmの円形を呈し、検出面か

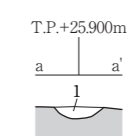
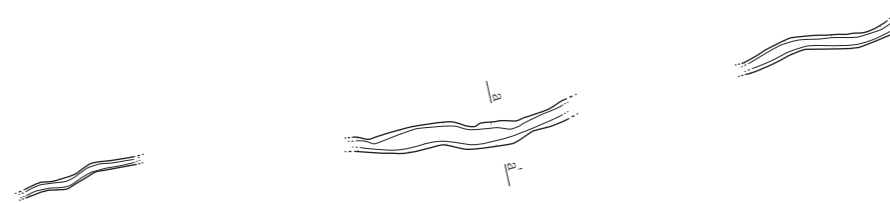


SD10



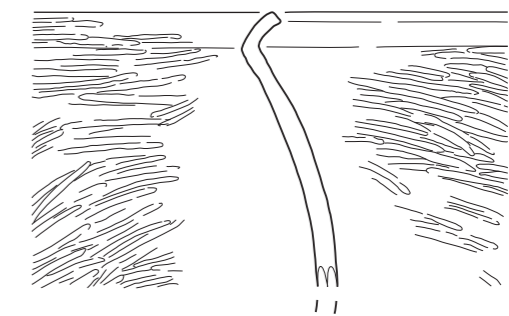
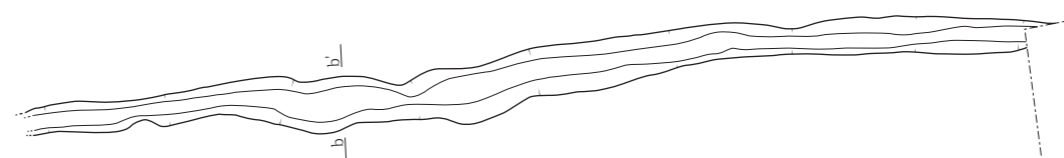
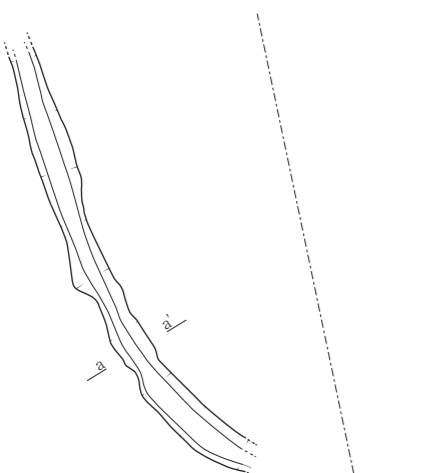
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/2	粘質	中	細	中	
2	にぶい黄褐	10YR4/3	粘質	中	細	密	

SD12

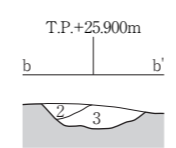
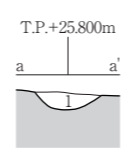
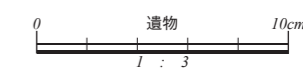


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/2	粘質	強	中	中	オリブ褐色(2.5Y4/4)砂質土ブロックを含む

SD13



83



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	2.5Y3/2	粘質	中	細	中	細砂を多量に含む
2	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	
3	暗	10YR3/4	粘質	強	細	密	黒褐色(10YR3/1)粘質土を含む

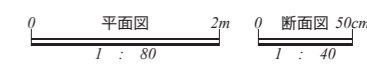


図46 SD10,12,13平断面図および出土遺物

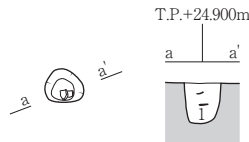
らの深さは最深部で39cmの断面形はU字形である。土層は黒褐色粘質土で上下2層に分かれる。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP236の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

8 遺構外の出土遺物(図48~50)

86~97は1区、98~109は2区より出土した。86~89は壺である。86は口縁内面に複数の貼付突帯文を施している。89は表面が摩耗しているが長い頸部をもつ。90・91は甕の口縁部である。91は口縁端部に刻みをもち上端面に文様が刻まれる。92~94は甕の底部である。95は壺または甕の底部である。外面はタタキの後ハケ、内面はハケの後ミガキが施される。96は大型鉢の口縁部、97は鉢の底部である。98・99は壺で、98は口縁部、99は口縁屈曲部とみられる。100~104は甕

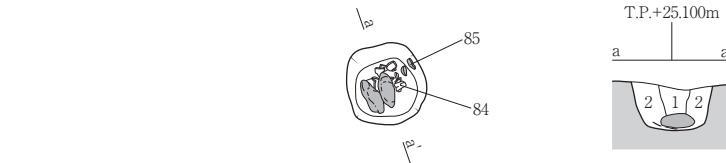


SP140

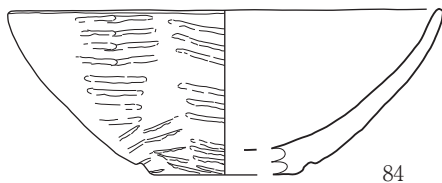


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR4/2	粘質	強	細	中	

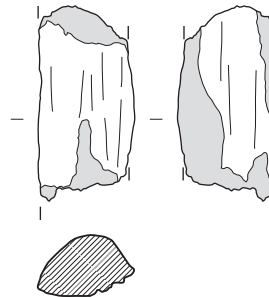
SP142



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒褐	2.5Y3/2	粘質	弱	極細	極密	1cm程のにぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土ブロックを含む
2	黒褐	10YR3/2	粘質	弱	極細	密	

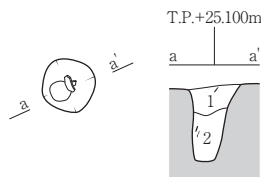


84



85

SP236



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒褐	10YR2/2	粘質	中	細	密	1~2cm程の暗褐色(10YR3/3)粘質土ブロックを含む 土器片を含む
2	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細	密	

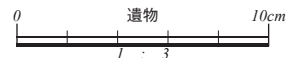
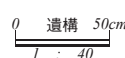


図47 SP140,142,236断面図および遺物出土状況および出土遺物

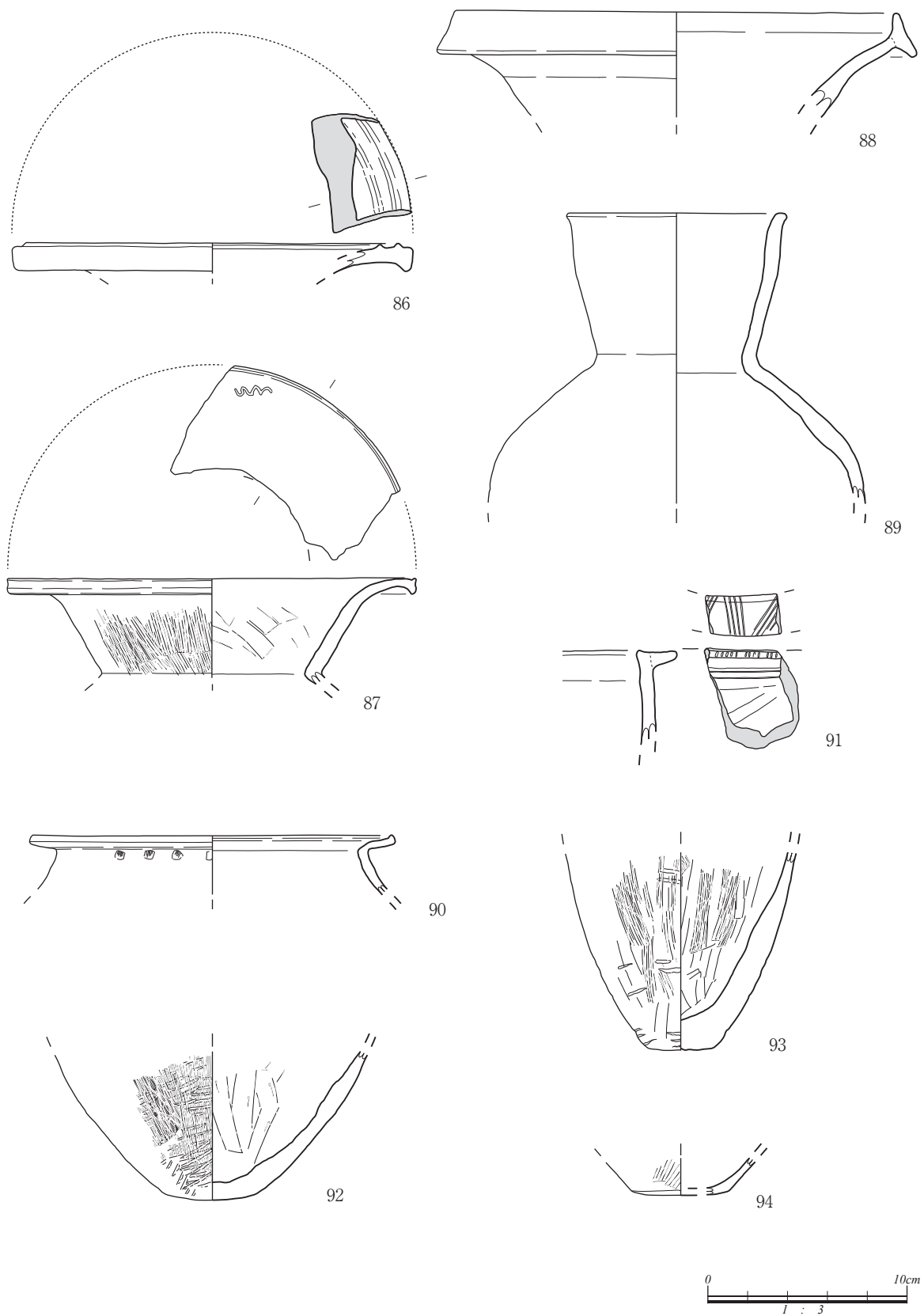


図48 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

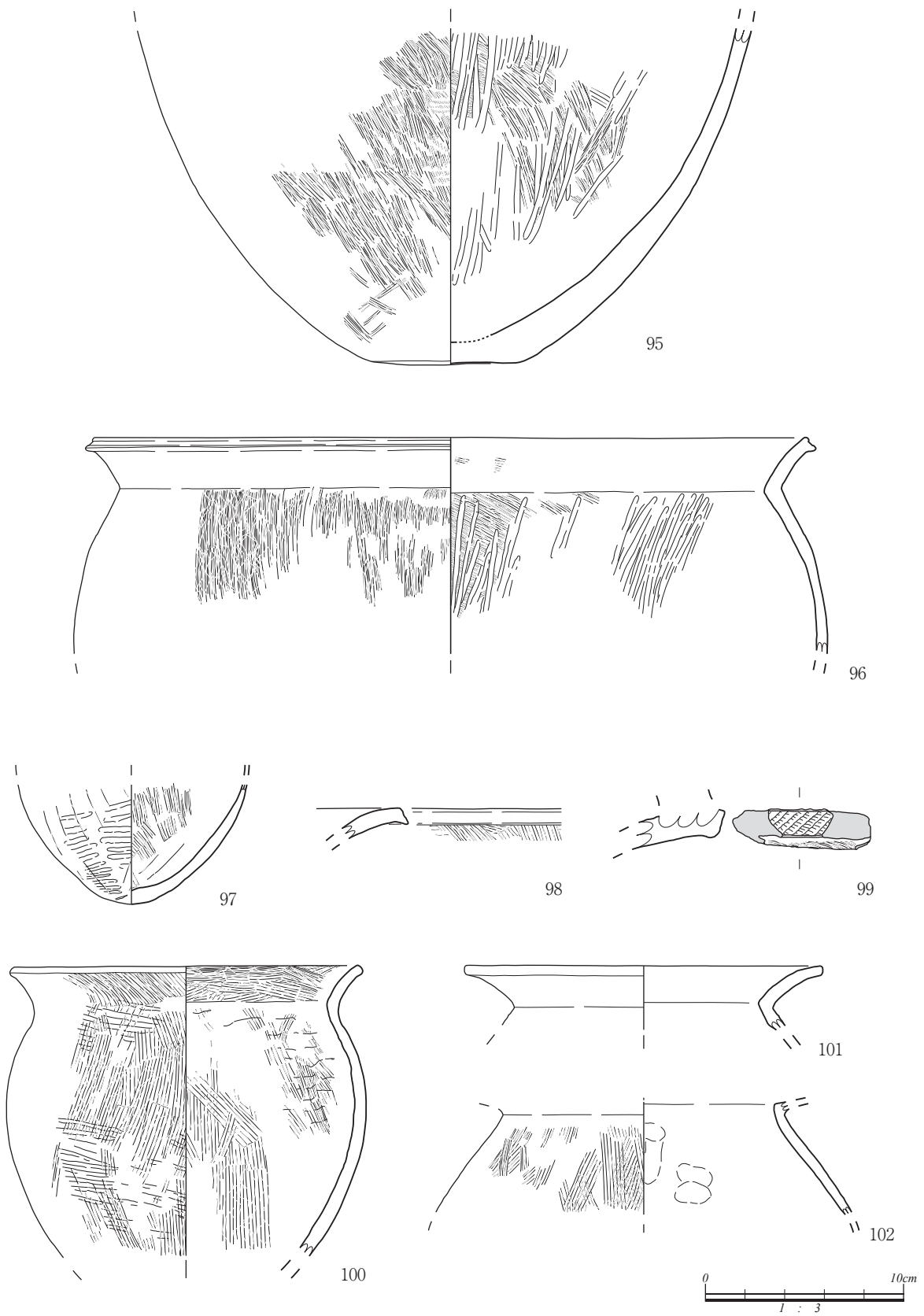


図49 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

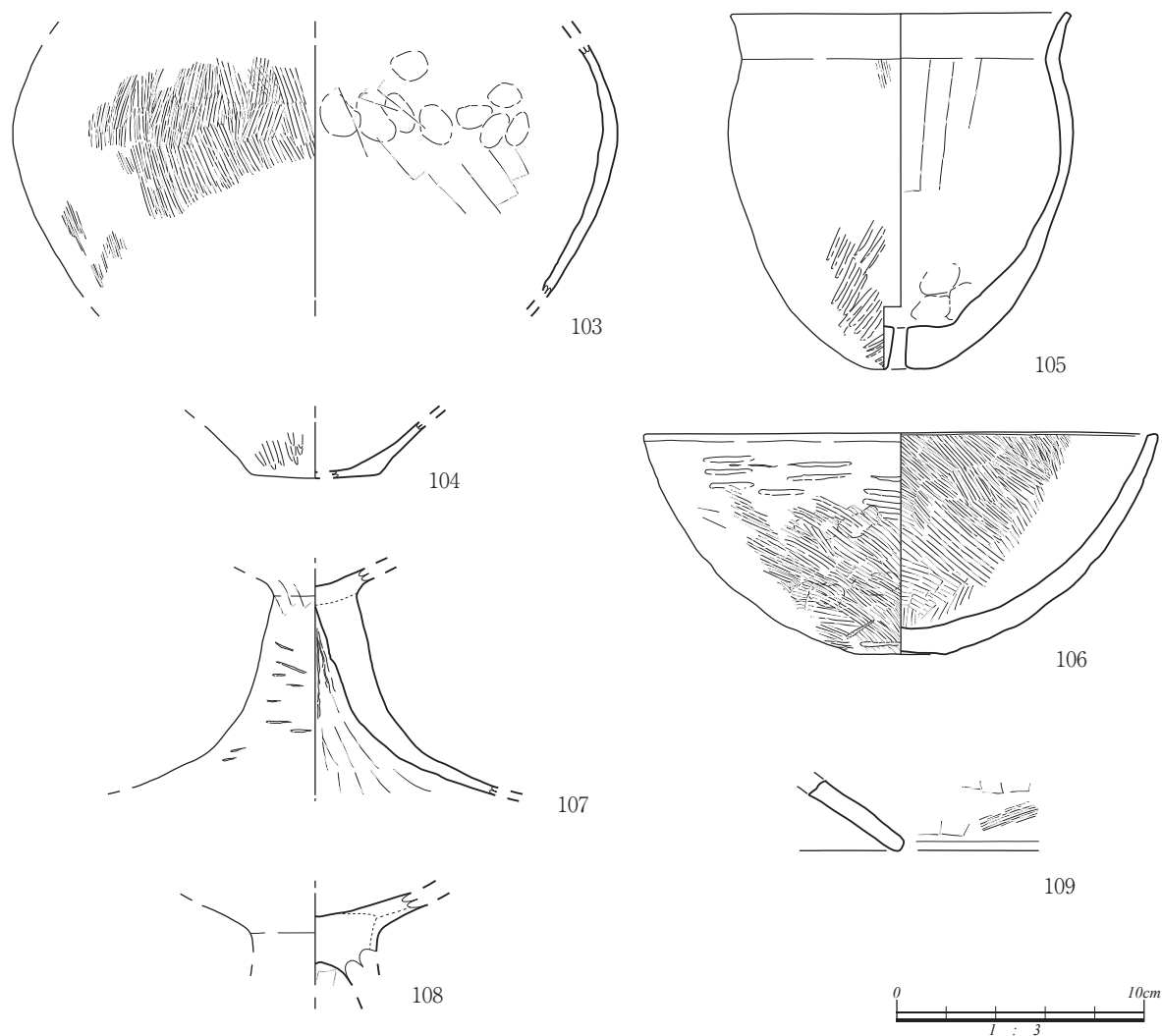


図50 包含層出土遺物(弥生時代) (3)

で、100・101は口縁部である。102～104は讃岐系であり、同一個体のものを含む可能性もある。105・106は鉢で、105は口頸部が屈曲し、底部は焼成前穿孔されている。106は湾曲気味に開く。107～109は高杯の脚部である。107・108は脚部で、109は穿孔がみられる。

第4節 中世の遺構と遺物

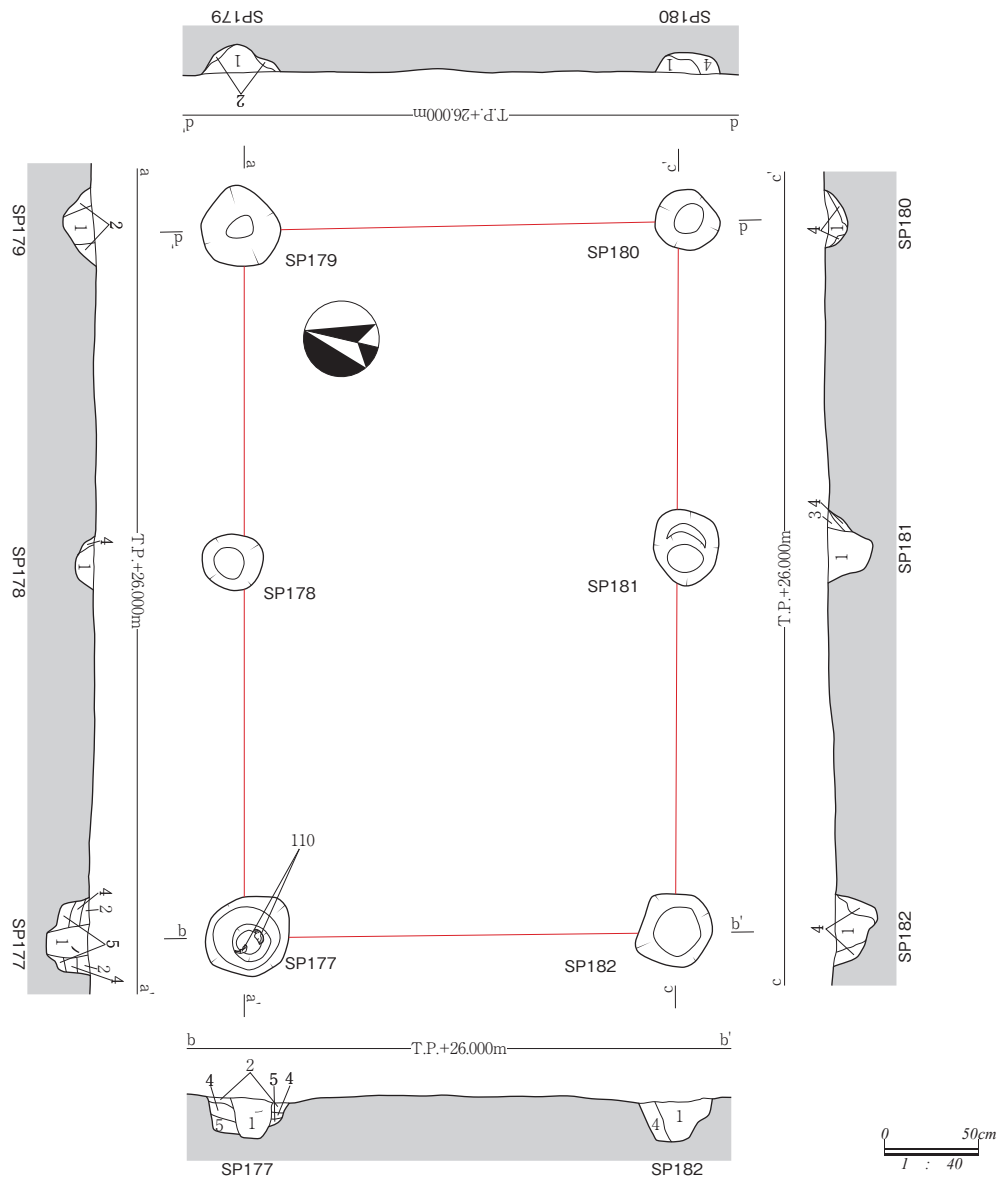
1 概要

中世の遺構は掘立柱建物1棟・土坑1基・小穴1穴である。全てIV層上面で検出している。

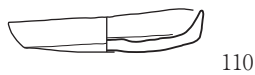
2 掘立柱建物

(1) SB2(図51)

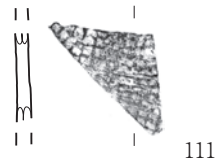
遺構 SB2は1区南側にあり、検出標高は約25.77mである。1間×2間の側柱建物で、梁行2.365m・桁行3.79mの規模である。長軸方向はN-76.76° -Eを指向する。各柱穴は直径33～49cm



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	細	中	SB2-SP5は炭化物を少量含む ... SP177,178,179,180,181,182
2	黒褐	2.5Y3/2	砂質	中	細	中	... SP177,179
3	暗オリーブ	2.5Y3/3	砂質	弱	細	疎	... SP181
4	オリーブ褐	2.5Y4/3	砂質	中	細	中	... SP177,178,180,181,182
5	黒褐	10YR3/2	砂質	中	細	密	... SP177



110



111

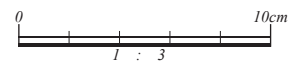


図51 SB2平面図および遺物出土状況および出土遺物

の円形を呈し、検出面からの深さは12~24cmである。柱間は梁方向が230cm、桁方向が172~204cmである。土層は暗灰黄色砂質土(1層)が柱痕と思われる。SP177出土の土師質土器皿(110)は完形の皿を割り、埋め戻し途中に入れた状況がうかがえることから柱穴祭祀関連の可能性がある。遺物は土師質土器皿・亀山焼のほか、図示できなかったがSP178・180で弥生土器、SP179・181より土師質土器が出土している。SB2の時期は検出層位と出土遺物より14世紀頃と考える。
遺物 110は土師質土器皿で、底部は回転糸切りである。111は亀山焼甕の胴部片である。

3 土坑

(1) SK5(図52)

遺構 SK5は2区中央付近にあり、検出標高は25.72mである。平面形は不整形であり、長軸102cm・短軸99cm・検出面からの深さは4cmである。軸方向はN-1.08° -Wを指向する。土層は暗灰黄色砂質土である。遺物は図示できなかったが土師質土器が出土している。SK5の時期は検出

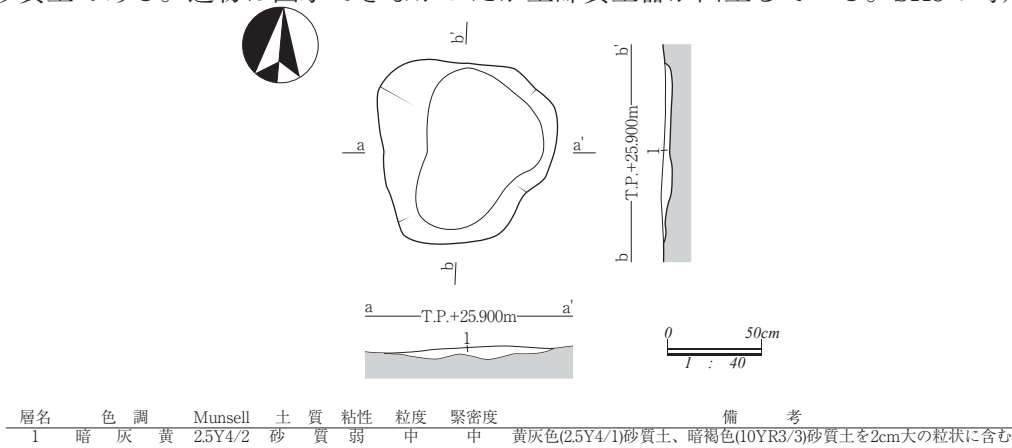


図52 SK5平断面図

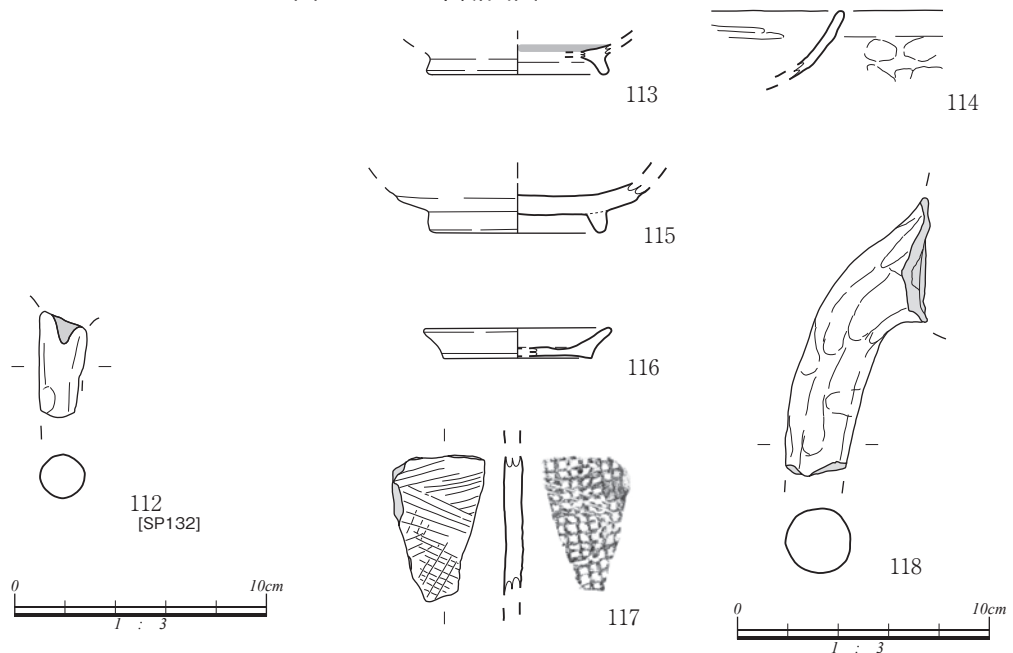


図53 その他SP出土遺物(中世)

図54 包含層出土遺物(古代~中世)

層位と出土遺物より中世と考えられる。

4 小穴の出土遺物(図53)

112はSP132より出土した土師質の小型脚部である。法量より皿に付随するものと思われる。

5 遺構外の出土遺物(図54)

113~117は1区、118は2区より出土した遺物であり、一部に古代以降のものも含む。113は内面黒色土器椀である。114は和泉型瓦器椀の口縁部で、13世紀頃と考えられる。115は土師質土器椀の底部である。116は土師質土器皿である。115・116の底部調整は不明瞭である。117は亀山焼甕の胴部片である。外面に格子叩き、内面にハケ調整がみられる。118は土釜の脚部である。

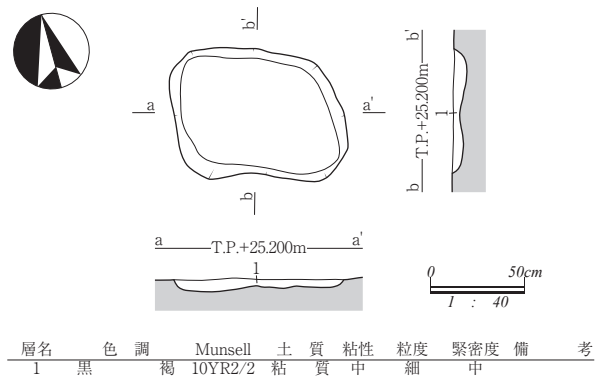
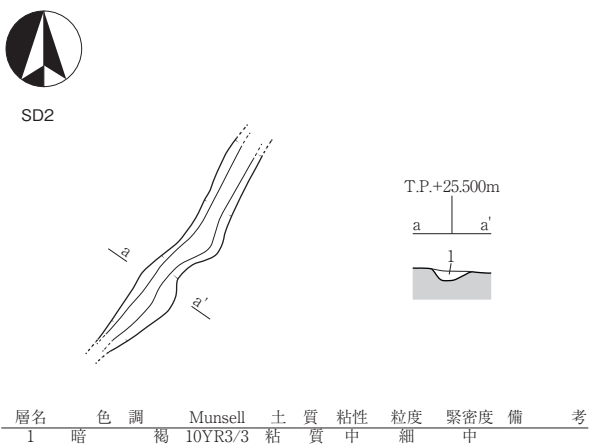


図55 SK3平断面図



第5節 時期不明の遺構

1 土坑

(1) SK3(図55)

遺構 SK3は1区中央付近にあり、検出標高は約25.03mである。平面形は隅丸方形であり、長軸90cm・短軸68cm・検出面からの深さは7cmである。軸方向はN-65.17° -Wを指向する。土層は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

2 溝

(1) SD2(図56)

遺構 SD2は1区東寄りにあり、検出標高は約25.31mである。検出長150cm・最大幅23cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-36.41° -Eを指向する。遺物は出土していない。

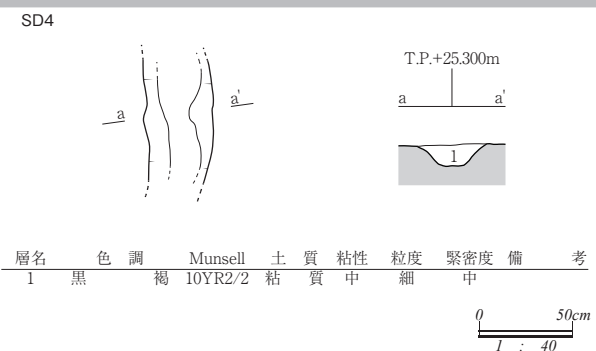
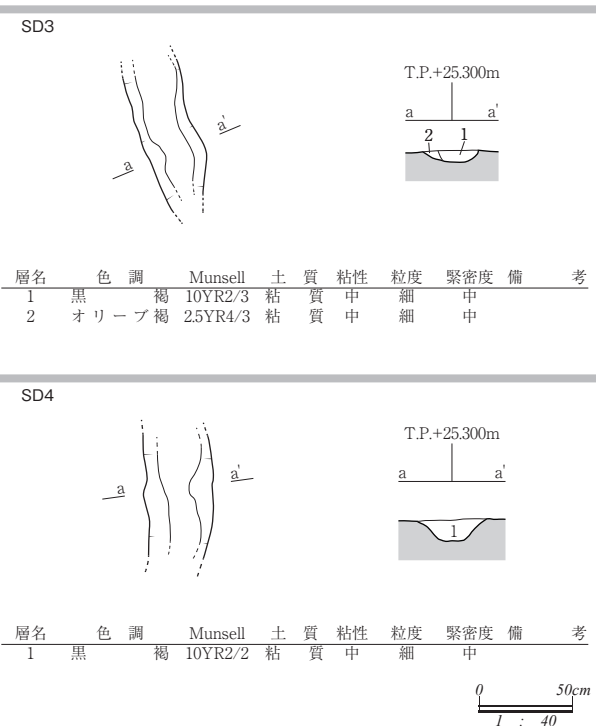


図56 SD2,3,4,平断面図

(2) SD3(図56)

遺構 SD3は1区北東寄りにあり、検出標高は約25.14mである。検出長80cm・最大幅30cm・検出面からの深さは最深部で4cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-16.22° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(3) SD4(図56)

遺構 SD4は1区北東寄りにあり、検出標高は約25.11mである。検出長60cm・最大幅47cm・検出面からの深さは最深部で13cmである。断面形は逆台形状である。軸方向はほぼ東西方向である。遺物は出土していない。

(4) SD6(図57)

遺構 SD6は1区東端にあり、検出標高は約25.4mである。検出長260cm・最大幅62cm・検出面からの深さは最深部で7cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-14.76° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(5) SD7(図57)

遺構 SD7は1区中央付近にあり、検出標高は25.05mである。SD9よりもSD7が新しい。検出長400cm・最大幅18cm・検出面からの深さは最深部で2cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。遺物は出土していない。

(6) SD8(図57)

遺構 SD8は1区中央付近にあり、検出標高は約25.09mである。検出長240cm・最大幅29cm・検出面からの深さは最深部で3cmである。断面形は皿状である。東側は風倒木と重複している。軸方向はN-80.27° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(7) SD9(図57)

遺構 SD9は1区中央付近にあり、検出標高は約25.05mである。SD7・SP77よりもSD9が古い。検出長260cm・最大幅12cm・検出面からの深さは最深部で3cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。遺物は出土していない。

(8) SD11(図57)

遺構 SD11は1区北西側にあり、検出標高は約24.87mである。検出長240cm・最大幅29cm・検出面からの深さは最深部で30cmである。断面形は皿状である。東側は風倒木と重複している。軸方向はN-78.92° -Eを指向する。遺物は出土していない。

3 小穴(図58)

遺物が出土せず時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる7穴を掲載する。なお、詳細は表3に記載し、ここでは図を掲載するにとどめる。

4 性格不明遺構

(1) SX1(図59)

遺構 SX1は2区北西端にあり、検出標高は約25.14mである。壁際での検出であり南側は風倒木

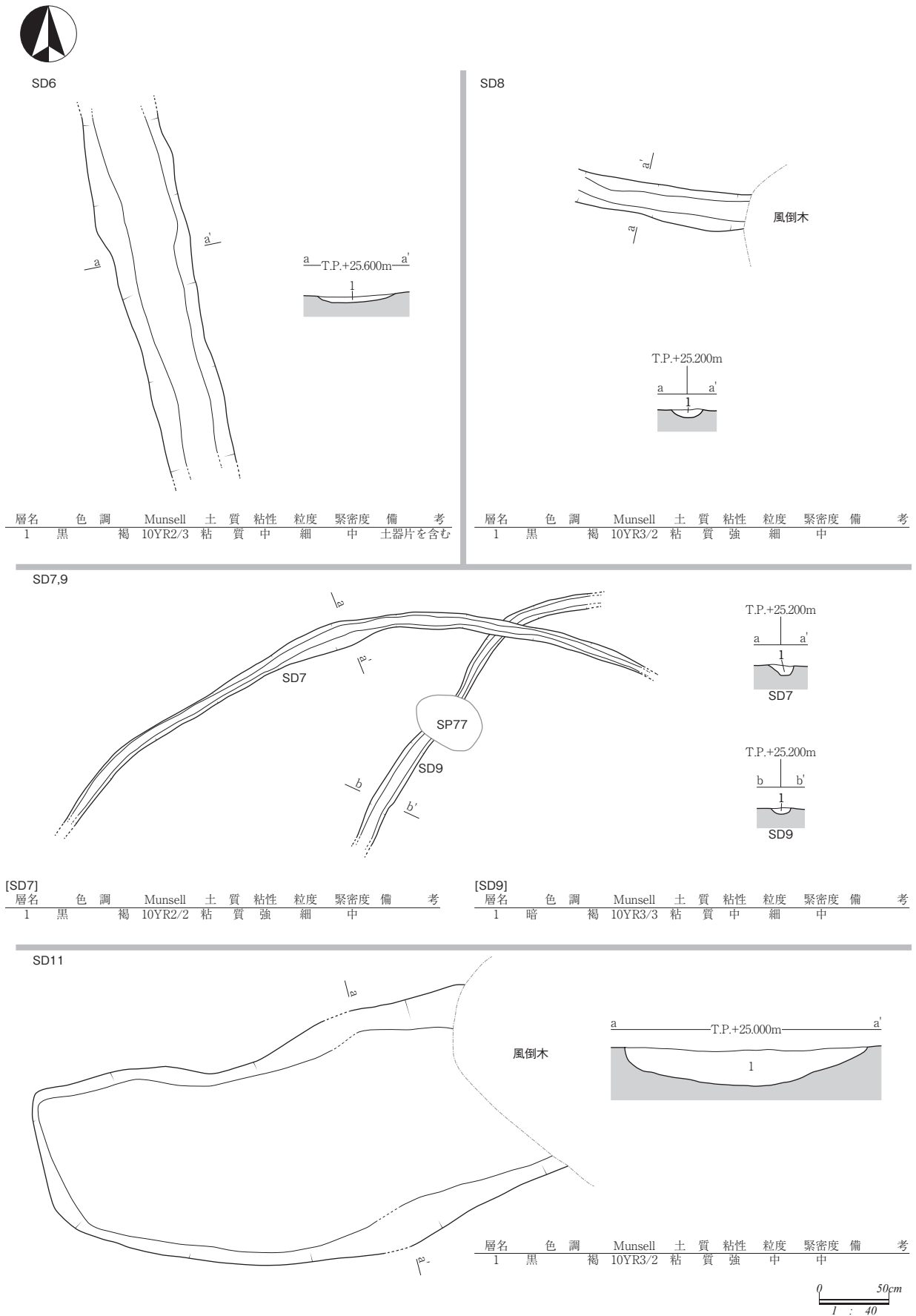
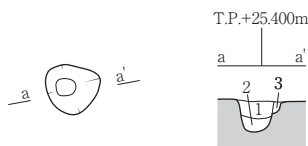


図57 SD6~9,11平面図

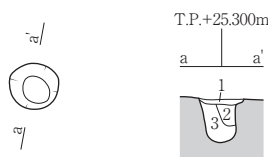


SP8



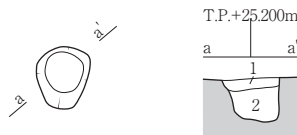
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/3	粘質	強	細	密	1cm大の礫を少量含む
2	黒褐	10YR2/2	粘質	強	極細	密	
3	黒褐	10YR3/2	粘質	中	細	密	

SP112



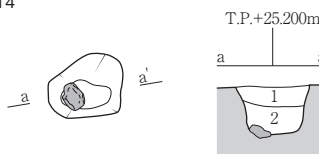
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/4	粘質	中	中	中	細砂をごくわずかに含む
2	黒褐	10YR3/2	粘質	中	細	密	
3	黒褐	10YR2/2	粘質	中	細	密	

SP113



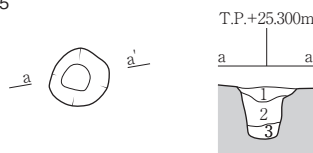
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/3	粘質	中	細	密	
2	にぶい黄褐	10YR4/3	粘質	強	細	密	

SP114



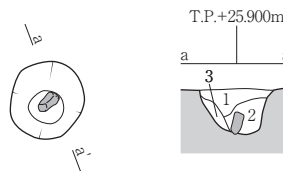
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/3	粘質	中	中	中	
2	黒褐	10YR3/2	粘質	中	細	中	

SP115



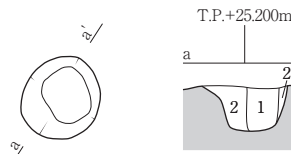
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	褐	10YR4/4	粘質	中	細かい	中	
2	にぶい黄褐	10YR4/3	粘質	中	細	中	
3	にぶい黄褐	10YR5/3	粘質	中	細	中	

SP127



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗灰褐	2.5Y4/2	砂質	弱	細	中	焼土を含む
2	暗灰褐	2.5Y5/2	砂質	弱	細	疎	
3	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細	中	

SP183



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	強	細	密	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土を含む
2	黒褐	10YR3/2	粘質	強	中	密	

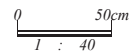


図58 SP8,112~115,127,183平断面図および遺物出土状況

と重複しており形状などは不明である。長軸157cm・短軸146cm・検出面からの深さは最深部で61cmである。断面形は逆台形状である。土層は黒褐色粘質土で遺物は出土していない。

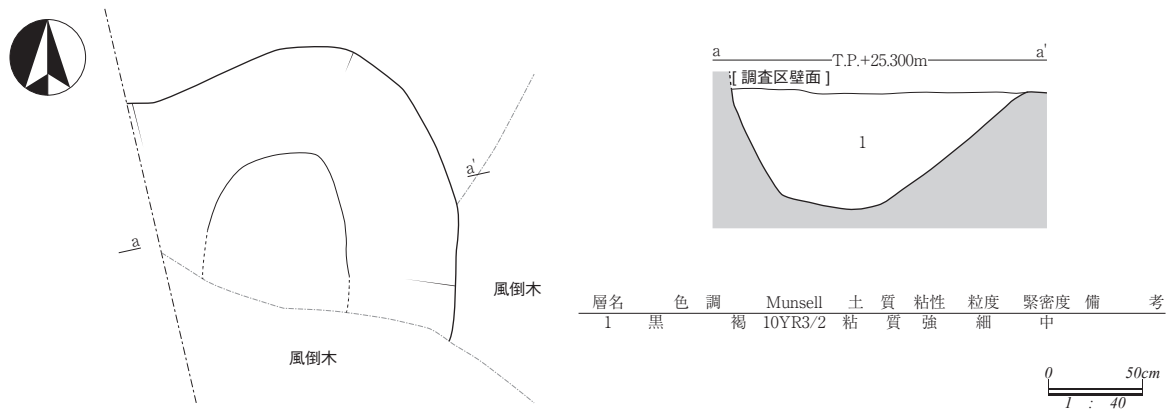


図59 SX1平断面図

第6節 時期不明の遺物(図60)

119～121は1区包含層、122は2区包含層より出土した。119は砥石で、凝灰岩の可能性はある。120・121は緑色片岩の石器素材である。122は緑色片岩製の打欠石錘である。

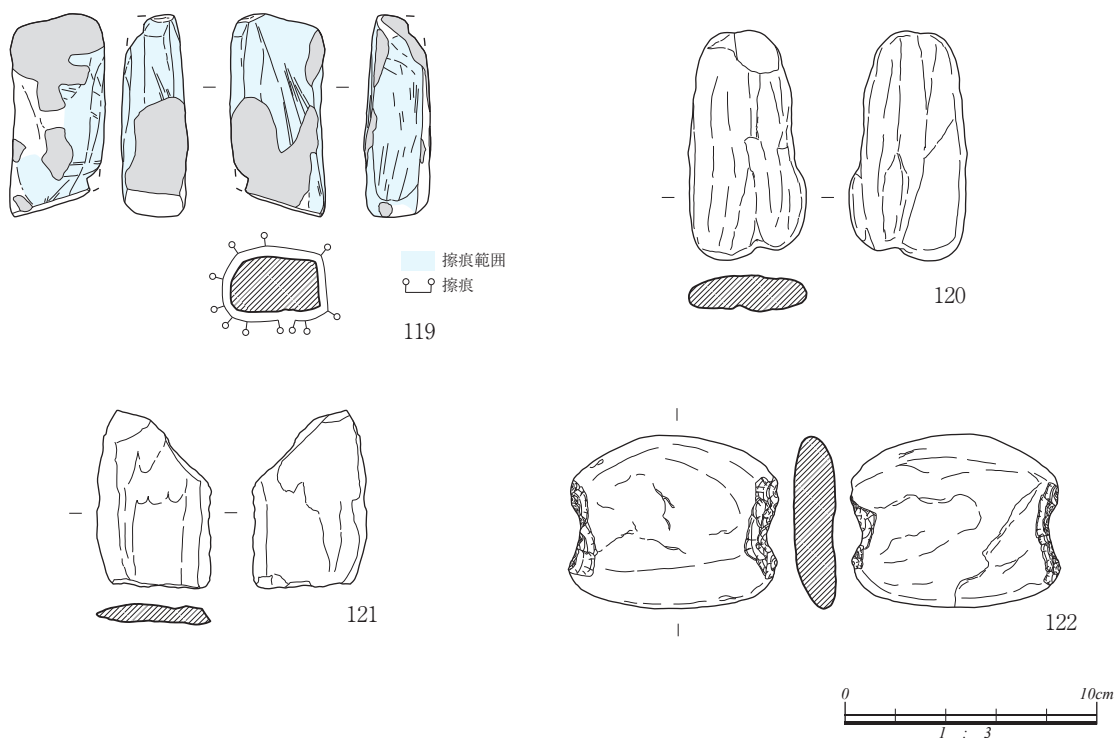


図60 包含層出土遺物(時期不明)

第7節 小結

中村田所遺跡は、縄文時代から中世の遺跡であり中心となる時期は弥生時代である。

縄文時代では土坑や小穴を検出し、縄文土器や石器が出土した。縄文土器はほとんどが細片であり詳細は不明確であるが、肥厚する口縁部付近に直線的な沈線文主体の文様帯が集中し一部に磨消縄文が見られることや、粗製土器が多い中で浅鉢では精製土器の比率が高い状況から、おおむね後期前葉頃を中心とする縁帯文土器と考えられる(山崎2003)。底部は少ないが、高台状が多い。

土坑はいずれも中央付近に土器を含む礫の集積が確認された。弥生時代の竪穴建物にも縄文土器が含まれるが、混入したものと考えられる。後世の削平も考慮する必要があるが、包含層を含めた遺物の出土状況からは調査区北半に偏る傾向がうかがえ、遺構はさらに北方向に続く可能性が高い。

弥生時代では竪穴建物群や土坑・溝・小穴を検出しており、当遺跡は集落域と考えられる。集落の主な時期は弥生時代終末期(伊予東部地域VI-1～2様式)であるとみられる(柴田2000a)。調査区西端部で壺棺墓を検出しており、試掘調査によると図3の通り地形は調査区西方へ落ち込むことから、集落の西端部を捉えている可能性があり、集落は主に北方向へ続くものと思われる。

検出された竪穴建物4棟のうち東側の3棟は埋土に焼土や炭化材を多く含んでいることから焼失建物と考えられる。柱穴内に柱が残置されたような明確な痕跡は認められず、SI2の柱穴には建物の堆積と類似する焼土や炭化物を含む堆積が見られたこと、SI4では地山ブロックを含む堆積が認められたことから、居住時の失火ではなく建物の廃棄に伴い、焼却され埋め戻された可能性が考えられる。

掘立柱建物は1区で1棟確認できたが、深い柱穴を含む1区北方に建物域が展開している可能性が考えられる。

SD13からは弥生時代中期中葉の甕(83)が出土し、1区南側からは中期の壺(86)が見つかったことから、周辺には終末期以外の弥生時代集落も存在する可能性がある。

中世では14世紀頃と考えられる掘立柱建物が1棟出土し、柱穴祭祀関連とみられる事例が見られた。明確な遺構は確認できなかったものの、遺構外より内面黒色土器碗や瓦器碗が出土しており周辺には13世紀頃の集落が想定される。遺構や遺物の分布より、中世集落は主に南方へ続くものと考えられる。

また、遺跡の形成以前に堆積した火山灰層が2区東壁で検出され、理化学分析からは鬼界アカホヤ火山灰由来のテフラ粒子を多く含むことが指摘されている(第6章第3節参照)。同火山灰は新居浜地域であり確認されておらず、当地における貴重な事例となる¹⁾。

表2 主要遺構一覧

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

種別	遺構名	平面形	長さ	幅	深さ	重複関係	掲載遺物	図	図版
竪穴建物	SI1	円	478.0	458.0	7.0 ~ 19.0		23 ~ 28	23	8
	SI2	方	856.0	812.0	49.0		29 ~ 48	25,26	9 ~ 11
	SI3	方	300.0	298.0	10.0 ~ 14.0		49 ~ 55	31	12
	SI4	円	956.0	908.0	24.0 ~ 32.0	→ SP226	56 ~ 60, 62 ~ 77	33,34	13 ~ 15
掘立柱建物	SB1	長方	590.0	408.0	22.0 ~ 39.0			39	16
	SB2	長方	379.0	236.5	12.0 ~ 24.0		110,111	51	17
土坑	SK1	円	152.0	146.0	52.0		1	17	18
	SK2					欠番			
	SK3	隅丸方	90.0	68.0	7.0			55	20
	SK4					欠番			
	SK5	不整	102.0	99.0	4.0			52	20
	SK6	楕円	140.0	80.0	17.0		22	23	
	SK7	円	110.0	97.0	17.0		2	18	19
	SK8	不整形	[108.0]	[90.0]	21.0		3 ~ 6	19	19
	SK9	隅丸方	[150.0]	117.0	25.0		78,79	40	20
	SK10	楕円	96.0	78.0	42.0			25,26	11
	SK11	楕円	73.0	53.0	22.0			31	
	SK12	楕円	156.0	86.0	19.0		61	33,34	15
土壇墓溝	ST1	円	101.0	78.0	22.0		80 ~ 82	41	21
	SD1	直線	770.0	76.0	5.0	← SP2,3		44	22
	SD2	直線	150.0	14.0 ~ 23.0	6.0			56	22
	SD3	直線	80.0	27.0 ~ 30.0	4.0			56	
	SD4	直線	60.0	47.0	13.0			56	
	SD5	弧状	197.0	14.0 ~ 17.0	3.0			45	22
	SD6	直線	260.0	46.0 ~ 62.0	7.0			57	22
	SD7	弧状	400.0	8.0 ~ 18.0	2.0	→ SD9		57	22
	SD8	直線	240.0	22.0 ~ 29.0	3.0	← 風倒木		57	22,23
	SD9	弧状	260.0	8.0 ~ 12.0	3.0	← SD7 · SP77		57	22
	SD10	直線	750.0	100.0	40.0	→ 風倒木		46	22,23
	SD11	直線	330.0	170.0	30.0	← 風倒木		57	22,23
	SD12	直線	230.0	27.0	14.0			46	22,23
	SD13	弧状	2385.0	26.0 ~ 57.0	14.0		83	46	22,23
	SD14	弧状	450.0	11.0 ~ 27.0	3.0 ~ 16.0			23	
SD15	方	540.0	9.0 ~ 21.0	3.0			31		
性格不明	SX1	不整	[184.0]	[126.0]	63.0	← 風倒木		59	24

《主要遺構一覧》

表3 柱穴一覧

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

(1/5)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP1	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	36.0	36.0	6.0				
SP2	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	38.0	36.0	16.0	→SD1			
SP3	円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	粘質	弱	中	中	30.0	30.0	12.0	→SD1			
SP4	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	28.0	14.0	→SP11			
SP5	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	46.0	31.0	10.0		土器を含む		
SP6	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	22.0	6.0				
SP7	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	14.0		土器を含む		
SP8	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	28.0	26.0	16.0		1cm大の礫を少量含む	58	23
SP9	楕円	黒褐(10YR3/2)	砂質	中	細	中	40.0	23.0	8.0				
SP10	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	砂質	中	細	中	48.0	42.0	5.0				
SP11	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	20.0	10.0	←SP4			
SP12	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	21.0	16.0	15.0				
SP13	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	27.0	22.0	6.0				
SP14	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	27.0	24.0	33.0				
SP15	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	50.0	30.0	12.0				
SP16	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	12.0				
SP17	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	極細	中	29.0	26.0	12.0				
SP18	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	9.0				
SP19	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	25.0	19.0				
SP20	不整	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	33.0	27.0	8.0				
SP21	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	極細	中	37.0	37.0	10.0				
SP22	楕円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	55.0	37.0	7.0				
SP23	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	57.0	43.0	22.0				
SP24	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	26.0	26.0				
SP25	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	21.0				
SP26	不整	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	50.0	44.0	10.0				
SP27	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	45.0	37.0	20.0				
SP28	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	43.0	39.0	10.0				
SP29	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	70.0	54.0	23.0		土器を含む		
SP30	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	17.0				
SP31	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	28.0	16.0		土器を含む		
SP32	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	42.0	26.0	12.0				
SP33	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	32.0	31.0	19.0				
SP34	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	43.0	30.0	14.0				
SP35	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	35.0	25.0	20.0				
SP36	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	14.0				
SP37	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	30.0	26.0	32.0				
SP38	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	17.0	17.0	19.0				
SP39	楕円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	39.0	21.0	5.0				
SP40	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	42.0	25.0	13.0				
SP41	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	26.0	17.0				
SP42	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	16.0	16.0				
SP43	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	極細	中	31.0	27.0	14.0				
SP44	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	69.0	40.0	26.0		根攪乱?		
SP45	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	28.0	4.0				
SP46	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	19.0				
SP47	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	40.0	28.0	6.0				
SP48	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	17.0				
SP49	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	28.0	27.0	17.0				
SP50	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	42.0	34.0	8.0				
SP51	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	25.0	12.0				
SP52	方	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	42.0	40.0	5.0				
SP53	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	57.0	33.0	8.0				
SP54	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	26.0	10.0				
SP55	円?	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	68.0	[36.0]	10.0	→SP100			
SP56	不整	黒褐(10YR3/1)	粘質	中	細	中	33.0	24.0	9.0				
SP57	楕円	黒褐(10YR3/1)	粘質	中	細	中	25.0	18.0	12.0				
SP58	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	33.0	23.0	10.0				
SP59	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	10.0				
SP60	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	12.0				
SP61	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	[24.0]	25.0	6.0				
SP62	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	21.0	14.0		根攪乱?		

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (2/5)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP63	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	31.0	20.0				
SP64	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	74.0	62.0	11.0		土器、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP65	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	77.0	69.0	7.0				
SP66	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	18.0	16.0	10.0				
SP67	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	中	22.0	18.0	8.0				
SP68	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	9.0				
SP69	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	25.0				
SP70	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	17.0				
SP71	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	53.0	39.0	13.0				
SP72	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	46.0	41.0	13.0				
SP73	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	52.0	35.0	18.0		土器を含む		
SP74	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	18.0	13.0		土器を含む		
SP75	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	38.0	38.0	14.0				
SP76	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	33.0	20.0				
SP77	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	50.0	37.0	9.0	→SD9			
SP78	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	17.0	12.0				
SP79	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	24.0	21.0	26.0				
SP80	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	25.0	22.0	14.0				
SP81	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	32.0	9.0				
SP82	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	26.0	11.0				
SP83	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	21.0	21.0	11.0				
SP84	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	26.0	12.0				
SP85	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	29.0	13.0				
SP86	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	25.0	7.0				
SP87	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	中	中	41.0	38.0	16.0				
SP88	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	16.0	16.0				
SP89	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	78.0	72.0	18.0				
SP90	橢円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	41.0	30.0	8.0				
SP91	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	12.0				
SP92	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	24.0	20.0	13.0	→風倒木			
SP93	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	23.0	11.0				
SP94	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	32.0	25.0				
SP95	橢円?	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[63.0]	[50.0]	22.0				
SP96	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	24.0				
SP97	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	20.0	10.0				
SP98	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	21.0	24.0				
SP99	円	黒褐(10YR3/1)	粘質	強	細	中	40.0	37.0	9.0				
SP100	橢円?	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	[40.0]	40.0	8.0	←SP55			
SP101	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	53.0	42.0	12.0				
SP102	方?	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[30.0]	[11.0]	12.0				
SP103	円	黒褐(10YR3/2)	砂質	強	細	密	41.0	36.0	8.0				
SP104	橢円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	25.0	16.0				
SP105	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	34.0	29.0	12.0				
SP106	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	33.0	10.0				
SP107	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	密	35.0	30.0	27.0				
SP108	橢円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	45.0	28.0	7.0				
SP109	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	35.0	10.0				
SP110	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	22.0	8.0				
SP111	橢円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	中	57.0	35.0	10.0				
SP112	円	暗褐(10YR3/4)	粘質	中	中	中	26.0	25.0	23.0		細砂をごくわずかに含む	58	23
SP113	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	27.0	30.0			58	24
SP114	橢円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	中	42.0	35.0	18.0			58	
SP115	円	褐(10YR4/4)	粘質	中	細	中	33.0	30.0	28.0			58	
SP116	橢円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	50.0	40.0	19.0				
SP117	橢円	黒褐(10YR3/2)	砂質	強	細	中	66.0	55.0	19.0	→風倒木			
SP118	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	中	中	中	32.0	30.0	12.0		炭化物をわずかに含む		
SP119	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	中	中	35.0	30.0	10.0		土器を含む		
SP120	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	29.0	27.0	22.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (3/5)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP121	楕円	黄灰(2.5Y4/1)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	10.0		土器、細砂を少量含む		
SP122	円	黄灰(2.5Y4/1)	砂質	弱	細	中	24.0	20.0	8.0				
SP123	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	84.0	61.0	19.0		黄褐色(2.5Y5/4)砂質土をわずかに含む		
SP124	楕円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	22.0	16.0	9.0				
SP125	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	28.0	25.0	15.0				
SP126	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	28.0	10.0				
SP127	円	暗灰黄2.5Y4/2	砂質	弱	細	中	40.0	38.0	23.0		土器、焼土を含む	58	
SP128	円	オリーブ褐(2.5Y4/3)	粘質	弱	細	中	26.0	20.0	20.0		土器を含む。炭化物をわずかに含む		
SP129	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	28.0	28.0	17.0				
SP130	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	20.0	19.0	11.0		焼土をわずかに含む		
SP131	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	29.0	8.0				
SP132	楕円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	23.0	14.0		土器を含む		
SP133	円	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	強	細	密	24.0	20.0	11.0		黄灰色(2.5Y4/1)細砂を少量含む		
SP134	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	強	細	密	35.0	31.0	18.0				
SP135	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	41.0	29.0	7.0				
SP136	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	14.0				
SP137	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	23.0	20.0	9.0				
SP138	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	30.0	24.0	7.0				
SP139	円?	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	56.0	[24.0]	7.0				
SP140	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	23.0		土器を含む	47	24
SP141	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	33.0	23.0	40.0				
SP142	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	弱	極細	極密	47.0	46.0	23.0		84,85	47	24
SP143	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	30.0	29.0	35.0				
SP144	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	弱	シルト	極密	25.0	[10.0]	37.0			13	24
SP145	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	32.0	28.0	8.0	→SP147			
SP146	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	22.0	17.0				
SP147	-	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	[23.0]	20.0	9.0	←SP145			
SP148	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	22.0	6.0				
SP149	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	18.0	28.0		黄褐色(10YR4/3)粘質土ブロックを含む		
SP150	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	23.0	8.0				
SP151	不整	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	密	43.0	23.0	8.0				
SP152	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	密	32.0	28.0	13.0				
SP153	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	19.0	17.0	22.0				
SP154	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	44.0	35.0	24.0				
SP155	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	27.0	10.0				
SP156	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	35.0	27.0	17.0				
SP157	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	23.0	33.0				
SP158	隅丸方形	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	59.0	30.0	12.0				
SP159	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	44.0	43.0	12.0				
SP160	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	20.0	20.0				
SP161	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	18.0	17.0	13.0				
SP162	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	密	27.0	22.0	15.0				
SP163	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	26.0	24.0	14.0				
SP164	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	23.0	19.0	12.0				
SP165	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	30.0	24.0	30.0				
SP166	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	密	28.0	20.0	8.0				
SP167	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	12.0		SI1	23	
SP168	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	25.0	13.0		SI1	23	
SP169	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	55.0	46.0	22.0		SB1	39	16
SP170	隅丸方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	46.0	36.0	35.0		SB1	39	
SP171	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	35.0	31.0	28.0		SB1	39	16
SP172	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	24.0	21.0	39.0		SB1	39	

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (4/5)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP173	隅丸方	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	48.0	41.0	24.0		SB1	39	
SP174	隅丸方	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	(49.0)	35.0	25.0		SB1	39	16
SP175	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	35.0	34.0	22.0		SB1	39	
SP176	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	42.0	35.0	23.0		SB1	39	
SP177	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	49.0	42.0	22.0		SB2	51	17
SP178	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	33.0	30.0	12.0		SB2	51	
SP179	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	44.0	42.0	19.0		SB2	51	
SP180	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	35.0	32.0	15.0		SB2	51	
SP181	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	41.0	34.0	24.0		SB2	51	17
SP182	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	細	中	41.0	39.0	21.0		SB2 / 炭化物を少量含む	51	17
SP183	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	45.0	41.0	23.0			58	24
SP184	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	29.0	28.0	46.0		炭化物を含む		
SP185	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	32.0	25.0	14.0				
SP186	円	灰黄褐(10YR4/2)	砂質	中	シルト	中	25.0	24.0	32.0				
SP187	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	28.0	24.0	18.0				
SP188	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	19.0	20.0				
SP189	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	22.0	8.0				
SP190	楕円	黒褐(10YR3/2)	砂質	強	細	中	60.0	24.0	17.0				
SP191	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	シルト	中	28.0	24.0	14.0		7	20	27
SP192	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	中	中	中	32.0	27.0	9.0				
SP193	楕円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	中	細	密	31.0	21.0	40.0				
SP194	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	30.0	29.0	14.0				
SP195	楕円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	25.0	19.0	17.0				
SP196	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	シルト	密	16.0	13.0	7.0				
SP197	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	中	26.0	21.0	20.0				
SP198	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	22.0	18.0	25.0				
SP199	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	18.0	15.0	10.0				
SP200	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	中	31.0	19.0	9.0				
SP201	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	21.0	21.0				
SP202	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	20.0	10.0				
SP203	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	20.0	11.0				
SP204	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	23.0	17.0				
SP205	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	41.0	33.0	20.0				
SP206	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	31.0	15.0				
SP207	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	23.0	13.0				
SP208	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	23.0	18.0				
SP209	円?	黒褐(10YR3/2)	砂質	強	細	中	59.0	31.0	11.0				
SP210	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	43.0	35.0	23.0				
SP211	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	30.0	15.0				
SP212	円	灰オリーブ(5Y4/2)	粘質	中	細	中	33.0	29.0	24.0				
SP213	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	25.0	17.0				
SP214	楕円	黒褐(10YR3/1)	粘質	強	細	中	55.0	41.0	21.0				
SP215	円	黒褐(10YR3/1)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	22.0				
SP216	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	28.0	24.0	20.0				
SP217	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	41.0	35.0	15.0				
SP218	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	32.0	16.0				
SP219	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	15.0				
SP220	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	48.0	37.0	25.0		暗褐色(10YR3/4)粘質土を含む		
SP221	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	32.0	27.0	14.0				
SP222	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	24.0	21.0	7.0				
SP223	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	43.0	34.0	30.0				
SP224	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	24.0	12.0				
SP225	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	24.0	22.0	13.0				
SP226	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	112.0	86.0	54.0	←S14			
SP227	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	30.0	10.0				
SP228	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	88.0	47.0	28.0		暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土を含む		
SP229	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	22.0	9.0				
SP230	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	16.0	11.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (5/5)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP231	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	17.0	8.0				
SP232	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	37.0	30.0	9.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP233	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	32.0	25.0	13.0				
SP234	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	18.0	18.0	7.0				
SP235	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	22.0	19.0				
SP236	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	27.0	23.0	39.0		1~2cm程度の暗褐色(10YR3/3)粘質土ブロックを含む	47	24
SP237	円	灰(5YR4/1)	粘土	強	極細	極密	54.0	46.0	48.0		SI2 / 焼土塊・炭化物を含む	25, 26	
SP238	円	黒褐(7.5YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	29.0		SI2	25, 26	
SP239	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	42.0	38.0	24.0		SI2	25, 26	11
SP240	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	56.0	50.0	47.0		SI2 / 多量の焼土、少量の炭化物を含む	25, 26	
SP241	円	黒褐(10YR3/1)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	15.0		SI3	31	
SP242	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	14.0		SI3	31	
SP243	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	32.0	30.0	31.0		SI4 / 焼土・炭化物を含む	33, 34	
SP244	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	28.0	31.0		SI4 / 焼土・炭化物を含む	33, 34	15
SP245	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	38.0	33.0	9.0		SI4	33, 34	
SP246	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	28.0	36.0		SI4 / 焼土・炭化物を含む	33, 34	15
SP247	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	24.0	22.0		SI4 / 炭化物を含む	33, 34	
SP248	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	18.0	19.0		SI4 / 焼土・炭化物を含む	33, 34	
SP249	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	26.0	25.0		SI4	33, 34	
SP250	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	16.0	16.0	30.0		SI4	33, 34	

《柱穴一覧》

表4 掲載遺物一覧

(1/3)

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	版
1	縄文土器	鉢	SK1	H[3.8]	7.5YR5/3 7.5YR4/2	α縄文 iミガキ		17	27
2	縄文土器	鉢	SK7	H[11.9]	10YR6/2 10YR6/2	α貝殻条痕 i不明		18	27
3	縄文土器	鉢	SK8	H[3.7]	7.5YR6/4 10YR3/1	α縄文・沈線押引文 i貝殻条痕・ミガキ		19	27
4	縄文土器	鉢	SK8	H[4.3]	10YR5/2 10YR5/2	α不明 i不明		19	27
5	縄文土器	鉢	SK8	H[4.1]	2.5Y4/2 2.5Y3/1	α貝殻条痕 i不明	口縁部外面:刻目	19	27
6	石器	石鏃	SK8	L12.8 W7.2 T1.7			緑色片岩	19	27
7	縄文土器	鉢	SP191	H[3.1]	7.5YR4/3 7.5YR4/3	α縄文 i不明		20	27
8	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[6.1]	5YR5/6 5YR6/4	α磨消縄文 i不明		21	27
9	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[4.3]	7.5YR4/3 7.5YR5/4	α磨消縄文 i摩耗により不明		21	27
10	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[4.3]	7.5YR4/3 7.5YR5/6	α貝殻条痕 iミガキ		21	27
11	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[3.3]	2.5Y5/2 2.5Y5/2	α貝殻条痕		21	27
12	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[3.8]	2.5Y3/1 2.5Y3/1	α貝殻条痕		21	27
13	縄文土器	鉢	包含層(1区)	LR(15.8) H[1.7]	10YR8/3 10YR5/1	α不明 i剥離により不明	口縁部:沈線・刻目	21	27
14	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[6.0]	5YR4/4 7.5YR4/4	α磨消縄文 i不明		21	27
15	縄文土器	鉢	包含層(1区)	H[4.3]	10YR5/3 10YR5/2	α縄文 i不明		21	27
16	縄文土器	鉢	包含層(2区)	H[2.2]	10YR5/4 10YR5/4	α縄文 i不明		21	28
17	縄文土器	鉢	包含層(2区)	H[2.2]	10YR6/2 10YR6/4	α沈線文 iミガキ		21	28
18	縄文土器	鉢	包含層(2区)	H[3.2]	2.5Y5/3 2.5Y3/2	α沈線 i不明		21	28
19	縄文土器	鉢	包含層(2区)	H[3.8]	2.5YR5/3 2.5YR5/3	α貝殻条痕 i不明		21	28
20	縄文土器	鉢	包含層(2区)	H[2.1]	10YR4/2 10YR1.7/1	α摩耗により不明 i摩耗により不明		21	28
21	縄文土器	鉢	排土	H[6.2]	10YR5/3 10YR4/1	α沈線文 i不明		22	28
22	弥生土器	甕	SK6(SI1)	TR(13.6) H[15.9]	7.5YR6/6 10YR6/4	αタタキ・ハケ・ナデ iハケ・ケズリ・ナデ		24	28
23	弥生土器	鉢	SI1	TR[5.4] H[14.0]	10YR8/4 10YR8/4	αハケ・ナデ iナデ		24	28
24	弥生土器	鉢	SI1	TR[9.7] LR[3.0] H[5.7]	7.5Y7/6 7.5Y7/6	αナデ iナデ・板ナデ		24	28
25	弥生土器	甕又は鉢	SI1	LR3.0 H[7.1]	10YR8/6 2.5YR8/4	αタタキ iナデ		24	28
26	石器素材	不明	SI1	L10.5 W5.6 T0.9			緑色片岩	24	28
27	鉄製品	鏃	SI1	L[4.2] W2.5 T0.5				24	28
28	縄文土器	鉢	SI1	LR10.0 H[8.0]	7.5Y7/4 7.5Y7/4	αナデ iナデ		24	28
29	弥生土器	甕又は鉢	SI2	TR27.9 LR8.0 H30.5	10YR4/1 10YR3/1	αナデ・タタキ・ハケ i板ナデ・ハケ		27	29
30	弥生土器	甕	SI2	TR13.9 LR2.7 H26.1	2.5Y8/2 2.5Y8/2	αナデ・タタキ・ハケ iナデ・ハケ		27	28
31	弥生土器	甕	SI2	TR[14.2] LR3.4 H21.7	2.5YR5/6 2.5YR5/4	αタタキ・ハケ i指ナデ・板ナデ・ハケ		27	29
32	弥生土器	甕	SI2	TR13.2 LR3.0 H15.4	10YR7/4 5YR8/3	αナデ・タタキ・ハケ i指オサエ・ナデ・ハケ		28	29
33	弥生土器	甕	SI2	LR2.3 H[13.1]	7.5YR8/6 7.5Y6/4	αナデ・タタキ・ハケ iナデ・ハケ		28	28
34	弥生土器	鉢	SI2	TR(37.5) H[11.2]	5Y6/3 7.5YR5/1	αナデ・タタキ・ハケ・ミガキ iナデ・ハケ・ミガキ		28	28
35	弥生土器	鉢	SI2	TR(10.8) H[6.2]	2.5Y7/2 2.5Y4/1	α指オサエ iナデ・ハケ		28	28
36	弥生土器	鉢	SI2	TR23.2 H9.6	2.5Y6/6 2.5Y6/6	αナデ・ハケ iナデ・ハケ・ミガキ		28	29
37	弥生土器	鉢	SI2	TR18.9 LR1.5 H11.3	5Y R7/6 5YR7/6	αナデ・タタキ iナデ・ハケ		28	29
38	弥生土器	鉢	SI2	TR(15.2) LR3.3 H7.1	5YR7/4 7.5YR7/3	αナデ・板ナデ iナデ・ハケ		28	29
39	弥生土器	鉢	SI2	TR11.8 LR0.7 H5.5	10YR8/3 5YR8/3	αナデ・タタキ iナデ・ハケ		28	29
40	弥生土器	鉢	SI2	TR12.5 LR(1.4) H4.5	2.5Y8/4 2.5Y8/4	α指オサエ・ナデ iナデ		28	29
41	弥生土器	不明	SI2	LR4.4 H[2.0]	10YR5/2 10YR5/2	α指オサエ・ナデ i板ナデ		28	29
42	弥生土器	高杯	SI2	TR(18.8) H[1.7]	10YR7/4 2.5Y6/3	αナデ iナデ	口縁部:列点文	29	29
43	石器	石庖丁	SI2	L[4.6] W5.8 T0.5			緑色片岩	29	29

《掲載遺物一覧》

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	図版
44	石器	砥石	SI2	L[8.5] W[5.6] H[4.6]			流紋石	29	30
45	石器	砥石	SI2	L40.7 W24.0 T19.2			砂岩	29	30
46	石器	石皿又は台石	SI2	L42.7 W33.3 T8.0			緑色片岩	30	30
47	ガラス製品	ガラス玉	SI2	L3.5 R4.0 HR1.0			外面水色	30	29
48	縄文土器	鉢	SI2	H[1.8]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	α縄文		30	29
49	弥生土器	甕	SI3	TR(13.0) H[5.7]	10YR6/3 10YR4/2	αタタキ・ハケ iハケ		32	29
50	弥生土器	甕	SI3	H[8.9]	7.5YR4/4 7.5YR5/4	αナデ・ハケ i指オサエ・ナデ・ハケ	讃岐系	32	29
51	弥生土器	壺又は甕	SI3	LR(7.0) TR[12.4] H(3.6)	5YR4/4 7.5YR4/1	αタタキ・ハケ i板ナデ・ハケ		32	30
52	弥生土器	鉢	SI3	TR13.8 H7.1	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αハケ iハケ		32	30
53	弥生土器	鉢	SI3	LR(5.4) H[9.5]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	α指オサエ・ナデ i板ナデ		32	30
54	弥生土器	鉢	SI3	TR(6.6) LR(1.3) H3.9	10YR8/4 10YR8/3	αナデ・板ナデ iハケ	ミニチュア?	32	30
55	弥生土器	鉢	SI3	H[4.5]	10YR8/3 10YR8/3	αナデ・ハケ iナデ・ハケ		32	30
56	弥生土器	壺	SI4	NR(8.2) H[3.7]	7.5YR4/3 7.5YR4/2	αナデ iナデ	讃岐系	35	30
57	弥生土器	甕	SI4	TR(16.0) H[16.3]	5YR6/6 10YR6/4	αタタキ・ハケ i板ナデ・ハケ		35	30
58	弥生土器	甕	SI4	H[10.4]	10YR5/2 10YR5/2	αタタキ・ハケ i指オサエ・板ナデ		35	31
59	弥生土器	甕	SI4	TR(15.2) H[23.2]	7.5YR3/2 7.5YR5/4	αタタキ・ハケ iナデ・指ナデ・ハケ		35	31
60	弥生土器	甕	SI4	TR(17.8) H[2.7]	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αナデ iナデ		35	31
61	弥生土器	甕	SK12(SI4)	TR(15.8) H[1.5]	7.5YR4/3 7.5YR4/3	αナデ iナデ	讃岐系	35	31
62	弥生土器	壺又は甕	SI4	LR5.6 H[19.0]	10YR7/4 10YR2/1	αナデ・タタキ・ハケ iナデ・板ナデ・ハケ		36	30
63	弥生土器	鉢	SI4	TR(14.6) H[8.2]	10YR8/3 7.5YR7/4	αナデ・タタキ iナデ・ハケ		36	31
64	弥生土器	鉢	SI4	TR11.2 H5.1	7.5YR4/6 10YR4/4	αナデ・ハケ iハケ		36	31
65	弥生土器	鉢	SI4	TR(11.2) H[4.4]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	α指オサエ・板ナデ・タタキ i指オサエ・板ナデ		36	31
66	弥生土器	高杯	SI4	H[3.2]	5YR7/6 5YR6/6	αナデ iナデ・シボリ痕		36	31
67	石器	石庖丁	SI4	L4.8 W10.7 T0.9			緑色片岩	36	31
68	石器	スクレイパー	SI4	L11.1 W4.4 T1.1			緑色片岩	36	31
69	石器	磨石・敲石類	SI4	L17.9 W4.2 T2.6			泥質片岩	36	31
70	石器	剥片	SI4	L4.6 W4.6 T1.1			サヌカイト	36	31
71	石器	台石	SI4	L29.0 W20.4 T6.1			緑色片岩	37	32
72	石器	台石	SI4	L33.1 W22.0 T5.5			緑色片岩	37	32
73	石器素材	不明	SI4	L9.1 W4.7 T1.4			緑色片岩	38	31
74	石器素材	不明	SI4	L10.8 W4.3 T1.0			緑色片岩	38	31
75	鉄製品	不明	SI4	L4.8 W2.5 T0.6				38	31
76	縄文土器	鉢	SI4	H[4.2]	7.5YR5/4 10YR3/1	α縄文 i不明		38	31
77	縄文土器	鉢	SI4	H[3.1]	10YR6/2 10YR7/2	α刻目 i不明		38	32
78	弥生土器	甕	SK9	TR(13.6) H[5.6]	5YR7/6 10YR8/2	α指オサエ・ナデ・タタキ i指オサエ・ナデ・ハケ		40	31
79	弥生土器	甕	SK9	H[7.7]	7.5YR8/4 7.5YR8/3	αナデ・タタキ・ハケ i指オサエ・ナデ		40	32
80	弥生土器	壺	ST1	TR(22.9) NR(14.8) LR(5.7) H69.9	7.5YR7/6 7.5YR4/1	αナデ・タタキ・ミガキ iナデ・板ナデ・ハケ	口縁部外面:山形文 頸部外面貼付突帯	42	33
81	弥生土器	壺	ST1	TR(16.7) NR(13.5) H[48.8]	7.5YR7/6 10YR7/4	αナデ・タタキ・ハケ・ミガキ i指オサエ・ナデ・板ナデ・ハケ	口縁部外面:波状文 頸部外面貼付突帯	43	33
82	弥生土器	壺	ST1	LR6.5 H[44.9]	7.5YR7/6 10YR6/1	αナデ・タタキ・ハケ・ミガキ i指オサエ・ナデ・ハケ		43	33
83	弥生土器	甕	SD13	H(10.9)	5YR5/4 5YR6/6	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		46	32
84	弥生土器	鉢	SP142	TR(16.8) LR(5.6) H6.5	5YR6/6 5YR6/6	αタタキ iナデ		47	32
85	石器	不明	SP142	L[7.7] W3.8 T2.4			泥質片岩 石棒の可能性	47	32
86	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(20.0) H[1.5]	10YR8/3 10YR8/3	αナデ iナデ	口縁内面貼付突帯	48	32
87	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(10.4) H[5.0]	7.5YR6/6 7.5YR7/6	αナデ・ハケ iナデ・板ナデ		48	32
88	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR[22.0] H[5.3]	5YR7/6 5YR7/6	αナデ iナデ		48	32
89	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(10.8) H[14.5]	7.5YR6/6 7.5YR6/6	α摩耗により不明 i摩耗により不明		48	32

《掲載遺物一覧》

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	図版
90	弥生土器	甕	包含層(1区)	TR(17.8) H[2.7]	7.5YR4/4 7.5YR4/4	αナデ iナデ		48	32
91	弥生土器	甕	包含層(1区)	H[4.7]	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αナデ iナデ	口縁端部刻目	48	32
92	弥生土器	甕	包含層(1区)	LR(4.2) H[7.2]	7.5YR4/2 7.5YR5/6	αタタキ・ハケ i板ナデ		48	34
93	弥生土器	甕	包含層(1区)	LR(3.2) H[9.8]	10YR7/3 10YR6/2	α板ナデ・タタキ・ハケ i板ナデ・ハケ		48	34
94	弥生土器	甕	包含層(1区)	LR(4.8) H[2.9]	10YR3/1 10YR4/2	αハケ iナデ		48	32
95	弥生土器	壺又は甕	包含層(1区)	LR7.5 H[16.8]	7.5YR4/1 7.5YR7/4	αタタキ・ハケ iナデ・ハケ・ミガキ		49	34
96	弥生土器	鉢	包含層(1区)	TR(35.8) H[10.2]	7.5YR7/4 7.5YR7/4	αナデ・ハケ iナデ・ハケ・ミガキ		49	34
97	弥生土器	鉢	包含層(1区)	H[6.0]	5YR6/4 5YR6/4	αタタキ・板ナデ iハケ・板ナデ		49	34
98	弥生土器	壺	包含層(2区)	H[1.6]	10YR5/2 10YR5/1	αナデ・ハケ iナデ		49	34
99	弥生土器	壺	包含層(2区)	H[2.0]	10YR7/4 10YR7/4	αハケ i 剥離により不明		49	34
100	弥生土器	甕	包含層(2区)	TR(17.2) H[14.6]	7.5YR6/3 7.5YR6/4	α指オサエ・ナデ・タタキ・ハケ iハケ		49	34
101	弥生土器	甕	包含層(2区)	TR(17.8) H[3.2]	7.5YR7/6 7.5YR7/6	α摩擦により不明 i摩擦により不明		49	34
102	弥生土器	甕	包含層(2区)	TR(14.4) H[5.6]	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αハケ i指オサエ・ナデ	讃岐系	49	34
103	弥生土器	甕	包含層(2区)	H[10.2]	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αハケ i指オサエ・ケズリ	讃岐系	50	34
104	弥生土器	甕	包含層(2区)	LR(4.7) H[2.3]	7.5YR5/4 7.5YR5/4	αミガキ iナデ	讃岐系	50	34
105	弥生土器	鉢	包含層(2区)	LR2.5 TR(13.4) H14.3	5YR6/8 7.5YR7/6	αナデ・ハケ iナデ	底部焼成前穿孔	50	34
106	弥生土器	鉢	包含層(2区)	LR(3.6) TR(20.4) H9.0	10YR5/2 10YR6/4	αタタキ・ハケ iハケ		50	35
107	弥生土器	高杯	包含層(2区)	H[9.1]	5YR7/4 2.5YR6/6	αナデ・板ナデ・タタキ i板ナデ・シボリ痕		50	34
108	弥生土器	高杯	包含層(2区)	H[1.9]	5YR5/4 5YR5/4	αナデ iナデ・板ナデ		50	34
109	弥生土器	高杯	包含層(2区)	H[2.9]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	αナデ・板ナデ・ハケ iナデ	穿孔あり	50	34
110	土師質土器	皿	SP177(SB2)	TR7.7 LR6.8 H[1.7]	2.5YR8/2 2.5YR8/2	α回転ナデ i回転ナデ	底部回転糸切り	51	34
111	瓦質土器	亀山焼甕	SP179(SB2)	H[3.5]	10YR8/6 2.5YR8/4	α格子叩き iナデ		51	34
112	土師質土器	皿	SP132	H(3.1)	2.5YR6/4	α指オサエ・ナデ		53	34
113	土師器(古代)	内面黒色椀	包含層(1区)	LR(7.0) H[1.2]	2.5Y7/3 2.5Y7/3	αナデ iナデ		54	34
114	瓦器	椀	包含層(1区)	TR(15.8) NR(12.1) H[5.9]	5Y4/1 5Y3/1	α指オサエ・ナデ iミガキ		54	35
115	土師質土器	椀	包含層(1区)	LR(6.4) H[2.0]	10YR8/2 10YR8/2	α回転ナデ i回転ナデ		54	35
116	土師質土器	皿	包含層(1区)	TR(7.2) LR(5.8) H1.2	7.5YR8/3 7.5YR8/3	α回転ナデ i回転ナデ		54	35
117	瓦質土器	亀山焼甕	包含層(1区)	H[5.8]	10YR7/4 2.5Y7/3	α格子叩き iハケ		54	35
118	土師質土器	土釜	包含層(2区)	H[11.0]	10YR7/4	αナデ		54	35
119	石器	砥石	包含層(1区)	L8.0 W3.8 T2.6			凝灰岩か?	60	35
120	石器素材	不明	包含層(1区)	L9.1 W4.7 T1.4			緑色片岩	60	35
121	石器素材	不明	包含層(1区)	L[4.8] W4.4 T0.8			緑色片岩	60	35
122	石器	石錘	包含層(2区)	L6.9 W8.3 T1.7			緑色片岩	60	35

《掲載遺物一覧》

表5 出土遺物一覧

(1/4)

(2/4)

時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号						
縄文以前 縄文時代	2区_東壁	火山灰	不明	不明	B	1							
					A	1	1						
	SK1	縄文土器	胴部	鉢	B	12							
					B	6							
	SK7	縄文土器	胴部	鉢	A	1	2						
					B	13							
	SK8	炭化物	不明	不明	B	1							
					B	25							
		縄文土器	口縁部	鉢	A	3	3~5						
					B	25							
	石器	完存	石鋸	A	1	6							
				B	1								
	SP7	縄文土器	胴部	鉢	B	2							
	1区_精査	縄文土器	胴部	鉢	B	3							
	1区_一括	縄文土器	胴部	鉢	B	29							
	1区_包含層	縄文土器	口縁部	鉢	A	5	8~12						
					B	1							
					A	2	14,15						
	1区_攪乱	縄文土器	胴部	鉢	A	1	13						
					B	1							
					A	2	14,15						
	2区_トレンチ	縄文土器	胴部	鉢	B	1							
	2区_一括	縄文土器	胴部	鉢	B	29							
					B	29							
	2区_上位層	縄文土器	口縁部	鉢	A	4	16~19						
					A	1	20						
2区_排土	縄文土器	口縁部	鉢	B	74								
				B	74								
縄文時代(混入)	SI1	縄文土器	底部	鉢	A	1	28						
	SI2	縄文土器	口縁部	鉢	A	1	48						
					B	1							
	胴部	鉢	B	19									
			B	19									
	SI3	縄文土器	胴部	鉢	B	3							
	SI4	縄文土器	口縁部	鉢	A	2	76,77						
					B	75							
	SK9	縄文土器	胴部	鉢	B	6							
	SP191	縄文土器	胴部	鉢	A	1	7						
	SP226	縄文土器	胴部	鉢	B	11							
	弥生時代	SI1	弥生土器	完存	鉢	A	1	24					
A						1	22						
B						12							
口縁部				鉢	A	1	23						
					B	1							
					B	1							
					B	29							
胴部				鉢	壺又は甕又は鉢	B	202						
					壺又は甕	B	1						
					壺又は甕	B	1						
胴底部				鉢	壺又は甕又は鉢	A	1	25					
					甕	B	1						
					甕	B	1						
金属製品		胴部	鉄鏃	A	1	27							
				B	4								
自然遺物		不明	石器素材	A	1	26							
不明		不明	不明	B	4								
SI1-SK6		弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	19							
SI1-SD14		弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1							
SI2		弥生土器	完存	鉢	A	2	30,31						
	A				3	36,37,40							
	A				1	29							
	A				2	38,39							
	B				46								
	口縁部		鉢	B	9								
				不明	A	1	42						
				壺又は甕又は鉢	B	18							
				壺又は甕又は鉢	B	18							
	口頸部		鉢	B	2								
				B	21								
				B	8								
	壺又は甕又は鉢		鉢	B	31								
				B	31								
	口胴部		鉢	A	2	34,35							
	口底部		甕	A	1	32							
	胴部		鉢	B	88								
				B	31								
				壺又は甕又は鉢	B	2,048							
	胴底部		甕	A	1	33							
弥生時代	SI2-SP239	弥生土器	完存	鉢	A	1	54						
					A	1	52						
					口縁部	鉢	B	1					
					口頸部	鉢	B	1					
							B	1					
					口胴部	鉢	A	1	55				
							A	1	53				
					口底部	鉢	A	1	49				
							A	1	50				
					頸胴部	甕	A	1	50				
							B	22					
					壺又は甕又は鉢	鉢	B	120					
							A	1	51				
					底部	鉢	B	1					
							B	1					
					石器	不明	剥片	B	1				
								B	2				
					炭化物	不明	不明	B	2				
								B	7				
					自然遺物	不明	不明	B	7				
								B	7				
					SI4	弥生土器	完存	鉢	A	2	63,64		
									A	1	60		
									B	22			
									口縁部	鉢	B	4	
											B	4	
壺又は甕又は鉢	鉢	B	25										
		B	25										
口頸部	壺	A	1	56									
		B	1										
		B	8										
		B	2										
壺又は甕又は鉢	鉢	B	27										
		B	27										
口胴部	甕	A	1	57,59									
		A	1	65									
口底部	鉢	B	22										
		B	4										
胴部	鉢	A	1	66									
		A	1	66									
壺又は甕又は鉢	鉢	B	1,177										
		B	1,177										
胴底部	甕	A	1	58									
		A	1	62									
底部	甕	B	1										
		B	1										
壺又は甕又は鉢	鉢	B	19										
		B	19										
不明	壺又は甕	B	2										
		B	2										
石器	完存	石庖丁	A	1	67								
			A	1	68								
			スクレイパー	A	A	1	69						
					A	1	69						
			磨石・敲石類	A	A	1	70						
					A	2	71,72						
			剥片	A	B	4							
					A	2	73,74						
			不明	不明	不明	A	1	75					
						A	1	75					
			金属製品	不明	不明	B	31						
			炭化物	不明	不明	B	4						
自然遺物	不明	不明	B	4									
SI4-SK12	弥生土器	口縁部	鉢	A	1	61							
				B	3								
				B	1								
				B	1								
				B	1								
				B	10								
口頸部	甕	B	1										
		B	1										
胴部	鉢	B	10										
		B	24										
壺又は甕又は鉢	鉢	B	24										
		B	24										
底部	甕	B	1										
SI4-SP243	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	1								

《出土遺物一覧》

(3/4)

(4/4)

時期	出土情報	種 別	部 位	器 種	区分	点数	掲 載 番 号	
	SI4-SP245	弥生土器	胴部	鉢	B	1		
	SI4-SP246	弥生土器	胴部	甕	B	1		
	SB1-SP168	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		
SK9	弥生土器	口縁部	甕	B	2			
			口頸部	鉢	B	1		
				壺又は甕又は鉢	B	1		
			口胴部	甕	A	1	78	
		胴部		甕	A	1	79	
					鉢	B	5	
					壺又は甕又は鉢	B	66	
				底部	甕	B	1	
					壺又は甕又は鉢	B	1	
ST1	弥生土器	完存	壺	A	2	80,81		
		胴部	壺	B	31			
		胴底部	壺	A	1	82		
SD1	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	5			
SD5	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3			
SD10	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3			
SD12	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	4			
SD13	弥生土器	口胴部	甕	A	1	83		
		口縁部	甕	B	1			
		胴部	甕	B	3			
		底部	甕	B	1			
SP5	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2			
SP29	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3			
SP31	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP64	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2			
SP73	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP74	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP77	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP119	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP121	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP128	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2			
SP140	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2			
SP141	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2			
SP142	弥生土器	口頸部	甕	B	1			
		口胴部	鉢	A	1	84		
		胴部	壺又は甕	B	6			
	石器	不明	不明	A	1	85		
SP143	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3			
SP149	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
SP185	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	1			
SP191	弥生土器	胴部	鉢	B	1			
			壺又は甕又は鉢	B	4			
SP194	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	1			
SP198	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	3			
SP226	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	11			
1区_精査	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	24			
1区_覆乱	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	14			
1区_包含層	弥生土器	口縁部	壺	A	3	86~88		
			甕	A	1	90		
				B	46			
			鉢	B	4			
			壺	B	2			
			口頸部	甕	B	112		
				鉢	B	1		
				壺又は甕	B	34		
			口胴部	壺	A	1	89	
				甕	A	1	91	
		鉢		A	1	96		
		胴部	壺	B	1			
			壺又は甕	B	1,658			
			壺又は甕又は鉢	B	79			
		胴底部	甕	A	2	92,93		
			鉢	A	1	97		
		底部	壺又は甕	A	1	95		
			甕	A	1	94		
			鉢	B	4			
			壺又は甕	B	17			

時期	出土情報	種 別	部 位	器 種	区分	点数	掲 載 番 号	
				壺又は甕又は鉢	B	7		
	2区_トレンチ	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	4		
	2区_一括	弥生土器	口縁部	甕	B	1		
			胴部	壺又は甕又は鉢	B	9		
2区_上位層	弥生土器	半存	鉢	A	2	105,106		
			壺	A	1	98		
		口縁部	甕	A	1	101		
			甕	A	1	100		
		口胴部	壺	A	1	99		
			壺	A	1	102		
		頸部	壺	A	1	103		
					B	15		
					壺又は甕又は鉢	B	2,078	
				底部	甕	A	1	104
				杯部	高杯	A	1	108
				杯脚部	高杯	A	1	107
				脚部	高杯	A	1	109
2区_排土	弥生土器	胴部	壺又は甕又は鉢	B	3			
弥生時代(混入) 古代~	SB2-SP178	弥生土器	口縁部	甕	B	1		
	SB2-SP180	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2		
	SP127	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		
	SP127	土師器	胴部	不明	B	2		
	1区_一括	土師器	胴部	不明	B	1		
			底部	椀	A	1	113	
	2区_上位層	土師器	胴部	不明	B	4		
			胴部	不明	B	17		
	中世	SB2-SP177	土師質土器	完存	皿	A	1	110
		SB2-SP179	土師質土器	龜山焼	胴部	甕	A	1
口底部				皿	B	1		
SB2-SP181		土師質土器	胴部	不明	B	3		
SB2-SP182		土師質土器	胴部	不明	B	2		
SK5		土師器	口縁部	杯	B	2		
			土師質土器	胴部	不明	B	1	
SP132		土師質土器	脚部	皿	A	1	112	
1区_包含層		土師質土器	口底部	皿	A	1	116	
			底部	椀	A	1	115	
					B	1		
			瓦器	口縁部	椀	A	1	114
		胴部	甕	A	1	117		
		龜山焼	胴部	甕	B	2		
2区_上位層		土師質土器	脚部	土釜	A	1	118	
SP226	石器	不明	剥片	B	1			
		自然遺物	不明	不明	B	1		
		自然遺物	不明	不明	B	2		
		自然遺物	不明	不明	B	2		
1区_精査	石器	完存	砥石	B	1	119		
		不明	剥片	B	12			
		不明	不明	A	2	120,121		
				B	5			
2区_上位層	金属製品	不明	不明	B	1			
		完存	石錘	A	1	122		
		不明	剥片	B	2			
		炭化物	不明	不明	B	1		
2区_排土	炭化物	不明	不明	B	1			
		不明	不明	B	1			

《出土遺物一覽》

第4章 中村田所東遺跡の成果

第1節 中村田所東遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・63)

中村田所東遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川左岸約60mに位置する。行政上は愛媛県新居浜市中村松木二丁目および土橋一丁目、調査区の絶対位置は北緯33° 56′ 17″・東経133° 17′ 33″の交差する付近である。現地面の標高は約27.6～28.3mであり、調査区は南西側から北東方向へ緩やかに傾斜する地形である。調査前は1区東側が畑地、ほかは耕地を造成した宅地や市道であった。

調査区は東側を1区、西側を2区とした。1区は東西約47.5m・南北約25.7mの長方形である。2区は調査区を分割し、北から東西約10m・南北約30mの長方形を2a区、東西約11m・南北約2.8mの長方形を2b区、東西約24.6m・南北約4～6.8mの台形を2c区と呼称した。調査対象面積は2,004m²である。

2 基本層序(図64～69)

基本層序は近現代の客土を除き、大きく3層に分かれる。

I層は耕作土および盛土で41層に細分した。最下層のI38層は砂層であり、堆積が安定しないものの調査区の大部分でみられることから、調査範囲内では過去に流水があったと想定される。

II層は包含層で8層に細分できる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし、中世の遺物も若干含まれる。III層は褐色粘質土で、上面が遺構検出面となる。

3 遺構と遺物の概要(図70)

検出した遺構は竪穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑4基・溝3条・小穴435穴・自然流路2条・性格不明遺構1基である。これらの遺構は弥生時代から中世にかけてのもので、III層上面で検出された。出土遺物は弥生土器・土師器・土師質土器・瓦器・中世陶器・石器である。



図61 中村田所東遺跡 現場作業 1



図62 中村田所東遺跡 現場作業 2



図63 中村田所東遺跡(1・2区) 調査区位置図

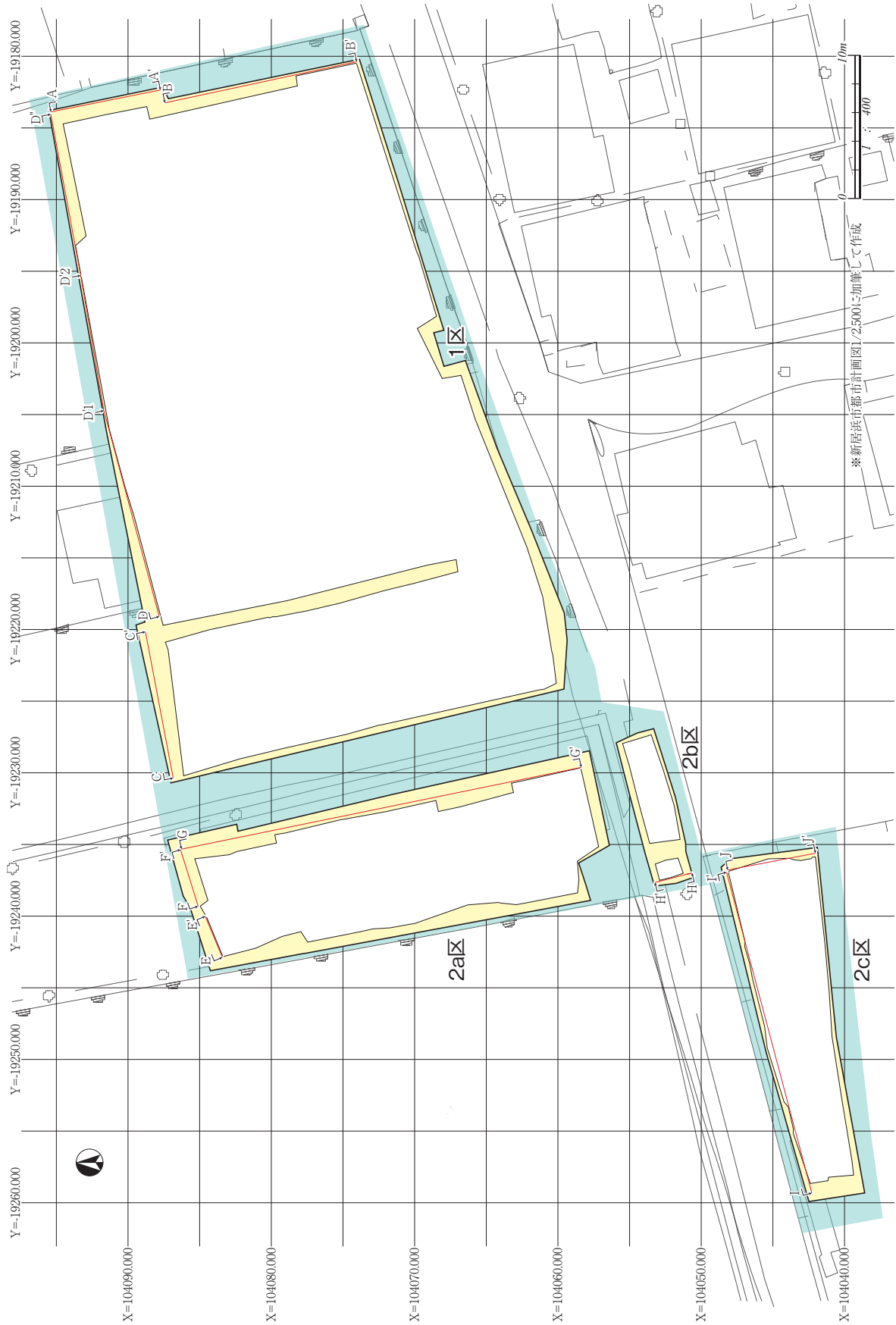
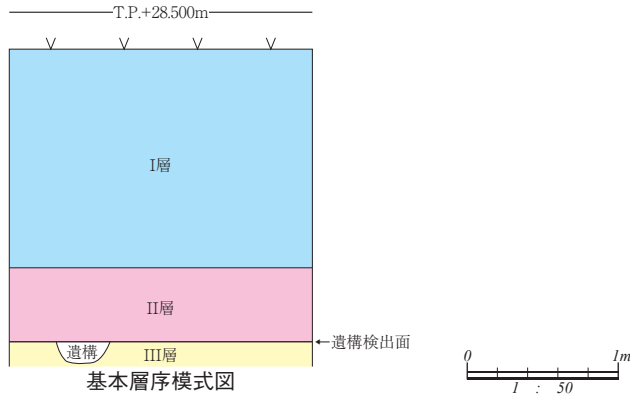


図64 中村田所東遺跡 調査区基本層序測量位置図

中村田所東遺跡の成果



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考	
I1	黒	2.5Y3/2	砂質	弱	粗	疎	3cm~拳大の礫を多量に含む	} 造成土
I2	黄	2.5Y5/3	砂質	中	粗	疎	拳大の礫を多量に含む	
I3	黄	2.5Y4/1	砂質	弱	粗	疎		
I4	灰	N8/	砂質	なし	細	密		
I5	暗オリーブ	2.5GY4/1	砂質	弱	極細	極密		
I6	暗	2.5Y5/2	砂質	弱	細	密	細礫を多量に含む。暗黄褐色(2.5Y7/6)細砂ブロックを含む	
I7	黒	10YR2/1	砂質	弱	細	密		
I8	オリーブ	5Y3/2	粘質	中	細	密	明黄褐色(10YR6/6)シルトが混じる	} 水道管の跡
I9	灰	5Y4/1	粘質	中	細	中	下部(厚さ5cm程度)にマンガンを含む	
I10	暗	2.5Y4/2	粘質	中	細	中	灰色(7.5Y4/1)・オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土を含む	} 耕作土
I11	黄	2.5Y5/3	粘質	弱	細	中		
I12	灰	5Y4/2	粘質	弱	細	中		
I13	灰	5Y4/2	粘質	強	細	中		
I14	黒	2.5Y3/2	粘質	中	中	中	オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土・灰黄褐色(10YR4/2)粘質土ブロックを含む	} 耕作土
I15	黒	2.5Y3/2	粘質	中	中	中	オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土・灰黄褐色(10YR4/2)粘質土ブロックを含む	
I16	オリーブ	2.5Y4/3	粘質	中	中	中	下部にマンガンを含む	} 造成土
I17	オリーブ	2.5Y4/3	粘質	中	中	中	I16層に細砂・III層ブロックを含む	
I18	黒	2.5Y3/2	粘質	中	細	密		
I19	暗	2.5Y4/2	粘質	中	細	中	細砂を多く含む。黄灰色(2.5Y5/1)粘質土を含む	} 耕作土
I20	オリーブ	2.5Y4/3	粘質	中	細	中	細砂を多く含む	
I21	灰	5Y4/1	粘質	中	中	中	粗砂を少量含む	
I22	黄	2.5Y4/1	砂質	弱	細	中		
I23	暗	2.5Y4/2	砂質	弱	中	中	オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土を含む	
I24	黒	7.5YR2/2	砂	無	細	疎	上面(厚さ3cm程度)に細礫を含む	
I25	灰	5Y4/1	砂質	弱	細	疎		
I26	暗オリーブ	2.5Y3/3	粘質	中	細	中		
I27	オリーブ	5Y3/1	粘質	中	シルト	密		} 耕作土
I28	灰	5Y4/2	粘質	弱	シルト	極密		
I29	暗	5Y4/3	粘質	弱	シルト	極密	礫を含む	} 旧畑か道の段の跡
I30	オリーブ	5Y2/2	粘質	弱	シルト	密	礫を含む。I31層を含む	
I31	オリーブ	5Y3/1	粘質	中	シルト	極密		
I32	オリーブ	5Y3/2	粘質	弱	シルト	極密		
I33	灰	5Y4/2	砂質	強	シルト	中	部分的に褐色(10YR4/4)シルトを含む	
I34	暗	10YR3/3	砂質	無	細	疎	黄灰色(2.5Y4/1)砂を含む。部分的に粗砂・細礫を含む	
I35	暗	2.5Y4/2	砂質	中	細	中	マンガンにより赤みを帯びる	
I36	黒	7.5Y3/2	砂	無	中	疎		
I37	灰	10Y4/1	砂質	強	シルト	中		
I38	灰	7.5Y5/1	砂質	強	シルト	中	細砂をわずかに含む	
I39	暗	2.5Y5/2	粘質	強	細	中	細砂を少量含む	
I40	暗	2.5Y4/2	粘質	弱	中	疎		
I41	暗	2.5Y3/3	砂質	中	シルト	極密		} 旧畑か道の段の跡
I42	暗	10YR3/1	粘質	強	細	密		
I43	暗	10YR3/3	粘質	強	細	密	色調は異なるが2区でも確認される黒色包含層に挟まれた若干色調の薄い層	} 弥生包含層
I44	暗	2.5Y5/2	粘質	弱	細	中	土器を少量含む	
I45	暗	10YR3/3	粘質	中	細	中	拳大の礫を多量に含む	} 風倒木
I46	暗	10YR4/4	粘質	中	細	密		
a1	黒	10YR3/1	粘質	中	極細	密	炭化物を少量含む	} SK4
a2	黒	10YR3/1	粘質	中	中	密	黄灰色(2.5Y4/1)砂質土を1/3程度含む	
a3	黒	10YR3/2	粘質	中	細	密	土器・炭化物を含む	
a4	黒	10YR2/2	粘質	強	細	中	極細砂を少量含む	
b1	灰	10YR4/2	粘質	中	細	密	炭化物・細砂を含む	} SR1
b2	灰	10YR5/2	粘質	弱	粗	疎	褐色(7.5YR4/4)砂質土と3~4cm程度の厚さの互層堆積。細礫を多く含む	
b3	灰	10YR4/3	粘質	強	細	密		
b4	灰	7.5YR4/1	砂	無	粗	疎		
b5	暗	2.5Y4/2	砂	無	粗	疎		
b6	暗	7.5YR3/4	砂	無	極粗	疎	3~5cm大の礫を多く含む	} SR1
b7	黒	10YR3/2	砂	無	粗	疎	3~10cm大の礫を多く含む。下部程大きい	
b8	黒	10YR3/2	砂	弱	中	疎	粗砂~10cm大の礫を含む	
b9	灰	10YR4/3	粘質	弱	中	中		
b10	暗	10YR3/4	粘質	弱	中	疎		
b11	暗	10YR3/3	粘質	弱	中	疎	極細砂をわずかに含む	
b12	灰	10YR4/2	粘質	無	極粗	疎	3~10cm大の礫を35-7層よりやや多く含む	} SP385
b13	暗	7.5Y3/4	粘質	中	粗	中	極粗砂と厚さ4cm程度の互層堆積	
b14	暗	7.5Y3/3	粘質	中	粗	中		
b15	黄	2.5Y4/1	砂	無	極粗	疎		
c1	灰	10YR4/2	粘質	強	細	密	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土をわずかに含む	} SP385
c2	灰	10YR4/3	粘質	強	細	密	細礫を少量含む	
c3	暗	2.5Y4/2	粘質	強	極細	密		
d	黒	10YR3/2	粘質	中	細	中		} SP381
I17	黒	10YR2/1	粘質	強	極細	中		
I18	暗	2.5Y4/2	粘質	強	極細	中		
e	黒	10YR2/2	粘質	強	細	中		} SP379
f	灰	10YR4/3	粘質	強	細	中		
III	灰	10YR4/4	粘質	強	細	密		} 地山

図65 中村田所東遺跡 基本層序模式図および土層説明

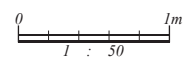
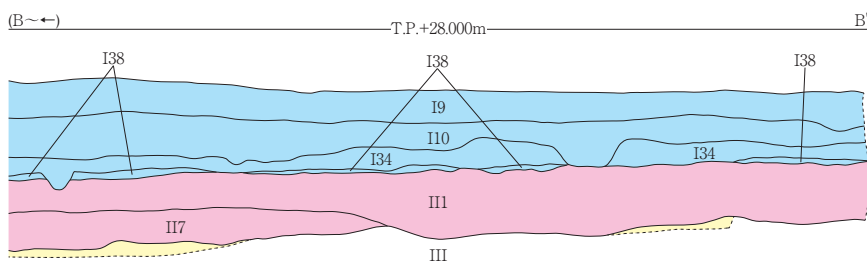
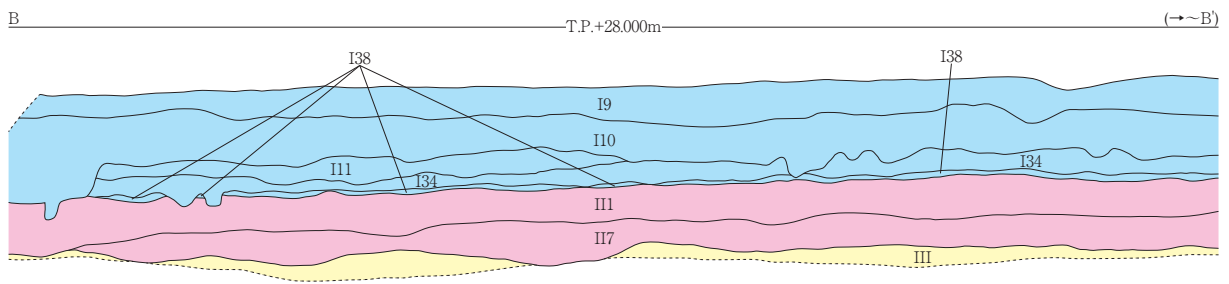
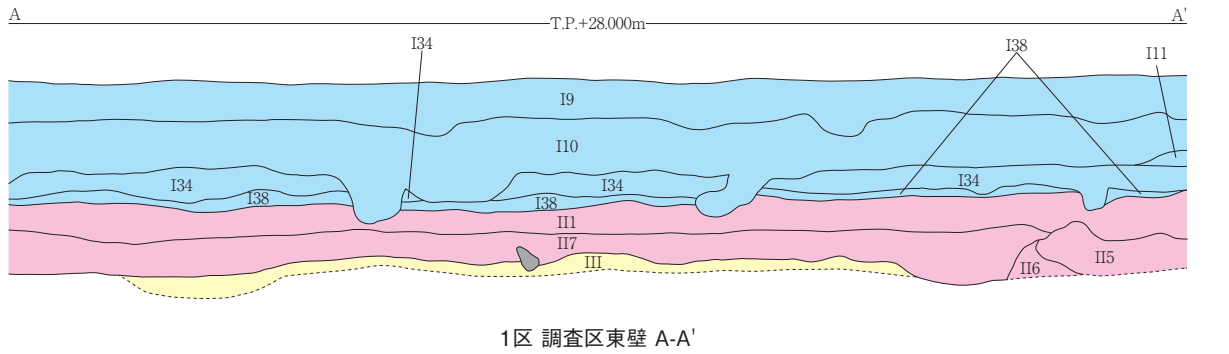


図66 1区 基本層序(A-A',B-B')

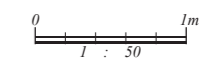
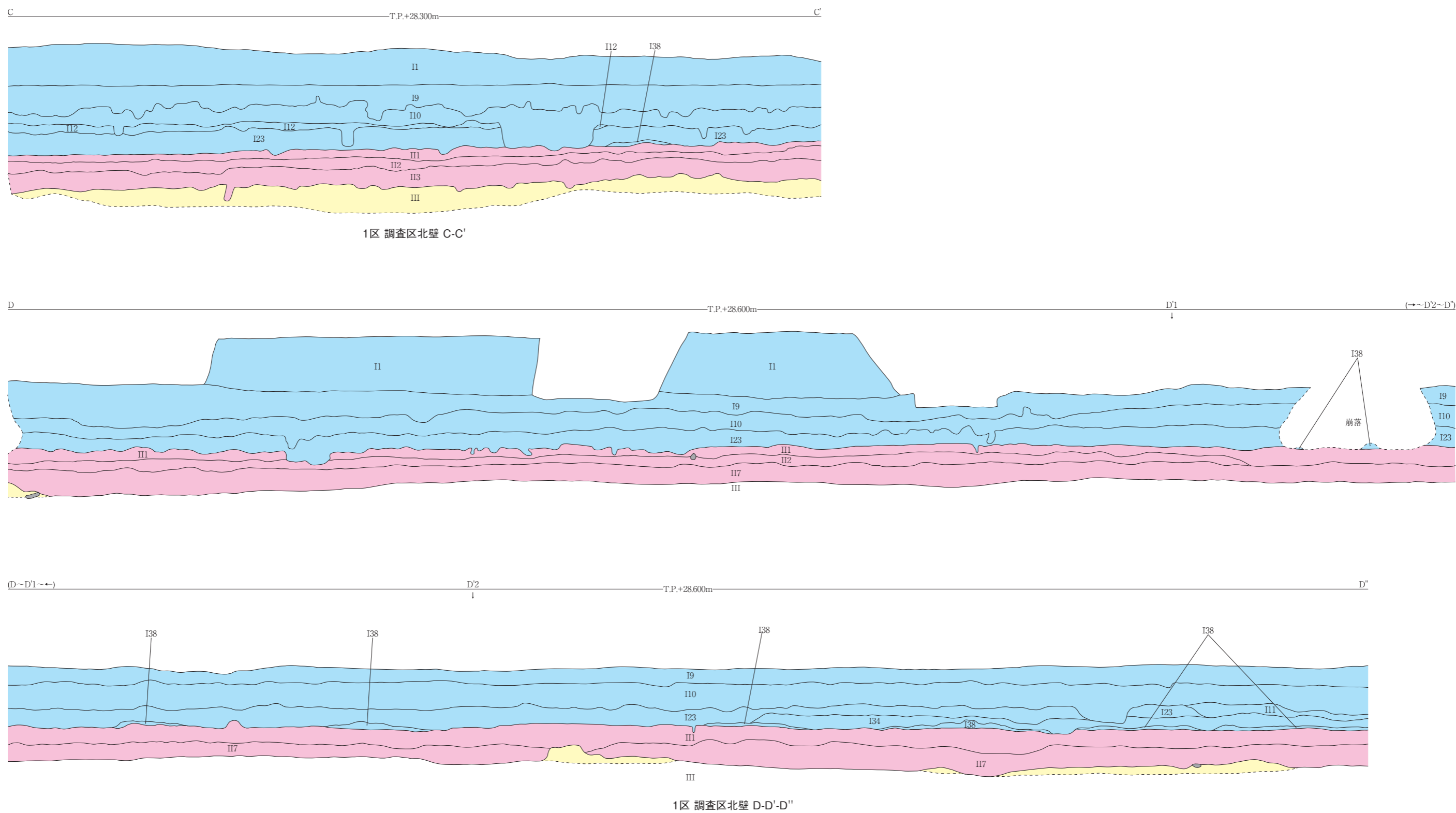


図67 1区 基本層序(C-C',D-D'-D'')

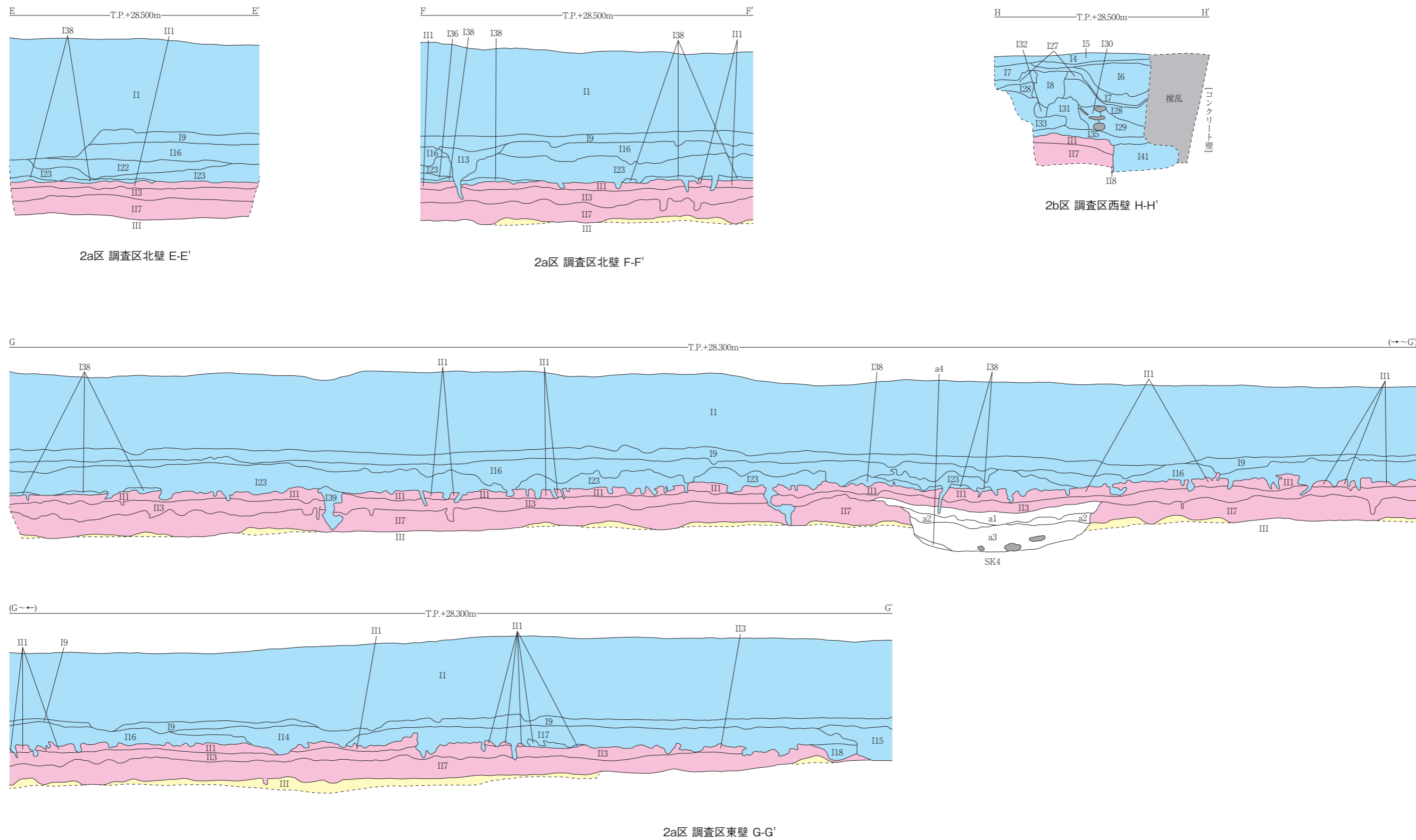
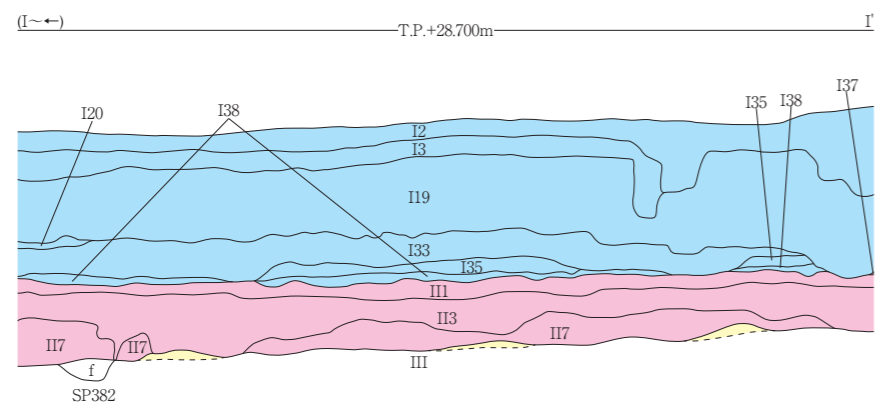
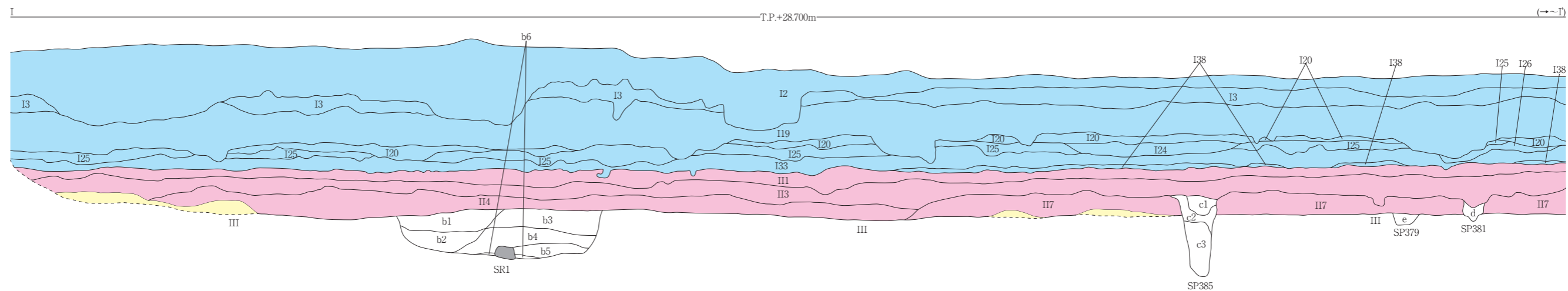
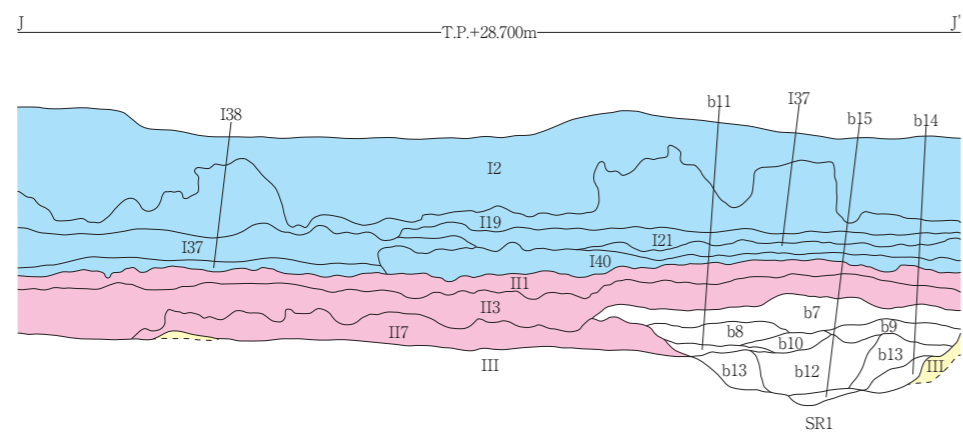


図68 2区 基本層序(E-E',F-F',G-G',H-H')

0 1m
1 : 50

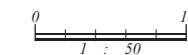


2c区 調査区北壁 I-I'



2c区 調査区東壁 J-J'

図69 2区 基本層序(I-I',J-J')



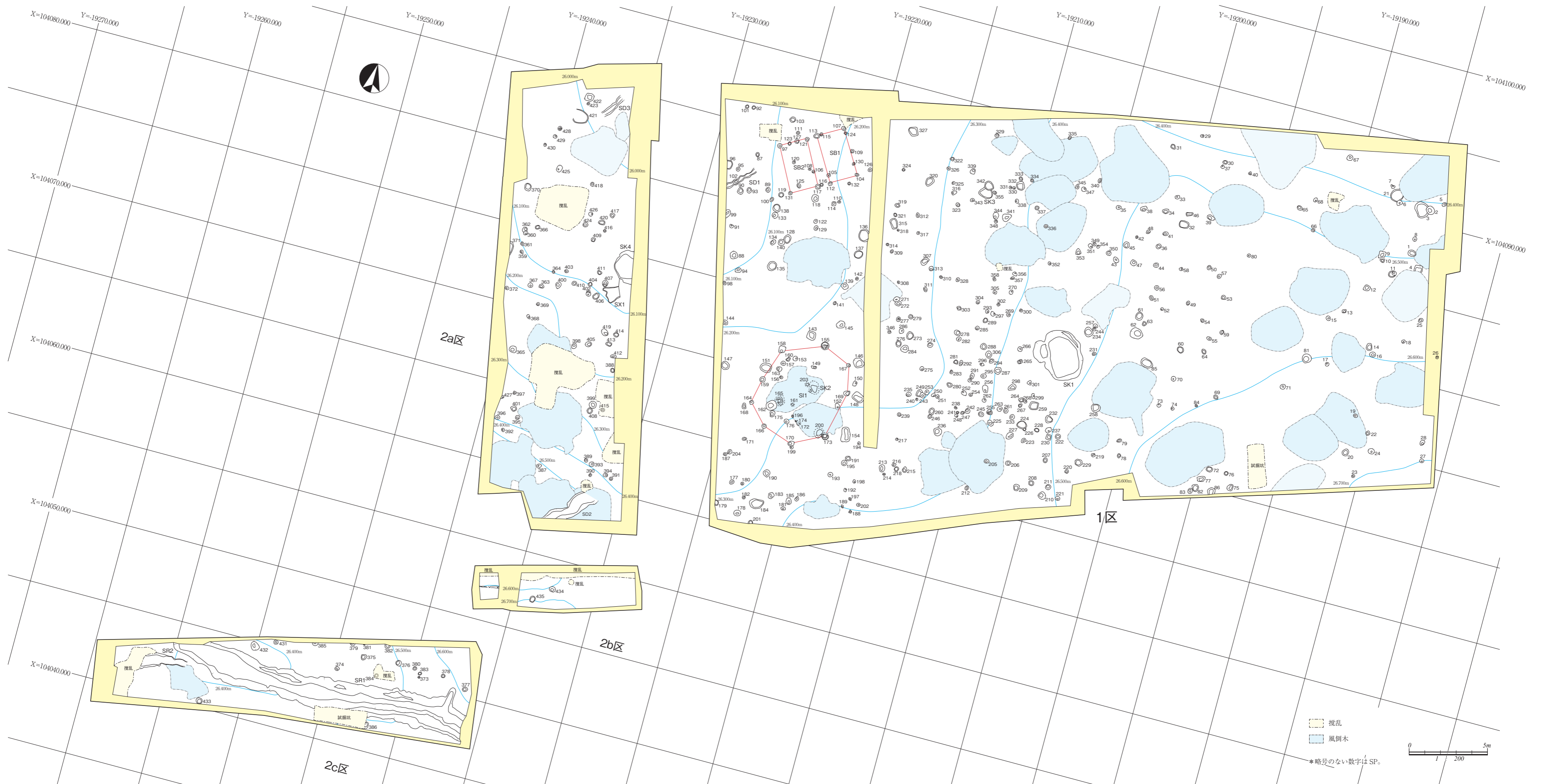


図70 1・2区 遺構配置図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、竪穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑3基・溝1条・小穴22穴・自然流路2条・性格不明遺構1基である。全てIII層上面で検出しており、これらの遺構は弥生時代前期末～中期前葉と考えられる。出土遺物には弥生土器壺・甕・鉢・蓋、石器がある。

2 竪穴建物

(1) SI1(図71・72)

遺構 SI1は1区西側にある竪穴建物である。調査では壁面の明確な立ち上がり等は捉えられなかったが、周辺の小穴に比べ明確に深い掘り方を持つ柱穴が環状に分布することから竪穴建物と認定した。主柱穴の配置より平面形は円形と推定され、規模等は不明であるが主柱穴の配置状況を勘案すると直径6mを超える可能性も考えられる。楕円状に配される主柱穴は9穴検出され、建物の柱構造は9本柱構造とみられる。主柱穴分布範囲の中央付近で中央土坑(SK2)を検出している。SK2は風倒木と重複しており、風倒木下位の皿状の窪みを中央土坑の残存として捉えたが、平面形や深さ等は不明である。また、SK2内および周辺でみられた焼土や炭化物は、風倒木の影響により元位置から若干移動しているものと想定される。土層はSK2が褐色または暗褐色粘質土で、柱穴は全て黒褐色粘質土である。SK2からは石鏃(121)が、土壌の洗浄を行ったところ総重量35.15gのサヌカイト製の剥片がまとまって出土している。確認面(III層)直上の包含層(II層)で弥生土器(169)が出土した。SI1の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代前期末と考えられる。

遺物 123はサヌカイト製の石鏃である。

3 掘立柱建物

(1) SB1(図73)

遺構 SB1は1区北西端にあり、検出標高は約26.19mである。1間×1間の側柱建物で、梁行1.78～1.8m・桁行3.12mである。長軸はN-30.7° -Wを指向し、SB2に近接する。各柱穴は直径26～30cmの円形もしくは不整形を呈し、検出面からの深さは13～27cmである。柱間は梁方向が178～180cm・桁方向が312cmである。柱穴の土層は黒褐色粘質土で、遺物は出土していない。SB1の時期は検出層位および周辺の状況より、弥生時代前期末～中期初頭の可能性がある。後述のSB2とは近接しており、規模・主軸ともに類似するが、屋根の重複関係を考えると両建物は同時並存していないものと考えられる。なお、柱穴が重複していないため両建物の前後関係は不明である。

(2) SB2(図74)

遺構 SB2は1区北西端にあり、検出標高は約26.12mである。1間×1間の側柱建物で、梁行1.8m・桁行3.11～3.13mの規模である。長軸はN-27.92° -Wを指向し、SB1に近接する。各柱穴は

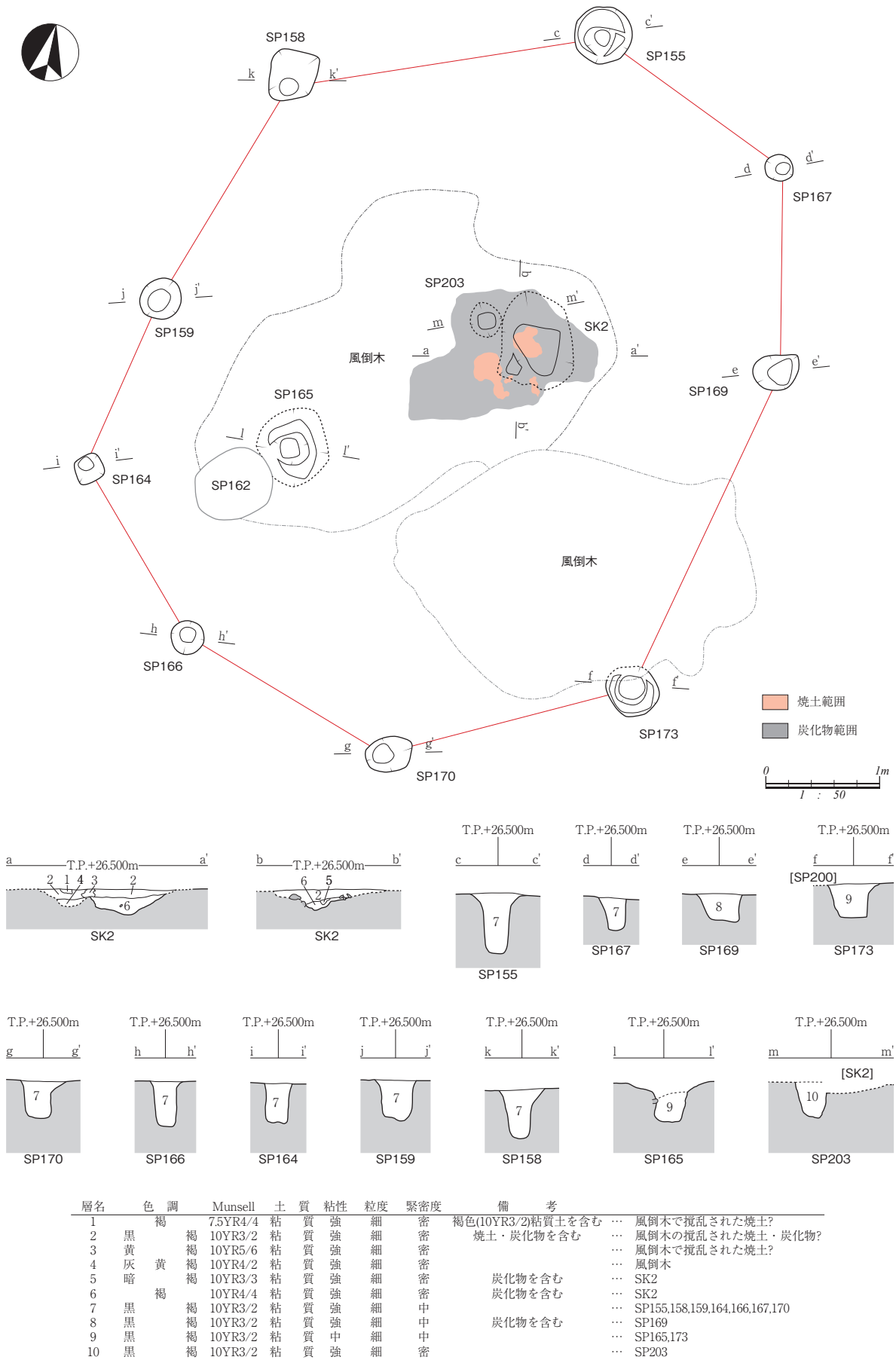


図71 S11断面図および焼土・炭化物出土状況

直径26～32cmの円形を呈し、検出面からの深さは13～20cmである。柱間は梁方向が179～180cm・桁方向が312cmである。柱穴の土層は黒褐色粘質土である。遺物は図示できるものは無いが、SP121より弥生土器の細片が2点出土している。SB2の時期は出土遺物や周辺の状況より、弥生時代前期末～中期初頭の可能性がある。

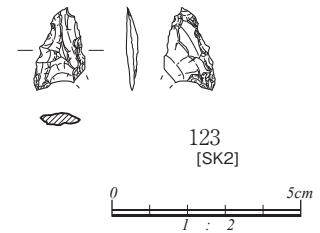


図72 SP11出土遺物

4 土坑

(1) SK1(図75～77)

遺構 SK1は1区中央付近にあり、検出標高は約26.53mである。長軸327cm・短軸304cm・検出面からの深さは30cmである。平面形は不整形な楕円形状を呈し、西側に半円形の浅い張り出しが付随する。張り出し部について別遺構の可能性も考えられたため精査を行なったが、重複関係は捉えられず遺物の分布状況や時期に明確な違いも認められなかった。長軸方向はN-61.06° -Wを指向する。土層は黒褐色ないしは暗褐色粘質土で炭化物を含む。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK1の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

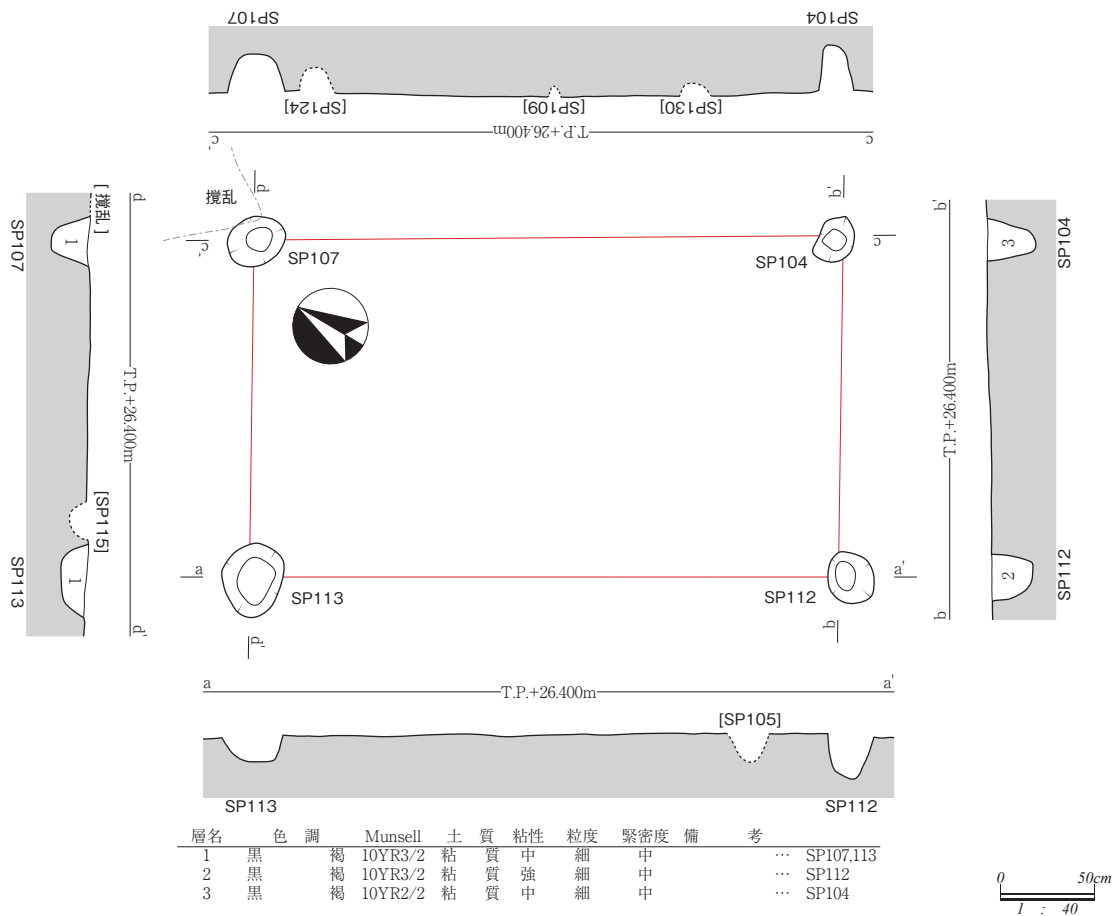


図73 SB1断面図

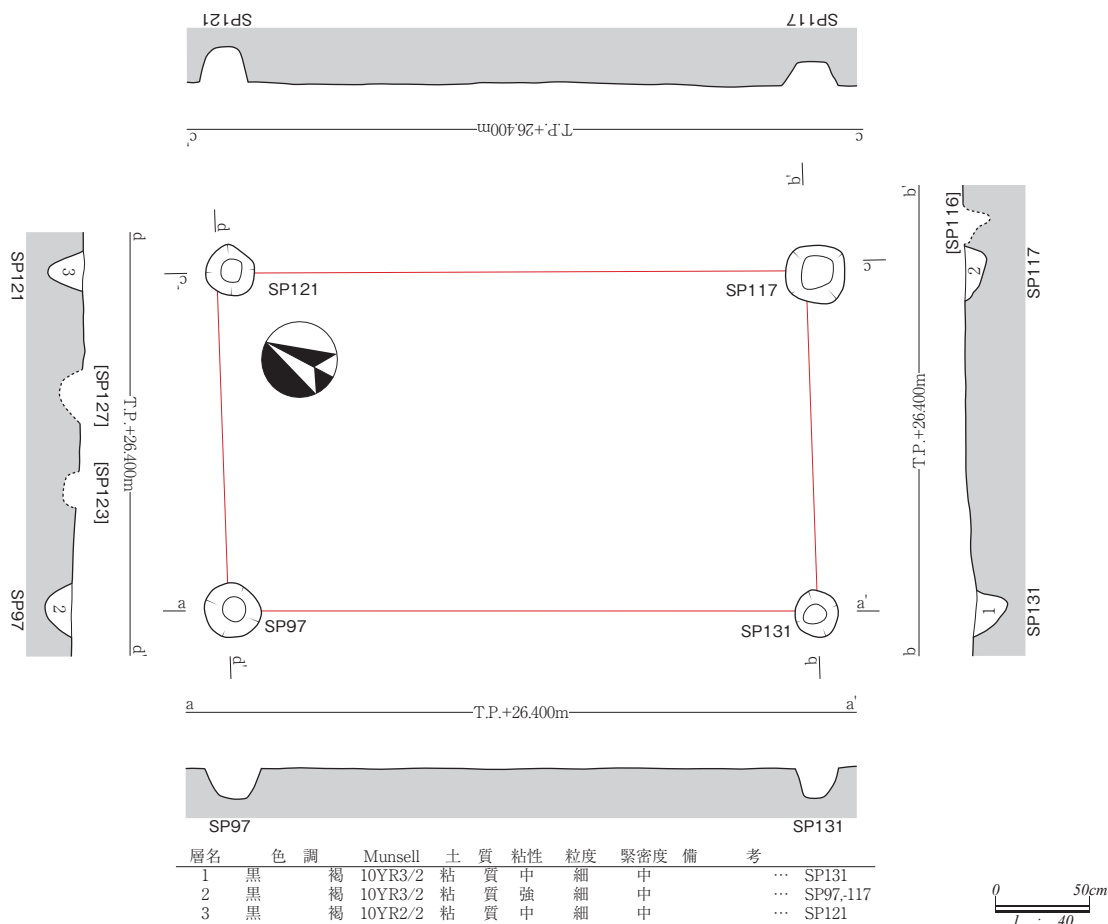


図74 SB2平面図

遺物 124～127は壺であり、口縁部内面に1～数条の貼付突帯文を巡らせる。124は頸部外面にも貼付突帯文が、口縁内外面には山形文が描かれる。127は壺の口頸部であり、頸部に3条の沈線が刻まれる。128～130は甕の口縁部で、いずれも貼付口縁である。130は上端面に山形文が描かれている。131は甕の底部である。外面には縦方向のミガキ、内面にナデが施される。132はサヌカイト製の石鏃である。133はサヌカイト製のスクレイパーである。134は緑色片岩製の敲石である。135はサヌカイト製の石錐の可能性はある。136～139は緑色片岩の石器素材である。

(2) SK4(図78)

遺構 SK4は2a区東壁際で検出され、一部は調査区外の東側へ続く。検出標高は約26.04mである。長軸200cm・短軸145cm、検出面からの深さは35cmある。平面形は不整形な楕円形と推定される。土層は黒褐色粘質土で炭化物を含む。弥生土器とともに礫が出土している。SK4の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 140～143は甕である。140は口縁部で端部に刻みが施される。141は胴部に横方向の沈線文や波状文がみられ、外面は縦、内面は横方向のミガキが施される。142・143は底部で、142は上げ底気味である。

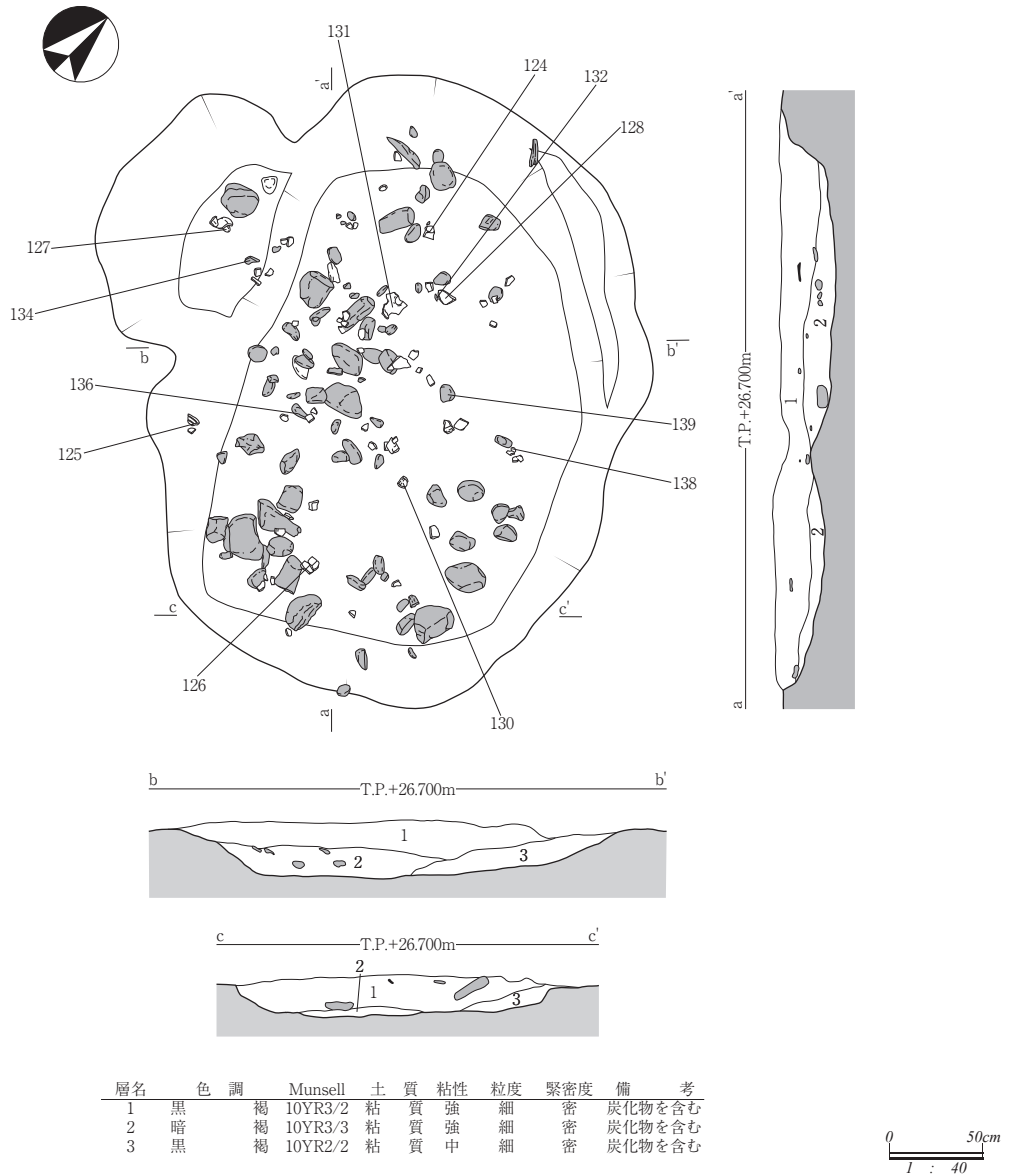


図75 SK1平断面図および遺物・礫出土状況

5 溝

(1) SD2(図79)

遺構 SD2は2a区南端部にあり、一部は調査区外の南側へ続く。検出標高は約26.45mである。風倒木よりもSD2が新しい。検出長130cm・最大幅40cm・検出面からの深さは最深部で8cmである。断面形は皿状で、長軸方向はN-45.88° -Eを指向する。遺物は弥生土器が出土している。SD2の時期は、検出層位と遺構の重複・出土遺物より弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 144は壺の底部である。

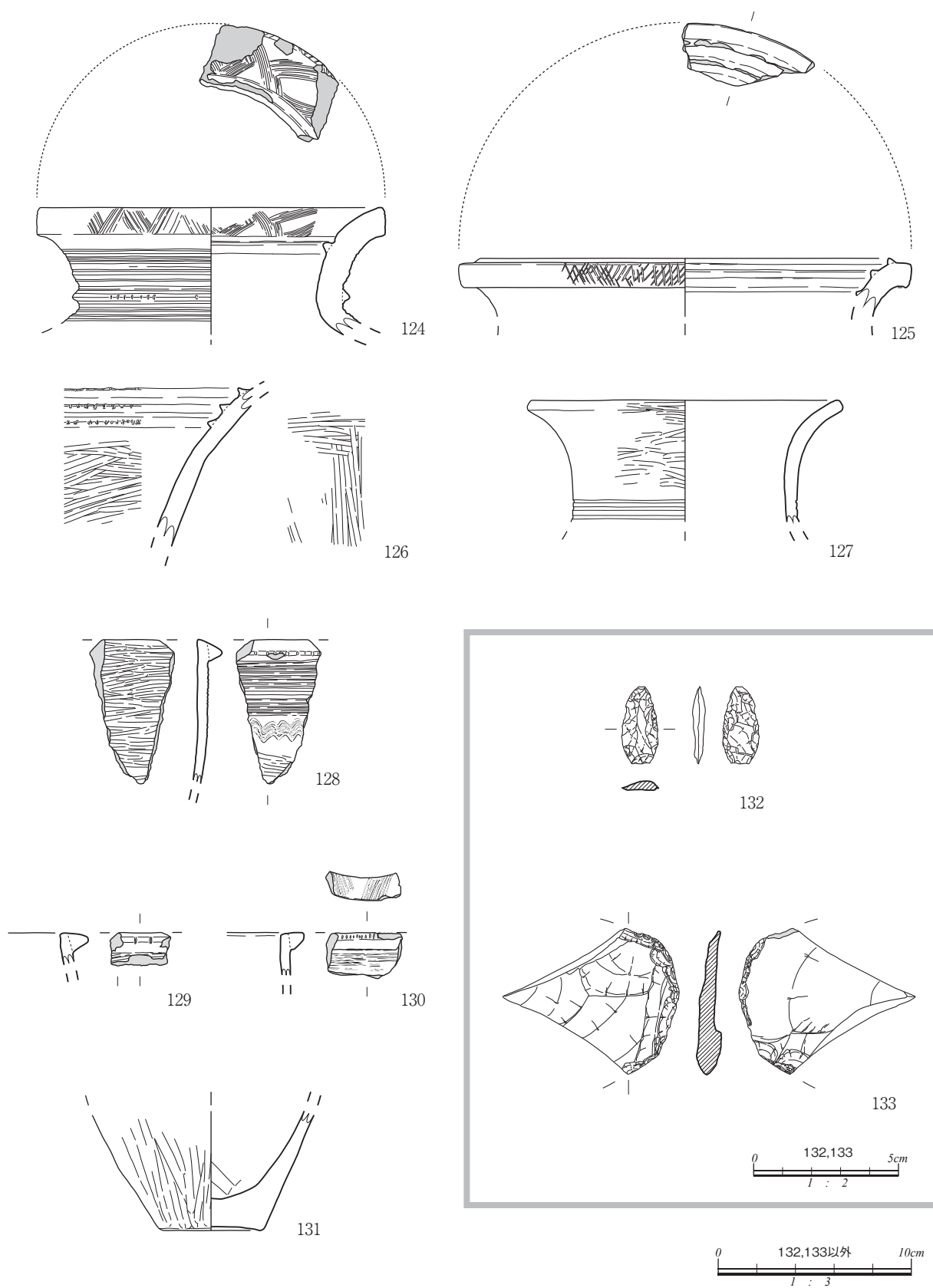


図76 SK1出土遺物(1)

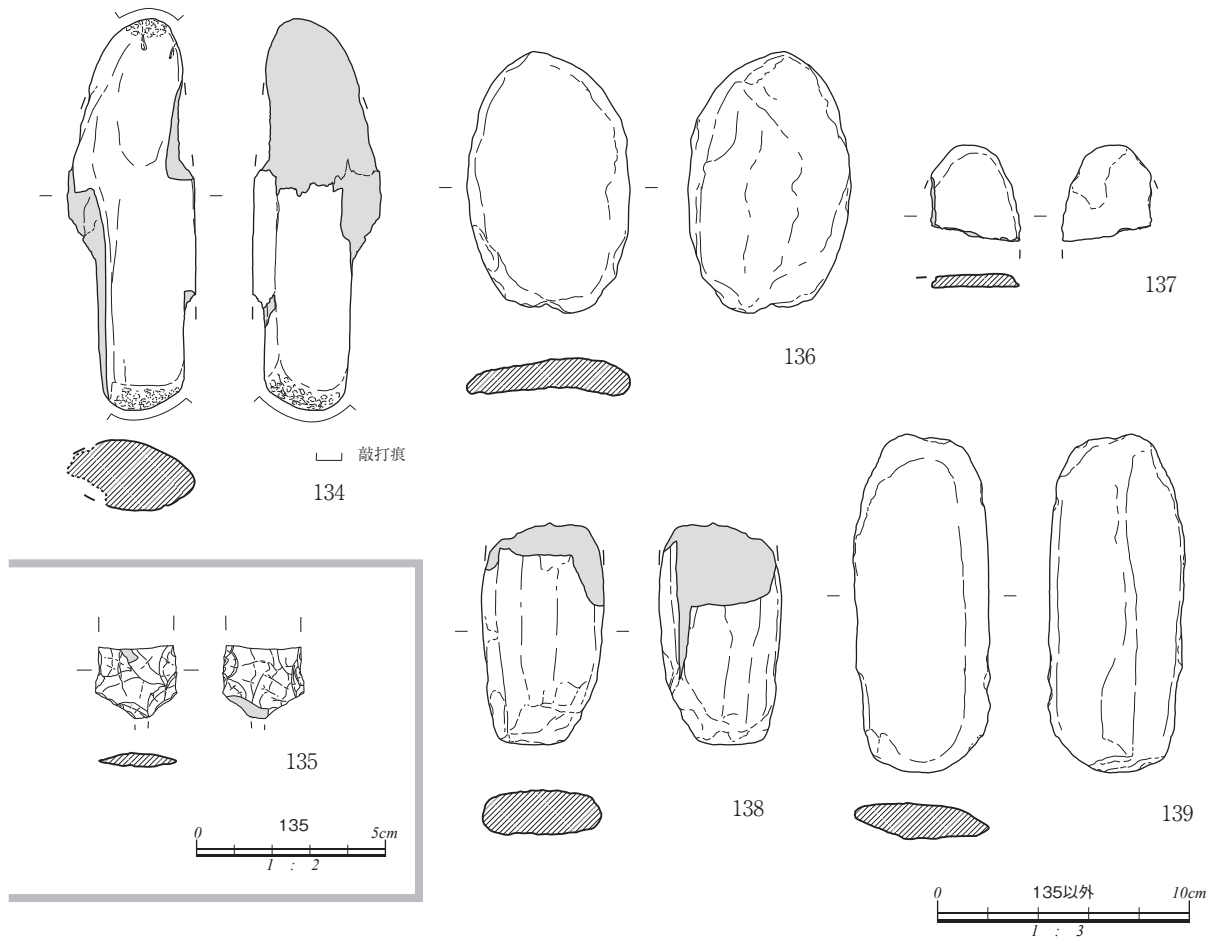


図77 SK1出土遺物(2)

6 小穴

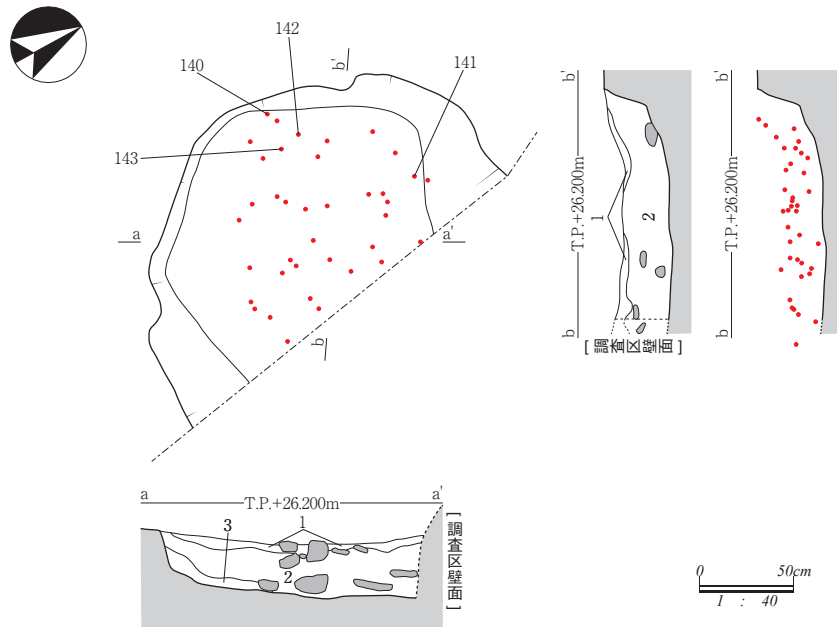
(1) SP72(図80)

遺構 SP72は1区南東側にあり、検出標高は約26.62mである。直径約37cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で10cm、断面形は皿状である。土層は黒褐色粘質土で、図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP72の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 145は甕の口縁部である。端部を刻み、胴部には沈線文がみられる。146は蓋の天井部である。内面下位に煤が付着している。

小穴の出土遺物(図81)

147はSP136より出土した壺の胴部である。貼付突帯圧痕文の上下に沈線文が巡る。148はSP162より出土したサヌカイト製の石核である。



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/1	粘質	中	中	中	黄灰色(2.5Y4/1)砂質土を1/3程度含む
2	黒	10YR3/2	粘質	強	細	密	土器片・炭化物を含む
3	黒	10YR2/2	粘質	強	細	中	極細砂を少量含む

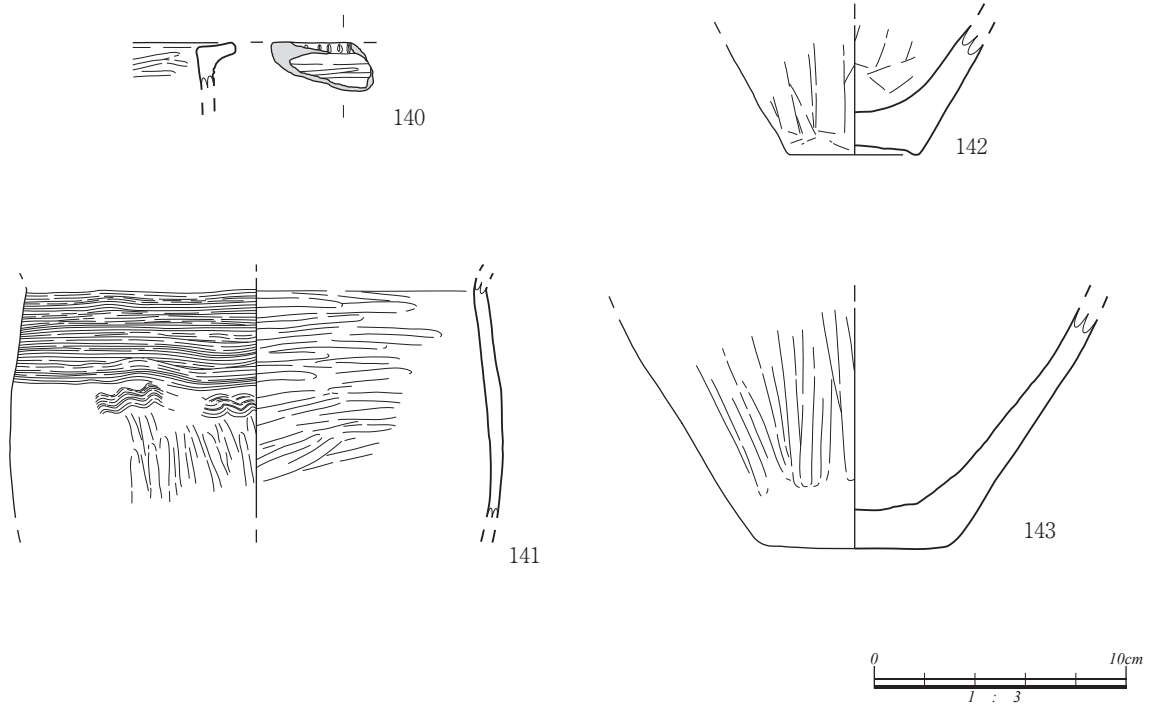


図78 SK4平断面図および遺物ドットおよび出土遺物

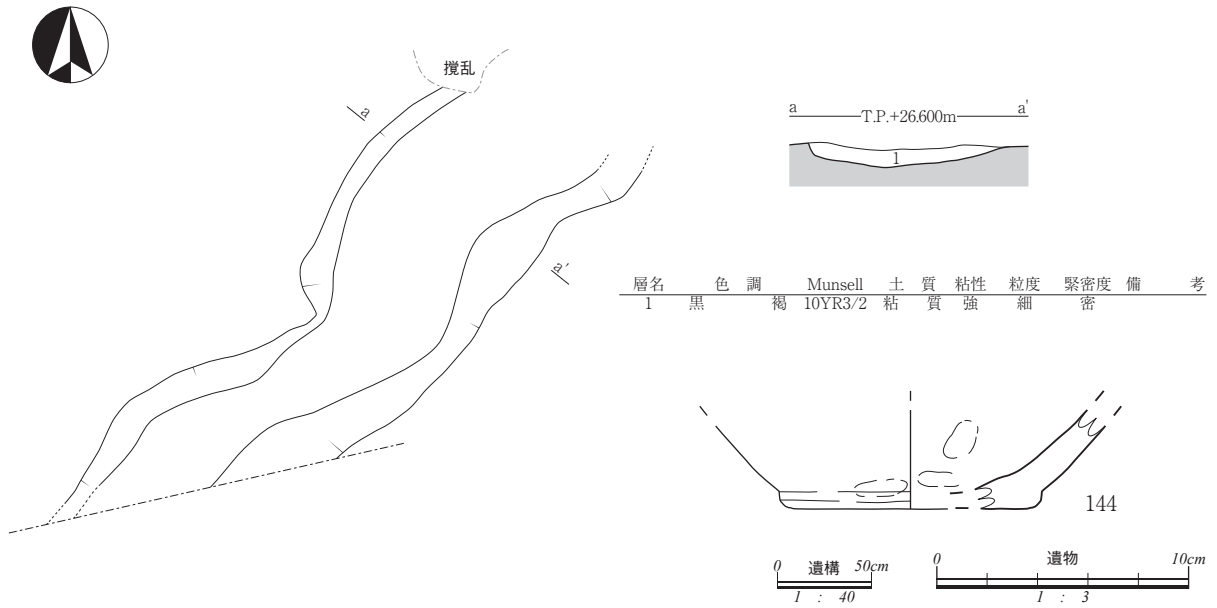


図79 SD2平断面図および出土遺物

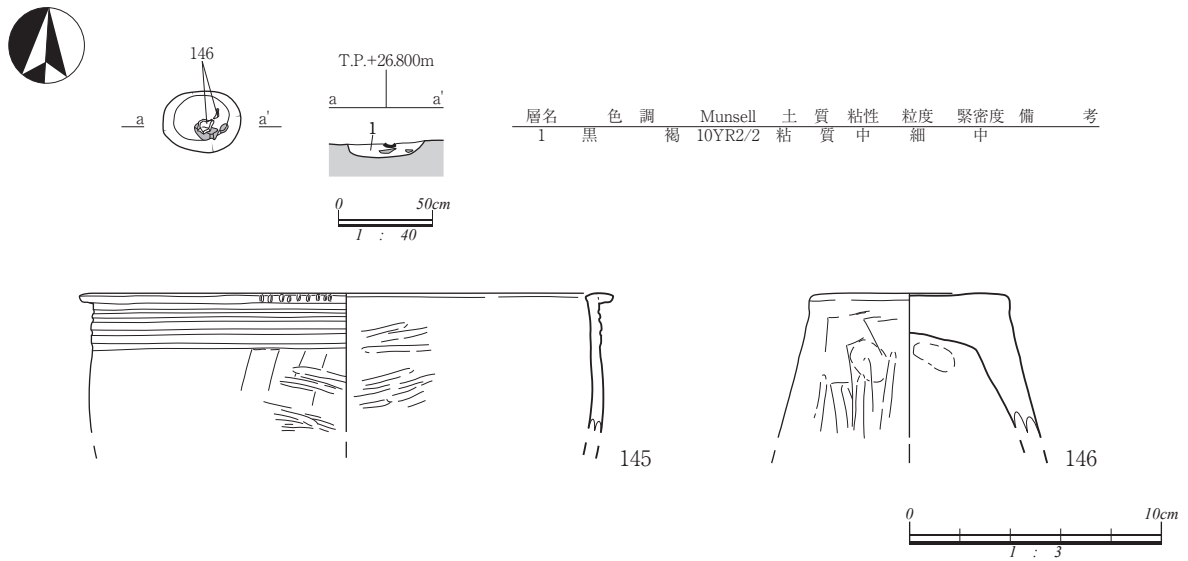


図80 SP72平断面図および遺物出土状況および出土遺物

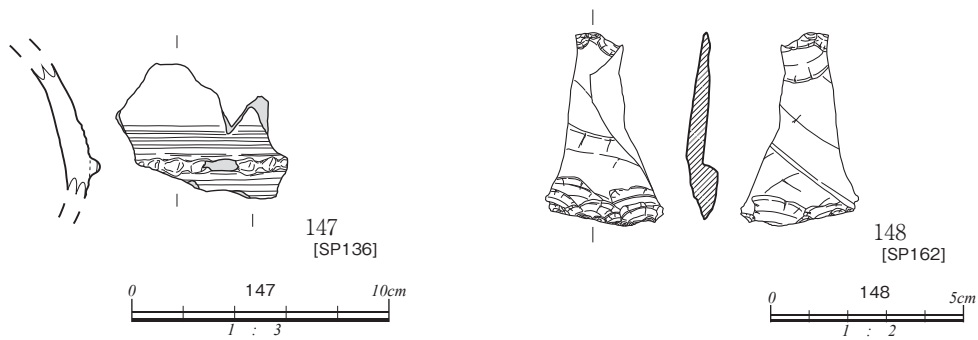


図81 その他SP出土遺物(弥生時代)

7 自然流路

(1) SR1(図82～84)

遺構 SR1は2c区で検出された小規模流路であり、検出標高は約26.4mである。検出長1,930cm・最大幅22cm・検出面からの深さは最深部で49cmである。断面形は皿状もしくは逆台形状であり、底面は流水による削平がみられるが、当初は平坦面を形成していた可能性がある。長軸方向はほぼ東西方向を指向し、若干北西および南東方向へ屈曲するものの、おおむね直線的である。礫を含む砂層が安定的に堆積しており、複数回の流水があったものとみられる。弥生土器が出土し、調査区中程に若干集中していた。SR1の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 149～151は大型壺である。149・150は口縁部である。頸部外面に3条の沈線文、口縁部内面には貼付突帯が巡る。外面は横方向のミガキもしくは指オサエ、内面では指オサエや横方向のミガキがみられる。151は胴部であり3条の沈線文が施される。149・150のいずれかと同一個体の可能性がある。152～154は壺である。152は口縁部で頸部に複数の沈線文が巡る。153・154は底部である。155～157は甕である。いずれも折り曲げ口縁である。155・157は口縁端部を刻んでいる。158は蓋でつまみ部に粘土紐を貼り付けており凹む。159は壺または鉢の口縁部である。

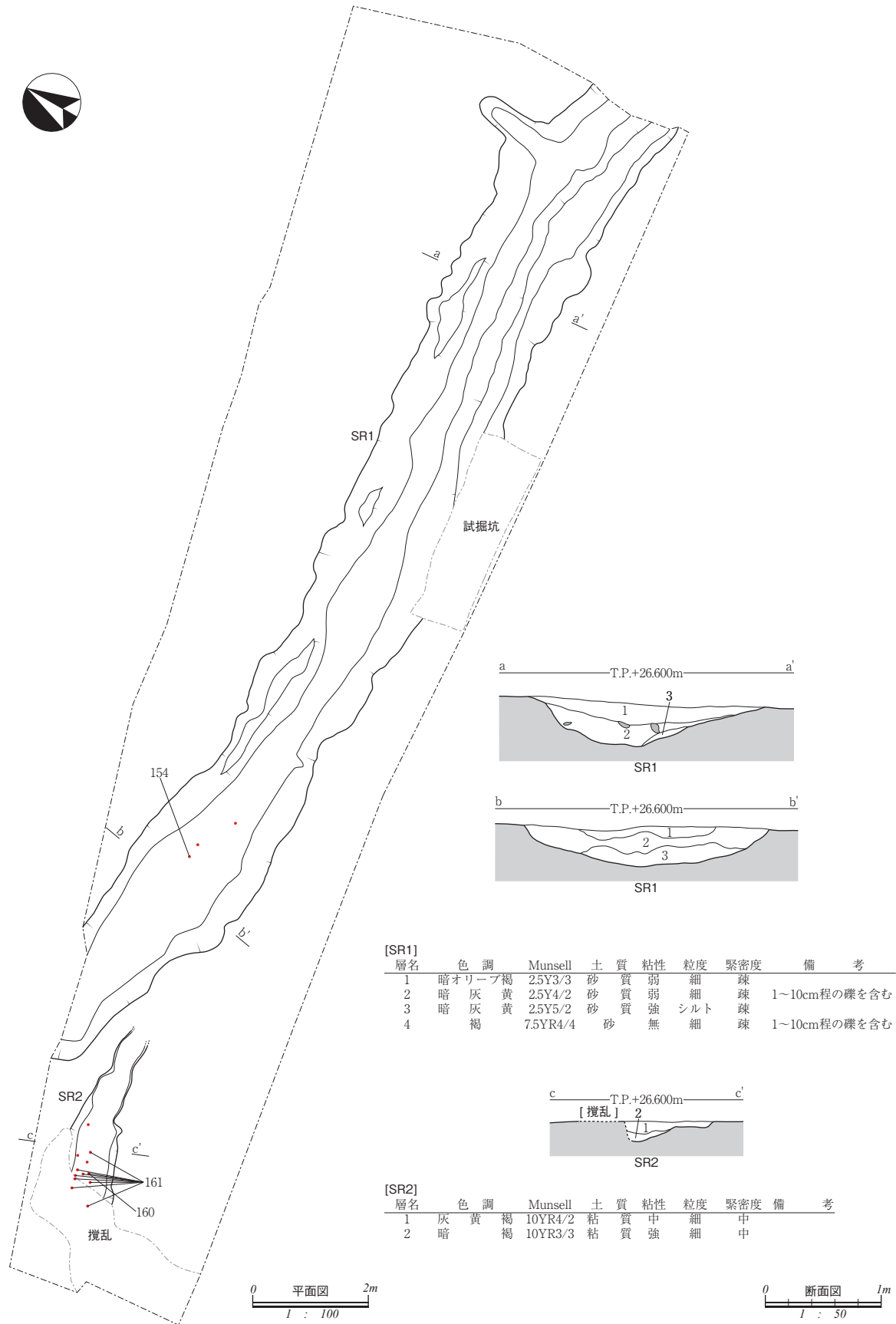
(2) SR2(図82・85)

遺構 SR2は2c区西側で検出された東西方向の小規模流路であり、検出標高は約26.41mである。検出長290cm・最大幅82cm・検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は不整形である。長軸方向はN-79.78° -Eを指向する。土層は粘質土であるが形状より流水があったものと考えられる。遺物は弥生土器が出土している。SR2の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 160は壺の口縁部である。外面に山形文が描かれる。161は甕の底部である。胴部に横方向の直線文や列点文が施される。

8 遺構外の出土遺物(図86～88)

162～170は1区より、171～178は2区より出土した。このうち平成29年度の試掘調査で、T10(1区相当)より167が、T8(2c区相当)より171・177が出土している。162～165は壺である。162は口縁部であり、内面に渦状もしくは複数の直線状の貼付突帯文が施される。また、頸部には穿孔が2箇所みられる。163は頸部で複数の貼付突帯文の上下には複数の沈線文が刻まれる。165は大型品の口縁部で、内面に貼付突帯文が巡る。頸部外面には4条の沈線文が刻まれる。166～168は甕の口縁部で、168は貼付口縁で端部を刻んでおり、それ以外は折り曲げ口縁で上端面に山形文が描かれている。169は甕の胴部で指オサエの後、外面は縦方向、内面は斜め方向のミガキが施される。SI1検出面直上で出土している。170は蓋の口縁部である。171～175は壺である。171は口縁部で頸部外面には5条の沈線が巡り、口縁内面の貼付突帯文は注口部を形成するものとみられる。172は頸部で、刻目をもつ2条の貼付突帯文が施される。174は頸部に5条の沈線文が巡る。175は底部で上げ底気味である。176は甕の口縁部で胴部に3条の沈線が巡る。177は鉢の口縁部と



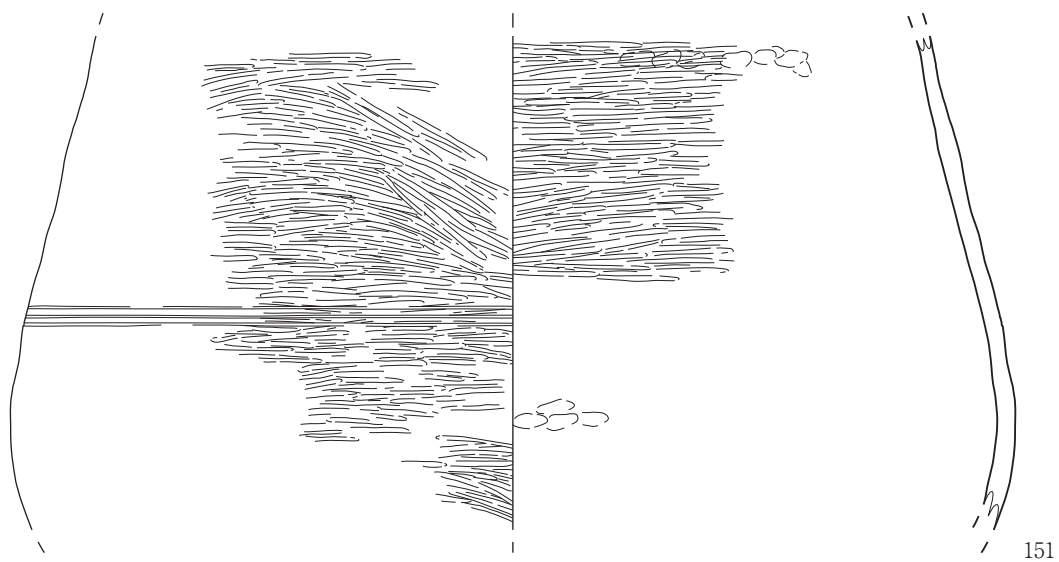
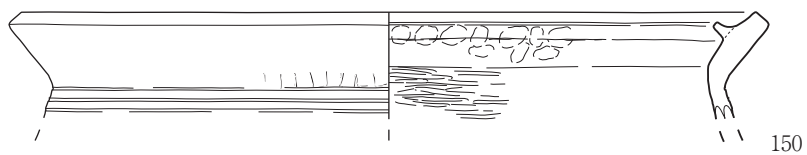
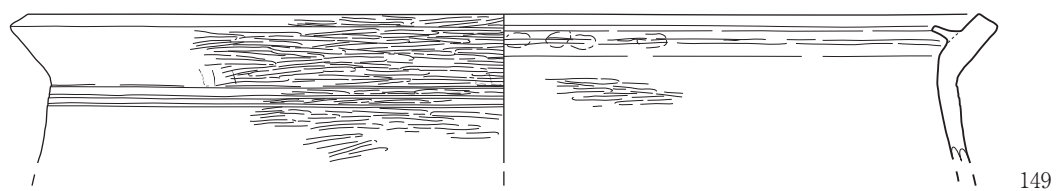
[SR1]

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	弱	細	疎	
2	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	細	疎	1~10cm程の礫を含む
3	暗灰黄	2.5Y5/2	砂質	強	シルト	疎	
4	褐	7.5YR4/4	砂	無	細	疎	1~10cm程の礫を含む

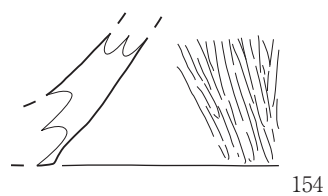
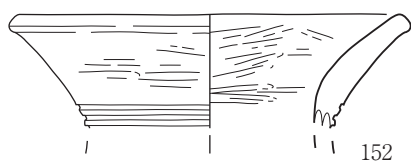
[SR2]

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰黄褐	10YR4/2	粘質	中	細	中	
2	暗褐	10YR3/3	粘質	強	細	中	

図82 SR1,2平面図および遺物ドット



0 149~151 10cm
1 : 5



0 149~151以外 10cm
1 : 3

図83 SR1出土遺物(1)

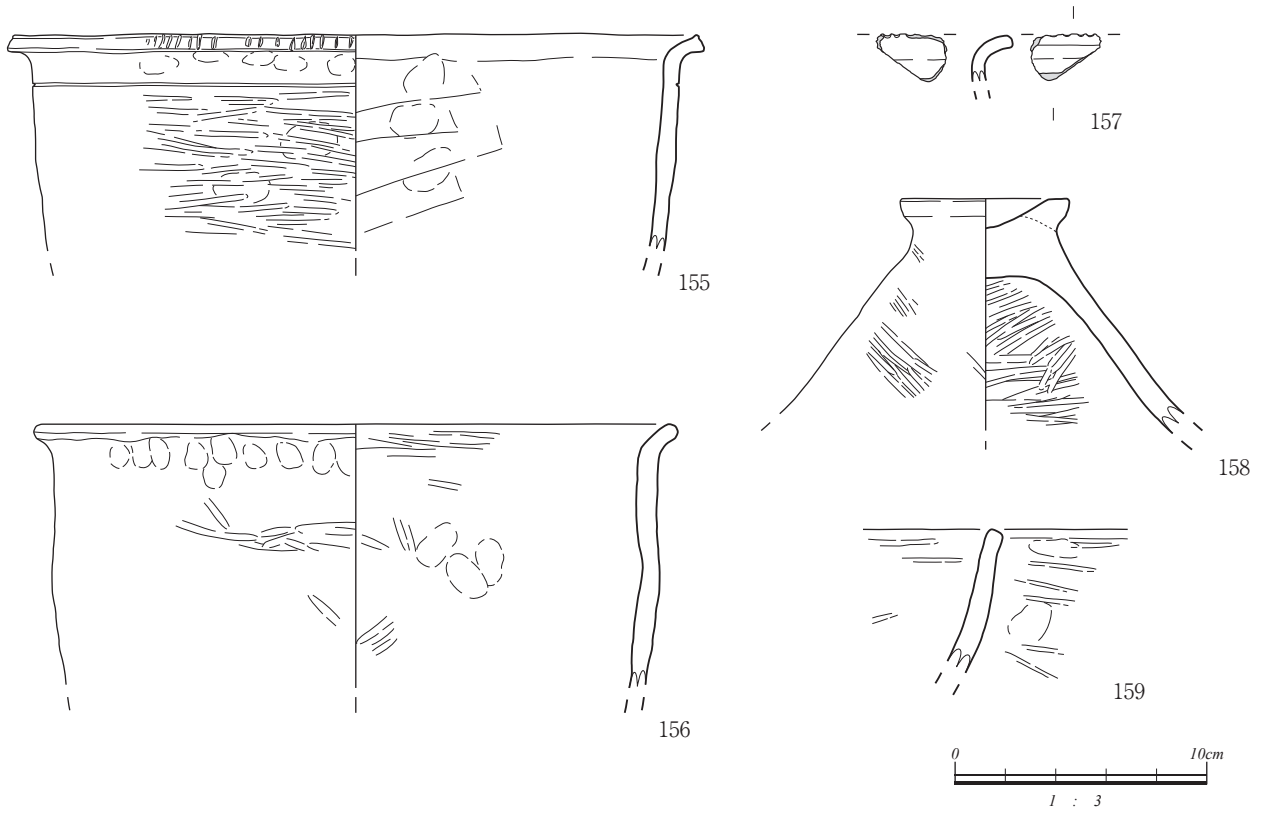


図84 SR1出土遺物(2)

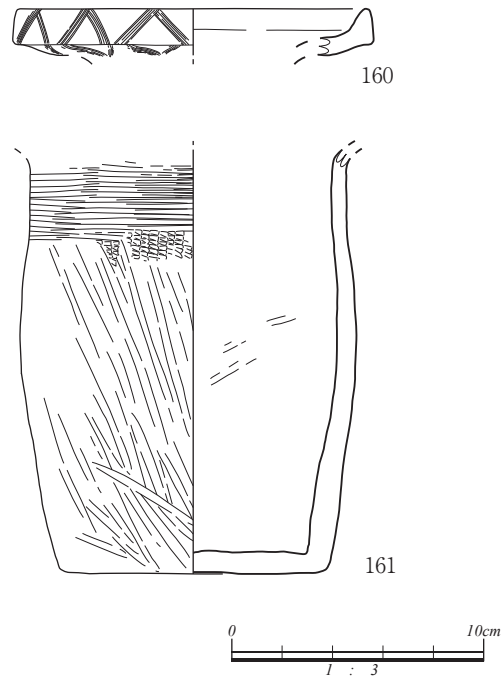


図85 SR2出土遺物

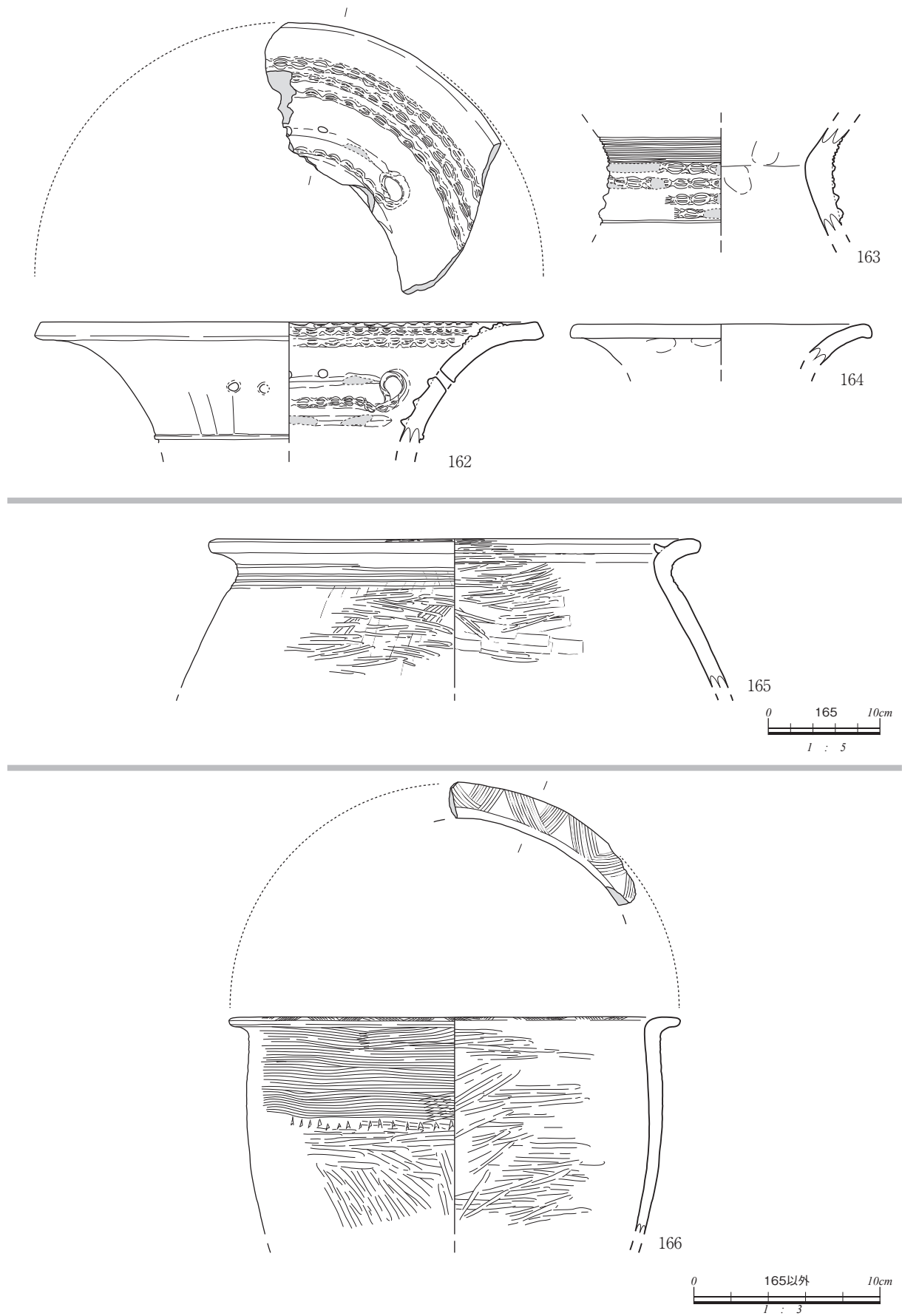


図86 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

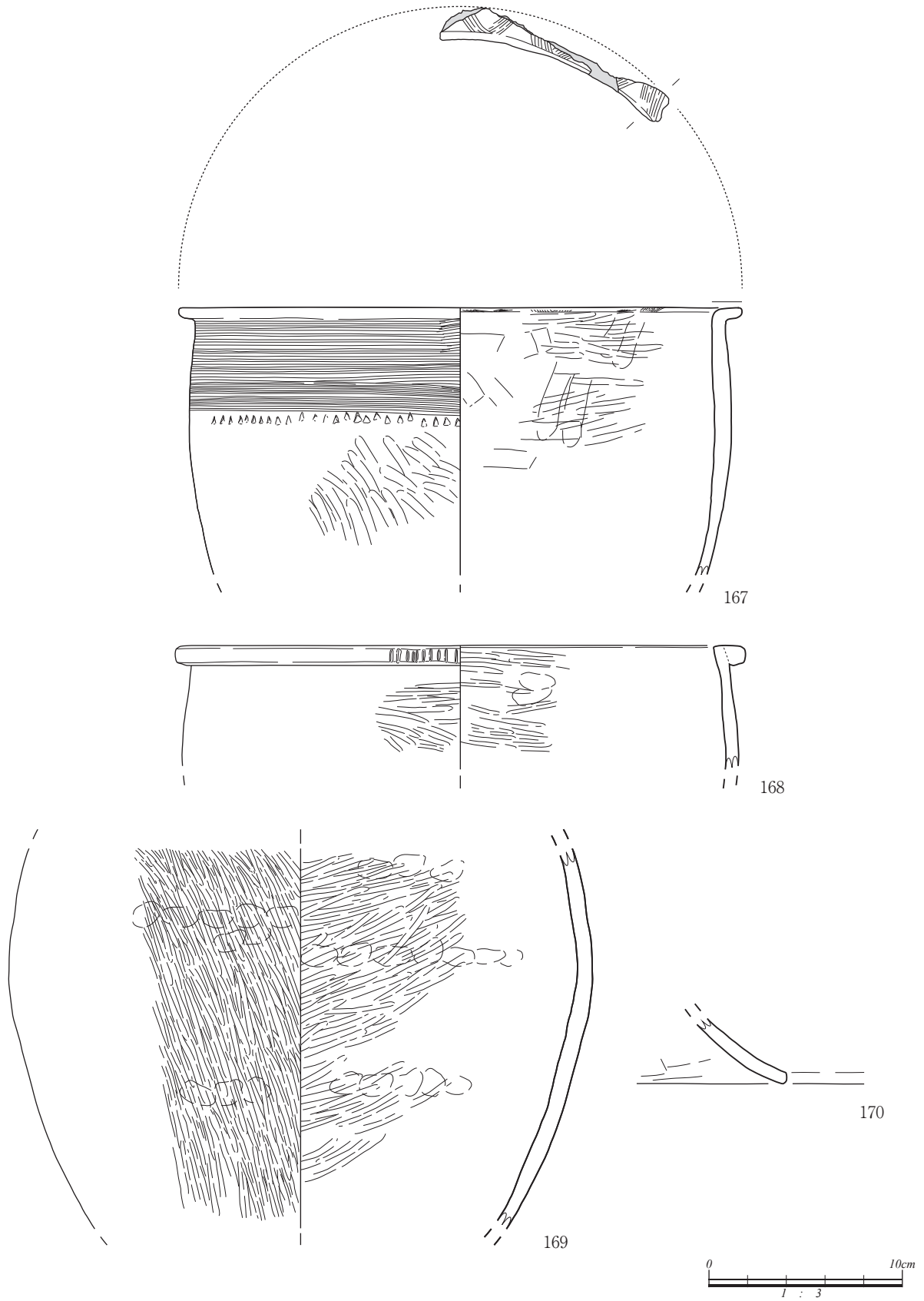


図87 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

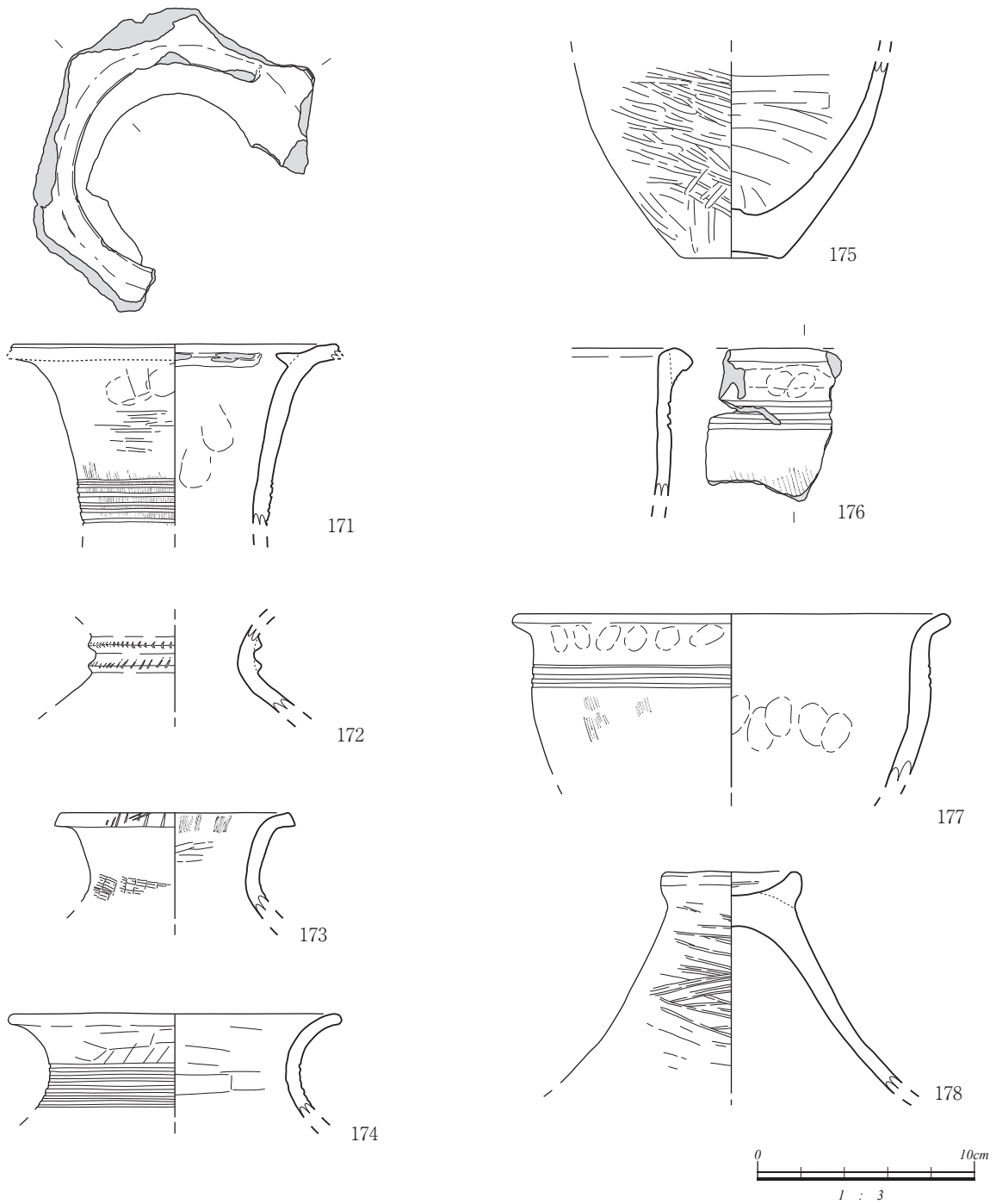


図88 包含層出土遺物(弥生時代) (3)

考えられ、折り曲げ口縁で胴部に3条の沈線を刻む。178は蓋である。天井部には粘土紐を貼り付けており凹む。

第3節 中世の遺物

1 遺構外の出土遺物(図89・90)

179～182は1区、183～184は2区、185は排土より出土した。179～182は土師質土器で、179は杯の口縁部である。180は皿の底部で回転糸切りである。181は15世紀頃の土釜の口縁部で、182は土釜の脚部である。183・184は瓦器碗の底部である。185は瀬戸美濃卸皿の底部と考えられる。見込み部には格子状に卸目が刻まれ、顕著な使用痕は認められない。

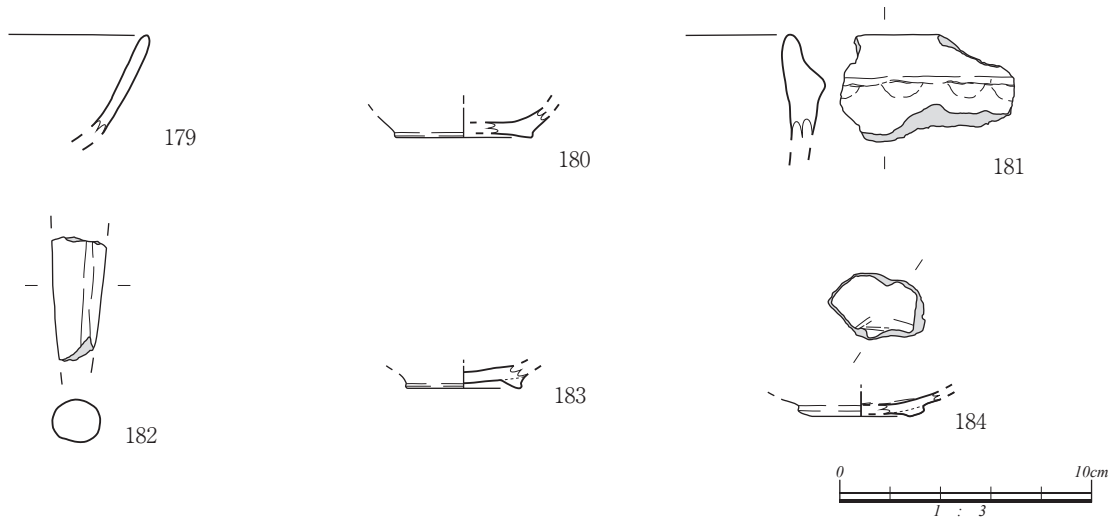


図89 包含層出土遺物(中世)

第4節 時期不明の遺構

1 土坑

(1) SK3(図91)

遺構 SK3は1区北東側で検出され、検出標高は約26.32mである。長軸90cm・短軸72cm・検出面からの深さは14cmであり、平面形は不整形を呈する。土層は黒褐色粘質土(1層)で一部に暗褐色粘質土(2層)を含む。遺物は出土していない。調査当初は当遺構を中央土坑とし、周辺のSP332等の小穴とともに埋土が遺存していない堅穴建物を想定していたが、根拠となる状況に欠け遺物もあまり出土しなかったため本報告では堅穴建物と認定していない。

2 溝

(1) SD1(図92)

遺構 SD1は1区北西端にあり、一部は調査区外の南西側へ続く。検出標高は約26.0mである。

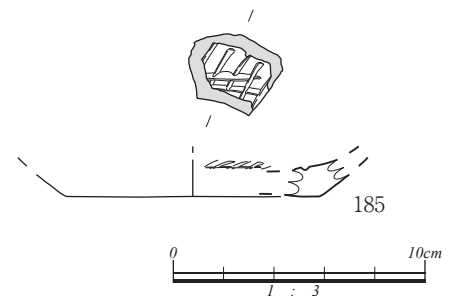
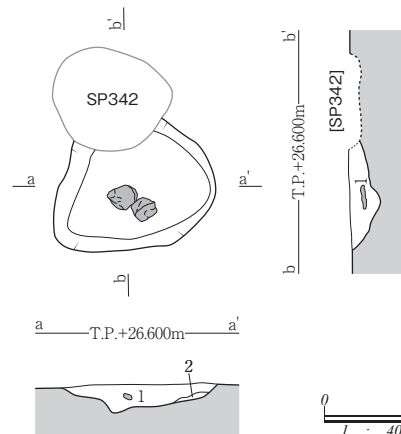


図90 出土地不明遺物(中世)



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	強	細	密	
2	暗	10YR3/3	粘質	強	細	中	

図91 SK3平断面図および礫出土状況

SP102よりもSD1が新しい。検出長200cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状であり、長軸方向はN-44.13° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(2)SD3(図92)

遺構 SD3は2a区北東隅にあり、検出標高は約25.98mである。検出長147cm・最大幅41cm・検出面からの深さは最深部で7cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-33.84° -Eを指向する。遺物は出土していない。

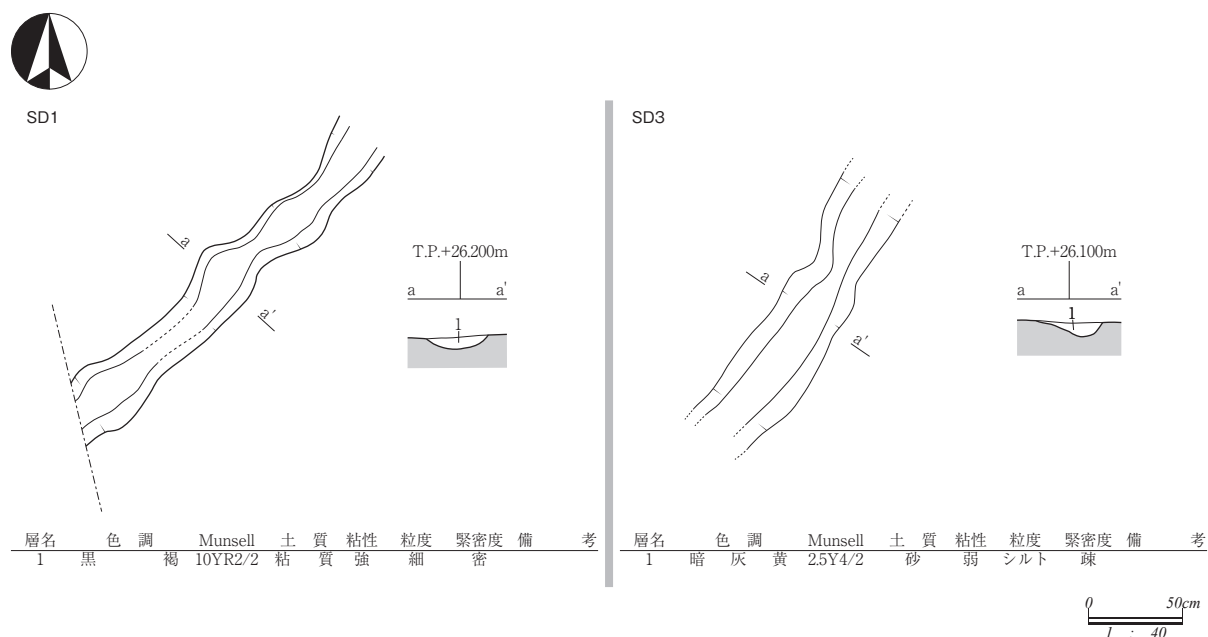


図92 SD1,3平断面図

3 小穴(図93)

遺構 時期を決定できる遺物がなく時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる4穴を掲載する。ここでは図を掲載するにとどめ、出土遺物以外の詳細は表7に記載する。

遺物 186はSP332より出土した砂岩製の砥石である。

4 性格不明遺構

(1) SX1(図94)

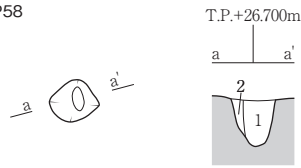
遺構 SX1は2a区東側にあり、検出標高は約25.92mである。東側はトレンチと重複しており、平面形は不整形である。長軸105cm・短軸100cm・検出面からの深さは最深部で12cmである。断面形は皿状である。土層は灰黄褐色粘質土であり遺物は出土していない。

第5節 時期不明の遺物(図95)

187は2区より出土した緑色片岩の石器素材である。

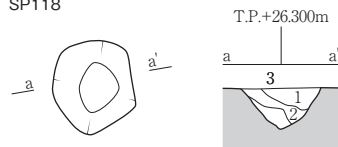


SP58



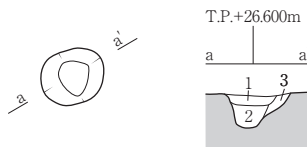
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
2	暗	10YR3/3	粘質	弱	細	中	

SP118



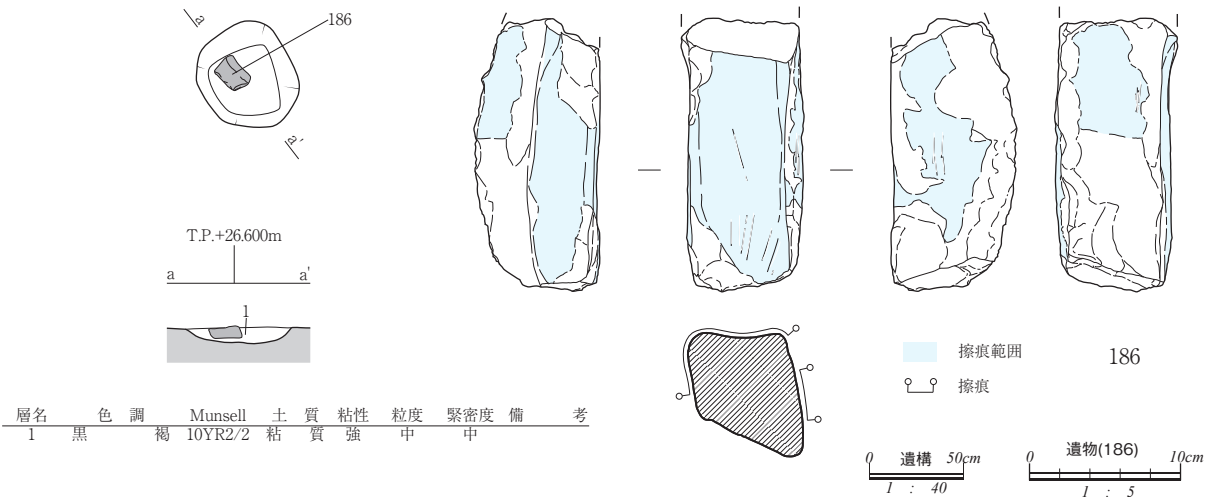
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
2	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む
3	黒	10YR3/2	粘質	中	細	中	

SP206



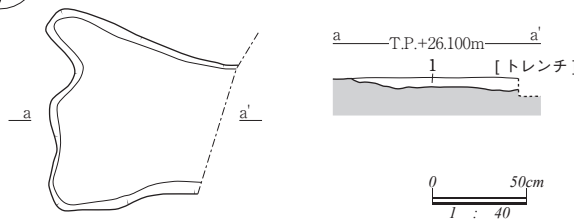
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗	10YR3/3	粘質	中	細	中	
2	にぶい黄	10YR4/3	粘質	弱	細	中	
3	黒	10YR2/2	粘質	中	中	中	

SP332



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	強	中	中	

図93 SP58,118,206,332平断面図および遺物出土状況および出土遺物



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰黄	10YR4/2	粘質	中	細	中	

図94 SX1平断面図

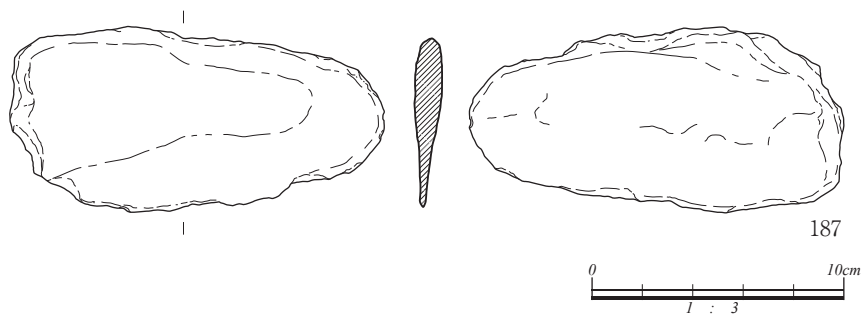


図95 包含層出土遺物(時期不明)

第6節 小結

中村田所東遺跡は弥生時代前期末～中期前葉(伊予東部地域II-1～3様式)の集落が中心となる(柴田2000a)。調査区東側では遺構・遺物が少なくなる傾向があり、同じく東側に位置する尻無川との影響が想定できることから、当集落は河川沿いの安定地形とは言い難く弥生時代における人的活動は広範囲には広がらないものと考えられる。また南側では小規模流路が検出されたのみであり、西側でも遺物量が少ない。よって当遺跡は尻無川左岸に近接する集落と位置付けられ、集落域は主に北方向へ展開している可能性がある。

竪穴建物SIIは明確な掘り方が捉えられなかった。当遺跡東側約1.5kmに所在する星原市東遺跡A区においても、やはり掘り方が不明瞭なSI-002があり、弥生時代前期末頃では構築当初から掘り方が不明瞭な構造も存在した可能性があると考えられる。

また、近接する掘立柱建物SB1・2については、方位や平面形が類似しており建て替えの可能性も想定できるが、柱穴の重複もなく時期決定の遺物も少ないことから、あくまで推定にとどまる。2区より出土した自然流路SR1はほぼ直線的であり、竪穴建物の約20m南側に位置している。

中世では、遺構は検出されなかったが包含層より遺物が出土した。中世前期の土師質土器・瓦器碗などが中心であり、細片であるが瀬戸美濃卸皿がみられた。



図96 中村田所東遺跡 現場作業 3



図97 中村田所東遺跡 現場作業 4

表6 主要遺構一覽

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

種 別	遺構名	平面形	長さ	幅	深さ	重 複 関 係	掲載遺物	図	図版
竪穴建物	SI1	不明	-	-	-	→SP200 ←SP162・風倒木		71	40
掘立柱 建物	SB1	長方	315.0	178.0	-			73	41
	SB2	長方	309.0	179.0	-			74	41
土坑	SK1	楕円	327.0	304.0	30.0		124~139	75	42
	SK2	楕円	80.0	62.0	21.0	←風倒木	123	71	40
	SK3	不整	90.0	(72.0)	14.0	←1区_SP342		91	43
	SK4	不整	(200.0)	(145.0)	35.0		140~143	78	41
溝	SD1	直線	200.0	37.0	5.0	→1区_SP102		92	43
	SD2	直線	130.0	26.0~ 40.0	5.0~ 8.0	→風倒木	144	79	43
	SD3	直線	147.0	41.0	2.0~ 7.0			92	43
自然流路	SR1	直線	1930.0	130~ 220	49.0		149~159	82	44
	SR2	直線	290.0	31.0~ 82.0	3.0~ 9.0	→風倒木	160,161	82	44
不明遺構	SX1	不整	(100.0)	105.0	12.0			94	43

《主要遺構一覽》

表7 柱穴一覧

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

(1/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP1	楕円	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	53.0	41.0	7.0	→風倒木			
SP2	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	56.0	47.0	9.0	→SP3			
SP3	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	104.0	86.0	10.0	←SP2			
SP4	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	51.0	[46.0]	9.0	←風倒木	土器を含む		
SP5	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	31.0	23.0	18.0				
SP6	方	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	36.0	26.0	25.0	→SP21			
SP7	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	21.0	13.0				
SP8	円	黒(10YR2/1)	粘質	強	細	中	29.0	26.0	27.0		灰黄褐色 (2.5Y4/2)粘質土 を含む		
SP9	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	59.0	47.0	8.0	→風倒木			
SP10	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	10.0				
SP11	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	52.0	42.0	23.0				
SP12	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	49.0	38.0	9.0				
SP13	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	21.0	13.0				
SP14	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	47.0	38.0	8.0				
SP15	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	32.0	27.0	21.0				
SP16	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	39.0	33.0	11.0				
SP17	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	13.0				
SP18	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	13.0				
SP19	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	29.0	23.0	13.0	→風倒木			
SP20	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	11.0				
SP21	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[80.0]	80.0	12.0	←SP6・風 倒木			
SP22	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	16.0	→風倒木			
SP23	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	22.0	13.0				
SP24	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	40.0	35.0	20.0				
SP25	円	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	14.0		土器を含む		
SP26	方	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	18.0	17.0	19.0				
SP27	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	28.0	19.0				
SP28	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	39.0	26.0	16.0				
SP29	隅丸方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	23.0	19.0	16.0				
SP30	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	31.0	23.0	11.0				
SP31	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	10.0				
SP32	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	64.0	48.0	17.0				
SP33	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	23.0	27.0				
SP34	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	42.0	31.0	23.0				
SP35	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	32.0	27.0	22.0				
SP36	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	29.0	22.0				
SP37	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	25.0	25.0	19.0				
SP38	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	43.0	30.0	27.0				
SP39	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	51.0	30.0	24.0				
SP40	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	23.0	21.0	15.0				
SP41	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	45.0	26.0	21.0				
SP42	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	17.0	16.0	13.0				
SP43	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	41.0	30.0	27.0				
SP44	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	34.0	29.0	33.0				
SP45	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	39.0	10.0				
SP46	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	45.0	25.0	19.0				
SP47	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	24.0				
SP48	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	21.0	14.0				
SP49	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	29.0	22.0	14.0				
SP50	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	14.0				
SP51	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	23.0	16.0				
SP52	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	12.0				
SP53	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	8.0				
SP54	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	20.0		にぶい黄褐色 (10YR4/3)粘質土 を含む		
SP55	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	32.0	22.0	19.0				
SP56	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	31.0	29.0	23.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (2/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP57	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	11.0				
SP58	方	黒褐(10YR2/2)	粘質				22.0	19.0	23.0			93	
SP59	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	13.0				
SP60	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	44.0	37.0	13.0				
SP61	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	54.0	45.0	10.0				
SP62	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	82.0	66.0	13.0		土器を含む		
SP63	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	26.0	10.0				
SP64	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	27.0	18.0				
SP65	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	27.0	7.0		褐色(10YR4/4)粘質土、土器を含む		
SP66	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	25.0	21.0	25.0				
SP67	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	42.0	37.0	25.0				
SP68	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	30.0	23.0	20.0				
SP69	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	27.0	15.0				
SP70	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	29.0	28.0				
SP71	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	19.0				
SP72	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	37.0	32.0	10.0		土器を含む	80	44
SP73	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	31.0				
SP74	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	10.0				
SP75	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	43.0	38.0	28.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP76	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	27.0	27.0	8.0				
SP77	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	51.0	34.0	16.0				
SP78	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	11.0				
SP79	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	21.0	14.0				
SP80	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	27.0				
SP81	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	61.0	59.0	16.0		土器を含む		
SP82	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	47.0	41.0	15.0				
SP83	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	29.0	14.0		土器を含む		
SP84	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	17.0	17.0	22.0				
SP85	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	82.0	54.0	17.0				
SP86	円?	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	49.0	[40.0]	13.0				
SP87	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	23.0	15.0		炭化物を含む		
SP88	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	50.0	47.0	10.0				
SP89	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	35.0	30.0	11.0				
SP90	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	37.0	8.0				
SP91	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	26.0	22.0	10.0				
SP92	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	31.0	26.0	8.0				
SP93	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	31.0	8.0				
SP94	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	40.0	32.0	12.0				
SP95	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	26.0	25.0	23.0				
SP96	円?	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	59.0	[41.0]	8.0				
SP97	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	28.0	15.0		SB2 / 炭化物を含む		
SP98	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	20.0	11.0				
SP99	楕円?	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[53.0]	[41.0]	20.0				
SP100	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	23.0	19.0				
SP101	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	23.0	23.0	10.0				
SP102	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	37.0	17.0	←SD1			
SP103	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	37.0	34.0	8.0				
SP104	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	27.0		SB1		
SP105	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	24.0	16.0				
SP106	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	10.0				
SP107	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	26.0	20.0		SB1		
SP108	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	15.0				
SP109	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	22.0	13.0				
SP110	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	19.0	11.0				
SP111	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	9.0				
SP112	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	25.0	24.0		SB1		
SP113	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	34.0	13.0		SB1		

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP114	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	28.0	12.0				
SP115	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	9.0				
SP116	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	22.0	9.0				
SP117	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	31.0	13.0		SB2		
SP118	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	50.0	44.0	20.0			93	
SP119	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	32.0	10.0				
SP120	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	15.0				
SP121	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	27.0	20.0		SB2 / 土器を含む		
SP122	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	24.0	19.0				
SP123	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	8.0				
SP124	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	14.0				
SP125	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	24.0	9.0				
SP126	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	21.0				
SP127	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	28.0	12.0				
SP128	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	56.0	44.0	13.0	→SP140			
SP129	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	26.0	16.0				
SP130	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	9.0				
SP131	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	16.0		SB2 / 炭化物を含む		
SP132	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	21.0	20.0	6.0				
SP133	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	37.0	11.0				
SP134	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	40.0	26.0	13.0				
SP135	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	64.0	59.0	35.0		土器を含む		
SP136	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	78.0	[60.0]	11.0		土器・炭化物を含む		
SP137	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	50.0	8.0				
SP138	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	50.0	50.0	18.0				
SP139	方	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	43.0	40.0	12.0				
SP140	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	40.0	9.0	←SP128			
SP141	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	14.0				
SP142	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	19.0	11.0				
SP143	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	56.0	56.0	10.0		土器を含む		
SP144	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[33.0]	30.0	21.0				
SP145	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	55.0	47.0	11.0				
SP146	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	64.0	63.0	7.0		炭化物を含む		
SP147	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	55.0	52.0	7.0				
SP148	長方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	76.0	55.0	12.0				
SP149	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	17.0	12.0				
SP150	長方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	24.0	15.0				
SP151	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	75.0	61.0	12.0				
SP152	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	44.0	29.0	17.0	←風倒木			
SP153	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	31.0	17.0				
SP154	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	94.0	63.0	14.0				
SP155	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	52.0	50.0	50.0		SI1 / 土器を含む	71	
SP156	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	20.0	16.0				
SP157	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	31.0	29.0	19.0				
SP158	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	40.0		SI1 / 土器を含む	71	
SP159	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	35.0	37.0		SI1 / 土器を含む	71	
SP160	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	30.0	22.0	10.0				
SP161	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	24.0	8.0	←風倒木			
SP162	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	70.0	60.0	9.0	→SP165 (SI1)・風倒木	土器・炭化物を含む		
SP163	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	18.0				
SP164	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	25.0	40.0		SI1	71	
SP165	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	61.0	35.0	←SP162・ 風倒木	SI1	71	
SP166	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	30.0	41.0		SI1 / 土器を含む	71	
SP167	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	25.0	29.0		SI1	71	
SP168	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	25.0	17.0		土器を含む		

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (4/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP169	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	42.0	33.0	24.0		SI1 / 炭化物を含む	71	
SP170	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	32.0	33.0		SI1 / 土器を含む	71	40
SP171	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	21.0	16.0				
SP172	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	26.0	21.0	17.0	←風倒木	土器を含む		
SP173	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	49.0	46.0	31.0	→SP200 ←風倒木	SI1	71	
SP174	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	13.0	9.0	←風倒木			
SP175	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	34.0	11.0				
SP176	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	30.0	13.0				
SP177	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	33.0	27.0	9.0				
SP178	橢円	黒褐(10YR3/1)	粘質	中	細	中	45.0	38.0	16.0				
SP179	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	36.0	[22.0]	12.0				
SP180	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	21.0	21.0	25.0				
SP181	長方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	21.0	9.0				
SP182	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	12.0				
SP183	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	42.0	36.0	9.0		土器を含む		
SP184	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	93.0	64.0	9.0				
SP185	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	44.0	35.0	14.0				
SP186	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	26.0	20.0		炭化物を含む		
SP187	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	26.0	19.0	17.0		土器を含む		
SP188	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	17.0	19.0				
SP189	橢円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	14.0	15.0				
SP190	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	49.0	44.0	17.0				
SP191	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	34.0	9.0				
SP192	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	18.0	16.0				
SP193	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	33.0	30.0	28.0		土器を含む		
SP194	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	19.0	15.0				
SP195	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	35.0	32.0	8.0				
SP196	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	15.0	10.0	←風倒木			
SP197	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	19.0	18.0	11.0				
SP198	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	19.0	16.0				
SP199	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	20.0	10.0				
SP200	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	58.0	[50.0]	14.0	←SP173 (SI1)・風倒木			
SP201	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	30.0	[22.0]	13.0				
SP202	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP203	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	32.0	28.0	24.0	←風倒木	SI1		
SP204	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	31.0	26.0	10.0				
SP205	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	34.0	26.0	18.0	→風倒木			
SP206	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	36.0	30.0	18.0			93	
SP207	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	29.0	10.0				
SP208	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	33.0	15.0				
SP209	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	43.0	38.0	10.0				
SP210	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	48.0	46.0	9.0				
SP211	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	34.0	13.0				
SP212	橢円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	23.0	10.0				
SP213	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	47.0	36.0	12.0				
SP214	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	20.0	16.0	15.0				
SP215	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	39.0	29.0	12.0				
SP216	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	27.0	21.0	9.0				
SP217	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	中	18.0	18.0	23.0				
SP218	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	30.0	28.0	15.0				
SP219	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	25.0	25.0	14.0				
SP220	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	25.0	24.0	12.0				
SP221	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	32.0	27.0	15.0				
SP222	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	弱	細	中	35.0	34.0	9.0				
SP223	橢円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	35.0	25.0	16.0				
SP224	橢円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	67.0	50.0	7.0	→SP226			

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP225	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	中	44.0	31.0	19.0				
SP226	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	22.0	[17.0]	8.0	←SP224			
SP227	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	53.0	39.0	21.0				
SP228	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	弱	細	中	32.0	25.0	8.0				
SP229	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	52.0	44.0	9.0				
SP230	方	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	34.0	34.0	14.0		褐色(10YR4/4)粘質土ブロックを含む		
SP231	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	26.0	21.0	12.0				
SP232	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	49.0	47.0	13.0				
SP233	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	35.0	31.0	29.0				
SP234	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	60.0	53.0	14.0				
SP235	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	29.0	11.0				
SP236	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	54.0	51.0	14.0				
SP237	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	43.0	30.0	16.0				
SP238	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	21.0	17.0	11.0				
SP239	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	25.0	25.0	27.0		土器を含む		
SP240	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	15.0	11.0				
SP241	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	20.0	18.0	8.0				
SP242	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	10.0				
SP243	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	36.0	30.0	19.0	→SP249			
SP244	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	23.0	20.0	30.0				
SP245	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	36.0	32.0	19.0				
SP246	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	31.0	25.0	14.0	→SP260			
SP247	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	9.0				
SP248	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	19.0				
SP249	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	48.0	[35.0]	12.0	←SP243	褐色(10YR4/4)粘質土ブロックを含む		
SP250	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	29.0	19.0	16.0				
SP251	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	14.0				
SP252	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	29.0	16.0				
SP253	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	34.0	27.0	16.0				
SP254	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	25.0	23.0	9.0				
SP255	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	20.0				
SP256	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	52.0	35.0	18.0				
SP257	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	31.0	26.0	23.0				
SP258	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	59.0	54.0	8.0	→風倒木			
SP259	方	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	中	中	60.0	51.0	7.0				
SP260	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	46.0	35.0	16.0	←SP246			
SP261	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	15.0				
SP262	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	26.0	21.0				
SP263	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	30.0	21.0				
SP264	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	27.0	12.0				
SP265	長方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	18.0				
SP266	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	31.0	14.0				
SP267	不整	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	弱	細	中	26.0	23.0	8.0				
SP268	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	20.0	20.0	11.0				
SP269	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	18.0				
SP270	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	14.0				
SP271	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	43.0	32.0	15.0	→SP272・風倒木			
SP272	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	32.0	8.0	←SP271			
SP273	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	51.0	45.0	7.0				
SP274	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	30.0	20.0				
SP275	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	25.0				
SP276	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	36.0	13.0				
SP277	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	25.0	22.0				
SP278	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	45.0	38.0	11.0				
SP279	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	31.0	28.0	14.0				
SP280	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	29.0	14.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (6/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP281	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	26.0	17.0				
SP282	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	32.0	29.0	16.0				
SP283	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	20.0	9.0				
SP284	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	52.0	48.0	17.0				
SP285	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	17.0				
SP286	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	31.0	31.0	17.0				
SP287	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	49.0	44.0	13.0				
SP288	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	39.0	12.0				
SP289	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	35.0	29.0	17.0				
SP290	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	13.0				
SP291	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	36.0	26.0	23.0				
SP292	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	38.0	21.0	12.0				
SP293	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	21.0				
SP294	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	35.0	30.0	10.0				
SP295	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	29.0	10.0				
SP296	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	20.0	18.0				
SP297	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	25.0	11.0				
SP298	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	56.0	40.0	23.0				
SP299	長方	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	35.0	21.0	14.0				
SP300	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	21.0	20.0	15.0				
SP301	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	29.0	29.0	25.0		炭化物をわずかに含む		
SP302	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	20.0	19.0	18.0				
SP303	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	25.0	12.0				
SP304	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	26.0	23.0	13.0		褐色(10YR4/4)粘質土が少量混じる		
SP305	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	26.0				
SP306	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	45.0	37.0	15.0				
SP307	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	38.0	10.0				
SP308	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	16.0	20.0				
SP309	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	19.0	12.0				
SP310	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	21.0				
SP311	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	32.0	23.0	11.0				
SP312	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	31.0	23.0	11.0				
SP313	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	29.0	28.0	13.0				
SP314	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	20.0	17.0	10.0				
SP315	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	68.0	45.0	10.0				
SP316	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	35.0	24.0	14.0				
SP317	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	15.0				
SP318	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	16.0	14.0	9.0				
SP319	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	26.0	12.0				
SP320	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	61.0	48.0	17.0		炭化物を含む		
SP321	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	8.0				
SP322	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	13.0				
SP323	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	28.0	25.0	43.0				
SP324	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	16.0				
SP325	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	19.0	24.0				
SP326	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	25.0	22.0	19.0				
SP327	方	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	59.0	58.0	11.0				
SP328	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	30.0	24.0	17.0				
SP329	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	26.0	11.0				
SP330	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	29.0				
SP331	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	22.0	18.0	12.0				
SP332	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	57.0	50.0	7.0		石器を含む(186)	93	44
SP333	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	22.0	12.0				
SP334	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	22.0	20.0	14.0	→風倒木	土器を含む		
SP335	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	26.0	18.0	25.0	→風倒木			
SP336	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	24.0	31.0	→風倒木			
SP337	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	26.0	7.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (7/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP338	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	23.0	33.0		暗褐色(10YR3/4)粘質土を含む		
SP339	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	37.0	33.0	40.0				
SP340	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	20.0	11.0		炭化物を含む		
SP341	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	60.0	50.0	28.0		にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土を含む		
SP342	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	61.0	54.0	7.0	→SK3(SI2)	炭化物を含む		
SP343	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	11.0				
SP344	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	49.0	36.0	41.0				
SP345	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	29.0	23.0	10.0				
SP346	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	25.0	21.0	8.0				
SP347	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	32.0	31.0	18.0		土器を含む		
SP348	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	20.0	20.0	14.0				
SP349	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	25.0	23.0	10.0				
SP350	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	15.0				
SP351	長方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	32.0	24.0	12.0				
SP352	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	20.0	12.0				
SP353	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	39.0	36.0	29.0				
SP354	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	23.0	20.0	14.0				
SP355	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	18.0	14.0				
SP356	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	22.0	13.0				
SP357	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	26.0	19.0	6.0				
SP358	長方	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	13.0				
SP359	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	21.0	12.0				
SP360	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	24.0	14.0	→SP362			
SP361	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	12.0				
SP362	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	18.0	←SP360			
SP363	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	25.0	17.0				
SP364	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	16.0	5.0				
SP365	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	49.0	42.0	37.0		炭化物を含む		
SP366	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	26.0	9.0				
SP367	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	15.0				
SP368	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	19.0	13.0				
SP369	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	13.0				
SP370	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	26.0				
SP371	楕円?	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[95.0]	[20.0]	29.0				
SP372	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	13.0				
SP373	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	16.0	14.0	8.0				
SP374	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	27.0	12.0				
SP375	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	35.0	8.0				
SP376	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	38.0	36.0	15.0				
SP377	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	11.0				
SP378	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	25.0	14.0				
SP379	円?	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	34.0	[15.0]	13.0				
SP380	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	15.0				
SP381	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	14.0	[7.0]	6.0				
SP382	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	中	36.0	[24.0]	14.0				
SP383	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	11.0				
SP384	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	13.0				
SP385	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	密	46.0	[19.0]	68.0		細礫を少量含む。にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土をわずかに含む		
SP386	方?	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	46.0	[21.0]	10.0				
SP387	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	26.0	28.0				
SP388	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	26.0	6.0				
SP389	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	12.0				
SP390	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	11.0				
SP391	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	19.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (8/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP392	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	24.0	20.0	12.0				
SP393	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	34.0	31.0	20.0				
SP394	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	15.0				
SP395	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	27.0	26.0		炭化物を含む		
SP396	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	28.0	18.0				
SP397	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	10.0		炭化物を含む		
SP398	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	39.0	32.0	21.0				
SP399	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	47.0	46.0	39.0		炭化物を含む		
SP400	円	黒褐(10YR3/2)	?	?	?	?	46.0	36.0	23.0				
SP401	方	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	33.0	32.0				
SP402	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	31.0	29.0				
SP403	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を多く含む。暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土を含む		
SP404	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	27.0	10.0		褐色(10YR4/4)粘質土を多く含む。暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土を含む		
SP405	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	33.0	23.0		炭化物を含む		
SP406	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	49.0	35.0	10.0				
SP407	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	45.0	37.0	16.0				
SP408	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	39.0	33.0				
SP409	方	褐灰(10YR4/1)	粘質	強	細	密	27.0	26.0	13.0				
SP410	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	27.0	11.0				
SP411	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	26.0	9.0				
SP412	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	22.0	14.0				
SP413	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	27.0				
SP414	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	密	34.0	29.0	17.0				
SP415	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	17.0				
SP416	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	4.0				
SP417	円	黒褐(10YR3/1)	粘質	中	細	中	31.0	30.0	9.0				
SP418	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	密	26.0	26.0	16.0				
SP419	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	50.0	37.0	14.0				
SP420	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	43.0	33.0	14.0				
SP421	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	[93.0]	88.0	9.0				
SP422	方	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	54.0	51.0	14.0				
SP423	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	10.0				
SP424	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	33.0	30.0	15.0				
SP425	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	46.0	34.0	17.0				
SP426	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	26.0				
SP427	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[24.0]	[21.0]	16.0				
SP428	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	16.0				
SP429	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	10.0				
SP430	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	19.0				
SP431	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	27.0	16.0				
SP432	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	69.0	49.0	22.0				
SP433	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	38.0	12.0				
SP434	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	32.5	16.0				
SP435	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	33.5	14.0				

《柱穴一覧》

表8 掲載遺物一覧

(1/2)

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	図版
123	石器	石鏃	SK2(S11)	L21 W[14] T03			サヌカイト	72	47
124	弥生土器	壺	SK1	TR(17.7) NR(13.6) H[6.6]	75YR5/4 75YR5/4	α:ナデ・クシガキ直線文 i:ナデ	口縁部内外面:山形文 口縁部内面:貼付突帯 頸部外面:刻目突帯	76	47
125	弥生土器	壺	SK1	TR(23.2) H[3.0]	75YR6/4 75YR7/4	α:ナデ i:ナデ	口縁部外面:斜格子文 口 縁部内面:3条の貼付突帯	76	47
126	弥生土器	壺	SK1	H[7.9]	10YR5/3 10YR5/4	α:ミガキ i:ミガキ	内面:3条の刻目突帯	76	47
127	弥生土器	壺	SK1	TR(15.6) H[6.4]	75YR4/3 75YR6/4	α:ミガキ i:ナデ	頸部外面:沈線	76	47
128	弥生土器	甕	SK1	H[7.4]	10YR4/2 10YR5/3	α:ミガキ i:ミガキ	口縁部:刻目 体部外面: 平行沈線・5条の波状文	76	47
129	弥生土器	甕	SK1	H[1.8]	75YR6/6 75YR6/6	α:ナデ i:ナデ	口縁部外面:刻目 体部外 面:平行沈線	76	47
130	弥生土器	甕	SK1	H[2.2]	5YR5/6 75YR4/2	α:ナデ i:ナデ	口縁部上面:山形文? 口縁部:刻目 体部外面:平行沈線	76	47
131	弥生土器	甕	SK1	LR5.0 H[6.1]	10YR7/3 10YR3/1	α:ミガキ i:ナデ・板ナデ		76	47
132	石器	石鏃	SK1	L27 W1.2 T03			サヌカイト	76	47
133	石器	スクレイパー	SK1	L[5.0] W[6.0] T0.9			サヌカイト	76	47
134	石器	敲石	SK1	L15.5 W[5.1] T2.7			緑色片岩	77	47
135	石器	不明	SK1	L[1.9] W2.1 T0.35			サヌカイト 石錐の可能 性	77	47
136	石器素材	不明	SK1	L10.4 W6.5 R1.5			緑色片岩	77	47
137	石器素材	不明	SK1	L[3.3] W[3.55] T[0.55]			緑色片岩	77	47
138	石器素材	不明	SK1	L[8.8] W4.8 T1.8			緑色片岩	77	48
139	石器素材	不明	SK1	L13.4 W5.5 T1.4			緑色片岩	77	47
140	弥生土器	甕	SK4	H[1.9]	75YR5/3 75YR5/3	α:ナデ i:ミガキ	口縁部:刻目	78	48
141	弥生土器	甕	SK4	H[9.5]	75YR3/3 5YR3/3	α:ミガキ i:ミガキ	体部外面:平行沈線・4条 の波状文	78	48
142	弥生土器	甕	SK4	LR5.0 H[5.1]	75YR6/6 10YR6/3	α:板ナデ i:ナデ・板ナデ		78	48
143	弥生土器	甕	SK4	LR7.2 H[9.5]	10YR4/3 10YR7/4	α:ナデ・ミガキ i:摩擦により不明		78	48
144	弥生土器	壺	SD2	LR(9.6) H[3.9]	10YR8/3 75YR7/4	α:指オサエ・ナデ i:指オサエ・ナデ		79	48
145	弥生土器	甕	SP72	TR(19.6) H[5.6]	10YR6/3 10YR6/3	α:ナデ・板ナデ・ミガキ i:ナデ・ミガキ	口縁部:刻目 体部外面:4条の沈線	80	48
146	弥生土器	蓋	SP72	LR(7.5) H[5.7]	25Y6/3 25Y3/2	α:指オサエ・板ナデ・ミガキ i:指オサエ・ナデ		80	48
147	弥生土器	壺	SP136	H[5.2]	5YR6/6 75YR7/4	α:ナデ i:ナデ	体部外面:丘痕文貼付突 帯・4条および2条以上の 沈線文	81	48
148	石器	石核	SP162	L5.0 W[3.0] T0.8			サヌカイト	81	48
149	弥生土器	壺	SR1	TR(62.8) NR(59.8) H[9.8]	75Y5/6 75Y5/6	α:板ナデ・ミガキ i:指オサエ・ナデ・ミガキ	大型壺 口縁部内面:貼付突帯 頸部外面:3条の沈線	83	48
150	弥生土器	壺	SR1	TR(48.6) NR(44.4) H[7.6]	75YR5/6 75YR5/6	α:ナデ・板ナデ i:指オサエ・ナデ・ミガキ	大型壺 口縁部内面:貼付突帯 頸部外面:3条の沈線	83	48
151	弥生土器	壺	SR1	TR(66.5) H[32.7]	75YR5/6 75YR5/6	α:ミガキ i:指オサエ・ミガキ	大型壺 胴部外面:3条の沈線	83	48
152	弥生土器	壺	SR1	TR(15.1) H[4.5]	10YR5/4 10YR5/4	α:ナデ・ミガキ i:ナデ・ミガキ	頸部外面:3条の沈線	83	48
153	弥生土器	壺	SR1	LR7.0 H[3.4]	5YR5/6 75YR3/1	α:ナデ・板ナデ i:ナデ・板ナデ		83	48
154	弥生土器	壺	SR1	H[5.3]	10YR5/1 10YR5/1	α:ミガキ i:ナデ		83	48
155	弥生土器	甕	SR1	TR(27.0) H[8.6]	10YR8/4 10YR8/4	α:指オサエ・ナデ・ミガキ i:指オサエ・ナデ・板ナデ	口縁部:刻目	84	48
156	弥生土器	甕	SR1	TR(25.0) H[10.45]	10YR7/3 10YR7/3	α:指オサエ・ナデ・ミガキ i:指オサエ・ナデ・ミガキ		84	48
157	弥生土器	甕	SR1	H[2.2]	75YR5/3 75YR6/4	α:ナデ i:ナデ	口縁部:刻目	84	48
158	弥生土器	蓋	SR1	LR(6.4) H[9.3]	75YR6/6 75YR7/6	α:ミガキ i:ミガキ		84	48
159	弥生土器	壺又は鉢	SR1	H[5.7]	10YR7/2 10YR7/3	α:指オサエ・ナデ・ミガキ i:ナデ・ミガキ		84	48
160	弥生土器	壺	SR2	TR(13.2) H[1.8]	75YR5/4 10YR5/4	α:ナデ・ヨコナデ i:ナデ・ヨコナデ	口縁部外面:山形文	85	48
161	弥生土器	甕	SR2	LR10.6 H[16.8]	10YR4/2 75YR6/6	α:ナデ・ミガキ・クシ描直線文 i:ナデ・ミガキ	体部外面:列点文	85	49
162	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(26.6) H[6.5]	10YR6/3 10YR7/4	α:ナデ・板ナデ i:ナデ	口縁部内面:3条の環状突 帯・2条の貼付突帯・腋 手状の突帯・穿孔	86	49
163	弥生土器	壺	包含層(1区)	H[5.8]	10YR8/4 10YR8/4	α:ナデ i:指オサエ・ナデ	外面:7条の沈線文・4条の 貼付突帯	86	49
164	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(15.2) H[2.2]	75YR6/4 75YR6/4	α:指オサエ・ナデ i:ナデ		86	49
165	弥生土器	甕	包含層(1区)	TR(41.6) H[13.2]	75YR6/4 75YR6/4	α:ナデ・板ナデ・ミガキ i:板ナデ・ミガキ	口縁部内面:貼付突帯 屈曲部外面:4条の沈線文	86	49

《掲載遺物一覧》

(2/2)

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	版
166	弥生土器	甕	包含層(1区)	TR(22.0) H[10.7]	7.5YR3/1 7.5YR3/2	o:ミガキ i:ミガキ	体部外面:平行沈線・列点文 口縁部上面:山形文	86	49
167	弥生土器	甕	包含層(1区)	TR(28.6) H[13.8]	5YR5/6 7.5YR5/4	o:ミガキ i:ナデ・板ナデ・ミガキ	口縁上部:山形文 体部外面:平行沈線・列点文 ※試掘調査T10出土遺物	87	49
168	弥生土器	甕	包含層(1区)	TR(27.0) H[6.4]	7.5YR4/3 7.5YR2/1	o:ナデ・ミガキ i:指オサエ・ナデ・ミガキ	口縁端部:刻目	87	49
169	弥生土器	甕	包含層(1区)	H[19.7]	7.5YR6/4 7.5YR4/2	o:指オサエ・ミガキ i:指オサエ・ナデ・ミガキ		87	49
170	弥生土器	蓋	包含層(1区)	H[3.35]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	o:ナデ i:板ナデ		87	49
171	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(14.8) H[8.4]	5YR5/6 10YR7/4	o:指オサエ・板ナデ・ハケ i:指オサエ・ナデ	口縁部:沈線 口縁内面:突帯(注口あり) 頸部外面:5条の沈線 ※試掘調査T8出土遺物	88	50
172	弥生土器	壺	包含層(2区)	NR(8.0) H[4.0]	7.5YR6/4 7.5YR7/6	o:ヨコナデ・板ナデ i:ナデ	頸部外面:2条の刻目突帯	88	49
173	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(10.4) H[4.9]	7.5YR6/4 7.5YR6/4	o:ナデ i:ナデ・ミガキ	口縁部外面:刻目 口縁部内面:放射状のクシ描文 頸部外面:クシ描麻状文	88	49
174	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(14.6) H[4.8]	7.5YR5/4 7.5YR6/4	o:ナデ・板ナデ i:板ナデ	頸部外面:7条の沈線	88	49
175	弥生土器	壺	包含層(2区)	LR4.5 H[9.0]	7.5YR7/3 7.5YR6/4	o:ミガキ i:板ナデ		88	49
176	弥生土器	甕	包含層(2区)	H[6.8]	10YR4/2 10YR4/1	o:指オサエ・ナデ・ハケ i:ナデ	体部外面:3条の沈線	88	49
177	弥生土器	鉢	包含層(2区)	TR(19.6) H[8.0]	10YR6/3 2.5Y7.2	o:指オサエ・ナデ・ヨコナデ・ハケ i:指オサエ・ナデ・ヨコナデ	体部外面:3状の沈線 ※試掘調査T8出土遺物	88	50
178	弥生土器	蓋	包含層(2区)	LR(6.1) H[10.2]	10YR8/3 10YR8/2	o:ミガキ i:ナデ		88	50
179	土師器	杯	包含層(1区)	H[3.9]	10YR8/2 10YR8/2	o:回転ナデ i:回転ナデ		89	50
180	土師器	皿	包含層(1区)	LR(5.3) H[1.2]	10YR8/2 10YR8/2	o:回転ナデ i:回転ナデ	底部:回転糸切り	89	50
181	土師質土器	土釜	包含層(2区)	H[4.2]	5YR7/6 5YR6/8	o:指オサエ・ナデ i:ナデ		89	50
182	土師質土器	土釜	包含層(1区)	H[4.9]	10YR6/4	o:ナデ		89	50
183	瓦器	椀	包含層(1区)	LR(4.6) H[0.9]	2.5Y5/3 2.5Y6/4	o:摩耗により不明 i:摩耗により不明		89	50
184	瓦器	椀	包含層(2区)	LR(3.8) H[1.0]	10YR5/3 10YR4/2	o:摩耗により不明 i:ミガキ		89	50
185	陶器(国産)	瀬戸美濃卸皿	排土	LR(10.0) H[1.5]	5Y7/1 5Y7/1	o:回転ナデ i:回転ナデ	底部:回転糸切り	90	50
186	石器	砥石	SP332	L[18.05] W[7.6] T8.2			砂岩	93	50
187	石器素材	不明	包含層(2区)	L148 W7.4 T1.1			緑色片岩	95	50

《掲載遺物一覧》

表9 出土遺物一覧

(1/2)

(2/2)

時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号	時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号				
弥生時代	S11	弥生土器	口縁部	甕	B	1		弥生時代	SR2	弥生土器	口縁部	壺	A	1	160				
			胴部	壺又は甕	B	4					胴部	壺又は甕	B	14					
	石器	不明	剥片	B	92		胴底部				甕	A	1	161					
	S11-SK2	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	5					2区_一括	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			
	S11-SP155	弥生土器	完存	石鏝	A	1	123				1区_上位層	弥生土器	口縁部	壺	A	2	162,164		
			胴部	壺又は甕	B	1								甕	B	8			
	底部	甕	B	1		蓋	A							1	170				
	S11-SP158	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1								口頸部	壺	A	1	163	
	S11-SP159	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									壺	B	7		
	S11-SP166	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3								口胴部	甕	A	4	165~168	
	S11-SP170	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			胴部	甕					A	1	169		
	SB2-SP121	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2				壺又は甕				B	12				
	SK1	弥生土器	口縁部	壺	A	3	124,125,127		2区_上位層	弥生土器				口縁部	壺	A	2	173,174	
				甕	B	1									甕	B	2		
				甕	A	3	128,129,130				口頸部	壺	A		1	172			
				口頸部	壺	A	1					126	甕		B	2			
				胴部	壺	B	2					口胴部	壺		A	1	171		
					壺又は甕	B	154						鉢		A	1	175		
				底部	壺	B	1					胴部	壺		B	1			
					甕	A	1				131		甕		B	4			
					壺又は甕	B	2						壺又は甕		B	105			
					石鏝	A	1				132		底部		壺	A	1	177	
			不明	スクレイパー	A	1	133		甕	A	1	176							
			叩石	A	1	134	壺又は甕		B	2									
			石鏝?	A	1	135	天井部		蓋	A	1	178							
			石器素材	石器素材	A	1	136		2区_排土	弥生土器	口頸部	壺	B	1					
				石器素材	A	3	137,138,139					胴部	壺又は甕	B	4				
				剥片	B	5						1区_上位層	土師器	口縁部	杯	A	1	179	
				自然遺物	不明	不明	B								6	甕	B	1	
			SK4	弥生土器	口縁部	甕	A		1	140	中世	1区_上位層	土師器	口縁部	甕	B	1		
						頸胴部	甕		A	1					141	皿	B	1	
						胴部	壺又は甕		B	38					底部	皿	A	1	180
	底部	甕				A	2		142,143	杯又は皿						B	1		
	SD2	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	7			黑色土器	胴部	碗	B	1						
				底部	壺	A	1				144	瓦器	口縁部	碗	B	4			
	SX1	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1			胴部	碗	B			4					
				SP4	弥生土器	口縁部	壺			B	1		底部	碗	A	1	183		
	SP25	弥生土器	口縁部	壺	B	1			B	2									
SP62	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	4		土師質土器	口縁部			碗	B	1						
SP65	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1				杯	B	1								
SP77	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		脚部	土釜	A	1	182								
SP72	弥生土器	口縁部	甕	A	1	145			2区_上位層	土師器	口縁部	杯	B	1					
SP81	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		甕	B				2							
			SP83	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		土師質土器	口縁部	土釜	A	1	181				
SP121	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2		瓦器	底部	碗			A	1	184					
SP136	弥生土器	胴部	壺	A	1	147	2区_排土	陶器(国産)	底部	卸皿	A	1	185						
			壺又は甕	B	2					SP332	石器	不明	砥石	A	1	186			
SP143	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2		時期不明	SP339	自然遺物	不明	不明	B	3						
SP162	弥生土器	口縁部	壺	B	1									2区_上位層	自然遺物	不明	石器素材	A	1
SP168	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		2区_排土	石器	不明	剥片	B	1							
			SP172	弥生土器	胴部	壺又は甕								B	1		不明	B	2
SP187	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2														
SP193	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2														
SP334	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1														
SP347	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1														
SP397	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1														
SP401	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1														
SP405	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1														
SR1	弥生土器	口縁部	壺	A	2	149,150													
			甕	A	3	155,156,157													
			壺又は甕又は鉢	A	1	159													
			不明	B	1														
			口頸部	壺	A	1	152												
				甕	B	4													
		胴部	壺	B	1														
			壺	A	1	151													
		底部	壺又は甕	B	18														
			壺又は甕	B	57														
			壺	A	2	153,154													
			甕	B	3														
天井部	甕	B	1																
	蓋	A	1	158															

《出土遺物一覧》

第5章 西喜光地遺跡の成果

第1節 西喜光地遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・105)

西喜光地遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川右岸に隣接する。行政上は愛媛県新居浜市西喜光地町で、調査区の絶対位置は北緯33° 56′ 18″・東経133° 17′ 36″の交差する付近である。現地面の標高は南側約28.9m・北側約27.85mである。南側に微高地が形成されており、北方向へ緩やかに傾斜するとともに北東方向では明確な傾斜が見られる。調査前は耕作地または市道であった。

調査区は東西に分割した。西側の1区は東西約8.5m・南北約50.8mの長方形を中心として、南北両側に袖状に延び合計118mにおよぶ調査区である。2区は南側の東西約43.6m・南北約44mの長方形を2a区、北西側の東西約0.5m・南北約7.6mの長方形を2b区とした。調査対象面積は3,122m²である。

2 基本層序(図106～109)

基本層序は、隣接する河川に影響を受けている1区と微高地状地形の2区で異なるため、調査区ごとに記述することとする。

1区は大きく4層に分かれる。I層は耕作土で49層に細分した。II層は耕作盛土で15層に細分できる。盛土は西壁の一部で捉えられるほか、東壁では南端部を中心に洪水砂礫層が顕著にみられ、洪水ごとに耕作面のかさ上げを幾度も繰り返しているものと考えられる。加えて、南端部分では転圧の痕跡がみられた。III層は南側を中心に分布する包含層で35層に細分され、そのうちIII11～24・29～32層は漸移層である。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし近世までの遺物が出土する。IV層は明黄褐色砂質土で、上面が遺構検出面となる。

2区では大きく5層に分かれる。I層は耕作土である。II層は耕作盛土で16層に細分できる。一部深掘りされており、後述する天地返しの影響が考えられる。III層は包含層で7層に細分されるが残存状態は一定せず、特に微高地の南側



図98 黒褐色礫層の隆起



図99 西喜光地遺跡 現場作業 1



図100 西喜光地遺跡 現場作業 2



図101 西喜光地遺跡 現場作業 3



図102 西喜光地遺跡 現場作業 4



図103 西喜光地遺跡 現場作業 5

では不安定であるため削平がおよんでいるものと考えられる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし近世までの遺物が出土する。IV層は明褐色シルトで、上面が遺構検出面となる。

V層は褐色細砂混じり礫層でこぶし大の礫を含み、国領川扇状地性氾濫原および段丘堆積物と考えられる。

図110に示した通り2a区東寄りで南北方向の直線状の礫層露出範囲がみられ、断面観察からは図98のように基盤層であるIV層に対し割り込む形で黒褐色礫層(VI層)の隆起が捉えられた。旧地形では、礫層(VI層)同様にIV層も高まりを形成し南北方向に延びる微高地を成していたものと復元できる。2a区南西側で顕著にみられた攪乱と同様、2区全体でも後世において広範囲に削平を受けているものと想定される。また、2a区西側でも段差状の落ち込みがあることから尻無川の氾濫や流水による削平・地形改変などの影響が考えられる。

3 遺構と遺物の概要(図110)

検出した遺構は掘立柱建物10棟・土坑8基・溝19条・小穴397穴である。これらは弥生時代から中世にかけての遺構で、IV層上面で検出された。

出土遺物は弥生土器・土師器・土師質土器・須恵器・瓦器・陶磁器・石器・瓦である。



図104 西喜光地遺跡 現場作業 6

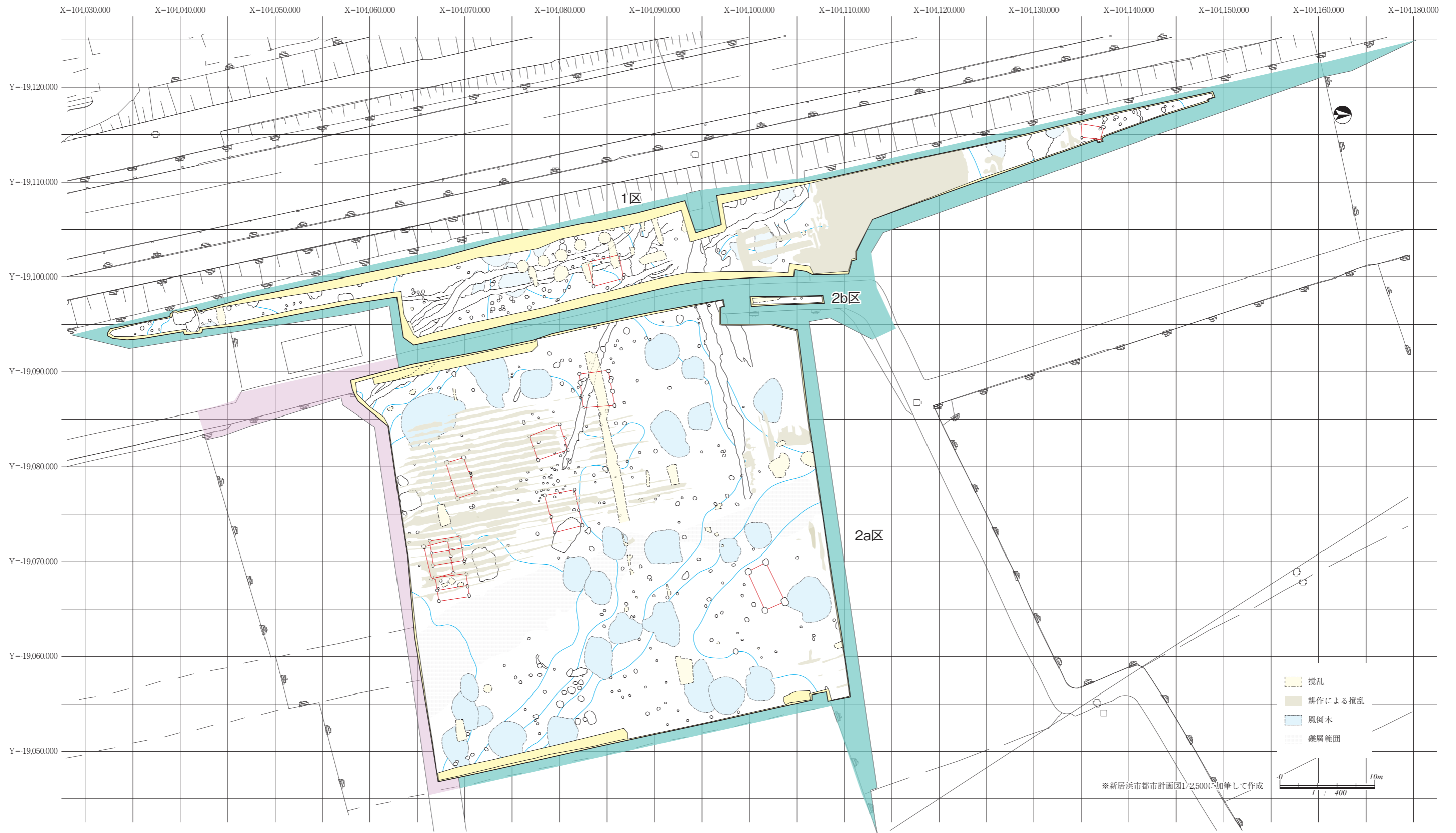


図105 西喜光地遺跡(1・2区) 調査区位置図

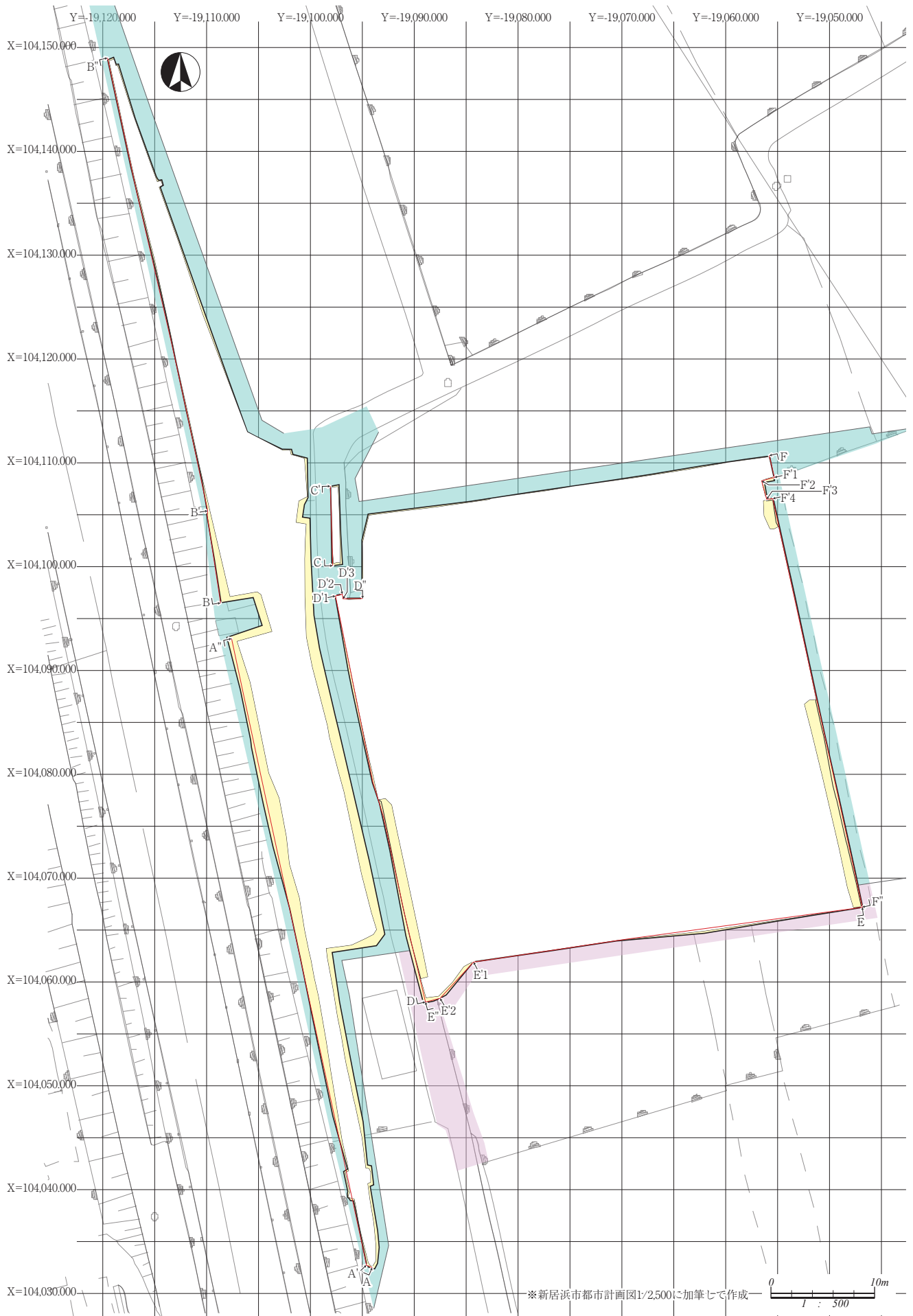
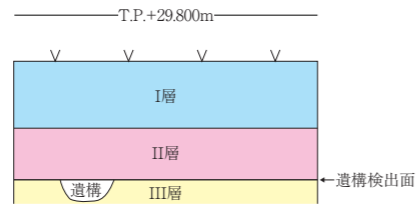


図106 西喜光地遺跡 調査区基本層序測量位置図



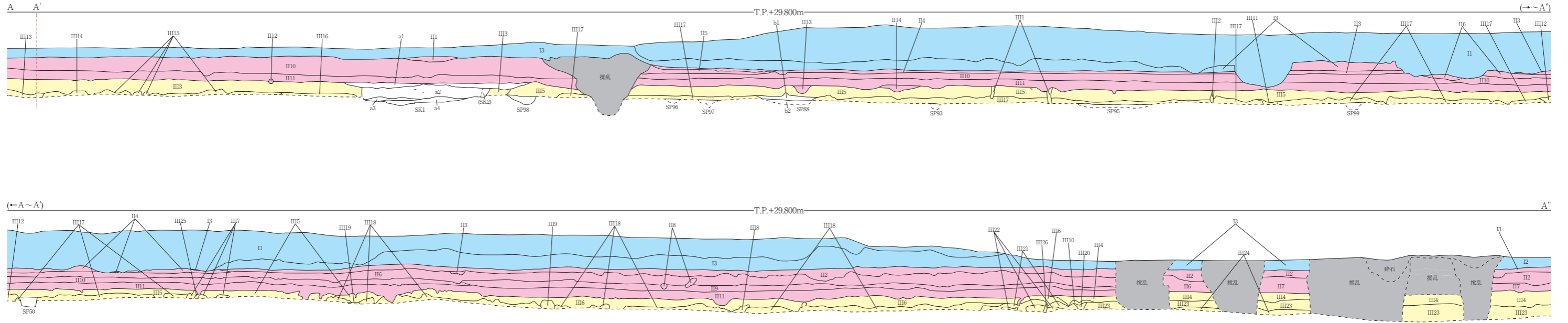
1区 基本層序模式図

[1区 調査区西壁 A-A'-A'']

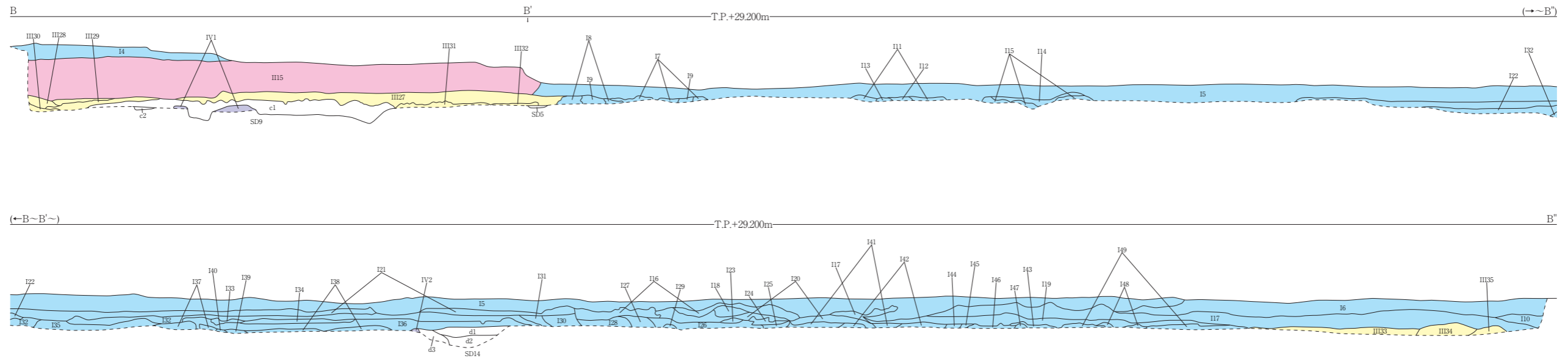
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
祝乱							祝乱
I1	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	弱	中	中	細礫を多量に含む
I2	オリーブ褐	2.5Y4/3	粘質	中	細	密	礫に富む
I3	オリーブ黒	5Y2/2	砂質	中	細	密	表土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	シルト	密	盛土 / 旧耕作土
II2	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	弱	中	密	盛土
II3	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	粘質	中	細	密	盛土
II4	黒褐	2.5Y3/2	砂質	強	中	密	洪水砂層
II5	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	中	密	盛土
II6	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	強	極細	極密	盛土
II7	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	強	極細	極密	盛土
II8	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	強	細	密	盛土 / 旧表土
II9	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	強	極細	極密	盛土 / 旧表土
III0	黒褐	2.5Y3/2	砂質	強	極細	極密	盛土 / 旧表土
III1	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	密	植物根の貫入
III2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	植物根の貫入
a1	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	粘質	中	細	密	SK1埋土
a2	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細	密	SK1埋土
a3	黒褐	10YR2/2	粘質	中	極細	極密	SK1埋土
a4	暗褐	10YR3/4	粘質	中	極細	極密	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒粘質土が混じる
III3	黒褐	2.5Y3/2	砂質	中	細	密	盛土
III4	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	盛土
III5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	弱	極細	密	植物根の貫入
III6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	弱	極細	密	植物根の貫入
III7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	弱	極細	密	植物根の貫入
III8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	弱	極細	密	植物根の貫入
III9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	弱	極細	密	植物根の貫入
III10	黒褐	10YR2/1	粘質	強	細	極密	SP88埋土
b1	黒褐	10YR3/2	砂質	強	シルト	密	SP88埋土
b2	黒褐	10YR3/2	砂質	強	細	密	SP88埋土
III11	黒褐	2.5Y3/2	粘質	強	細	密	SP88埋土
III12	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	粘質	強	細	密	オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土を含む
III13	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	粘質	強	細	密	オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土を含む
III14	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	漸移層
III15	オリーブ褐	2.5Y4/3	粘質	強	細	密	漸移層
III16	オリーブ褐	2.5Y4/3	粘質	強	細	密	漸移層
III17	黒褐	10YR2/3	砂質	中	細	密	漸移層
III18	オリーブ褐	2.5Y4/3	粘質	中	細	密	漸移層
III19	黄褐	2.5Y5/3	粘質	中	細	密	漸移層
III20	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	漸移層
III21	暗褐	10YR3/3	粘質	中	細	密	漸移層
III22	暗褐	10YR3/4	粘質	中	細	密	漸移層
III23	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細	密	漸移層
III24	黒褐	10YR4/4	粘質	弱	細	極密	植物根の貫入
III25	黒褐	10YR2/2	粘質	中	細	密	植物根の貫入
III26	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細	密	植物根の貫入

[1区 調査区西壁 B-B'-B'']

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
I4	明黄褐	10YR6/6	粘質	中	中	中	礫を含む
I5	[記載なし]						表土
I6	にぶい黄橙	10YR7/4	砂質	なし	粗	密	耕作土
I7	にぶい黄褐	10YR4/3	砂質	中	細	密	耕作土
I8	にぶい黄褐	10YR4/3	砂質	中	細	密	耕作土
I9	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	耕作土
II0	オリーブ褐	2.5Y4/3	砂質	弱	細	密	耕作土
c1	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	SD9埋土
c2	褐	10YR4/4	粘質	中	細	密	SD9埋土
II1	オリーブ褐	2.5Y4/3	砂質	弱	細	中	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	細	密	SD9埋土
II3	にぶい黄褐	10YR5/4	粘質	中	中	密	SD9埋土
II4	褐	10YR4/4	粘質	中	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	弱	中	中	SD9埋土
II7	にぶい黄橙	10YR7/4	砂質	なし	粗	中	SD9埋土
II8	黒褐	2.5Y3/2	砂質	弱	中	密	SD9埋土
II9	オリーブ褐	2.5Y4/3	砂質	弱	中	密	SD9埋土
II0	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II1	にぶい黄橙	10YR6/4	砂質	なし	粗	中	SD9埋土
II2	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	中	中	SD9埋土
II3	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	密	SD9埋土
II5	黒褐	10YR2/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II6	黒褐	10YR3/2	砂質	強	細	密	SD9埋土
II7	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II8	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	密	SD9埋土
II0	黒褐	10YR2/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II1	黒褐	10YR3/2	砂質	強	細	密	SD9埋土
II2	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II3	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	中	細	密	SD9埋土
II4	褐	10YR6/6	粘質	中	極細	極密	SD9埋土
II5	暗褐	10YR3/3	砂質	弱	細	中	SD9埋土
II6	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	シルト	極密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	極密	SD9埋土
II8	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	弱	中	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	砂質	強	シルト	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	シルト	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II3	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II4	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II5	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II6	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II7	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II8	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II9	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II0	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	密	SD9埋土
II2	暗灰黄						



1区 調査区西壁 A-A'-A''



1区 調査区西壁 B-B'-B''

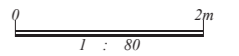


図108 1区 基本層序(A-A'-A'',B-B'-B')

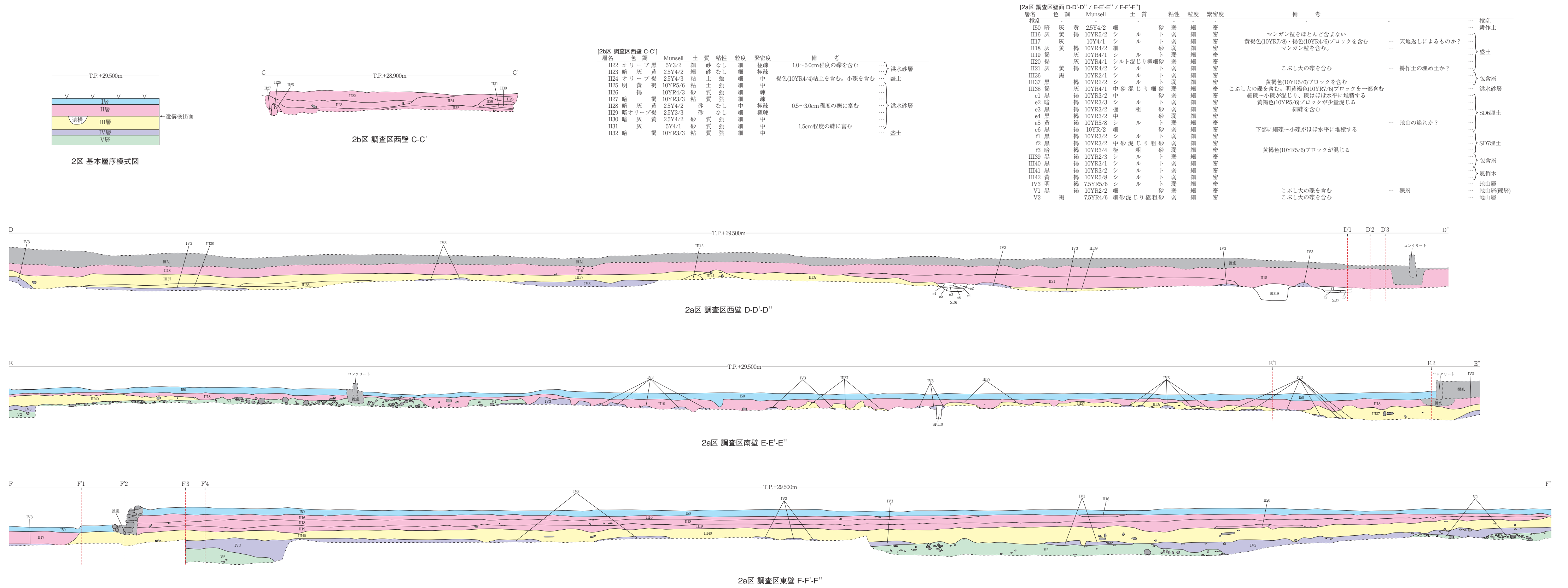
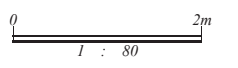


図109 2区 基本層序模式図および基本層序(C-C',D-D'-D'',E-E'-E'',F-F'-F'')



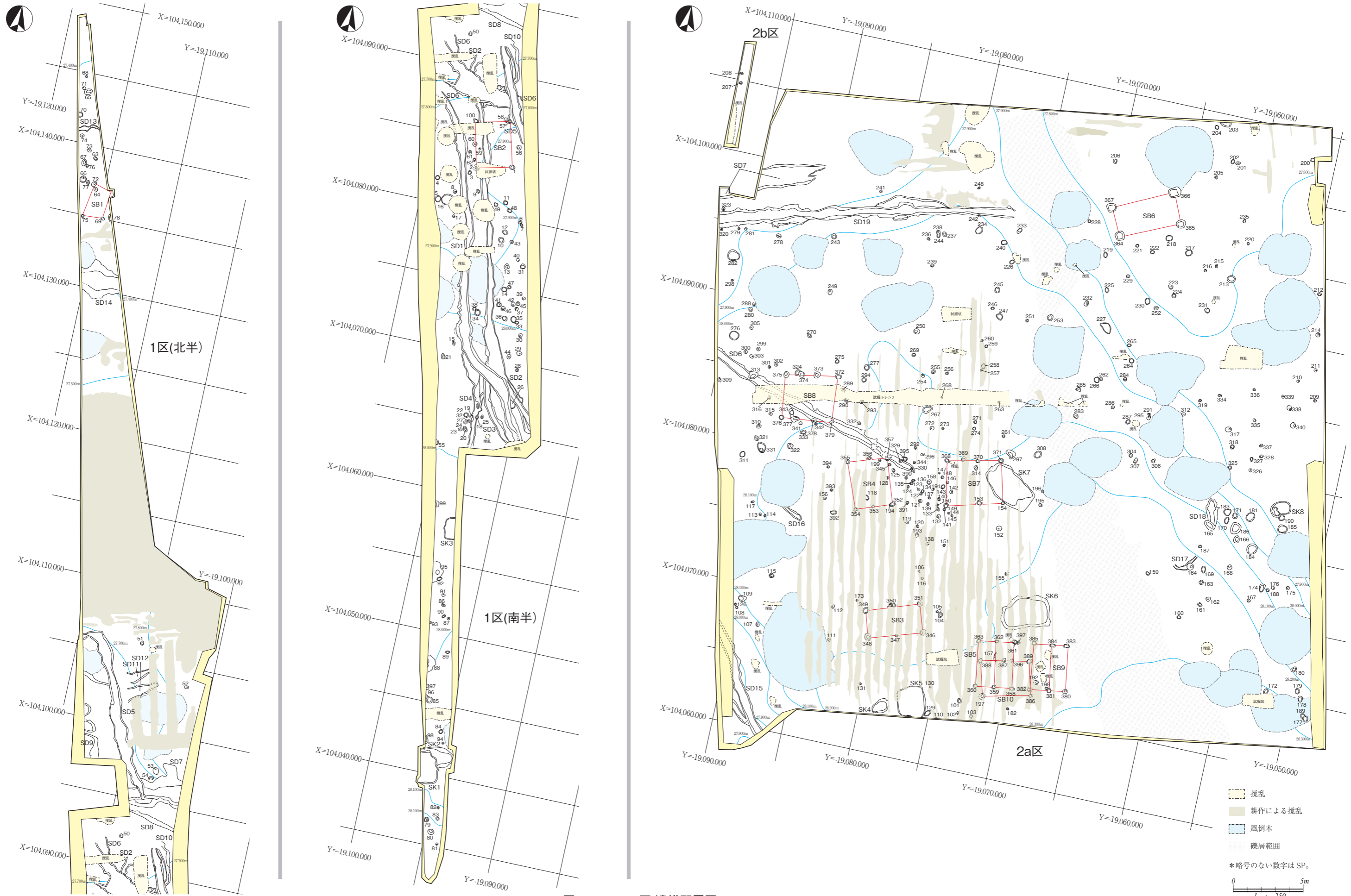


図110 1・2区 遺構配置図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、掘立柱建物9棟・土坑6基・小穴11穴である。全てIV層上面で検出しており、遺構は弥生時代中期前葉～中葉と考えられる。出土遺物は弥生土器壺・甕、石器である。

2 掘立柱建物

(1) SB2(図111・112)

遺構 SB2は1区中央部にあり、検出標高は約27.92mである。SD5よりもSB2が古い。1間×1間の側柱建物で、梁行2.49m・桁行3.36mの規模である。長軸方向はN-13.28° -Wを指向する。各柱穴は直径27～42cmの円形もしくは不整形を呈し、検出面からの深さは32～41cmである。柱間は梁方向が250～256cm、桁方向が326～335cmである。土層は柱抜き取り痕の可能性のある暗オリーブ褐色砂質土(2層)、黒褐色砂質土(4・6層)と掘り方の黒褐色砂質土(3層)、暗褐色砂質土(5・7層)に分かれる。遺物はSP1・2・57より弥生土器・石器が出土した。SP1では礫とともに両刃石斧(191)が出土し、SP2では弥生土器(188～190)が折り重なるようにして出土した。SB2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

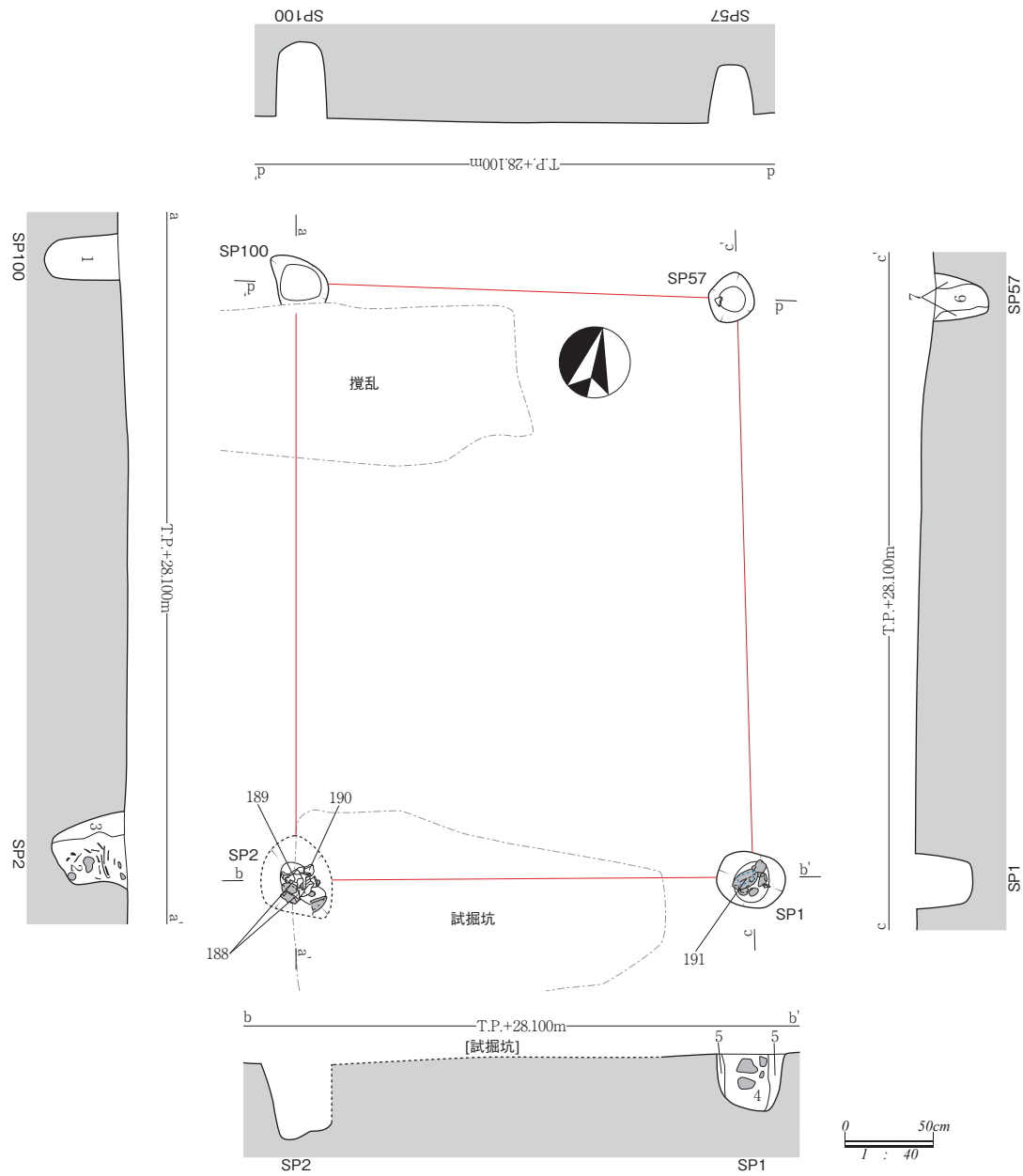
遺物 188～190は壺の口縁部である。188は端部に斜格子文が描かれ、頸部には貼付突帯文が巡る。190は口縁部である。表面が摩耗している。191は緑色岩製の両刃石斧である。両端が欠損している。

(2) SB3(図113)

遺構 SB3は2a区南西側にあり、検出標高は約28.18mである。1間×2間の側柱建物で、梁行1.96m・桁行3.88mの規模である。長軸方向はN-70.62° -Eを指向する。SP347・350が直径22～24cm、SP346・348・349・351が直径35～50cmの円形もしくは不整形を呈しており、検出面からの深さは11～67cmで、四隅の柱穴が大きく深い。柱間は梁方向が197～207cm、桁方向が185～207cmである。土層は四隅のSP346・348・349・351は黒褐色シルトと黒色シルトに分かれ、SP347・350は黒褐色シルトである。図示できる遺物は無いものの、SP346・348・349・350より弥生土器が出土している。SB3の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(3) SB4(図114)

遺構 SB4は2a区西側にあり、検出標高は約28.14mである。SB4はSD6よりも古くSP194より新しい。1間×3間の側柱建物で、梁行2.85m・桁行3.47mの規模である。長軸方向はN-71.59° -Eを指向する。各柱穴は直径25～35cmの円形もしくは楕円形を呈し、検出面からの深さは20～39cmである。柱間は梁方向が335～340cm、桁方向が124～145cmである。土層は柱抜き取り痕の可能性のある埋土は黒色シルト(1層)または黒褐色シルト(2層)で、掘り方は黒褐色(2層)・明黄褐色(3層)・黒色シルト(4層)である。図示できる遺物は無いが、SP354より弥生土器の細片が出土している。



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1			[記載なし]				… SP100
2	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	弱	細	密	土器片を含む。礫を多量に含む … SP2
3	黒褐	2.5Y3/2	砂質	弱	細	密	褐色(10YR4/4)細粒砂質土をまだらに含む … SP2
4	黒褐	2.5Y3/2	砂質	強	細	極密	… SP1
5	暗褐	10YR3/3	砂質	弱	細	密	明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質土をまだらに含む … SP1
6	黒褐	10YR2/3	粘質	中	細	密	炭化物を含む … SP57
7	暗褐	10YR3/3	粘質	中	細	密	1cm程度の黄褐色(10YR5/6)粘質土ブロックを含む … SP57

図111 SB2平断面図および遺物出土状況

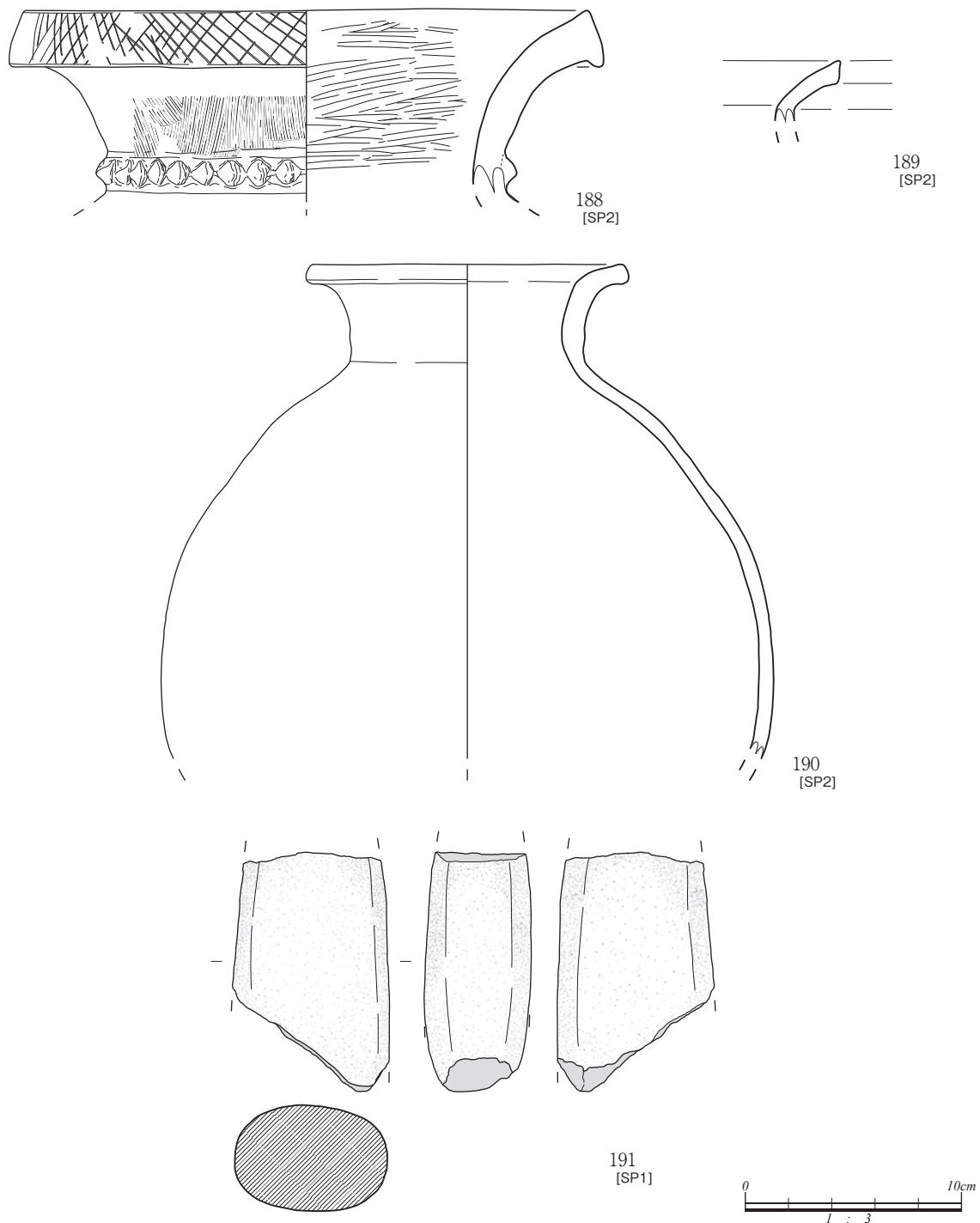


図112 SB2出土遺物

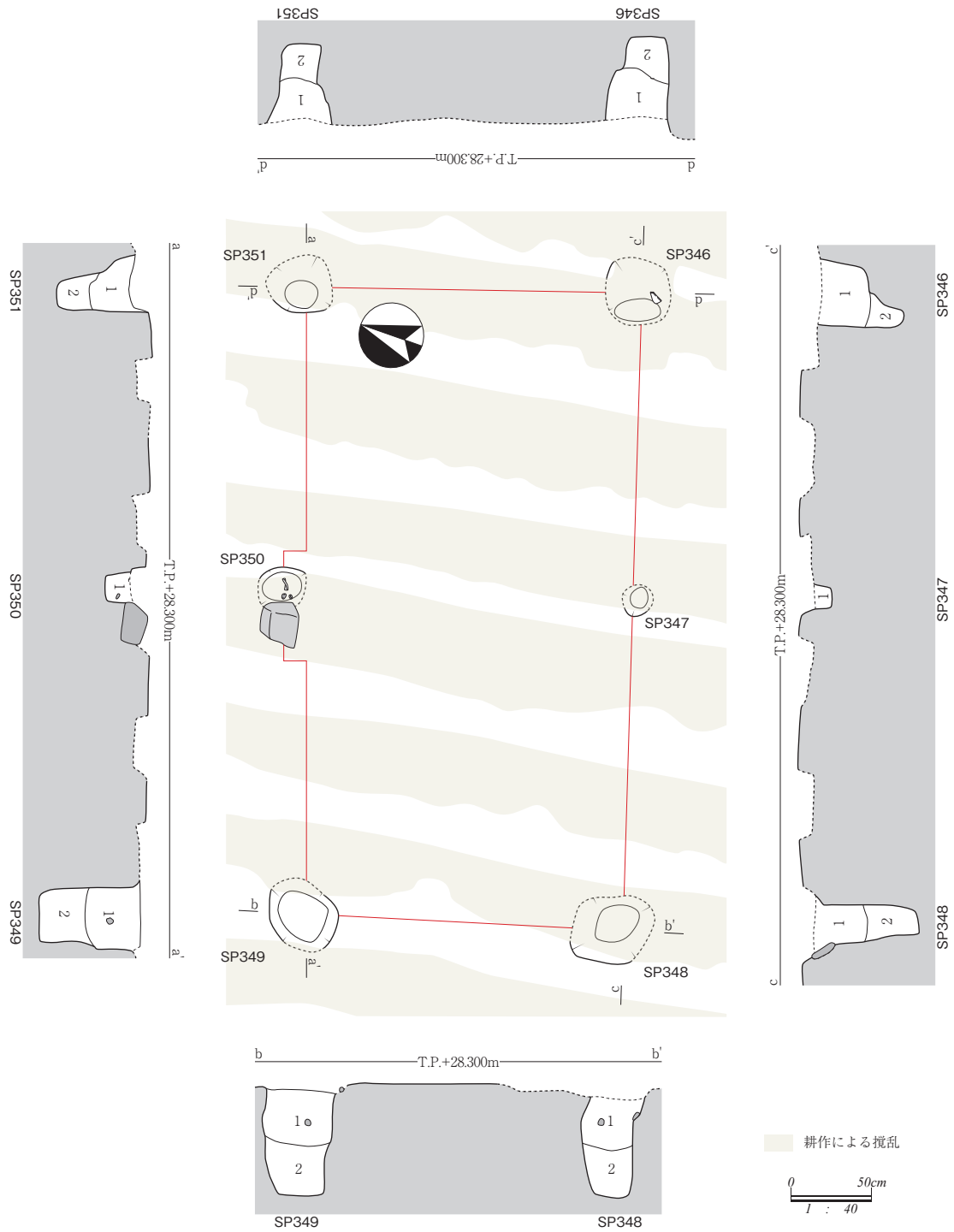
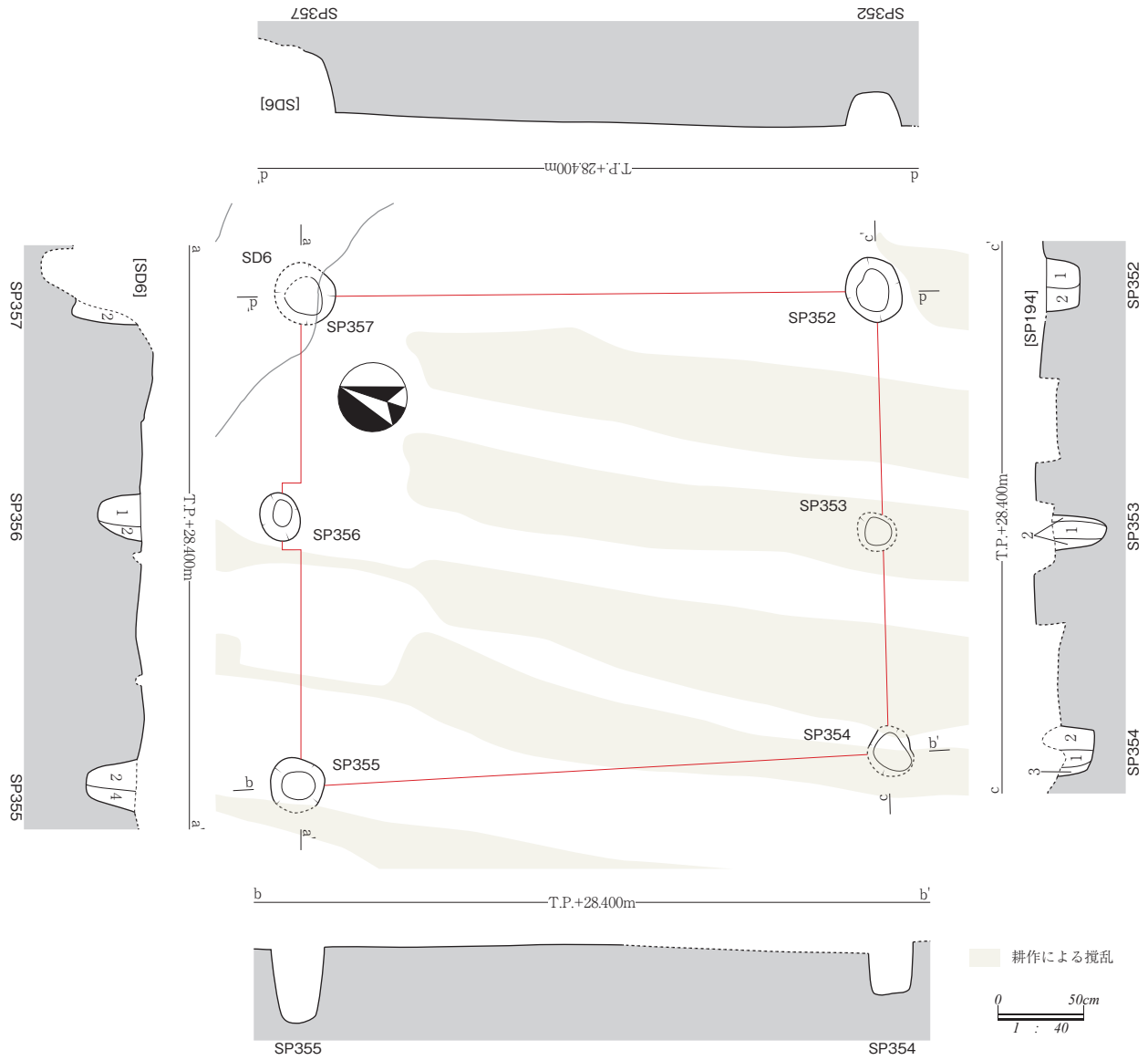


図113 SB3平面図および遺物出土状況



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	… SP352,353,354,356
2	黒 褐	10YR3/1	シルト	弱	細	密	… SP352,353,354,355,356,357
3	明 黄 褐	10YR6/8	シルト	弱	細	密	… SP354
4	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	… SP355

図114 SB4平断面図

SB4の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(4) SB5(図115)

遺構 SB5は2a区南側にあり、検出標高は約28.24mである。1間×2間の側柱建物で、梁行3.26m・桁行2.61mの規模である。長軸方向はN-81.05° -Eを指向する。各柱穴は直径29～35cmの楕円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは15～33cmである。柱間は梁方向が327cm、桁方向が121～129cmである。柱痕の可能性ある土層は黒色シルト(1層)で、掘り方は暗褐色シルト(2層)・黄褐色シルト(3層)である。遺物は出土していない。SB5の時期は、検出層位と周辺の状況より弥生時代中期中葉の可能性はある。

(5) SB6(図116)

遺構 SB6は2a区北東側にあり、検出標高は約27.72mである。1間×1間の側柱建物で、梁行2.13m・桁行4.62mの規模である。長軸方向はN-63.9° -Eを指向する。各柱穴はほかの掘立柱建物に比して大型で直径60～86cmの円形もしくは隅丸方形を呈し、検出面からの深さは51～72cmである。柱間は梁方向が219～230cm、桁方向が448～455cmである。掘り方がSP1以外では黒褐色粘質土(6層)または暗褐色粘質土(7層)である。図示できる遺物は無いが、SP365・366・367より弥生土器の細片が出土している。SB6の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(6) SB7(図117・118)

遺構 SB7は2a区中央西寄りにあり、検出標高は約28.1mである。1間×3間の側柱建物で、梁行3.23m・桁行3.87mの規模である。長軸方向はN-77.49° -Eを指向する。各柱穴は直径22～37cmの円形もしくは楕円形を呈し、検出面からの深さは10～38cmである。柱間は梁方向が308～323cm、桁方向が南側のみ2間となり103～237cmである。柱痕の可能性ある土層は黒褐色シルト(3層)で、柱抜き取り痕の可能性ある黒褐色シルト(1・7・13層)がみられる。遺物は弥生土器が出土している。SB7の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 192は甕である。内外面にミガキ、内面体部下半にはケズリが見られる。底部は焼成前穿孔されている。

(7) SB8(図119・120)

遺構 SB8は2a区中央西寄りにあり、検出標高は約28.08mである。1間×3間の側柱建物で、梁行3.14m・桁行3.82mの規模である。SB2はSD6よりも古くSP324・343より新しい。長軸方向はN-79.64° -Eを指向する。各柱穴は直径30～60cmの円形もしくは楕円形を呈し、検出面からの深さは33～66cmである。柱間は梁方向が310～333cm、桁方向が98～149cmである。土層はおおむね3～4層に分かれ、柱抜き取り痕の可能性あるものを含む黒褐色粘質土(2～6・8・10層)のほか、にぶい黄褐色粘質土(7層)・暗褐色粘質土(9層)がみられる。遺物は弥生土器が出土している。SB8の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 193は壺である。外面には斜め方向、内面には縦方向のミガキが見られる。194～196は甕である。194・195は口縁部、196は底部である。いずれも外面に縦方向のミガキ、194・196の内面には横方向のミガキ、195の内面に横方向の後、縦方向のミガキを施している。

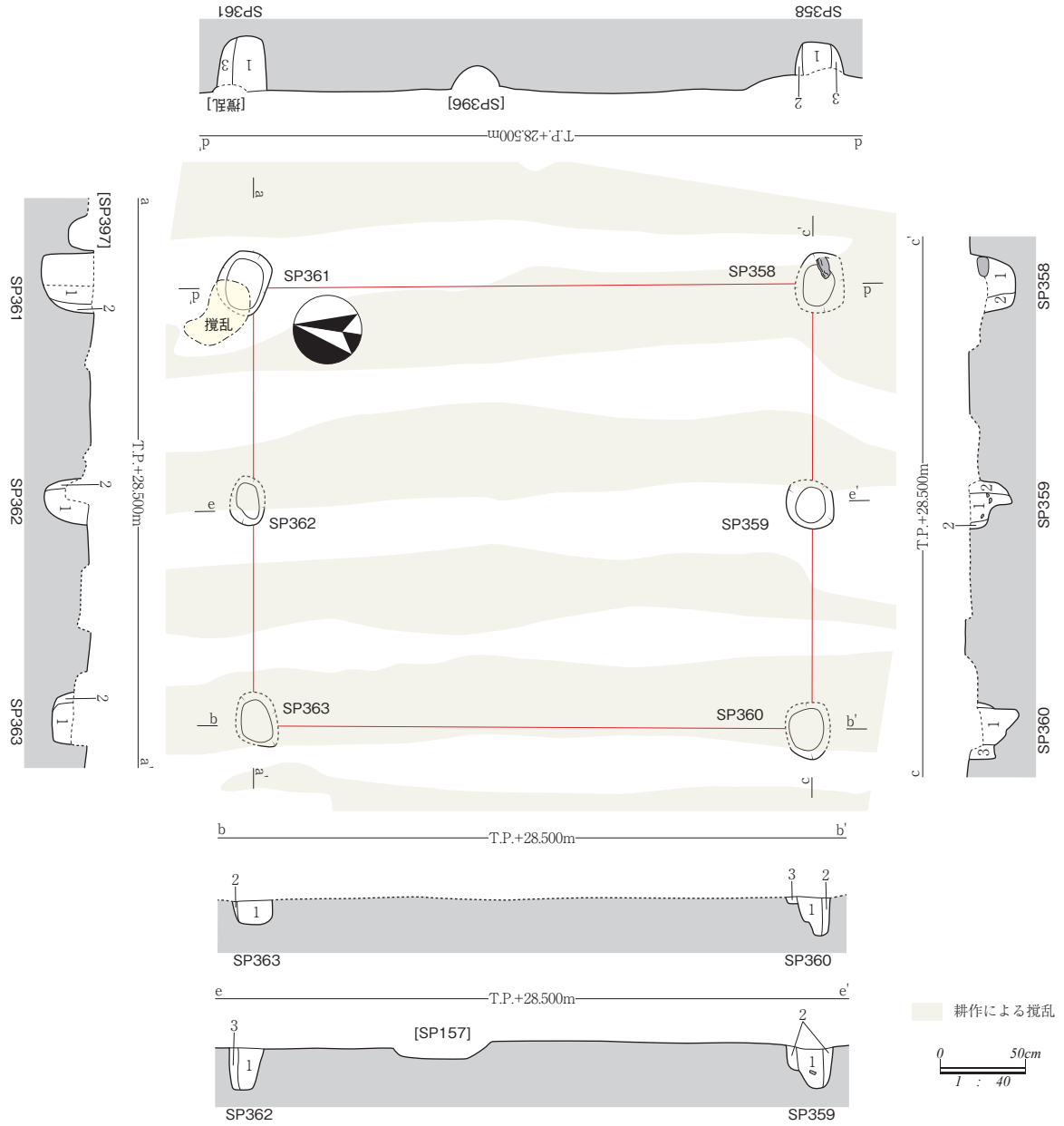


図115 SB5平面図および礫出土状況

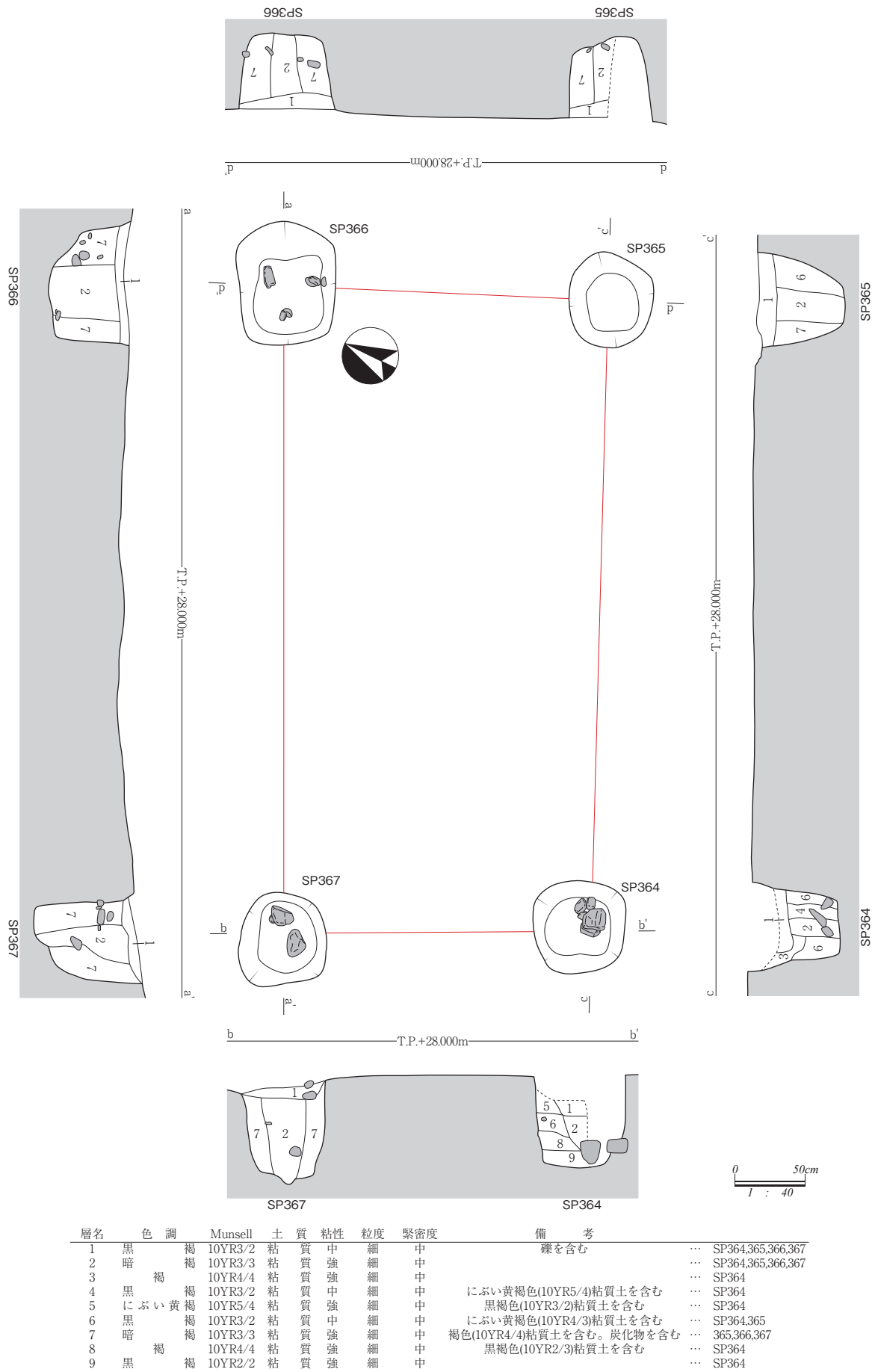
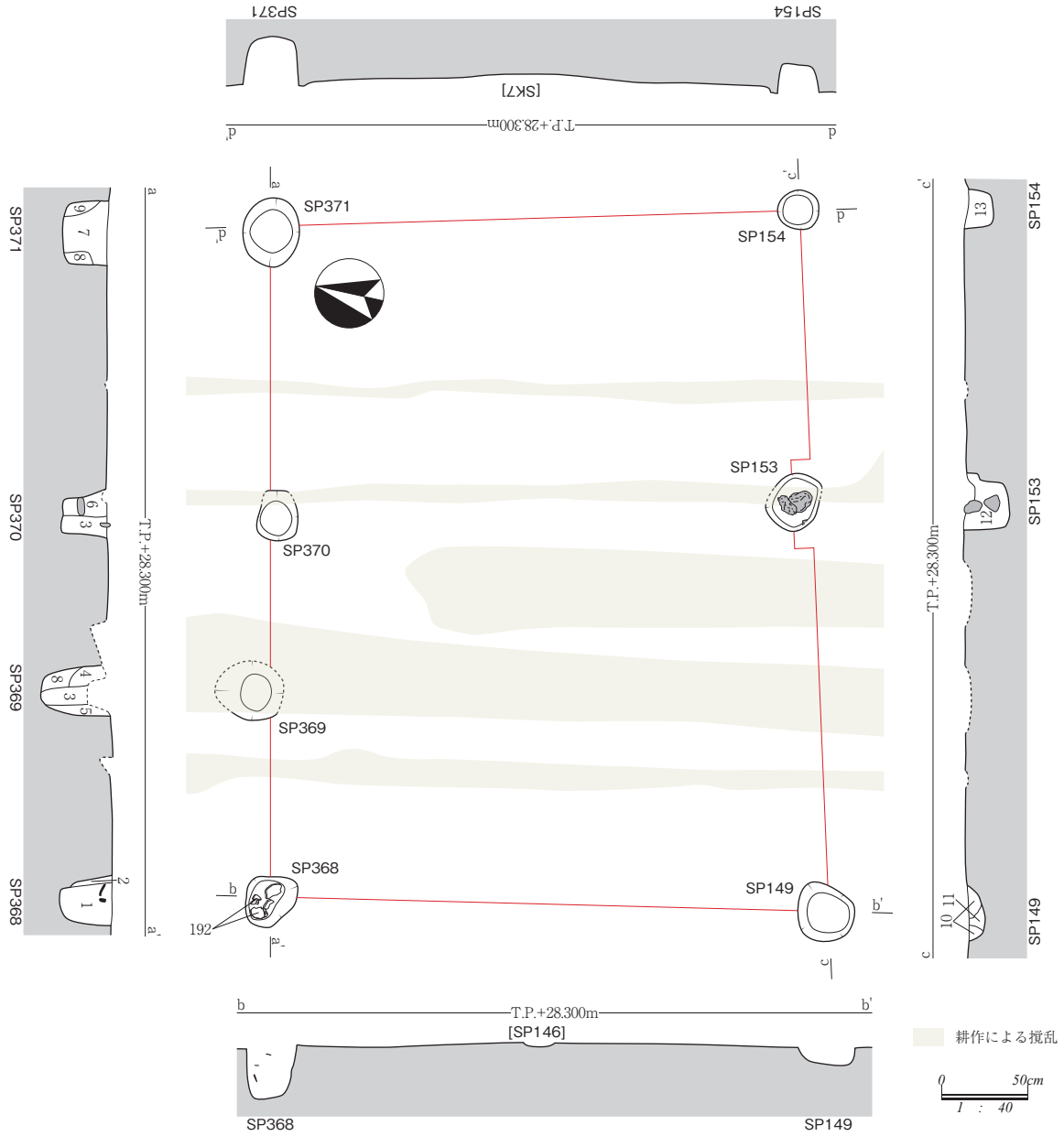


図116 SB6平面図および遺物出土状況



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐 10YR2/3	シルト	弱	細	密	炭化物を含む … SP368
2	暗	褐 10YR3/3	シルト	弱	細	密	褐色(10YR4/4)ブロックを含む … SP368
3	黒	褐 10YR2/2	シルト	弱	細	密	… SP369,370
4	黒	褐 10YR2/2	シルト	弱	細	密	炭化物を含む … SP369
5	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	… SP369
6	黒	褐 10YR3/2	シルト	弱	細	密	… SP370
7	黒	褐 10YR3/2	シルト	弱	細	密	炭化物を含む … SP371
8	褐	10YR4/4	シルト	弱	細	密	… SP369
9	黄	褐 10YR5/6	シルト	弱	細	密	… SP371
10	黒	褐 10YR3/1	シルト	弱	細	密	明黄褐色(10YR6/8)ブロックが混じる … SP149
11	明黄	褐 10YR6/8	シルト	弱	細	密	… SP149
12	黒	褐 10YR2/2	シルト	弱	細	密	… SP153
13	黒	褐 10YR2/2	粘質	中	中	中	… SP154

図117 SB7平断面図および遺物出土状況

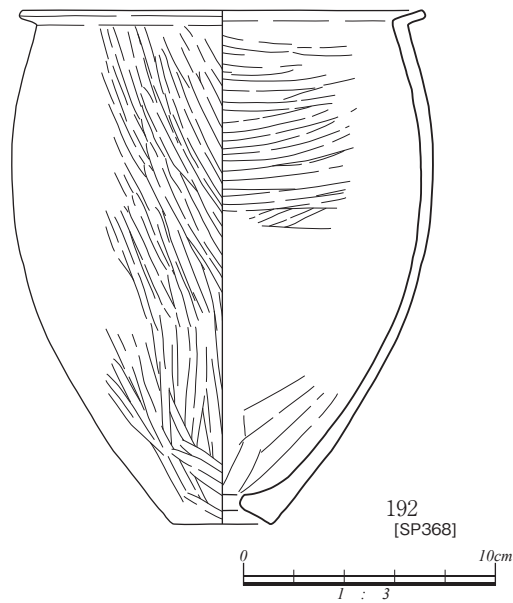


図118 SB7出土遺物

(8) SB9(図121)

遺構 SB9は2a区南側にあり、検出標高は約28.29mである。1間×2間の側柱建物で、梁行3.34m・桁行2.53mの規模である。長軸方向はN-81.05° -Eを指向する。各柱穴は直径30~40cmの楕円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは17~27cmである。柱間は梁方向が327cm、桁方向が120~137cmである。柱痕の可能性のある土層は黒色シルト(1層)で、掘り方は暗褐色(2層)・黄褐色シルト(3層)である。図示できる遺物は無いが、SP380より弥生土器の細片が出土している。SB9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(9) SB10(図122)

遺構 SB10は2a区南側にあり、検出標高は約28.23mである。1間×2間の側柱建物で、梁行2.54m・桁行3.47mの規模である。長軸方向はN-79.06° -Eを指向する。各柱穴は直径30~47cmの楕円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは22~52cmである。柱間は梁方向が243~258cm、桁方向は南側のみが1間となり163~331cmである。柱痕の可能性のある土層は黒色シルト(1・2層)である。図示できる遺物は無いが、SP388より弥生土器の細片が出土している。SB10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

3 土坑

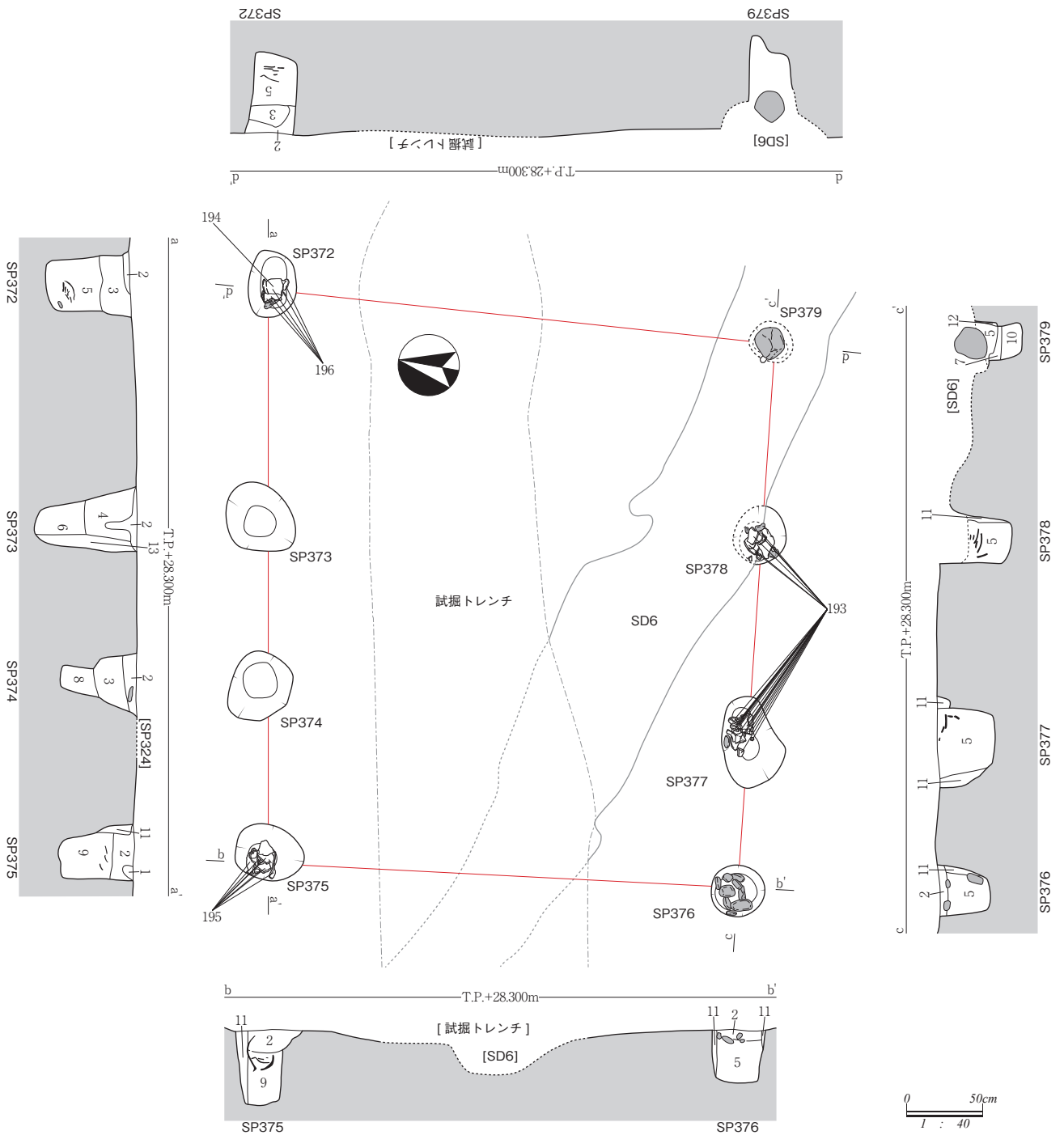
(1) SK1(図123・124・126)

遺構 SK1は1区南端部にあり、一部は調査外の西側へ続いている。検出標高は約28.12mである。SK2よりもSK1が新しいと判断した。長軸240cm・短軸140cm・検出面からの深さは21cmであり、平面形は不整形な楕円形状を呈する。長軸方向はN-20.44° -Wを指向する。土層は黒褐色粘質土で、部分的に暗褐色粘質土を含む。検出時は小型竪穴建物の可能性を想定していたが、床面が安定せず壁溝や柱穴などもみられなかったため、土坑とした。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 197は壺の口縁部である。198は甕である。199は両刃石斧で、安山岩製の可能性がある。

(2) SK2(図123~126)

遺構 SK2は1区南端部にあり、一部は調査区外の西側へ続く。検出標高は約28.14mである。SK1よりもSK2が古いと判断した。平面形は不整形な楕円形状と推定され、長軸240cm・短軸142cm・検出面からの深さは10cmである。土層は黒褐色粘質土が主体となる。弥生土器とともに



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰黄	10YR4/2	粘質	中	細	密	褐色(10YR4/4)粘質土を含む
2	黒	10YR2/3	粘質	中	細	密	褐色(10YR4/4)粘質土を含む
3	黒	10YR2/3	粘質	中	細	密	炭化物を含む
4	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
5	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
6	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	
7	にぶい黄	10YR4/3	粘質	強	細	中	1cm程度のにぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む
8	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	
9	暗	10YR3/3	粘質	強	細	中	
10	黒	10YR3/2	粘質	強	細	中	
11	にぶい黄	10YR4/3	粘質	強	細	密	
12	黒	10YR3/2	粘質	強	細	密	
13	黒	10YR3/2	粘質	強	細	密	褐色(10YR4/4)粘質土を含む

図119 SB8断面図および遺物出土状況

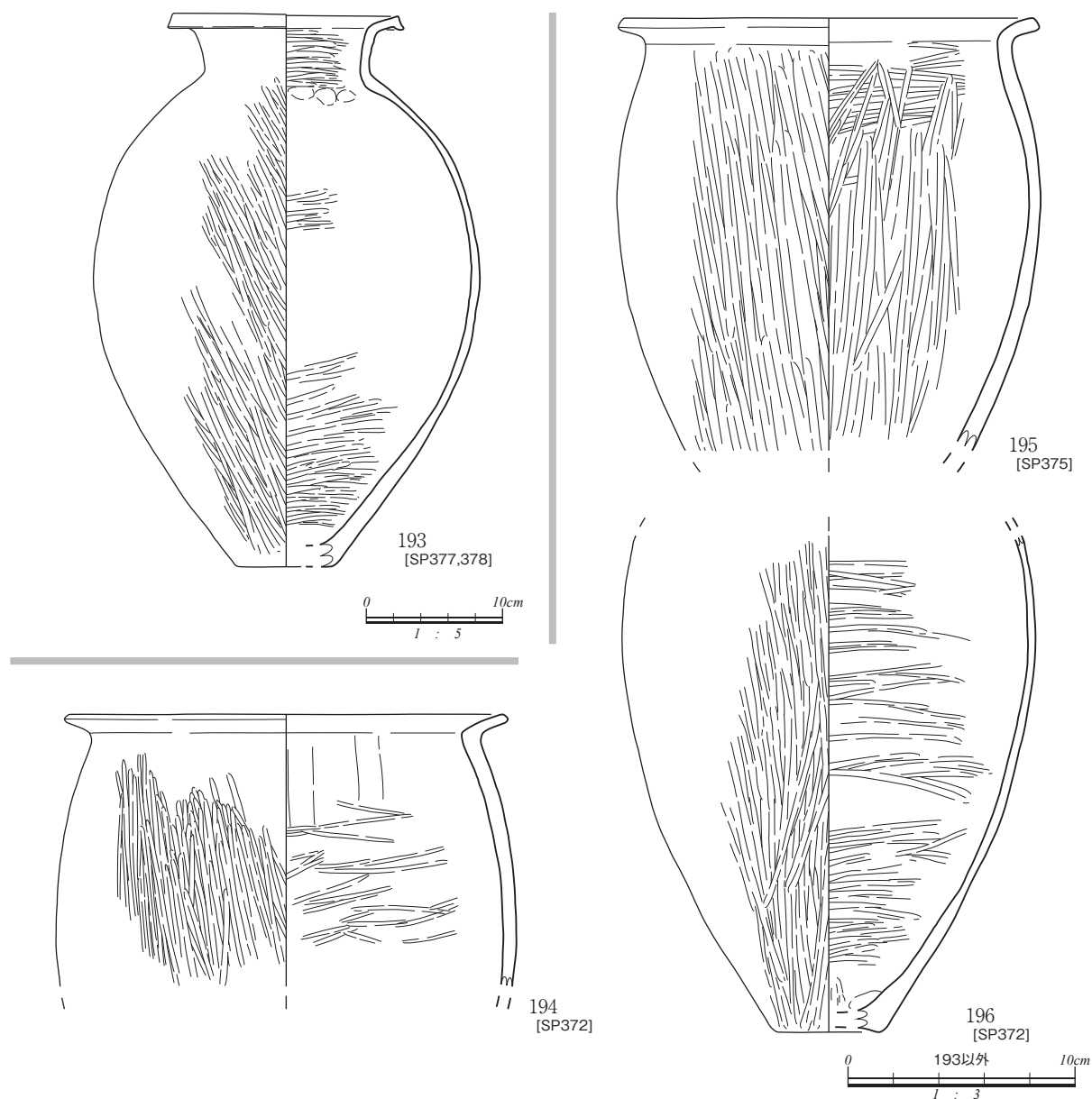


図120 SB8出土遺物

に石器や礫が出土している。SK2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 200・201は壺の口縁部である。200は内面に円形浮文および斜格子文、端部には波状文が見られる。201では端部に綾杉状の列点文が見られる。202～208は甕である。202は底部、それ以外は口縁部である。204・205は倒卵形を呈する。209・210は石庖丁である。209は泥質片岩、210はサヌカイト製である。

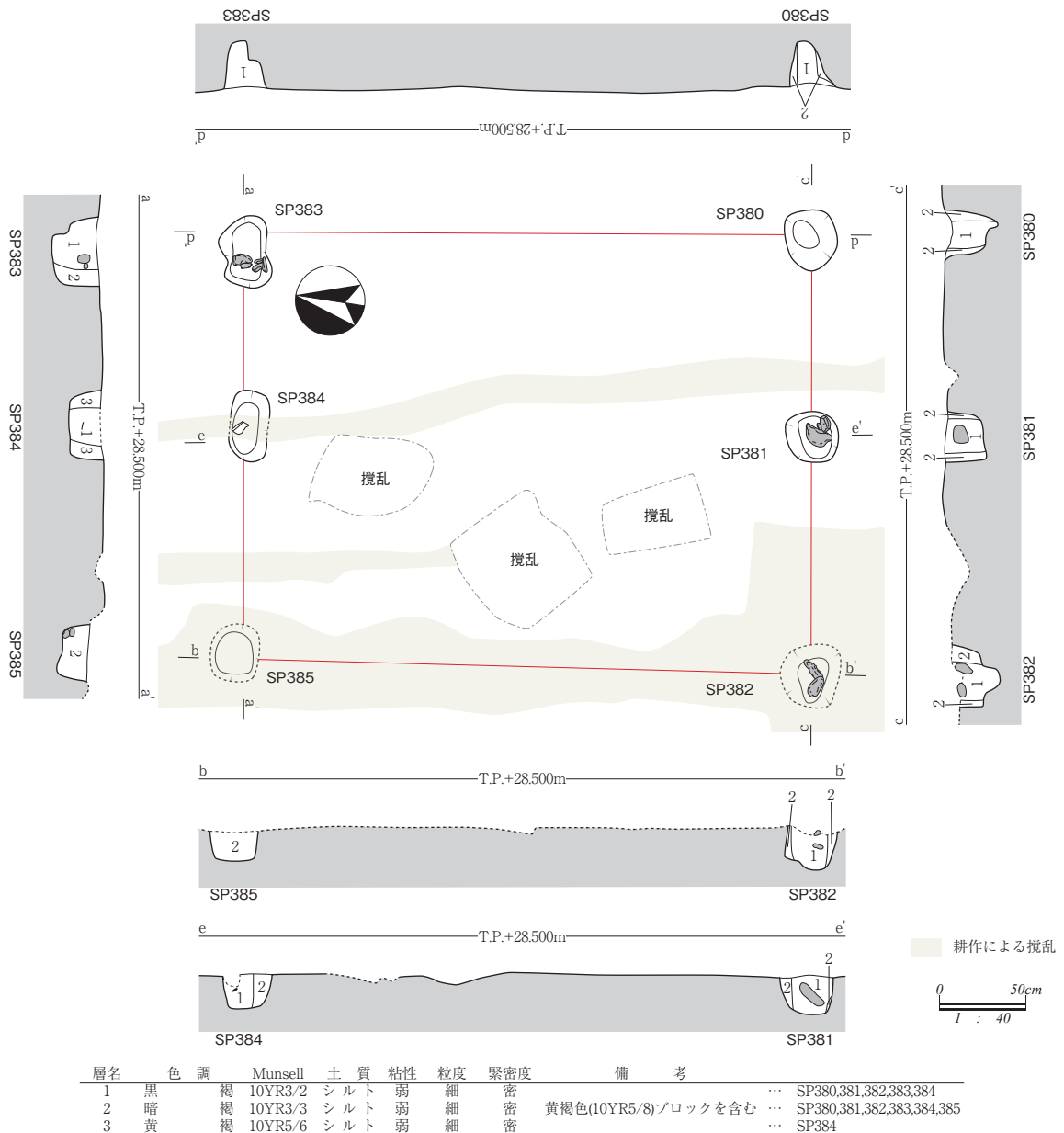


図121 SB9平断面図および礫出土状況

211・212はSK1・2出土間で接合した甕で、211は口縁部、212は底部である。

(3) SK3(図127)

遺構 SK3は1区南側にあり、一部は調査区外の西側へ続く。検出標高は約27.97mである。平面形は不整形な隅丸形状と推定され、長軸160cm・短軸81cm・検出面からの深さは7cmである。土層は黒褐色粘質土で南側では黒色砂質土が見られた。図示できる遺物は無いが、弥生土器の細片が出土している。SK3の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代と考えられる。

(4) SK5(図128・129)

遺構 SK5は2a区南端部にあり、一部は調査区外の南側へ続く。検出標高は約28.3mである。平

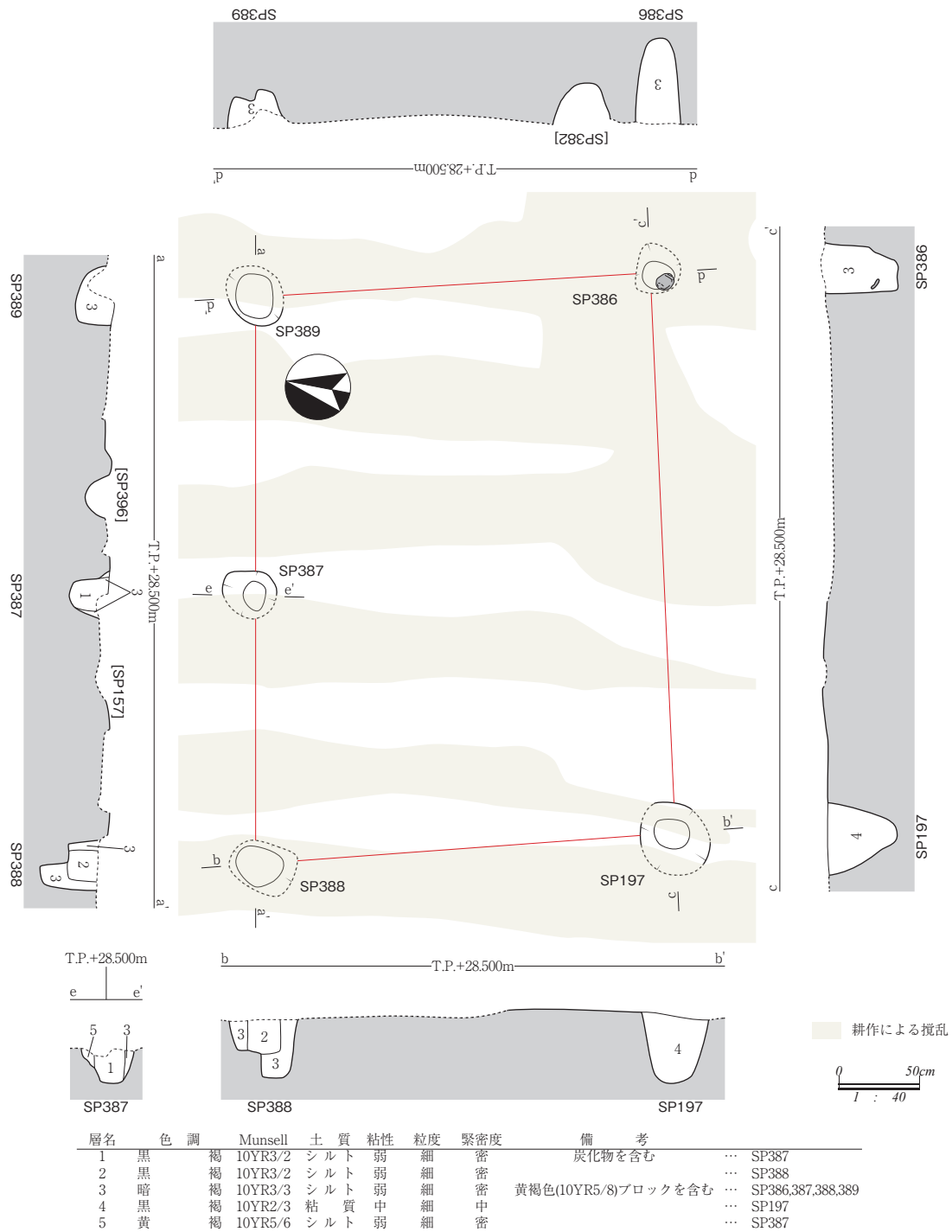
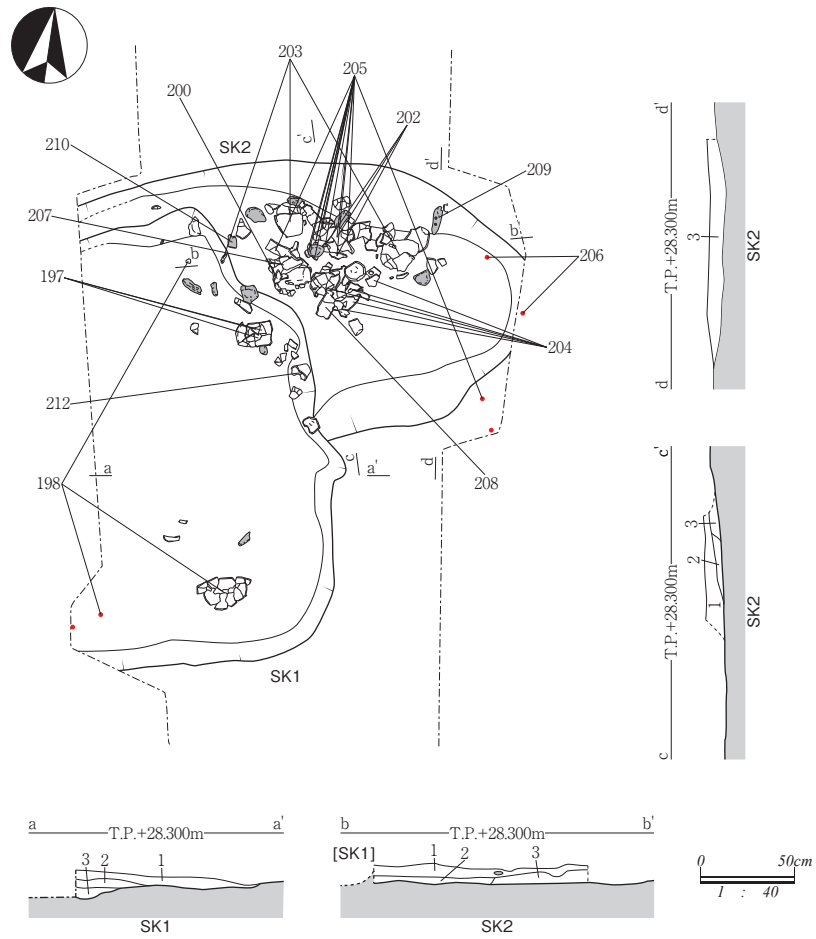


図122 SB10平断面図および礫出土状況



[SK1]

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐 2.5Y3/2	粘質	中	細	密	
2	黒	褐 10YR2/2	粘質	中	極細	極密	
3	暗	褐 10YR3/4	粘質	中	細	極密	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒粘質土が混じる

[SK2]

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐 10YR2/3	粘質	中	細	密	土器片を含む。礫を含む
2	黒	10YR2/2	粘質	強	細	密	
3	暗	褐 10YR3/4	粘質	強	細	密	

図123 SK1,2平断面図および遺物出土状況

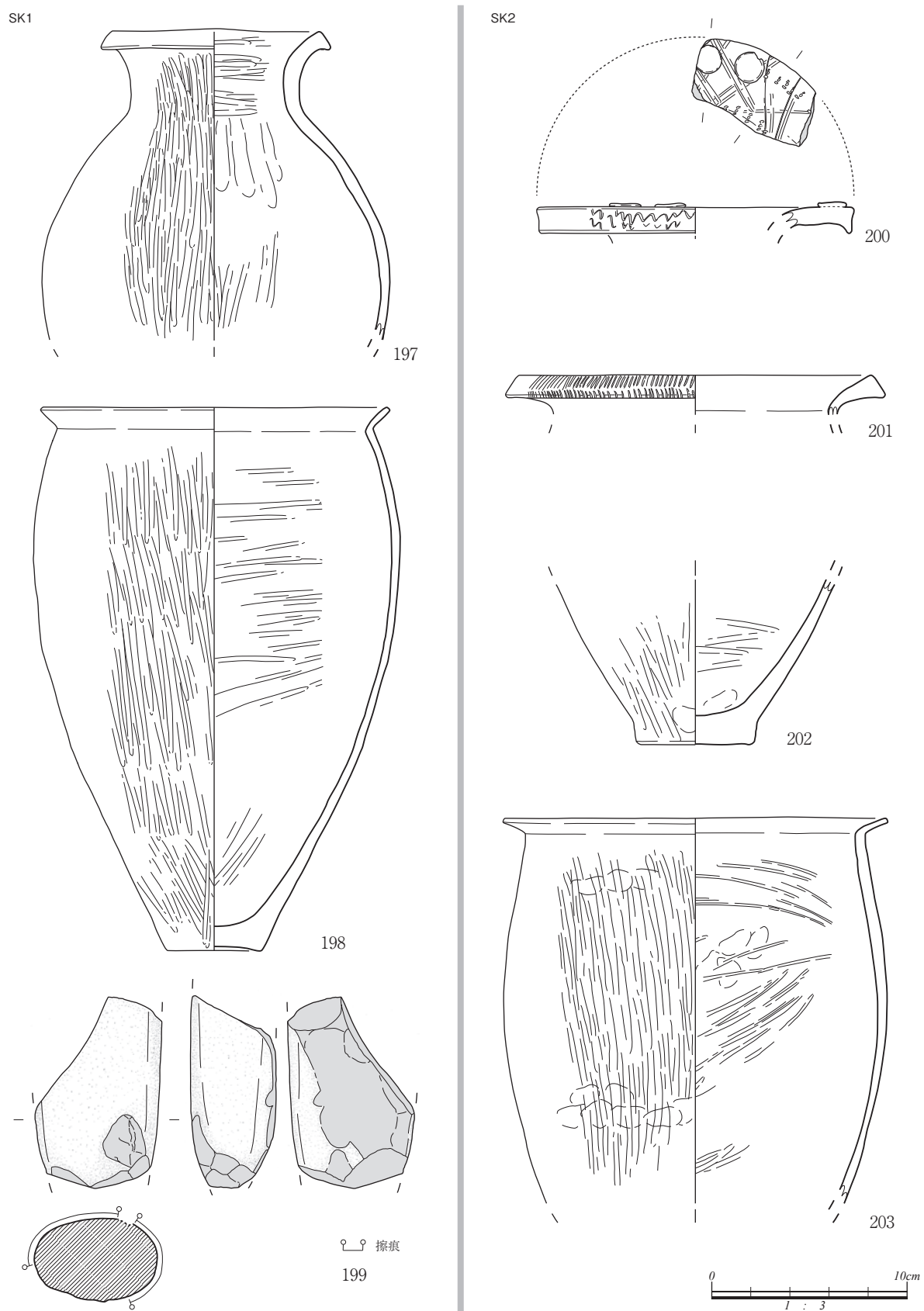


図124 SK1,2出土遺物(1)

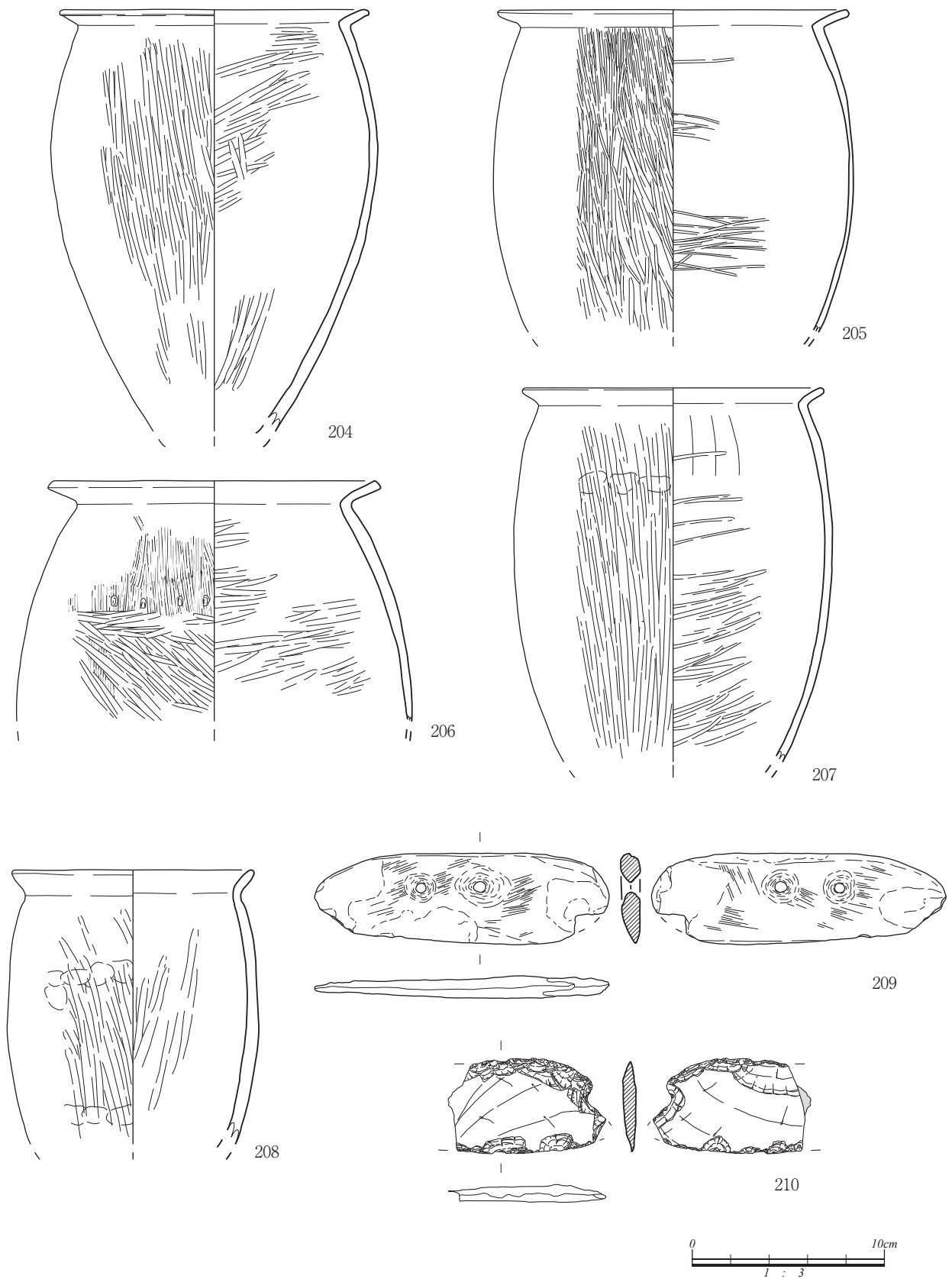


図125 SK2出土遺物(2)

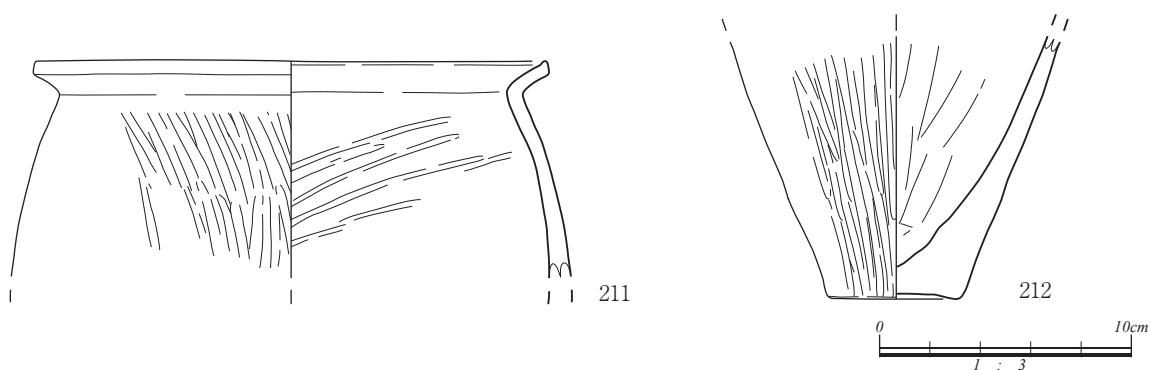
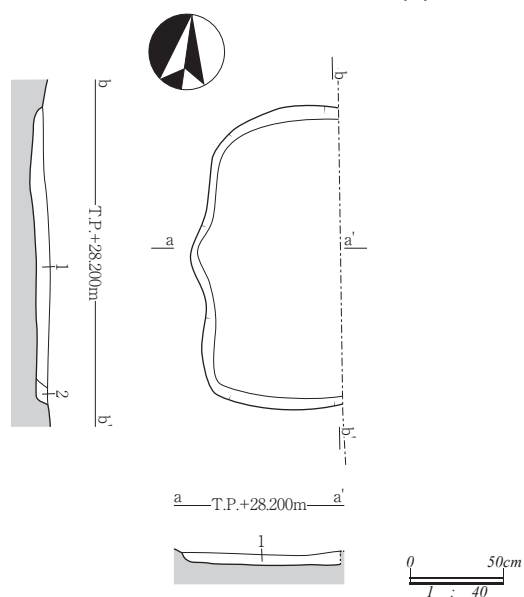


図126 SK1,2出土遺物

面形は隅丸方形と推定され、長軸218cm・短軸203cm・検出面からの深さは16cmであり、さらに南側へ続く。長軸方向はN-19.82° -Wを指向する。土層は黒褐色シルトで、壁際では明黄褐色シルト含む。1層は地山ブロックを含んでおり、人為的に埋め戻された可能性がある。弥生土器とともに礫が出土している。SK5の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 213は壺の口縁部で、口縁内外面に山形文が描かれ、頸部には貼付突帯文や波状文が巡る。214は短頸壺である。胴部に直線文や斜格子文、列点文が施される。215～219は甕である。215は底部、それ以外は口縁部である。219は口縁端部に刻目がある。



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒 褐	10YR2/2	粘質	強	中	中	
2	黒	2.5Y2/1	砂質	中	中	中	

図127 SK3断面図

(5) SK6(図130)

遺構 SK6は2a区南側にあり、検出標高は約28.06mである。攪乱が大部分に及んでおり、平面形は不整形な隅丸方形と推定され、長軸354cm・短軸221cm・検出面からの深さは9cmである。長軸方向はN-68.78° -Eを指向する。土層は3層に分けられ、黒褐色シルトが主体である。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK6の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 220は甕の口縁部である。221は泥質片岩製の石器素材である。

(6) SK7(図131)

遺構 SK7は2a区中央南寄りにあり、検出標高は約28.14mである。平面形は不整形な隅丸方形を呈し、長軸355cm・短軸270cm・検出面からの深さは14cmである。長軸方向はN-33.67° -Wを指向する。土層は黒色粘質土が主体となる。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK7の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

遺物 222は甕の口縁部で倒卵形を呈する。223は緑色片岩製の石器素材で、石庖丁の可能性があ

る。

4 遺構外の出土遺物(図132・133)

224は1区より、225～233は2区より出土した。224～227は壺である。224は口縁部である。225・226は口縁部および底部であり、同一個体の可能性が高い。227は口縁部に刻目が施され胴部中位に列点文が見られる。外面上半にハケ、中位で横方向、下半に縦方向のミガキが施される。228～232は甕の口縁部であり、228～230はくの字状、231は水平に屈曲する。229は端部に刻目、上端面に波状文が施される。232は貼付口縁であり、口縁上端面に波状文が見られる。

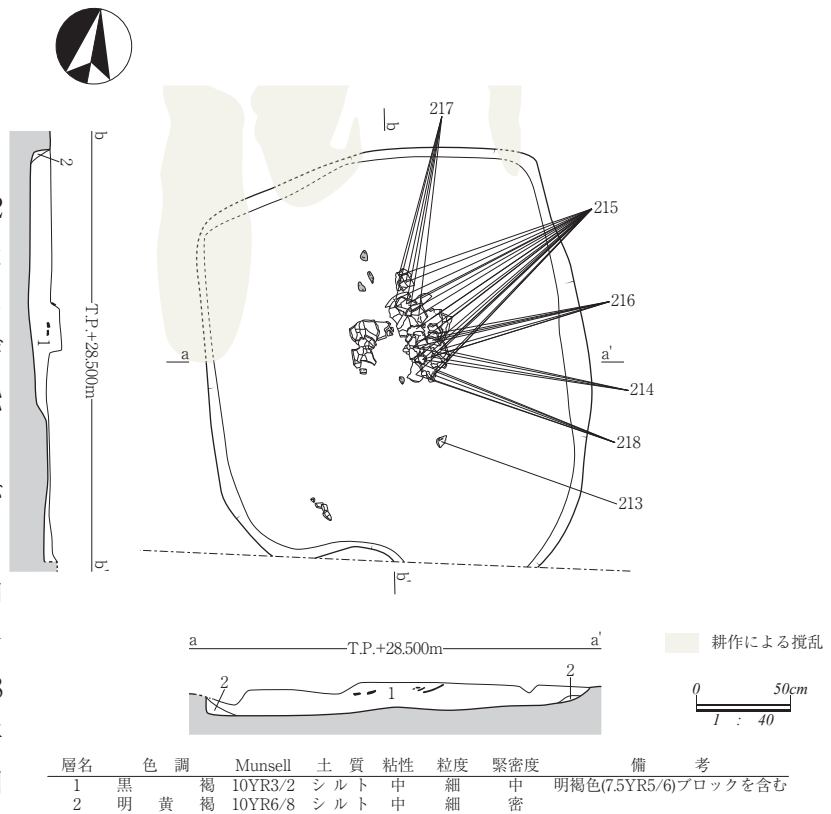


図128 SK5平断面図および遺物出土状況

第3節 古代の遺構と遺物

1 概要

古代の遺構は、溝3条である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は古代以降と考えられる。出土遺物は土師器・須恵器である。

2 溝

(1) SD1(図134)

遺構 SD1は1区中央部にあり、検出標高は約28.43mである。SD2～4・SP26よりもSD1が新しい。検出長2,631cm・最大幅91cm・検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は皿状で、平面形はおおむね直線的であり、2度屈曲しながらSD7と並走し、北西へ延びるものとみられる。礫を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。長軸方向はN-14.07° -Wを指向する。図示できる遺物は無いが、弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD1の時期は検出層位と遺構の重複より古代以降と考えられる。

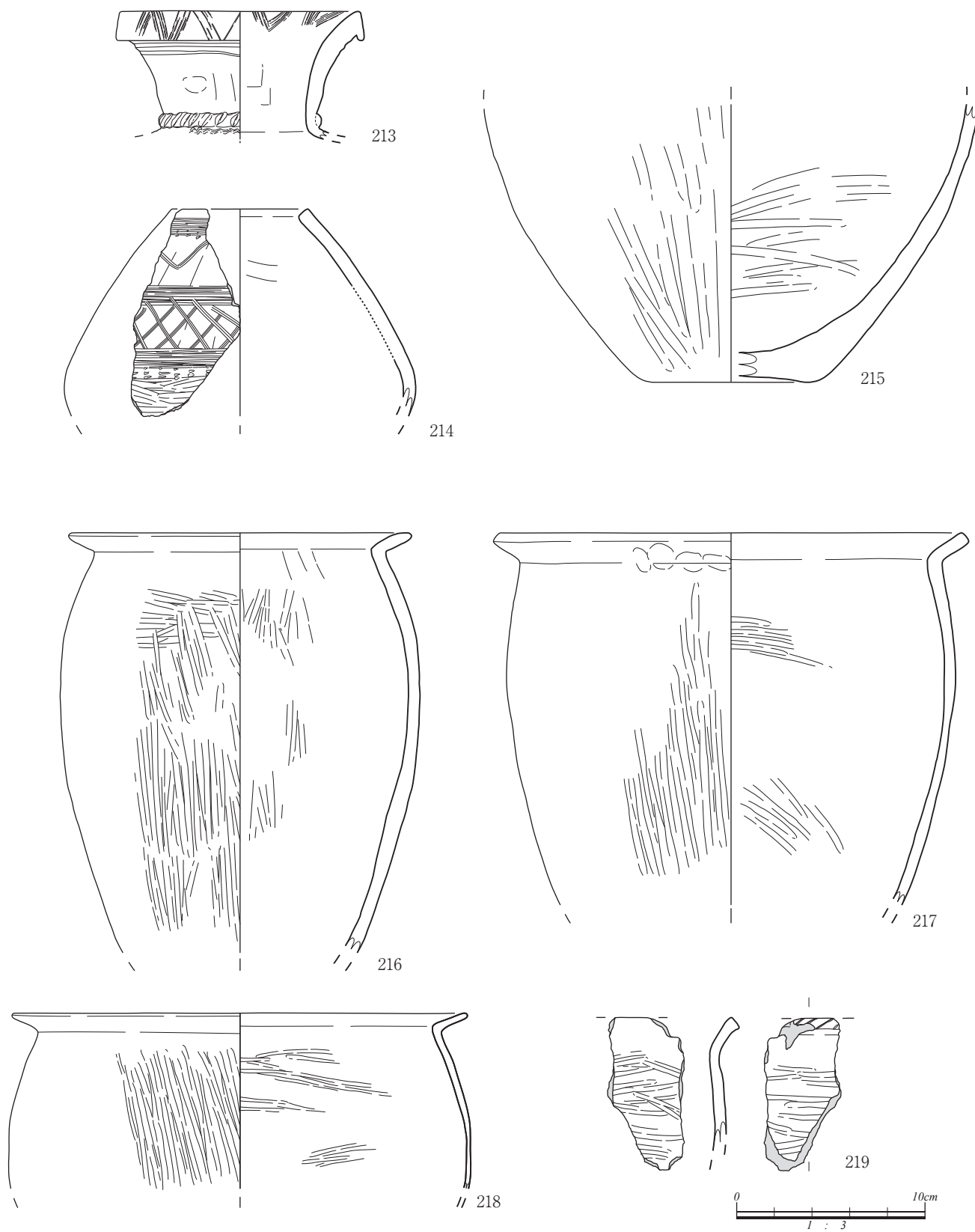
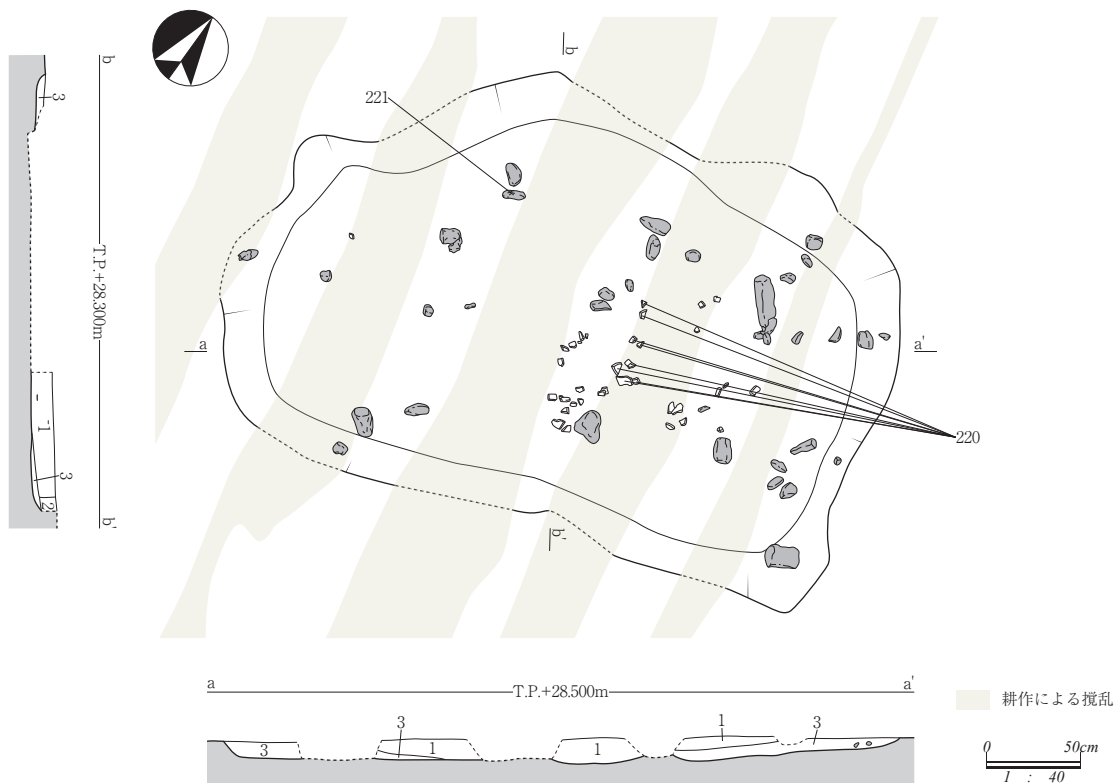


図129 SK5出土遺物



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐 10YR3/1	シルト	弱	細	密	
2	にぶい黄褐	10YR4/3	シルト	弱	細	密	
3	黄	褐 10YR5/6	シルト	弱	細	密	

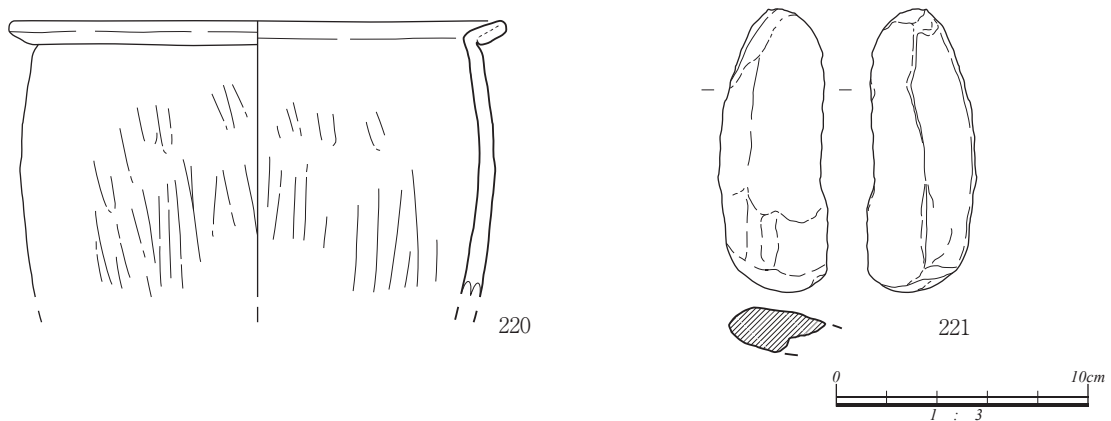
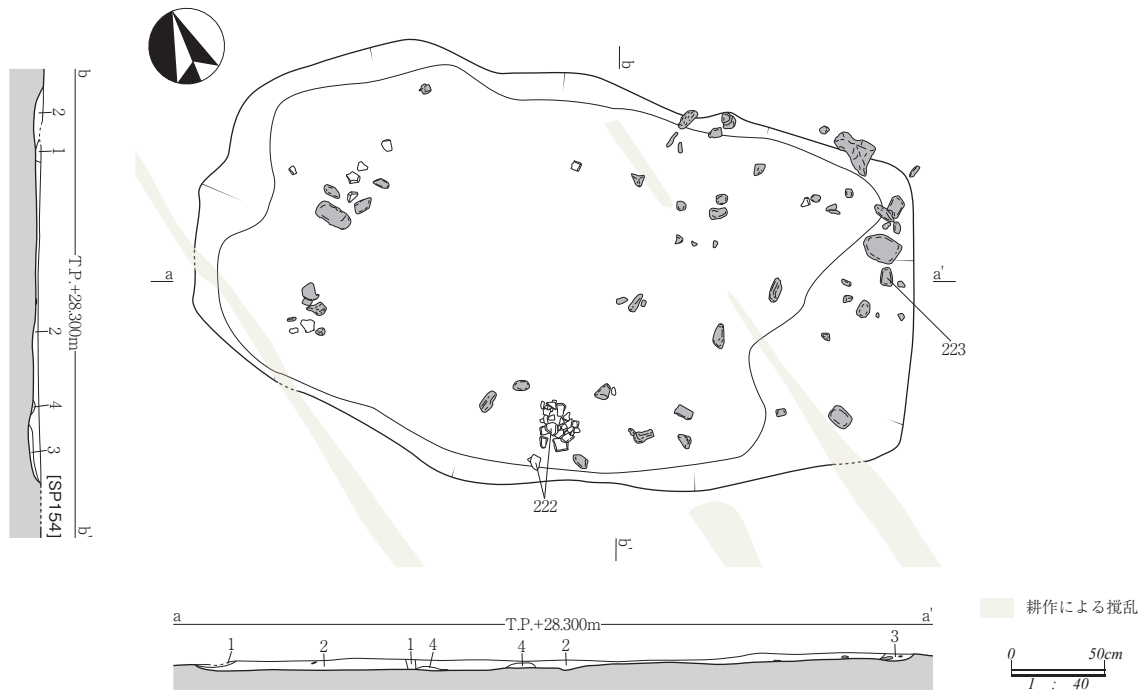


図130 SK6平面断面図および遺物出土状況および出土遺物

(2) SD3(図134)

遺構 SD3は1区中央南寄りにあり、検出標高は約28.02mである。南端は攪乱が及んでおり、SD1よりも古くSD4より新しい。位置的にSD2の一部であった可能性もある。検出長470cm・最大幅55cm・検出面からの深さは最深部で12cmである。断面形は緩やかなV字形で、流水により埋土が堆積したものと考えられる。南東から北方向へ緩く湾曲しており、長軸方向はN-39.16° -Wを指向する。土層は、にぶい黄褐色粘質土と暗褐色粘質土に分層できる。図示できる遺物は無いが



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗灰黄	2.5Y4/2	粘質	強	細	中	2層を含む
2	黒	10YR1.7/1	粘質	中	細	中	
3	にぶい黄褐	10YR5/3	粘質	中	細	密	
4	褐	10YR4/4	粘質	中	細	密	

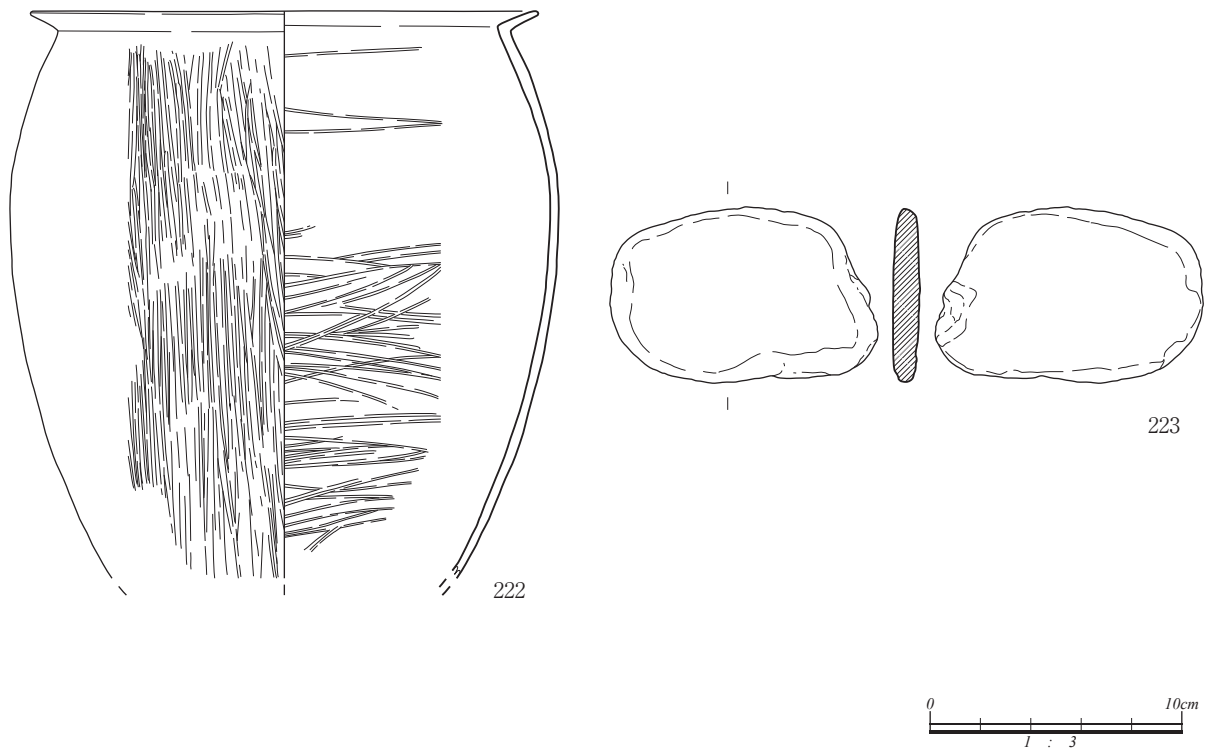


図131 SK7平面図および遺物出土状況および出土遺物

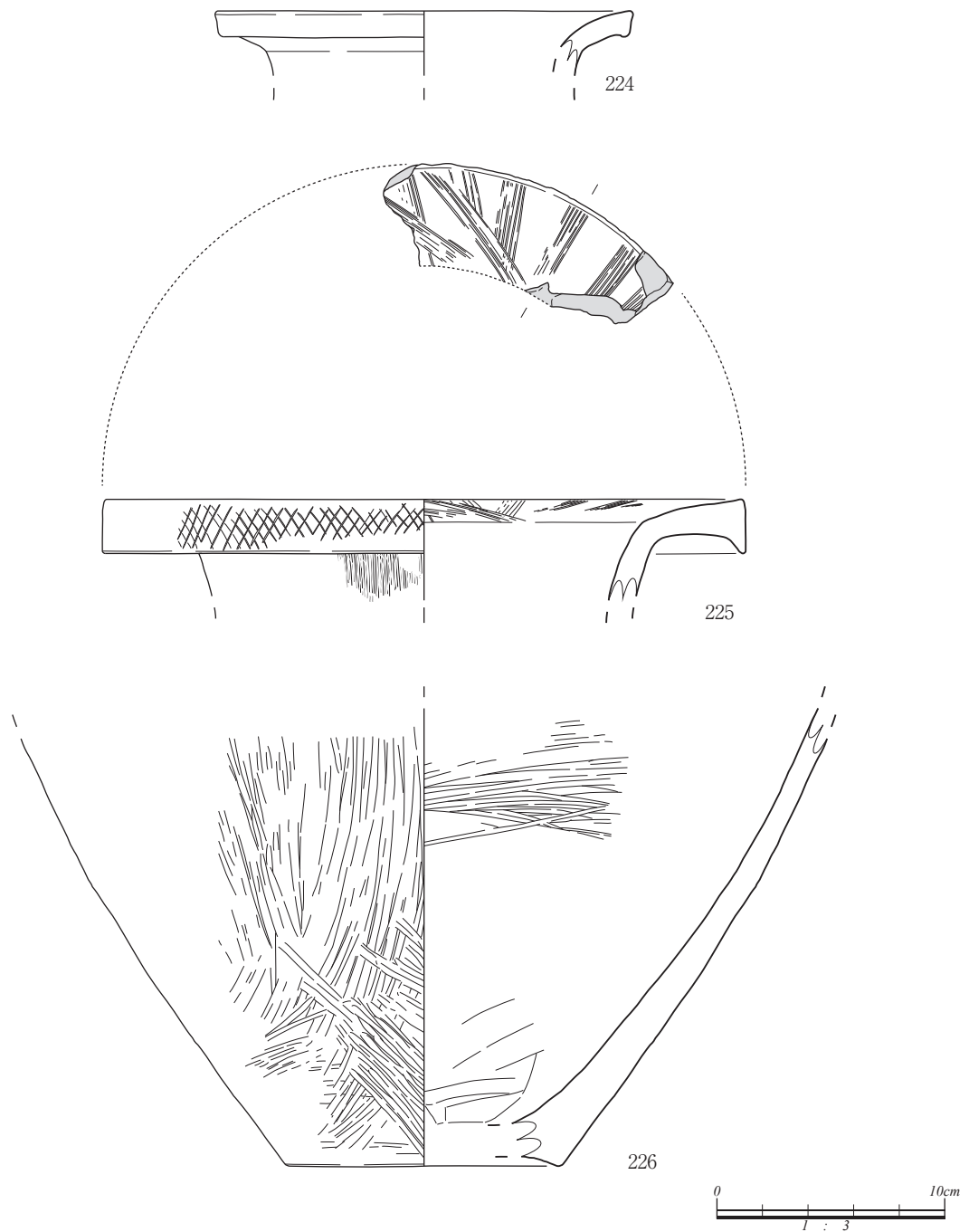


図132 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

弥生土器および土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD3の時期は、検出層位と出土遺物より古代以降と考えられる。

(3) SD6(図135)

遺構 SD6は調査区西側で1区および2a区にまたがる溝である。検出標高は1区で約27.78m、2a区で約28.06mである。SD5・SP313より古くSB4.8・SD2・SP329,330より新しい。検出長2,874cm・最大幅148cm・検出面からの深さは最深部で16cmである。断面形は逆台形状で、平面形状は直

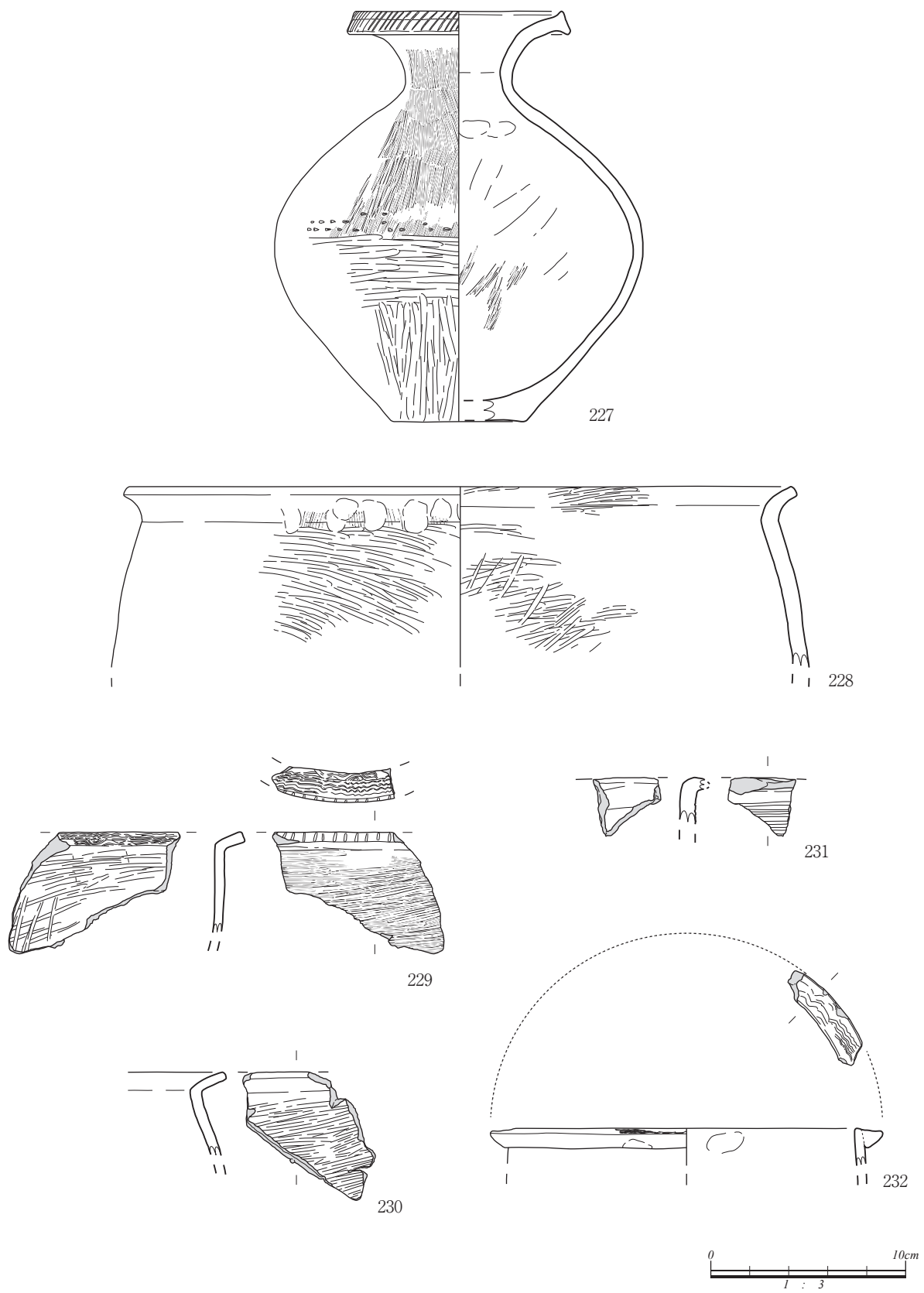


図133 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

線的であり長軸方向はN-70.11° -Wを指向する。埋土に大小の礫を含む状況から、複数回の流水による堆積と想定される。遺物は弥生土器、須恵器のほか土師器が出土しており摩耗がみられる。SD6の時期は、検出層位と出土遺物より8世紀後半以降と考えられる。

遺物 233は弥生土器壺または甕の底部である。234は須恵器蓋である。天井部を欠くがつまみが付帯していた可能性がある。

第4節 中世の遺構と遺物

1 概要

中世の遺構は、溝3条・小穴2穴である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は中世以降と考えられる。出土遺物には土師質土器・瓦器・陶磁器がある。

2 溝

(1) SD5(図136)

遺構 SD5は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.75mである。SB2・SD6,7,9,10よりもSD5が新しい。検出長2,356cm・最大幅100cm・検出面からの深さは最深部で22cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。北西方向へ直進したのち北端で西へ屈曲する。長軸方向はN-26.62° -Wを指向する。弥生土器のほか土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD5の時期は、検出層位と遺構の重複・出土遺物より中世以降と考えられる。

遺物 235は弥生土器甕の底部である。

(2) SD7(図137)

遺構 SD7は調査区北側で1区および2a区にまたがり、検出標高は約27.8mである。SD5より古くSD8より新しい。検出長1,452cm・最大幅254cm・検出面からの深さは最深部で16cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から流水のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状は直線的であり、長軸方向はN-71.65° -Eを指向する。

遺物は1区で弥生土器・須恵器・土師器・瓦・土師質土器・瓦器椀が、2a区で土師質土器が出土している。SD7の時期は、検出層位と出土遺物より古代から中世と考えられる。

遺物 237は土師器甕の胴部である。内外面に刷毛目がみられる。238は土師器椀または杯の口縁部である。239は須恵器甕の胴部である。外面にタタキが施される。240は平瓦で、若干磨耗しているが内面に布目が見られる。241は土師質土器皿である。

(3) SD19(図137)

遺構 SD19は2a区西側にあり、検出標高は約27.96mである。SP242よりもSD19が新しい。検出長2,114cm・最大幅180cm・検出面からの深さは最深部で51cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から水流のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状は直線的でありSD7と並走し、長軸方向はN-76.77° -Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器や土師器、土師質

土器が出土し、摩耗がみられる。SD19の時期は、検出層位と出土遺物より中世以降と考えられる。

3 遺構外の出土遺物(図138)

242・243は1区、244～246は2区より出土した。一部に古代以降のものも含む。242は土師質土器皿である。243は和泉型瓦器椀の口縁部である。13世紀頃と推定される。244は土師質土器の底部、245は内面黒色土器の底部である。246は白磁碗Ⅳ類の口縁部である。

第5節 時期不明の遺構

1 掘立柱建物

(1) SB1(図139)

遺構 SB1は1区北側にあり、検出標高は約27.44mである。埋土の色調や検出面からの深さがおおむね揃う傾向であることから、掘立柱建物の可能性を考えた。1間×1間の側柱建物で、梁行1.44m・桁行2.43mの規模である。北東部の柱穴は確認できなかった。長軸方向はN-9.16° -Eを指向する。各柱穴は直径25～43cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは9～35cmである。柱間は梁方向が144cm、桁方向が244cmである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

2 土坑

(1) SK4(図140)

遺構 SK4は2a区南端部にあり、検出標高は約28.3mである。長軸114cm・短軸85cm・検出面からの深さは10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。軸方向はN-48.54° -Eを指向する。土層は黒褐色細砂が主体である。遺物は出土していない。

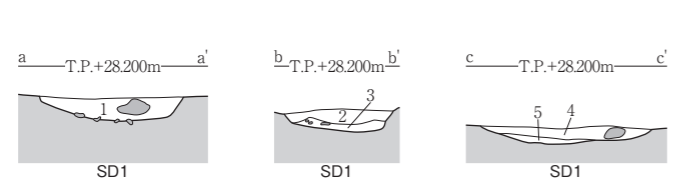
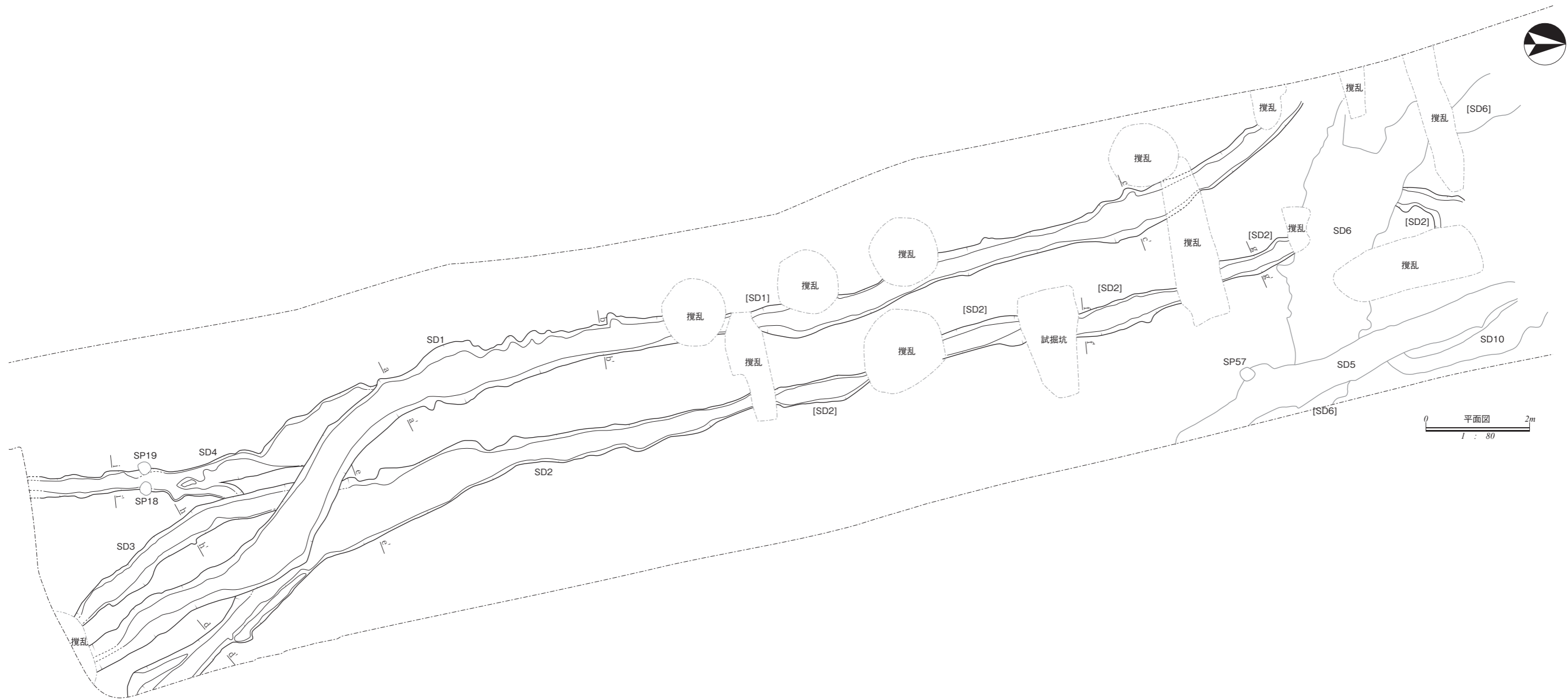
(2) SK8(図141)

遺構 SK8は2a区東部にあり、検出標高は約27.8mである。長軸147cm・短軸96cm・検出面からの深さは27cmであり、平面形は楕円形を呈する。長軸方向はN-65.56° -Eを指向する。土層は3層に分層される。遺物は出土していない。

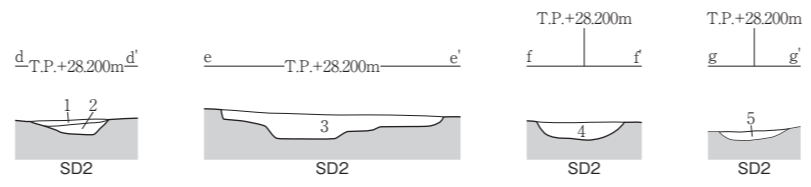
3 溝

(1) SD2(図134)

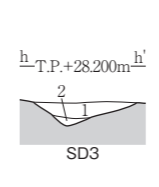
遺構 SD2は1区中央部にあり、検出標高は約27.92mである。SD1,6より古くSP26より新しい。検出長2,685cm・最大幅118cm・検出面からの深さは最深部14cm、断面形は不整形な皿状であり、礫を含むことから流水のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状はおおむね直線的でSD1と並走しており、長軸方向はN-16.9° -Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD2の時期は、検出層位と遺構の重複、出土遺物より弥生時代以降と考えられる。



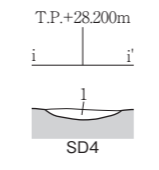
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	2.5Y3/2	砂質	中	極細	極密	
2	黒	2.5Y3/2	砂質	中	細	密	
3	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂質	弱	細	密	礫を多量に含む
4	黒	10YR3/2	粘質	強	細	密	
5	にぶい黄褐	10YR4/3	砂質	弱	細	疎	0.5~5.0cmの礫を含む



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR5/3	砂	なし	粗	極疎	0.2~0.5cm程の礫を含む
2	灰黄褐	10YR4/2	砂質	弱	細	密	黄褐色(10YR5/6)砂質土を含む
3	にぶい黄	2.5Y6/3	粘質	中	細	密	1.0~5.0cm程の礫を含む
4	黒	2.5Y3/2	粘質	強	細	中密	
5	にぶい黄褐	10YR4/3	粘質	中	細	中密	にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土を含む



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR5/3	粘質	強	細	密	
2	暗	10YR3/3	粘質	強	細	密	



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR5/3	粘質	強	細	密	

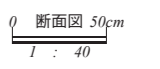
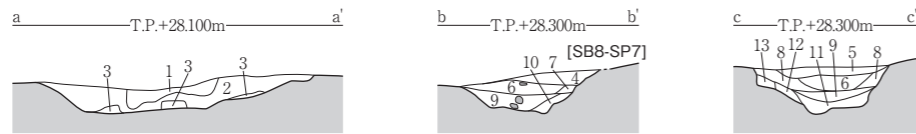
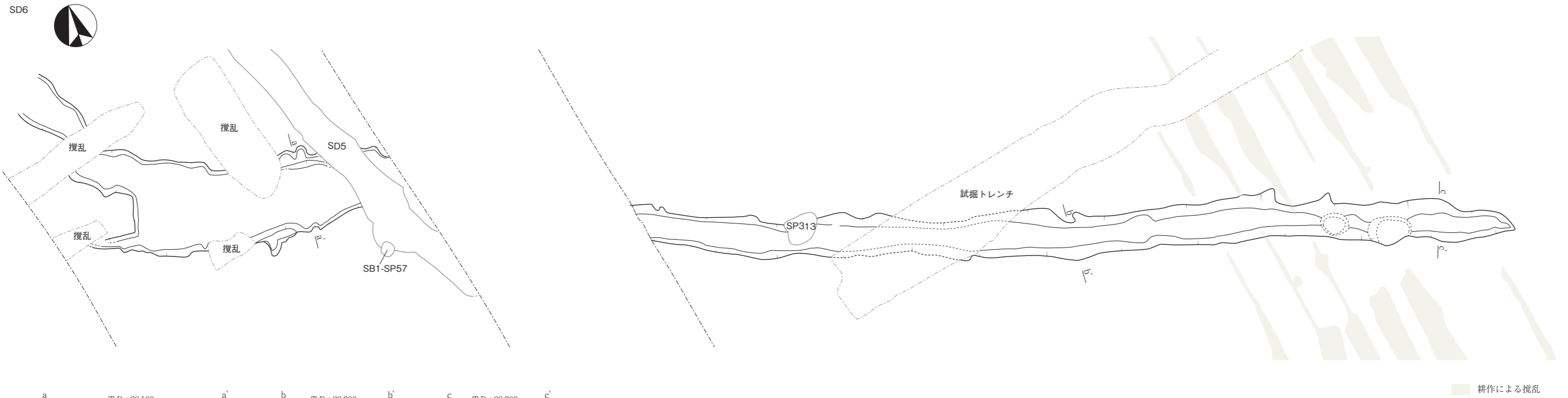
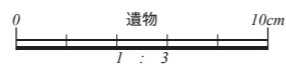
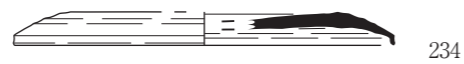
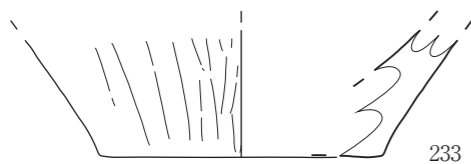


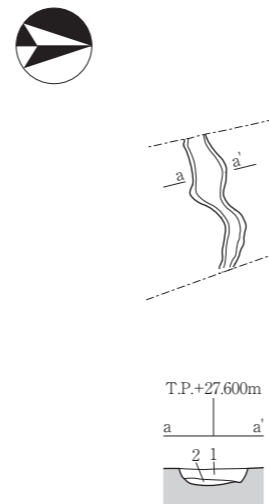
図134 SD1~4平面図



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰黄	10YR4/2	砂	質弱	中	密	0.5~1.0cm程の礫を含む
2	暗褐	10YR3/3	粘質	中	細	密	
3	褐	10YR4/4	粘質	中	細	密	2層を含む
4	黒	10YR3/2	細砂	弱	細	密	
5	黒	10YR2/2	中砂混じり	細砂	弱	密	一部に中礫を含む
6	黒	10YR3/2	細礫混じり	極粗砂	弱	密	
7	暗	10YR3/2	シル	弱	細	密	
8	黒	10YR2/2	細砂	弱	細	密	
9	黒	10YR2/1	極細砂混じり	細砂	弱	密	下面に細礫が帯状にみられる
10	黒	10YR3/2	シル	弱	細	密	
11	黒	10YR2/2	シル	弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックを含む
12	黒	10YR3/2	細砂	弱	細	密	
13	暗	10YR3/3	シル	弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックを含む

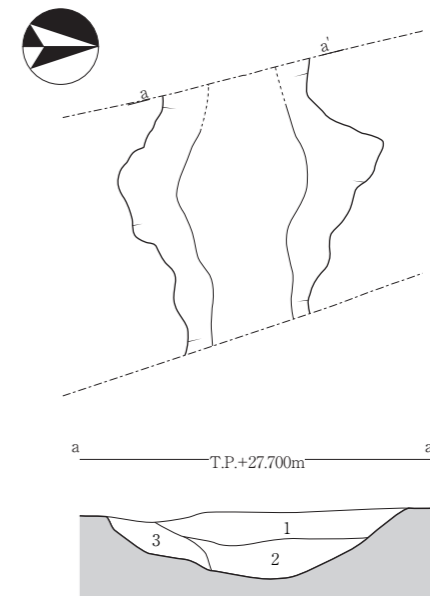


SD13



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
2	暗	10YR3/3	粘質	強	細	中	

SD14



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	2.5Y3/2	粘質	中	極細	極密	
2	黒	2.5Y3/2	粘質	中	細	密	礫を含む
3	暗	2.5Y4/2	粘質	中	細	極密	礫を含む

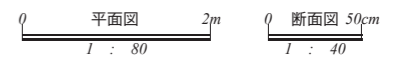


図135 SD6,13,14平断面図および出土遺物

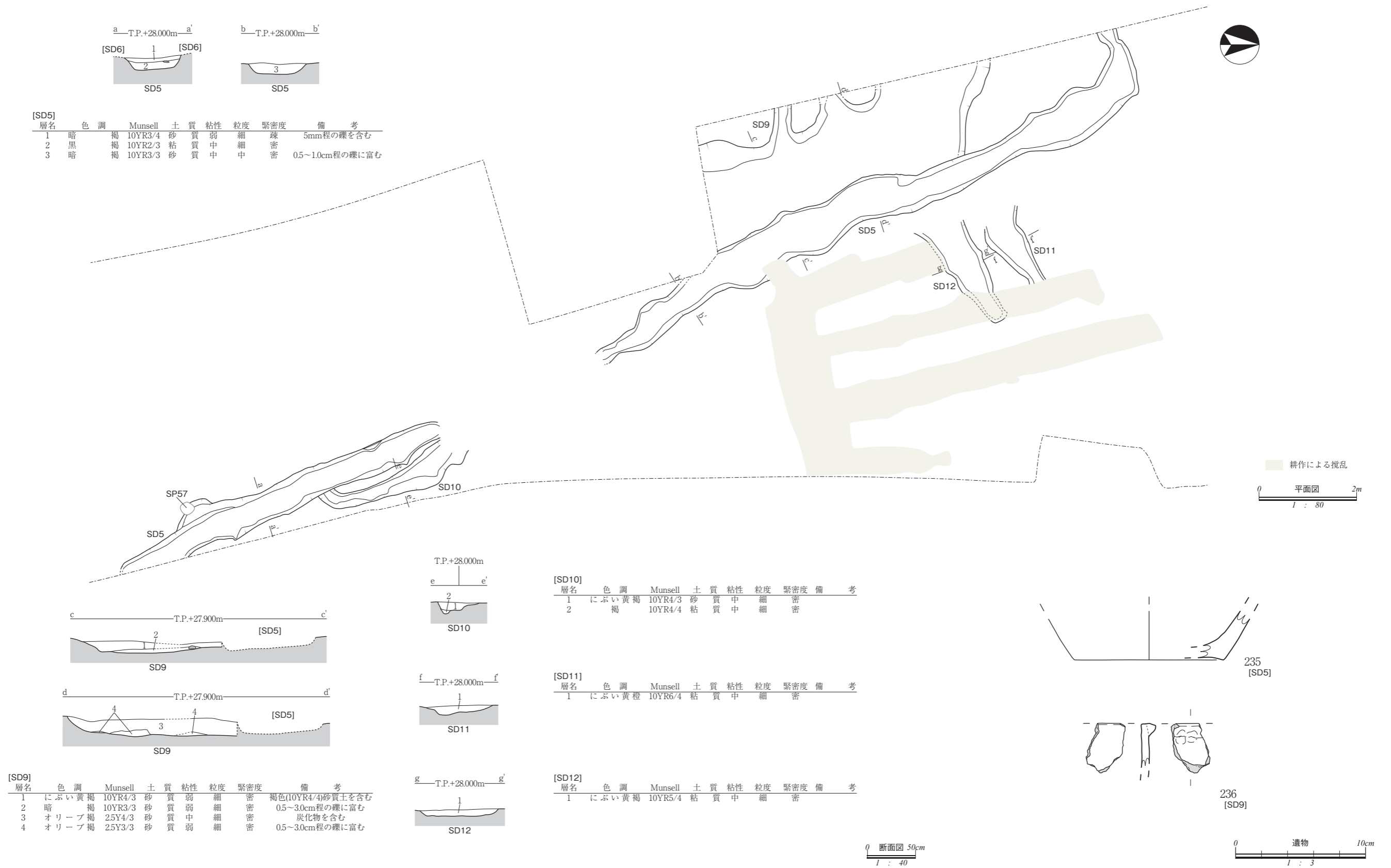


図136 SD5,9~12平面図および出土遺物

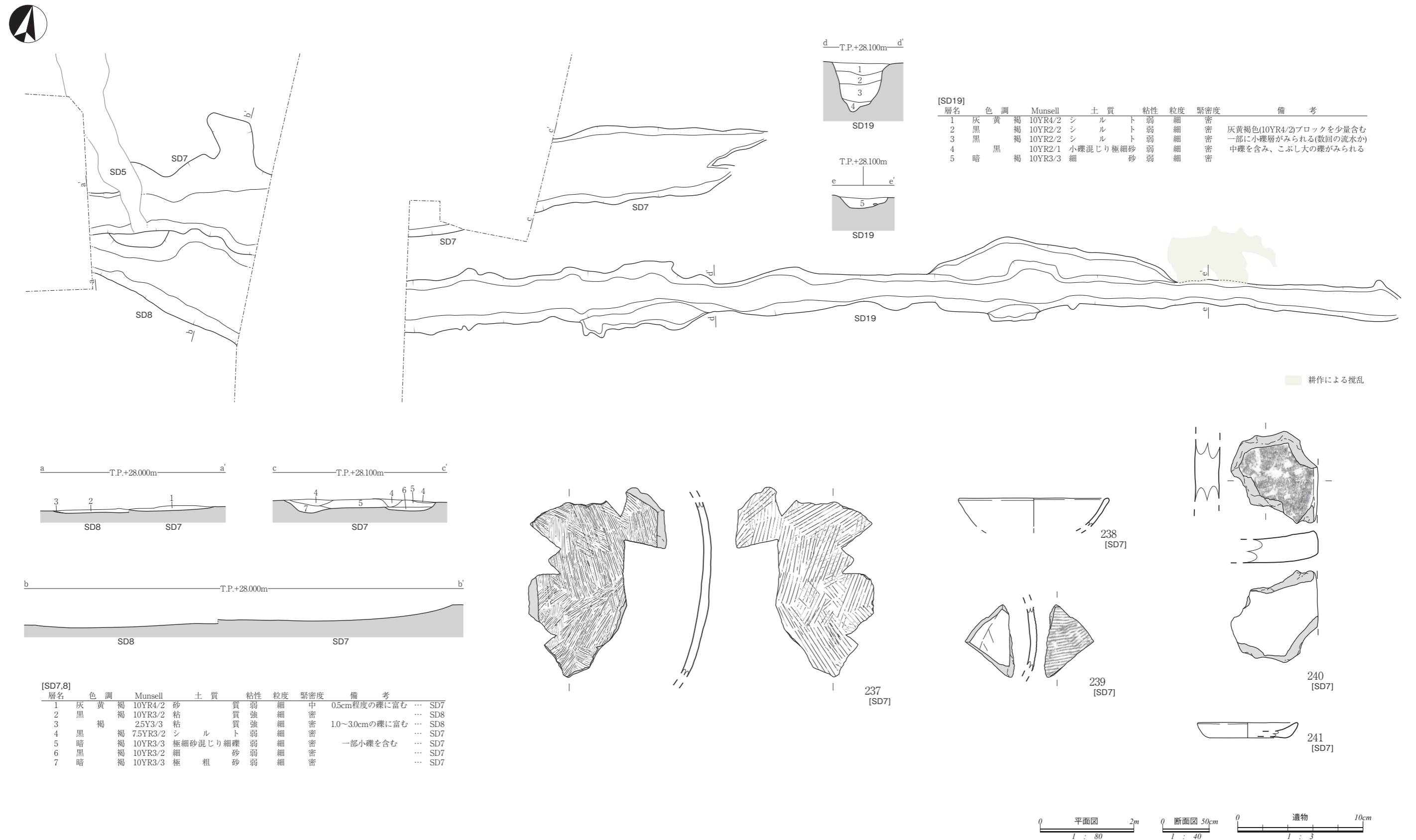


図137 SD7,8,19平断面図および出土遺物

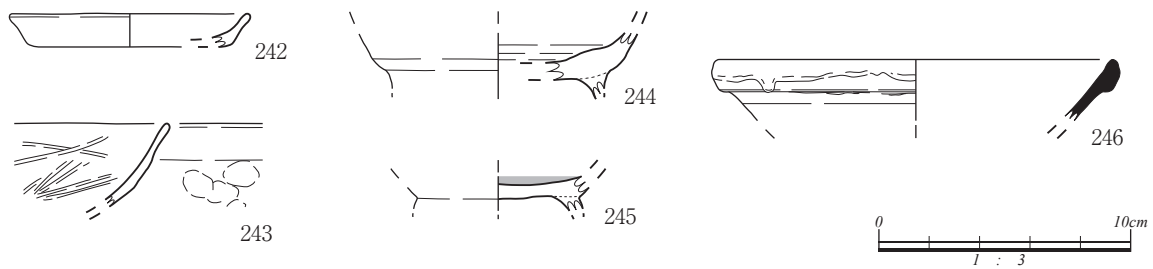


図138 包含層出土遺物(中世)

(2) SD4(図134)

遺構 SD4は1区中央南寄りにあり、検出標高は約27.97mである。SD1,3・SP18,19よりもSD4が古い。検出長720cm・最大幅94cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は皿状である。礫を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、平面形よりSD1の古い段階の一部であった可能性もある。形状はおおむね直線的で一部が分岐している。長軸方向はN-5.68°-Wを指向する。遺物は出土していない。

(3) SD8(図137)

遺構 SD8は1区中央部にあり、検出標高は約27.62mである。SD7よりもSD8が古い。検出長342cm・最大幅は194cm以上と推定され、検出面からの深さは最深部で4cmである。断面形は皿状である。礫を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、平面形はおおむね直線的である。位置関係からSD19と同一の可能性はあるが土層や軸方向が若干異なっており、別遺構として報告する。長軸方向はN-87.49°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD8の時期は、検出層位と遺構の重複、出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

(4) SD9(図136)

遺構 SD9は1区中央西端にあり、検出標高は約27.67mである。SD5よりSD9が古い。検出長570cm・最大幅191cm・検出面からの深さは最深部で18cmである。断面形は皿状と推定され、礫を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、形状はSD5との重複により不明である。長軸方向はN-23.25°-Wを指向する。遺物は弥生土器が出土しており、磨耗がみられる。SD9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

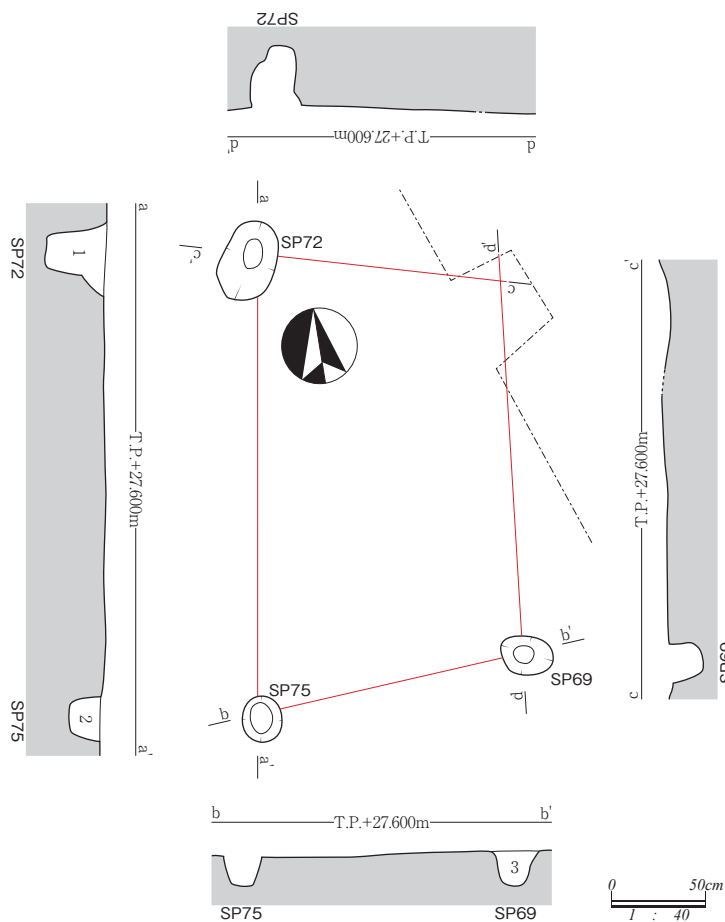
遺物 236は弥生土器甕の口縁部である。貼付口縁である。

(5) SD10(図136)

遺構 SD10は1区中央部にあり、検出標高は約27.83mである。SD5よりもSD10が古い。北西方向であり南側で湾曲している。検出長720cm・最大幅94cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は不整形な皿状であり、一部がえぐられたような形状から埋土は水流のもと堆積したものと考えられる。長軸方向はN-17.98°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、磨耗がみられる。SD10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

(6) SD11(図136)

遺構 SD11は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.76mである。検出長154cm・最大幅68cm・



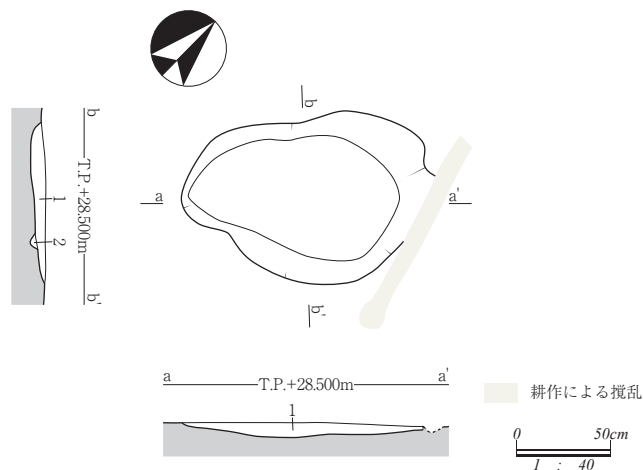
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒 褐	10YR2/2	粘質	中	細	密	… SP72
2	黒 褐	10YR3/2	粘質	強	中	中	… SP75
3	黒 褐	10YR2/2	粘質	強	中	中	… SP69

図139 SB1平断面図

検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は不整形な皿状である。平面形はおおむね直線的であり、長軸方向はN-57.97° -Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD11の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

SD12(図136)

遺構 SD12は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.7mである。検出長228cm・最大幅80cm・検出面からの深さは最深部7cmである。断面形は皿状と推定される。平面形



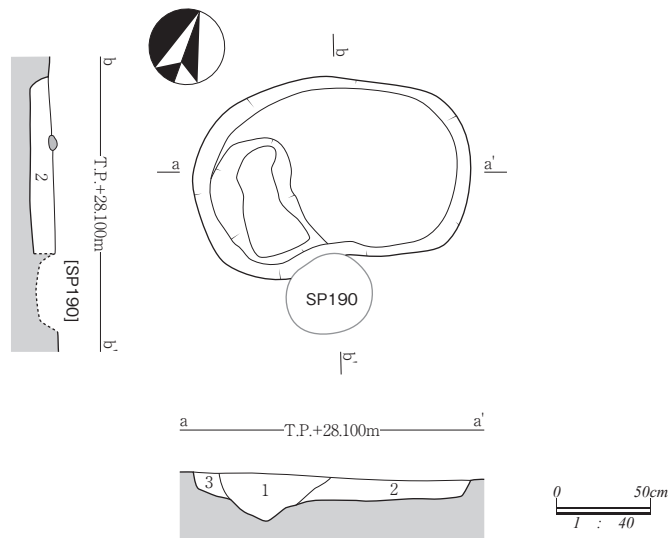
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒 褐	10YR3/1	細砂	弱	細	密	
2	明 黄 褐	10YR4/6	細砂	弱	細	密	

図140 SK4平断面図

はおおむね直線的であり、長軸方向はN-56.78° -Eを指向する。遺物は出土していない。

(7) SD13(図135)

遺構 SD13は1区北側にあり、検出標高は約27.43mである。検出長154cm・最大幅36cm・検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は不整形な皿状である。平面形は一部で蛇行しており、長軸方向はN-80.29° -Wを指向する。遺物は出土していない。



(8) SD14(図135)

遺構 SD14は1区北側にあり、検出標高は約27.43mである。検出長272cm・最大幅284cm・検出面からの深さは最深部で35cmである。

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/1	シルト	弱	細	密	明黄褐色(10YR6/6)ブロックを含む
2	にぶい黄褐	10YR5/4	シルト	弱	細	密	
3	明黄褐	10YR6/6	シルト	弱	細	密	

断面形は緩いV字状と推定される。平面形は中程で若干膨らみ、長軸方向はN-87.02° -Eを指向する。遺物は出土していない。

図141 SK8断面図

(9) SD15(図142)

遺構 SD15は2a区南東端にあり、検出標高は約27.87mである。形状は途中で二股に分かれている。SD5と同一の可能性もある。検出長786cm・最大幅63cm・検出面からの深さは最深部で10cmである。断面形は不整形な皿状であり、礫を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。長軸方向はN-33.73° -Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器や土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD15の時期は、検出層位と出土遺物より古代以降の可能性も考えられる。

(10) SD16(図142)

遺構 SD16は2a区西側にあり、検出標高は約28.06mである。西側は風倒木と重複している。検出長154cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部で10cmである。断面形は不整形な皿状である。平面形は直線的であり、長軸方向はN-62.8° -Wを指向する。遺物は出土していない。

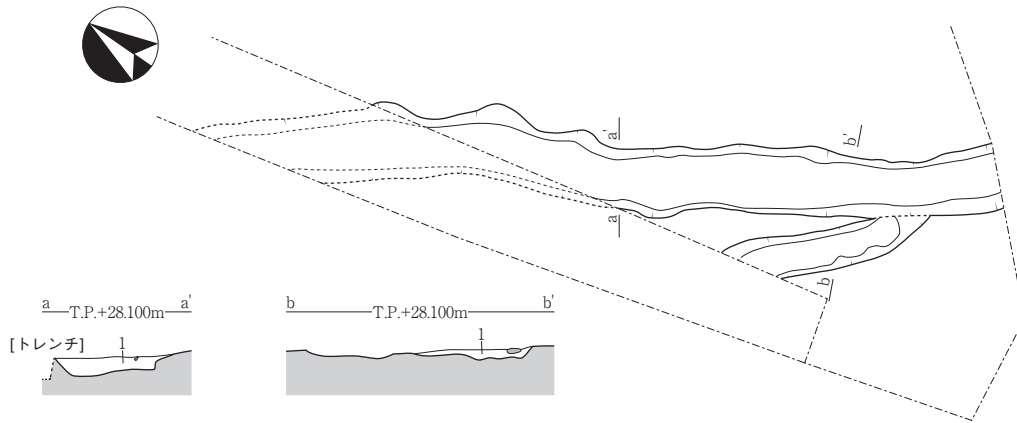
(11) SD17(図142)

遺構 SD17は2a区南東側にあり、検出標高は約28.28mである。検出長206cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部9cmである。断面形は皿状である。平面形は湾曲し、長軸方向はN-31.85° -Eを指向する。遺物は出土していない。

(12) SD18(図142)

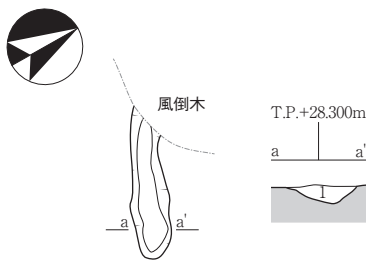
遺構 SD18は2a区南東側にあり、検出標高は約28.11mの小規模な溝である。検出長189cm・最

SD15



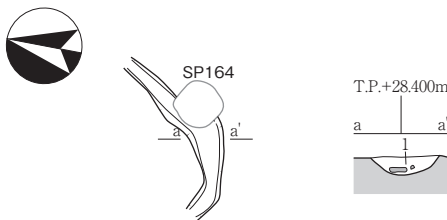
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	褐	10YR4/1	中砂混じり細砂	弱	細	密	こぶし大の礫を含む。明黄褐色(10YR7/6)ブロックを一部含む

SD16



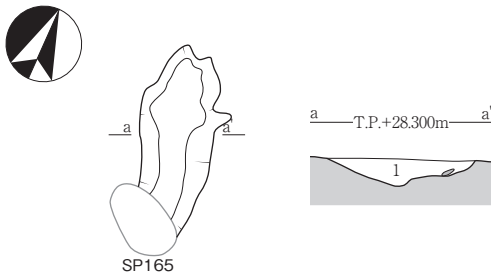
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/3	シルト	弱	細	密	明黄褐色(10YR6/8)ブロックが混じる

SD17



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂	弱	細	密	

SD18



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗褐	10YR3/3	細砂	弱	細	密	

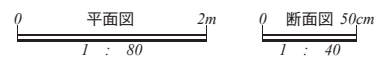


図142 SD15~18平断面図

大幅79cm・検出面からの深さは最深部で14cmである。断面は不整形な皿状である。おおむね直線的で、長軸方向はN-14.21° -Wを指向する。遺物は出土していない。

4 小穴(図143~145)

遺物が出土せず時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる16穴を掲載する。なお、詳

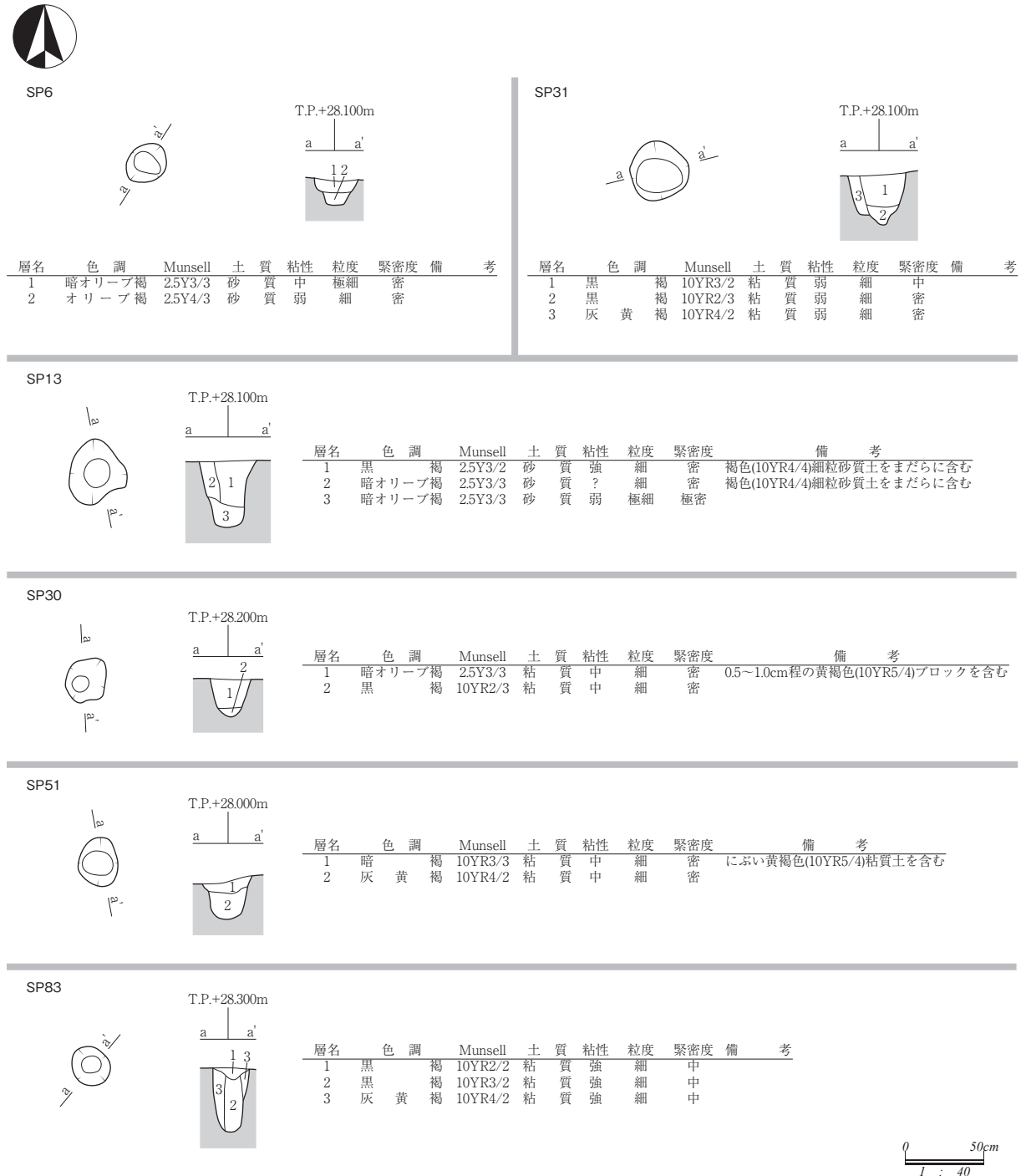
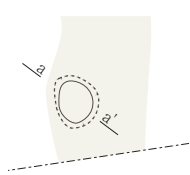


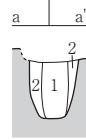
図143 SP6,13,30,31,51,83平断面図



SP103



T.P.+23.400m

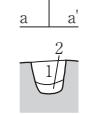


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	シルト	中	細	中	
2	黒	10YR3/2	シルト	中	細	中	褐色(10YR4/6)ブロックを含む

SP126

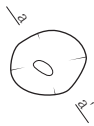


T.P.+28.300m

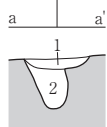


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/1	シルト	弱	細	密	明黄褐色(10YR6/6)ブロックが混じる
2	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	中	

SP152



T.P.+28.300m

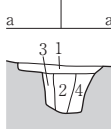


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR3/2	?	中	細	中	
2	黒	10YR2/2	?	中	細	中	

SP277

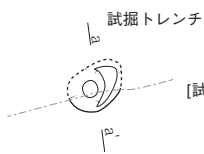


T.P.+28.300m

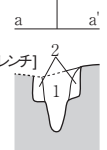


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗	10YR3/3	シルト	弱	細	密	
2	黄	10YR5/8	シルト	弱	細	密	
3	黒	10YR3/2	シルト	弱	細	密	
4	黒	10YR3/2	シルト	弱	細	密	黄褐色(10YR5/8)ブロックが混じる

SP293



T.P.+28.300m

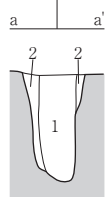


層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/3	粘質	中	細	密	
2	暗	10YR3/4	シルト	中弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックが混じる

SP294



T.P.+28.300m



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/2	粘質	中	細	中	
2	暗	10YR3/3	シルト	弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックが混じる

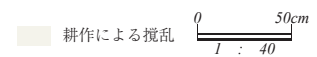
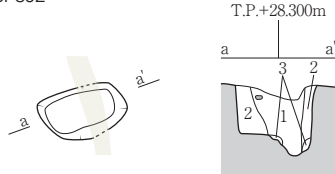


図144 SP103,126,152,277,293,294平断面図

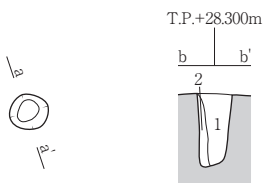


SP392



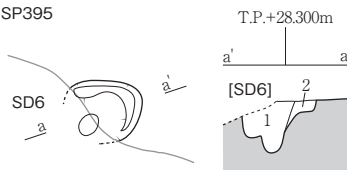
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む
2	黒 褐	10YR3/1	シルト	弱	細	密	
3	明 黄 褐	10YR6/8	シルト	弱	細	密	

SP393



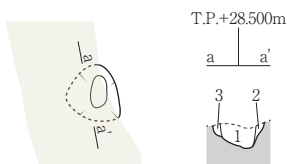
層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む
2	黒 褐	10YR3/1	シルト	弱	細	密	

SP395



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	10YR2/1	シルト	弱	細	密	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む
2	黒 褐	10YR3/1	シルト	弱	細	密	

SP396



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒 褐	10YR3/2	シルト	弱	細	密	黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む
2	暗 褐	10YR3/3	シルト	弱	細	密	
3	黄 褐	10YR5/6	シルト	弱	細	密	



図145 SP392,393,395,396平断面図

細は表11に記載し、ここでは図を掲載するにとどめる。

第6節 時期不明の遺物(図146・147)

247は1区、248～250は2区、251は排土より出土した。247は緑色片岩製の石庖丁の可能性がある。248は土錘である。249はサヌカイト製の石鋸である。250は柱状片刃石斧で両側面が剥離している。251はサヌカイト製の石錐の可能性はある。

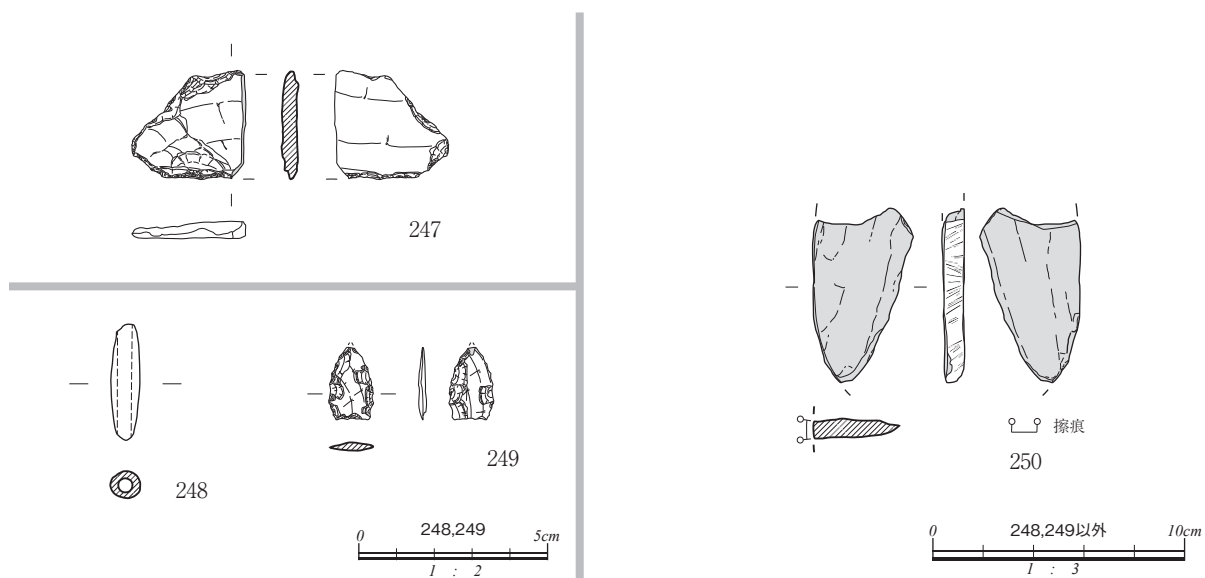


図146 包含層出土遺物(時期不明)

第7節 小結

西喜光地遺跡は弥生時代から中世の遺跡であり、中心となる時期は弥生時代中期(伊予東部地域II-3~III様式)である(柴田2000a・2005)。

弥生時代では掘立柱建物群や土坑を検出しており、当遺跡は集落域と考えられる。そのうち掘立柱建物群は、微高地想定範囲である南西側を中心に分布している。掘立柱建物の長軸方向は多くが旧地形に沿ったものと推定され、多数が近接するため建て替えがあったとみられるが、合計9棟のうち出土遺物より時期が確定できるものは3棟で重複例もないため、詳細な変遷は不明である。また、SB6は離れた北東端に位置しており、柱穴の形状や規模、柱間などの構造がほかの掘立柱建物と異なることから、ほかの掘立柱建物と性格に差があるものと思われる。今回は掘立柱建物のみの検出であったが、竪穴建物が存在するならば、掘立柱建物や土坑の分布する調査区南方付近に所在していたものと推定される。地形的に低位となる北側および北東側では遺構密度が低くなることから、今回の調査では集落北端を捉えており、集落の中心域は南側へ展開しているものと考えられる。

古代から中世まで続くとした溝SD7からは布目瓦が出土している。瓦はSD7のうち1区東壁付近のやや幅広となる部分より、須恵器や土師器甕といった古代の遺物とともに出土した。

中世の明確な遺構は今回多くは検出されず時期幅をもつ溝のみであったが、攪乱や耕作土中より比較的時期のまとまった中世前期の遺物が出土しており、周辺に中世遺跡が存在していたものと推定される。

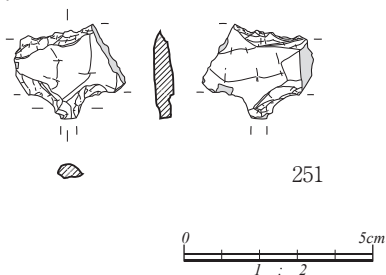


図147 出土地不明遺物(時期不明)

表10 主要遺構一覽

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

種別	遺構名	平面形	長さ	幅	深さ	重複関係	掲載遺物	図	図版
掘立柱 建物	SB1	長方	243.0	144.0	-			139	58
	SB2	長方	336.0	249.0	-	→SD5 ←攪乱	188~191	111	58
	SB3	長方	388.0	196.0	-	←攪乱		113	59
	SB4	長方	347.0	285.0	-	→SP194 ←SD6・攪乱		114	59
	SB5	長方	326.0	261.0	-	←攪乱		115	60,64
	SB6	長方	462.0	213.0	-	→風倒木		116	61
	SB7	不明	387.0	323.0	-	←攪乱	192	117	61
	SB8	長方	382.0	314.0	-	→SP324,343 ←SD6	193~196	119	62
	SB9	長方	334.0	253.0	-	→SP198 ←攪乱		121	60
	SB10	長方	347.0	254.0	-	←攪乱		122	60,64
土坑	SK1	不整	240.0	[145.0]	21.0	→SK2	197~ 199,211,212	123	63
	SK2	不整	[240.0]	142.0	10.0	←SK1	200~212	123	63
	SK3	不整	160.0	[81.0]	7.0			127	65
	SK4	不整	[114.0]	85.0	10.0	←攪乱		140	65
	SK5	隅丸方	[218.0]	203.0	16.0	←攪乱	213~219	128	64
	SK6	不整	354.0	221.0	9.0	←攪乱	220,221	130	64
	SK7	不整	355.0	270.0	14.0	←攪乱	222,223	131	65
	SK8	楕円	147.0	96.0	27.0	←SP190		141	
溝	SD1	带状(不整)	2631.0	91.0	9.0	→SD2,3,4・SP26		134	66
	SD2	带状(不整)	2685.0	118.0	14.0	→SP26 ←SD1,6		134	66
	SD3	带状(弧)	470.0	55.0	12.0	→SD4 ←SD1		134	66
	SD4	带状(不整)	598.0	40.0	6.0	←SD1,3・SP18,19		134	66
	SD5	带状(不整)	2321.0	96.0	12.0	→SD6,7,9,10 ←SP57	235	136	65,67
	SD6	带状(直線)	2874.0	148.0	16.0	→SP357(SB4),SP378(SB8),SP379(SB8)・ SD2・SP329,330,395 ←SD5・SP313・攪乱	233,234	135	65,67
	SD7	带状(不整)	1450.0	168.0	15.0	→SD8 ←SD5	237~241	137	67,68
	SD8	带状(不整)	342.0	[194.0]	4.0	←SD7		137	67,68
	SD9	带状(不整)	570.0	191.0	18.0	←SD5	236	136	67
	SD10	带状(不整)	291.0	42.0	12.0	←SD5		136	67
	SD11	带状(直線)	154.0	68.0	9.0	←攪乱		136	67
	SD12	带状(直線)	228.0	80.0	7.0	←攪乱		136	67
	SD13	带状(不整)	154.0	36.0	9.0			135	
	SD14	带状(直線)	272.0	284.0	35.0	→風倒木		135	67
	SD15	带状(直線)	786.0	63.0	10.0			142	67,68
	SD16	带状(直線)	154.0	37.0	10.0	←風倒木		142	
	SD17	带状(弧)	206.0	37.0	9.0	←SP164		142	
	SD18	带状(直線)	189.0	79.0	14.0	←SP165		142	
	SD19	带状(直線)	2109.0	60.0	51.0	→SP242		137	67,68

《主要遺構一覽》

表11 柱穴一覧

単位:cm (**)復元値 (**)残存値 →:**を切る,←:**に切られる

(1/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP1	楕円	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	強	細	極密	38.0	32.0	32.0		SB2	111	58
SP2	楕円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	弱	細	密	42.0	42.0	41.0	←攪乱	SB2 / 土器片を含む。礫を多量に含む	111	58
SP3	円	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	弱	極細	密	25.0	25.0	16.0				
SP4	楕円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	弱	極細	密	33.0	25.0	15.0				
SP5	不整	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	弱	極細	密	48.0	42.0	14.0				
SP6	円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	中	極細	密	27.0	24.0	14.0			143	
SP7	円	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	弱	極細	密	19.0	17.0	8.0				
SP8	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂質	弱	極細	密	24.0	21.0	8.0				
SP9	楕円	黒褐(10YR2/3)	砂質	弱	極細	密	27.0	23.0	11.0				
SP10	不整	にぶい黄褐(10YR4/3)	砂質	弱	極細	密	38.0	38.0	11.0				
SP11	楕円	黄褐(2.5Y5/4)	砂質	弱	極細	極密	32.0	26.0	10.0		暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂質土が混じる		
SP12	円	黄褐(2.5Y5/4)	砂質	弱	極細	極密	36.0	33.0	13.0		オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂質土が混じる		
SP13	不整	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	強	細	密	40.0	36.0	45.0		褐色(10YR4/4)細粒砂質土をまだらに含む	143	
SP14	楕円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	弱	細	密	38.0	31.0	10.0				
SP15	不整	黒褐(10YR3/2)	砂質	弱	細	中	30.0	27.0	11.0				
SP16	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	極細	極密	73.0	[58.0]	13.0	←攪乱			
SP17	円	黒褐(2.5Y3/2)	砂質	中	極細	極密	17.0	16.0	14.0				
SP18	楕円	暗褐(10YR3/4)	粘質	中	細	密	26.0	21.0	14.0	→SD4			
SP19	円	?	?	?	?	?	25.0	23.0	11.0	→SD4			
SP20	円	黒褐(10YR2/3)	砂質	弱	細	密	29.0	25.0	7.0	→SP24	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土に富む		
SP21	楕円	黒褐(10YR3/2)	砂質	弱	細	中	41.0	26.0	8.0				
SP22	不整	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	34.0	32.0	6.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土に富む		
SP23	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	中	31.0	22.0	10.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土に富む		
SP24	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	20.0	[13.0]	9.0	←SP20	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土に富む		
SP25	楕円	にぶい黄褐(10YR5/3)	砂質	弱	細	密	27.0	19.0	10.0				
SP26	円	灰黄褐(10YR5/2)	砂質	中	粗	極疎	[65.0]	[46.0]	3.0	←SD1,2	φ0.5~1.0cmの小礫に富む		
SP27	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	26.0	23.0	13.0	→SP32	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土を含む		
SP28	円	暗灰黄(2.5Y4/2)	粘質	中	細	密	27.0	23.0	10.0				
SP29	楕円	暗灰黄(2.5Y4/2)	粘質	中	細	密	38.0	32.0	18.0				
SP30	不整	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	粘質	中	細	密	29.0	28.0	23.0		0.5~1.0cm程の黄褐色(10YR5/4)ブロックを含む	143	68
SP31	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	37.0	37.0	32.0			143	
SP32	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	密	[24.0]	23.0	15.0	←SP27	にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土を含む		
SP33	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	26.0	9.0				
SP34	円	褐(10YR4/4)	粘質	中	細	密	46.0	40.0	10.0				
SP35	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	中	44.0	39.0	13.0				
SP36	不整	褐(10YR4/4)	砂質	弱	細	密	39.0	34.0	8.0				
SP37	円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂質	弱	細	密	37.0	27.0	18.0				
SP38	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	30.0	24.0	17.0				
SP39	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	28.0	20.0	41.0				
SP40	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	23.0	22.0	21.0				
SP41	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	36.0	30.0	2.0				
SP42	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	32.0	30.0	16.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

(2/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP43	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	27.0	27.0	25.0				
SP44	楕円	褐(10YR4/4)	砂質	弱	細	密	36.0	28.0	23.0				
SP45	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	26.0	25.0	20.0				
SP46	円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	33.0	31.0	6.0				
SP47	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	30.0	24.0	9.0				
SP48	楕円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	粘質	弱	細	密	34.0	25.0	6.0				
SP49	円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	粘質	中	細	密	30.0	28.0	5.0				
SP50	円	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	粘質	中	細	密	30.0	27.0	8.0				
SP51	楕円	暗褐(10YR3/3)	砂質	中	細	密	32.0	24.0	26.0		にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土を含む	143	68
SP52	楕円	にぶい黄褐(10YR5/4)	粘質	中	細	密	32.0	21.0	7.0				
SP53	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	密	47.0	40.0	17.0				
SP54	楕円	にぶい黄褐(10YR5/3)	粘質	中	細	密	40.0	33.0	8.0				
SP55	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	密	34.0	[19.0]	11.0				
SP56	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	35.0	30.0	18.0				
SP57	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	27.0	24.0	33.0	→SD5	SB2	111	
SP58	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	36.0	30.0	18.0				
SP59	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	14.0				
SP60	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	17.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP61	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	29.0	21.0	8.0				
SP62	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	22.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP63	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	密	35.0	25.0	15.0				
SP64	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	密	33.0	28.0	13.0				
SP65	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	中	密	60.0	40.0	15.0				
SP66	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	中	密	50.0	45.0	18.0				
SP67	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	密	50.0	35.0	9.0				
SP68	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	中	密	18.0	15.0	10.0				
SP69	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	中	中	30.0	20.0	9.0		SB1	139	58
SP70	不整	黒褐(10YR2/2)	?	?	?	?	42.0	[32.0]	6.0				
SP71	円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	強	中	中	25.0	21.0	17.0				
SP72	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	43.0	28.0	35.0		SB1	139	58
SP73	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	密	30.0	30.0	11.0				
SP74	円	暗褐(10YR3/4)	粘質	強	中	中	30.0	25.0	16.0				
SP75	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	中	中	25.0	20.0	15.0		SB1	139	58
SP76	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	20.0	19.0	7.0				
SP77	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	中	密	30.0	22.0	15.0				
SP78	楕円	?	?	?	?	?	62.0	[22.0]	7.0				
SP79	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	34.0	33.0	23.0				
SP80	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	45.0	40.0	27.0				
SP81	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	18.0				
SP82	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	18.0	17.0	15.0				
SP83	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	24.0	41.0			143	
SP84	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	32.0	27.0	8.0		炭化物を含む		
SP85	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	45.0	43.0	111.0	→SP96	炭化物を含む		
SP86	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	19.0	12.0				
SP87	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	13.0				
SP88	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	119.0	[68.0]	10.0				
SP89	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	19.0	15.0				
SP90	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	12.0	9.0				
SP91	楕円	黒褐(2.5Y3/2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	19.0				
SP92	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	39.0	24.0	10.0	→SP95			
SP93	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	[12.0]	16.0				
SP94	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	16.0	15.0	16.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP95	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	149.0	[79.0]	12.0	←SP92			
SP96	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	32.0	[23.0]	8.0	←SP85			
SP97	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	38.0	[19.0]	6.0				
SP98	円	黒(10YR2/1)	粘質	強	中	中	58.0	[18.0]	14.0				
SP99	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	42.0	[30.0]	14.0				
SP100	不整	?	?	?	?	?	27.0	26.0	33.0	←攪乱	SB2	111	
SP101	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	34.0	[28.0]	7.0	←攪乱			
SP102	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	[15.0]	6.0	←攪乱	炭化物を含む		
SP103	楕円	黒褐(10YR2/2)	シルト	中	細	中	27.0	22.0	34.0			144	
SP104	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	39.0	29.0	10.0				
SP105	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	36.0	21.0	19.0				
SP106	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	19.0	17.0	19.0	←攪乱			
SP107	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	24.0	7.0				
SP108	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	20.0	18.0	16.0				
SP109	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	40.0	24.0				
SP110	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	18.0	[16.0]	31.0	←攪乱			
SP111	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	23.0	29.0	←攪乱			
SP112	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	18.0	19.0	←攪乱			
SP113	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	19.0	18.0	18.0				
SP114	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	15.0	7.0				
SP115	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	31.0	11.0		褐色(10YR4/4)砂質土を含む		
SP116	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	19.0	18.0	17.0	←攪乱			
SP117	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	23.0	14.0	9.0				
SP118	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	[30.0]	26.0	11.0	←攪乱			
SP119	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	21.0	[18.0]	12.0	←攪乱			
SP120	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	20.0	[15.0]	10.0				
SP121	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	弱	細	中	30.0	26.0	9.0				
SP122	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	[19.0]	18.0	11.0	←SP134			
SP123	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	16.0	15.0	17.0				
SP124	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	[16.0]	10.0	←攪乱			
SP125	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	19.0	14.0				
SP126	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	16.0	15.0	18.0		明黄褐色(10YR6/6)ブロックが混じる	144	
SP127											欠番		
SP128	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[20.0]	20.0	15.0	←攪乱			
SP129	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	56.0	34.0	7.0	←攪乱			
SP130	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	15.0	12.0	14.0	←攪乱			
SP131	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	17.0	14.0	20.0	←攪乱			
SP132	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	28.0	26.0	15.0				
SP133	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	27.0	20.0	7.0	←攪乱	褐色(10YR4/4)砂質土に富む		
SP134	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	13.0	→SP122			
SP135	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	7.0				
SP136	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	10.0				
SP137	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	18.0	18.0	9.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP138	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	19.0	[18.0]	14.0	←攪乱			
SP139	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	19.0	20.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP140	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	19.0	12.0				
SP141	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	7.0				
SP142	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	27.0	24.0	24.0				
SP143	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	36.0	25.0	10.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP144	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	16.0	15.0	9.0				
SP145	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	14.0	14.0	8.0				
SP146	楕円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	22.0	18.0	19.0				
SP147	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	14.0	13.0	17.0				
SP148	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	10.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (4/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP149	楕円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	36.0	30.0	10.0		SB7 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックが混じる	117	
SP150	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	17.0	13.0	←攪乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP151	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	19.0	20.0				
SP152	楕円	黒褐(10YR3/2)	?	中	細	中	39.0	35.0	26.0			144	
SP153	楕円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	34.0	30.0	24.0	←攪乱	SB7	117	61
SP154	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	中	22.0	22.0	16.0		SB7	117	
SP155	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	17.0	←攪乱			
SP156	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[26.0]	19.0	20.0	←攪乱			
SP157	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	65.0	[17.0]	5.0	←攪乱			
SP158	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	27.0	27.0				
SP159	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	中	中	27.0	22.0	9.0				
SP160	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	11.0				
SP161	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	中	密	31.0	24.0	5.0				
SP162	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	33.0	32.0	6.0				
SP163	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	32.0	30.0	8.0				
SP164	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	48.0	47.0	20.0	→SD17			
SP165	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	87.0	52.0	9.0	→SD18			
SP166	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	54.0	38.0	15.0				
SP167	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	25.0	23.0	12.0				
SP168	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	34.0	33.0	17.0				
SP169	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	51.0	32.0	5.0				
SP170	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	52.0	34.0	11.0				
SP171	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	46.0	44.0	11.0				
SP172	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[40.0]	30.0	9.0				
SP173	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	13.0	13.0	22.0	←攪乱			
SP174	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	60.0	38.0	16.0				
SP175	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	9.0				
SP176	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	29.0	21.0	12.0				
SP177	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	44.0	36.0	6.0	→SP189 ・風倒木 ←SP177	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP178	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	43.0	34.0	9.0	→風倒木			
SP179	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	42.0	32.0	6.0				
SP180	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	42.0	28.0	9.0				
SP181	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	69.0	59.0	12.0				
SP182	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	18.0	13.0				
SP183	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	51.0	50.0	13.0				
SP184	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	81.0	75.0	13.0				
SP185	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	68.0	54.0	11.0				
SP186	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	84.0	76.0	5.0				
SP187	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	9.0				
SP188	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	24.0	21.0	17.0				
SP189	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	32.0	[30.0]	7.0	→風倒木 ←SP177			
SP190	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	46.0	39.0	12.0	→SK8			
SP191	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	15.0	18.0				
SP192	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	34.0	29.0	15.0	←攪乱			
SP193	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	28.0	23.0	7.0	←攪乱			
SP194	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	19.0	[12.0]	12.0	←SP352 (SB4)			
SP195	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	23.0	8.0				
SP196	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	11.0	→風倒木			
SP197	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	47.0	39.0	41.0	←攪乱	SB10 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	122	
SP198	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	17.0	←SP381 (SB9)			
SP199	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	14.0				
SP200	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	[25.0]	23.0	17.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (5/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP201	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	23.0	12.0				
SP202	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	27.0	7.0				
SP203	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	77.0	[37.0]	8.0				
SP204	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	27.0	10.0				
SP205	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	中	23.0	21.0	7.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP206	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	31.0	27.0	11.0				
SP207	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	19.0	7.0				
SP208	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	8.0				
SP209	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	中	中	21.0	20.0	9.0				
SP210	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	中	中	20.0	20.0	16.0				
SP211	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	中	中	24.0	21.0	34.0				
SP212	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	中	中	26.0	24.0	18.0				
SP213	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	59.0	50.0	9.0				
SP214	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	29.0	27.0				
SP215	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	8.0				
SP216	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	28.0				
SP217	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	9.0				
SP218	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	45.0	40.0	13.0				
SP219	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	37.0	28.0	6.0				
SP220	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	20.0	16.0	9.0				
SP221	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	23.0	22.0	8.0				
SP222	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	29.0	25.0	8.0				
SP223	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	27.0	14.0				
SP224	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	9.0				
SP225	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	37.0	29.0	9.0				
SP226	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	36.0	25.0	6.0				
SP227	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	93.0	54.0	9.0				
SP228	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP229	楕円	暗褐(10YR3/4)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP230	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	40.0	39.0	5.0				
SP231	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	9.0				
SP232	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	強	細	中	38.0	29.0	14.0				
SP233	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	27.0	21.0				
SP234	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	39.0	17.0				
SP235	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	6.0				
SP236	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	8.0				
SP237	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	36.0	27.0	11.0				
SP238	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	25.0	9.0	→SP244			
SP239	楕円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	11.0				
SP240	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	31.0	9.0				
SP241	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	13.0				
SP242	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	31.0	20.0	17.0	←SD19			
SP243	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	36.0	35.0	9.0				
SP244	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[25.0]	24.0	11.0	←SP238			
SP245	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	38.0	35.0	12.0				
SP246	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	25.0	21.0	18.0				
SP247	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	49.0	41.0	10.0				
SP248	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	13.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP249	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	28.0	18.0				
SP250	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	44.0	35.0	21.0				
SP251	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	19.0	11.0				
SP252	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	20.0	12.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP253	楕円	黒褐(10YR3/2)	砂質	中	細	中	44.0	37.0	24.0	→礫層			
SP254	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	24.0	21.0	12.0				
SP255	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	31.0	25.0	9.0				
SP256	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	18.0	10.0				

《柱穴一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる

(6/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP257	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	12.0	←攪乱			
SP258	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	31.0	16.0	←攪乱			
SP259	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	8.0				
SP260	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	17.0	15.0	←攪乱			
SP261	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	20.0				
SP262	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	13.0				
SP263	円	暗褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	19.0	10.0	←攪乱			
SP264	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	11.0				
SP265	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP266	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	42.0	36.0	8.0				
SP267	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	中	68.0	44.0	12.0	←攪乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP268	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	16.0	14.0	7.0	←攪乱			
SP269	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	17.0				
SP270	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	22.0	10.0				
SP271	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	25.0	20.0	13.0				
SP272	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	27.0	9.0				
SP273	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	27.0	11.0				
SP274	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	6.0				
SP275	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	14.0				
SP276	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	70.0	64.0	7.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP277	楕円	暗褐(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	43.0	35.0	26.0			144	68
SP278	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	28.0	12.0				
SP279	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	17.0	16.0	19.0				
SP280	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	密	28.0	25.0	22.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP281	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	中	中	21.0	18.0	10.0				
SP282	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	89.0	75.0	22.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP283	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	38.0	31.0	12.0	→礫層			
SP284	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	14.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP285	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	36.0	28.0	10.0				
SP286	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	19.0				
SP287	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	28.0	19.0				
SP288	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	23.0				
SP289	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	23.0	9.0	←攪乱	暗褐色(10YR3/4)粘質土を含む		
SP290	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	32.0	18.0	6.0	←攪乱			
SP291	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	15.0	26.0				
SP292	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	16.0	9.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP293	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	29.0	25.0	25.0			144	
SP294	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	33.0	56.0			144	
SP295	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	25.0				
SP296	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	強	細	密	28.0	19.0	18.0		にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土を含む		
SP297	不整	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	61.0	58.0	12.0				
SP298	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	16.0	15.0	15.0				
SP299	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	強	細	密	27.0	24.0	17.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP300	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	25.0	24.0	9.0				
SP301	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	中	19.0	17.0	9.0		暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土を含む		
SP302	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	9.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP303	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	20.0				
SP304	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	中	中	27.0	27.0	25.0				
SP305	円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		

《柱穴一覧》

単位:cm (**)復元値 [**]残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (7/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP306	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	28.0	26.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP307	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	24.0	12.0				
SP308	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	46.0	6.0				
SP309	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	19.0	15.0		暗褐色(10YR3/3)粘質土を含む		
SP310	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	12.0				
SP311	楕円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	43.0	35.0	9.0				
SP312	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	23.0	22.0	34.0	→風倒木			
SP313	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	16.0	→SD6			
SP314	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	31.0	28.0	9.0				
SP315	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	密	22.0	21.0	14.0				
SP316	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	24.0	18.0	20.0	←攪乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP317	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	中	中	45.0	35.0	16.0				
SP318	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	31.0				
SP319	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	20.0	19.0	22.0				
SP320	円	にぶい黄褐(10YR4/3)	粘質	強	細	中	15.0	13.0	27.0				
SP321	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	中	中	39.0	30.0	15.0				
SP322	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	33.0	10.0				
SP323	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	20.0				
SP324	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	43.0	[30.0]	9.0	←SP374(SB8)			
SP325	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	25.0	24.0	11.0				
SP326	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	23.0	20.0	16.0				
SP327	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	30.0	21.0	13.0				
SP328	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	26.0	21.0	15.0				
SP329	楕円	黒褐(10YR3/1)	砂質	中	粗	疎	21.0	19.0	18.0	←SD6	細礫を含む		
SP330	円	黒(10YR2/1)	砂質	弱	粗	疎	16.0	15.0	15.0	←SD6	細礫を含む		
SP331	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	78.0	54.0	15.0				
SP332	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	密	23.0	23.0	48.0	←攪乱			
SP333	不整	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	33.0	9.0				
SP334	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	22.0	20.0				
SP335	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	19.0				
SP336	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	18.0				
SP337	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	28.0				
SP338	楕円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	31.0	16.0				
SP339	円	暗褐(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	22.0				
SP340	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	34.0	26.0				
SP341	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	24.0	22.0	15.0				
SP342	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	22.0	21.0	7.0				
SP343	不整	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	中	59.0	33.0	38.0	←SP377(SB8)			
SP344	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	15.0	17.0				
SP345	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	密	23.0	19.0	14.0				
SP346	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	44.0	40.0	34.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	59
SP347	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	24.0	22.0	21.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	
SP348	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	47.0	42.0	67.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	
SP349	楕円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	50.0	37.0	58.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	
SP350	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	30.0	24.0	21.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	
SP351	不整	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	40.0	35.0	65.0	←攪乱	SB3 / 明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む	113	

《柱六一覧》

単位:cm (**):復元値 [**]:残存値 →**:**を切る,←**:**に切られる (8/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP352	楕円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	33.0	36.0	20.0	→SP194	SB4	114	
SP353	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	25.0	24.0	31.0	←攪乱	SB4	114	
SP354	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	28.0	←攪乱	SB4	114	
SP355	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	32.0	30.0	39.0	←攪乱	SB4 / 明褐色(10YR5/6)ブロックを含む	114	59
SP356	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	30.0	24.0	31.0		SB4	114	
SP357	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	35.0	34.0	35.0	←SD6	SB4 / 明褐色(10YR5/6)ブロックを含む	114	
SP358	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	35.0	25.0	22.0	←攪乱	SB5	115	60
SP359	円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	29.0	27.0	26.0	←攪乱	SB5	115	
SP360	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	26.0	31.0	←攪乱	SB5	115	60
SP361	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	38.0	30.0	30.0	←攪乱	SB5	115	
SP362	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	29.0	22.0	33.0	←攪乱	SB5	115	
SP363	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	24.0	15.0	←攪乱	SB5	115	
SP364	隅丸方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	65.0	66.0		SB6 / 礫を含む	116	
SP365	円	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	60.0	61.0		SB6 / 礫を含む	116	61
SP366	隅丸方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	86.0	68.0	51.0	→風倒木	SB6 / 礫を含む	116	
SP367	隅丸方	黒褐(10YR3/2)	粘質	中	細	中	65.0	62.0	72.0		SB6 / 礫を含む	116	61
SP368	不整	黒褐(10YR2/3)	シルト	弱	細	密	30.0	28.0	24.0		SB7 / 炭化物を含む	117	61
SP369	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	37.0	34.0	38.0	←攪乱	SB7	117	
SP370	円	黒褐(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	28.0	←攪乱	SB7 / 炭化物を含む	117	
SP371	円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	36.0	33.0	28.0		SB7	117	
SP372	楕円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	44.0	32.0	55.0		SB8 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP373	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	46.0	45.0	66.0		SB8 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	
SP374	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	45.0	40.0	53.0	→SP324	SB8 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	
SP375	楕円	灰黄褐(10YR4/2)	粘質	中	細	密	45.0	40.0	50.0		SB8 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP376	円	黒褐(10YR2/3)	粘質	中	細	密	36.0	35.0	35.0		SB8 / 褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP377	不整	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	36.0	→SP343	SB8	119	62
SP378	楕円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	40.0	34.0	39.0	←SD6	SB8	119	62
SP379	円	黒褐(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	33.0	←SD6	SB8	119	
SP380	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	36.0	30.0	24.0		SB9	121	
SP381	円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	30.0	30.0	26.0	→SP198	SB9	121	
SP382	円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	33.0	24.0	←攪乱	SB9	121	60
SP383	不整	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	30.0	27.0		SB9	121	
SP384	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	22.0	20.0	←攪乱	SB9	121	
SP385	楕円	暗褐(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	32.0	28.0	17.0	←攪乱	SB9 / 黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む	121	
SP386	円	暗褐(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	52.0	←攪乱	SB10 / 黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む	122	
SP387	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	32.0	28.0	22.0	←攪乱	SB10 / 炭化物を含む	122	
SP388	楕円	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	32.0	35.0	←攪乱	SB10	122	60
SP389	円	暗褐(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	38.0	34.0	29.0	←攪乱	SB10 / 黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む	122	
SP390	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	23.0	20.0	32.0	←攪乱	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP391	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	23.0	22.0	20.0	←攪乱	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP392	楕円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	45.0	29.0	24.0	←攪乱		145	
SP393	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	25.0	21.0	35.0			145	
SP394	円	黒褐(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	19.0	18.0	18.0		明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP395	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	36.0	32.0	35.0	←SD6		145	
SP396	不整	黒褐(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	32.0	26.0	18.0	←攪乱		145	
SP397	円	黄褐(10YR5/6)	シルト	弱	細	密	28.0	24.0	15.0	←攪乱	黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む		

《柱穴一覧》

表12 掲載遺物一覧

(1/2)

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	版
188	弥生土器	壺	SP2(SB2)	TR(25.9) NR(18.3) H[8.39]	10YR2/3 7.5YR4/3	αナデ・ハケ iナデ・ミガキ	口縁部外面斜格子文 頸部外面貼付突帯	112	71
189	弥生土器	壺	SP2(SB2)	H[2.8]	5YR6/6 7.5YR7/4	α指オサエ・ナデ iナデ		112	71
190	弥生土器	壺	SP2(SB2)	TR(14.2) NR(10.7) H[22.8]	5YR6/3 2.5YR5/3	α摩耗により不明 i摩耗により不明		112	71
191	石器	両刃石斧	SP1(SB2)	L[11.1] W[7.3] T5.0			緑色石	112	71
192	弥生土器	甕	SP368(SB7)	TR(15.8) LR(3.8) H(20.4)	5YR6/4 7.5YR7/3	αナデ・ミガキ iナデ・板ナデ・ミガキ	底部穿孔	118	72
193	弥生土器	壺	SP377.378(SB8)	TR16.4 NR12.2 LR6.8 H40.5	5YR6/4 10YR5/1	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		120	72
194	弥生土器	甕	SP372(SB8)	TR(18.9) H[12.0]	7.5YR6/4 7.5YR6/6	αナデ・ミガキ i :ナデ・板ナデ・ミガキ		120	72
195	弥生土器	甕	SP375(SB8)	TR(17.9) H[19.0]	7.5YR7/4 7.5YR7/4	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		120	72
196	弥生土器	甕	SP372(SB8)	LR(4.4) H[21.8]	7.5YR7/3 7.5YR4/1	αミガキ i :ナデ・ミガキ		120	72
197	弥生土器	壺	SK1	TR10.5 NR8.6 H[15.7]	7.5YR4/2 10YR3/1	αナデ・ミガキ iナデ・指ナデ・ミガキ		124	72
198	弥生土器	甕	SK1	TR(17.6) NR(16.2) LR:4.8 H:27.0	10YR4/2 10YR7/4	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		124	73
199	石器	両刃石斧	SK1	L[9.8] W6.5 T4.5			安山岩?	124	72
200	弥生土器	壺	SK2	TR(16.0) H[1.6]	10YR7/4 10YR8/3	αナデ iナデ	口縁部外面波状文(3 条) 口縁部内面斜格 子文・刺突列点文・ 円形浮文	124	71
201	弥生土器	壺	SK2	TR(18.0) H[2.0]	7.5YR5/3 7.5YR5/3	αナデ iナデ	口縁部外面刻目	124	71
202	弥生土器	壺	SK2	LR(5.6) H[8.4]	10YR8/4 2.5Y5/3	α指オサエ・ナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		124	71
203	弥生土器	甕	SK2	TR(19.3) HH[19.8]	5YR5/4 5YR5/4	α指オサエ・ナデ・ミガキ i指オサエ・ナデ・ミガキ		124	73
204	弥生土器	甕	SK2	TR(15.5) H[21.9]	7.5YR6/6 10YR6/4	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		125	73
205	弥生土器	甕	SK2	TR18.0 H[17.0]	10YR6/3 10YR7/3	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		125	73
206	弥生土器	甕	SK2	TR(16.6) H[12.5]	10YR5/3 10YR5/2	αナデ・ハケ・ミガキ iナデ・ミガキ	体部外面刺突列点文	125	72
207	弥生土器	甕	SK2	TR(15.3) H[19.4]	10YR6/3 10YR6/2	α指オサエ・ナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		125	73
208	弥生土器	甕	SK2	TR(12.2) H[14.2]	10YR4/2 10YR6/2	α指オサエ・ナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		125	73
209	石器	石庖丁	SK2	L15.3 W4.7 T1.1			泥質片岩	125	74
210	石器	石庖丁	SK2	L[8.2] W5.0 T0.9			サヌカイト 背部潰し	125	74
211	弥生土器	甕	SK1・2	TR(20.0) H[8.6]	10YR5/3 10YR6/3	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		126	73
212	弥生土器	壺又は甕	SK1・2	LR4.9 H[10.4]	7.5YR5/4 7.5YR4/3	αナデ・板ナデ iミガキ		126	74
213	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(12.6) H[6.8]	2.5YR4/6 5YR5/6	α指オサエ・板ナデ iナデ・板ナデ	口縁部内外面5条の山 形文 口縁部下2条の凹線文 頸部外面貼付突帯 頸部外面下波状文	129	74
214	弥生土器	壺	SK5	TR(7.1) H[11.0]	10YR5/2 10YR5/2	αナデ・板ナデ・ミガキ iナデ・板ナデ	無頭 外面クシガ キ直線文・刺突列点 文・斜格子文	129	74
215	弥生土器	壺	SK5	LR(8.2) H[14.7]	10YR8/4 10YR4/1	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		129	74
216	弥生土器	甕	SK5	TR(17.8) H[22.3]	10YR7/3 7.5YR5/6	αナデ・ハケ・ミガキ iナデ・板ナデ・ミガキ		129	74
217	弥生土器	甕	SK5	TR(24.4) H[19.8]	7.5YR6/4 10YR6/4	α指オサエ・ナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		129	74
218	弥生土器	甕	SK5	TR(23.6) H[9.3]	10YR7/2 2.5Y7/2	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		129	75
219	弥生土器	甕	SK5	H[8.1]	7.5YR4/1 7.5YR4/2	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ	口縁部外面刻目	129	74
220	弥生土器	甕	SK6	TR(19.3) H[11.0]	10YR7/4 10YR7/4	αナデ・ミガキ iナデ・板ナデ・ミガキ		130	75
221	石器	不明	SK6	L[11.2] W[4.4] T[1.8]			泥質片岩 背部潰し 石庖丁の可能性	130	75
222	弥生土器	甕	SK7	TR(20.0) H[22.5]	10YR5/2 10YR6/2	αナデ・ミガキ iナデ・ミガキ		131	75
223	石器素材	不明	SK7	L10.5 W7.0 T1.2			緑色片岩 石庖丁の 可能性	131	75
224	弥生土器	壺	包含層(1区)	TR(18.0) H[2.8]	7.5YR6/6 7.5YR5/4	αナデ iナデ		132	75
225	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(27.8) H4.4]	10YR6/3 2.5Y7/2	α指オサエ・ナデ・ハケ iナデ	口縁部内面櫛描文 口縁部外面斜格子文	132	75
226	弥生土器	壺	包含層(2区)	LR(11.8) H[20.0]	10YR6/3 2.5Y7/2	αミガキ i板ナデ・ミガキ		132	75
227	弥生土器	壺	包含層(2区)	TR(10.6) NR(5.5) LR(6.6) H21.0	10YR3/2 10YR3/2	αナデ・ハケ・ミガキ i指オサエ・ナデ・ハケ	口縁部外面刻目 体部外面刺突列点文	133	75

《掲載物一覧》

(2/2)

番号	種別	器種	出土情報	法量	外面色調 内面色調	調整	備考	図	図版
228	弥生土器	甕	包含層(2区)	TR(33.8) H[9.3]	2.5YR5/6 7.5YR6/4	α指オサエ・ナデ・ハケ・ミガキ iナデ・ミガキ		133	75
229	弥生土器	甕	包含層(2区)	H[6.2]	10YR2/1 7.5YR5/4	αナデ・クシガキ iナデ・板ナデ・ミガキ	口縁部内面5条の波状文 口縁端部刻目	133	76
230	弥生土器	甕	包含層(2区)	H[6.6]	10YR6/4 10YR7/4	αナデ・クシガキ iナデ		133	75
231	弥生土器	甕	包含層(2区)	H[2.4]	5YR6/6 5YR6/6	αナデ iナデ・板ナデ	口縁部外面下6条の沈線文	133	75
232	弥生土器	甕	包含層(2区)	TR(17.3) H[1.9]	7.5YR6/8 7.5YR6/8	αナデ i指オサエ・ナデ	口縁部内面6条の波状文	133	76
233	弥生土器	壺又は甕	SD6	LR(11.2) H[5.1]	7.5YR6/4 10YR8/3	αナデ・板ナデ・ミガキ iナデ		135	76
234	須恵器	蓋	SD6	TR(15.0) H[1.3]	7.5Y6/1 7.5Y6/1	α回転ナデ・回転ヘラケズリ i回転ナデ		135	76
235	弥生土器	壺又は甕	SD5	LR(11.5) H[3.8]	5YR5/6 7.5YR5/8	αナデ iナデ		136	76
236	弥生土器	甕	SD9	H[3.8]	5YR3/3 5YR5/6	α指オサエ・ナデ iナデ	貼付口縁	136	76
237	土師器	甕	SD7	H[13.9]	10YR4/2 10YR5/2	αハケ iハケ		137	76
238	土師器	杯又は椀	SD7	TR(11.6) H[2.3]	10YR8/2 10YR8/2	αナデ iナデ		137	76
239	須恵器	甕	SD7	H[4.9]	2.5Y4/1 2.5Y4/1	αタタキ iナデ		137	76
240	瓦	平瓦	SD7	L[7.4] W[6.9] T2.0	10YR7/3 10YR7/3	α布目痕 i不明		137	76
241	土師質土器	皿	SD7	TR(7.8) LR(6.0) H1.2	5YR5/4 7.5YR6/3	α回転ナデ i回転ナデ		137	76
242	土師器	皿	包含層(1区)	TR(9.4) LR(7.4) H1.4	5YR7/4 5YR7/4	α回転ナデ i回転ナデ		138	76
243	瓦器	椀	包含層(1区)	H[3.3]	2.5Y3/1 2.5Y3/1	α指オサエ・ナデ iミガキ		138	76
244	土師器	椀	包含層(2区)	H[2.6]	7.5YR7/4 7.5YR7/4	α回転ナデ i回転ナデ		138	76
245	土師器	椀(内黒)	包含層(2区)	H[1.4]	7.5Y8/4 7.5Y4/1	αナデ iナデ		138	76
246	磁器(輸入)	白磁碗	包含層(2区)	TR(15.6) H[2.5]	5Y7/1 5Y7/1	α回転ナデ i回転ナデ		138	76
247	石器	不明	包含層(1区)	L4.3 W[4.5] T0.7			緑色片岩 石庖丁の可能性	146	76
248	土製品	土錘	包含層(2区)	L3.1 W0.75 T0.7	10R6/3	αナデ iナデ	孔径:0.3cm	146	76
249	石器	石鏃	包含層(2区)	L[1.9] W1.2 T0.2			サヌカイト	146	76
250	石器	柱状片刃石斧	包含層(2区)	L[6.9] W[4.0] T[0.7]			緑色片岩	146	76
251	石器	不明	排土	L[2.9] W[2.5] T0.5			サヌカイト 石錐の可能性	147	76

《掲載遺物一覧》

表13 出土遺物一覧

(1/4)

(2/4)

時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号	時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号
弥生時代	SB2-SP1	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1		弥生時代 (混入)							
		石器	胴部	石斧	A	1	191								
		自然遺物	不明	不明	B	7									
	SB2-SP2	弥生土器	口頸部	壺	A	2	188,189								
			口胴部	壺	A	1	190								
			胴部	壺又は甕	B	17									
		自然遺物	不明	不明	B	8									
	SB3-SP346	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2									
	SB3-SP348	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2									
	SB3-SP349	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB3-SP350	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB4-SP354	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB6-SP365	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2									
	SB6-SP366	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB6-SP367	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB7-SP368	弥生土器	口縁部	甕	B	1									
			口頸部	壺	B	2									
			口底部	壺	A	1	192								
			胴部	壺又は甕	B	2									
			底部	甕	B	1									
			自然遺物	不明	不明	B	27								
			石器	不明	不明	A	1								
	SB7-SP369	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	4									
	SB8-SP372	弥生土器	口胴部	甕	A	1	194								
			胴部	壺又は甕	B	16									
			胴底部	甕	A	1	196								
	SB8-SP374	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB8-SP375	弥生土器	口底部	壺	A	1	195								
	SB8-SP378	弥生土器	口底部	壺	A	1	193								
		自然遺物	不明	不明	B	1									
	SB8-SP378	弥生土器	口頸部	甕	B	5									
	SB8-SP379	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2									
	SB9-SP380	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
		自然遺物	不明	不明	B	1									
	SB9-SP381	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3									
		自然遺物	不明	不明	B	1									
	SB9-SP383	自然遺物	不明	不明	B	1									
	SB10-SP388	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
	SB10-SP389 SK1	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
		半存	甕	A	1	198									
			口縁部	壺	B	1									
				甕	B	3									
				甕	B	1									
			口胴部	甕	A	1	197								
			胴部	壺	B	1									
				甕	B	6									
				壺又は甕	B	82									
			底部	甕	B	1									
			不明	不明	B	1									
		石器	不明	石斧	A	1	199								
			剥片	B	2										
自然遺物	不明	不明	B	4											
SK2	弥生土器	口縁部	壺	A	2	200,201									
			甕	B	1										
			甕	B	5										
		口胴部	甕	A	5	203,205-208									
		口底部	甕	A	1	204									
		胴部	壺	B	2										
			甕	B	4										
			壺又は甕	B	66										
		胴底部	壺	A	1	202									
		底部	甕	B	1										
			壺又は甕	B	1										
		石器	完存	石庖丁	A	1	209								
			半存	石庖丁	A	1	210								
自然遺物	不明	不明	B	8											
SK1・2	弥生土器	口縁部	壺	B	1										
			甕	B	5										
		口胴部	甕	A	1	211									
		胴部	壺	B	2										
			甕	B	5										
			壺又は甕	B	81										
		底部	甕	B	1										
		壺又は甕	A	1	212										
SK3	弥生土器	口縁部	甕	B	1										
		胴部	壺又は甕	B	1										
SK5	弥生土器	口縁部	壺	B	1										
			甕	B	4										
		口頸部	壺	A	1	213									
SK6	弥生土器	口胴部	甕	A	1	220									
		口縁部	甕	B	1										
		口頸部	甕	B	1										
		胴部	壺又は甕	B	69										
		底部	壺	A	1	215									
			甕	B	1										
			壺又は甕	B	2										
	SK7	弥生土器	口胴部	甕	A	1	222								
			口縁部	甕	B	1									
			胴部	甕	B	1									
				壺又は甕	B	39									
		石器	不明	不明	A	1	221								
	SP13	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1									
SP26	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP57	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP158	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	19										
SP239	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP253	弥生土器	口縁部	壺	B	1										
SP261	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP263	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP282	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP298	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SP308	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
1区_廃土	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	5										
2区_廃土	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2										
2区_一括	弥生土器	口縁部	甕	B	1										
		胴部	壺又は甕	B	5										
SD1	弥生土器	口縁部	壺	B	2										
		胴部	壺又は甕	B	71										
		底部	壺又は甕	B	1										
	SD2	弥生土器	口縁部	壺	B	1									
				甕	B	1									
			胴部	壺又は甕	B	24									
			底部	壺又は甕	B	1									
	SD8	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	2									
	SD9	弥生土器	口縁部	壺	B	1									
				甕	A	1	236								
			胴部	壺又は甕	B	27									
		底部	壺又は甕	B	1										
	SD11	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3									
SP187	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	1										
SD3	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	3										
	土師器	胴部	不明	B	1										
		底部	椀	B	1										
	自然遺物	不明	不明	B	1										
SD6	弥生土器	口縁部	壺	B	1										
			甕	B	1										
		胴部	壺又は甕	B	72										
		底部	壺又は甕	A	1	233									
			甕	B	9										
		土師器	口縁部	杯	B	1									
		胴部	不明	B	1										
須恵器	口胴部	蓋	A	1	234										
SD15	弥生土器	口頸部	壺	B	1										
		口頸部	甕	B	2										
		胴部	壺又は甕	B	83										
		底部	壺又は甕	B	2										
	土師器	胴部	不明	B	6										
SD5	弥生土器	口縁部	壺	B	1										
		胴部	壺又は甕	A	1	235									
			甕	B	48										
		底部	壺又は甕	B	1										
SD7	土師器	胴部	不明	B	3										
	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	35										
	土師器(古代)	口縁部	杯又は椀	A	1	238									
		胴部	甕	A	1	237									
			B	1											
瓦	不明	平瓦	A	1	240										
土師器(中世)	胴部	不明	B	3											

《出土遺物一覧》

(3/4)

(4/4)

時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号	時期	出土情報	種別	部位	器種	区分	点数	掲載番号		
中世		土師器	胴部	不明	B	14		時期不明	SD19	自然遺物	不明	不明	B	1			
		土師質土器	口底部	皿	A	1	241		SP24	不明	不明	不明	B	1			
		須恵器	胴部	甕	A	1	239		SP27		胴部	不明	B	1			
		瓦器	胴部	椀	B	3			SP211	自然遺物	不明	不明	B	1			
		SD7・8	弥生土器	胴部	壺又は甕	B	11			1区_精査	不明	胴部	不明	B	34		
			土師器	胴部	不明	B	2			1区_一括	不明	胴部	不明	B	8		
		SD19	弥生土器	口縁部	壺	B	1			1区_包含層	不明	口縁部	不明	B	1		
					甕	B	1		胴部			不明	B	37			
					口頸部	壺	B		1		石器	不明	不明	A	1	247	
					胴部	壺又は甕	B		48		1区_表採	土製品	半存	土錘	B	1	
					底部	壺又は甕	B		1			不明	胴部	不明	B	1	
			土師器	胴部	不明	B	1			1区_撈乱	不明	胴部	不明	B	18		
			土師質土器	底部	杯又は皿	B	1			1区_排土	石器	不明	剥片	B	1		
											不明	胴部	不明	B	2		
			1区_精査	弥生土器	口縁部	壺	B		1		自然遺物	不明	不明	B	1		
					胴部	壺又は甕	B		19		2区_一括	石器	不明	剥片	B	1	
				土師器(古代)	胴部	甕	B		1		2区_包含層	土製品	完存	土錘	A	1	248
				土師器	口縁部	杯又は皿	B		1			陶器(国産)	口縁部	不明	B	3	
					胴部	杯又は皿	B		2				胴部	掃鉢	B	1	
					不明	B	4						不明	B	1		
					底部	杯又は皿	B		1				底部	不明	B	1	
					口頸部	壺	A		1	224			口縁部	不明	B	2	
					胴部	壺	B		1			石器	完存	石鏃	A	1	249
						甕	B		1				不明	柱状片刃石斧	A	1	250
						壺又は甕	B		16			自然遺物	不明	不明	B	4	
					底部	壺又は甕	B		2			2区_撈乱	自然遺物	不明	不明	B	1
				黒色土器	底部	椀	B		1		排土	石器	不明	不明	A	1	251
				土師器	口底部	皿	A		1	242							
					胴部	杯又は皿	B		1								
					不明	B	4										
				瓦器	口縁部	椀	A		1	243							
			1区_撈乱	弥生土器	胴部	壺	B		2								
					底部	壺又は甕	B		5								
				土師器(古代)	口縁部	甕	B		1								
				土師器	胴部	甕	B		7								
				土師器	口縁部	杯又は皿	B		1								
					胴部	壺又は甕	B		9								
						杯	B		1								
						杯又は皿	B		1								
				瓦器	口縁部	椀	B		2								
					胴部	椀	B		6								
				土師器	胴部	不明	B		12								
			1区_表採	弥生土器	口縁部	甕	B		2								
					底部	壺又は甕	B		1								
				土師器	口縁部	不明	B		1								
				磁器(輸入)	胴部	碗	B		1								
			2区_撈乱	弥生土器	口縁部	甕	B		3								
					口頸部	甕	B		1								
					胴部	壺	B		2								
						壺又は甕	B		81								
				土師器	胴部	皿	B		1								
						不明	B		2								
				磁器(国産)	胴部	不明	B		2								
			2区_包含層	弥生土器	口縁部	壺	A		1	225							
						甕	A		1	232							
							B		18								
					口頸部	壺	B		4								
						甕	B		19								
					口胴部	甕	A		4	228~231							
					口底部	壺	A		1	227							
					胴部	壺又は甕	B		393								
					胴底部	壺	A		1	226							
					底部	壺又は甕	B		16								
				須恵器(不明)	胴部	不明	B		1								
				土師器	口縁部	不明	B		1								
					胴部	皿	B		1								
					底部	椀	A		1	244							
							B		1								
						皿	B		1								
						椀(内黒)	A		1	245							
				瓦器	胴部	椀	B		3								
				磁器(輸入)	口胴部	白磁碗	A		1	246							
			SP187	瓦器	胴部	椀	B		1								
			SP271	土師器	胴部	杯又は皿	B		1								
			2区_排土	瓦器	口縁部	椀	B		1								

《出土遺物一覧》

第6章 理化学分析

第1節 目的

中村田所遺跡の調査では、火山灰分析と年代測定・樹種同定に適する資料を複数得ることができた。2区東壁の火山灰と縄文時代の土坑より出土し水洗選別した炭化物・弥生時代終末期の複数の焼失竪穴建物より検出した建築部材の可能性が高い炭化材である。新居浜周辺での鬼界アカホヤ火山灰の検出事例が少なく、今回の資料を鬼界アカホヤ火山灰と同定できれば鍵層を抑える手がかりになる。また、焼失竪穴建物の炭化物分析により建物構築部材の利用状況や年代の検討材料を得ることができる。これらを目的として分析を実施した。(首藤)

第2節 概要

中村田所遺跡は、新居浜市中村松木に所在する。遺跡は、新居浜平野中央西寄りを北流する尻無川左岸の微高地上に立地する。平成29年度の発掘調査では、縄文時代後期の土坑、弥生時代後期の集落、中世の掘立柱建物などが検出されている。とくに、弥生時代後期の集落からは4棟の竪穴建物が検出され、うち2区の3棟からは全てで焼土及び多量の炭化物が出土しており、火災による焼失建物と考えられた。また、2区の調査区東壁では下層において火山灰層が確認され、層相や遺物の検討から鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)の可能性が示唆された。

ここでは、2区で確認された火山灰を同定し、土層の堆積年代を推定する。同じく2区で出土した縄文時代の集石土坑(SK7)の埋土より検出された炭化物を対象に、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施し、遺構の構築年代と当時の木材利用を検討する。また、焼失住居跡から出土した炭化材の樹種同定を実施し、当時の木材利用を検討する。(株式会社・古環境研究所)

第3節 火山灰分析

1 はじめに(図148)

四国地方には、おもに九州地方などの火山から噴出したテフラ(いわゆる火山灰)が数多く降灰しており、テフラを年代指標とする火山灰編年学により考古遺跡などの年代推定ができるようになってきている(町田・新井,2011など)。中村田所遺跡の発掘調査では、良好な状態のテフラ層らしい土層が認められたことから、火山ガラス比分析(軽鉍物と重鉍物の含有率を求める)と火山ガラスの屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行うことになった。テフラ分析の対象は、調査区東壁側溝トレンチから採取された火山灰試料である。(株式会社・古環境研究所)

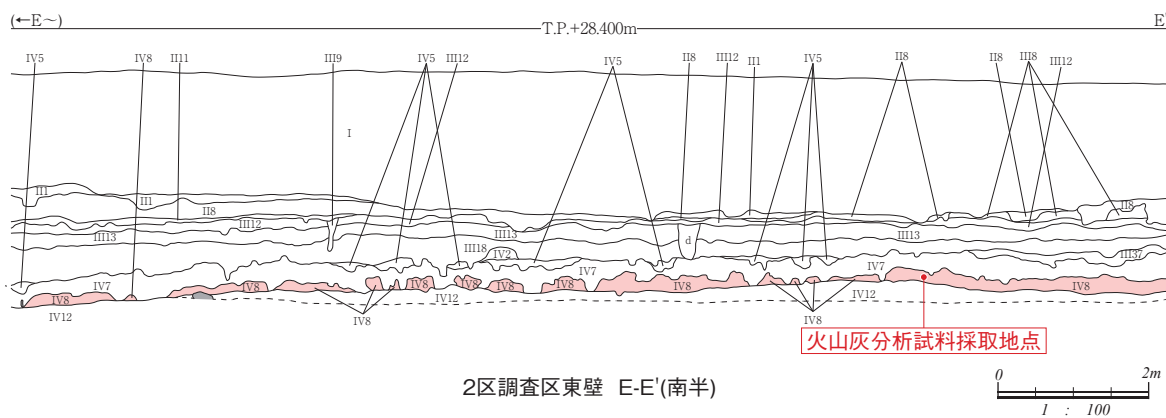
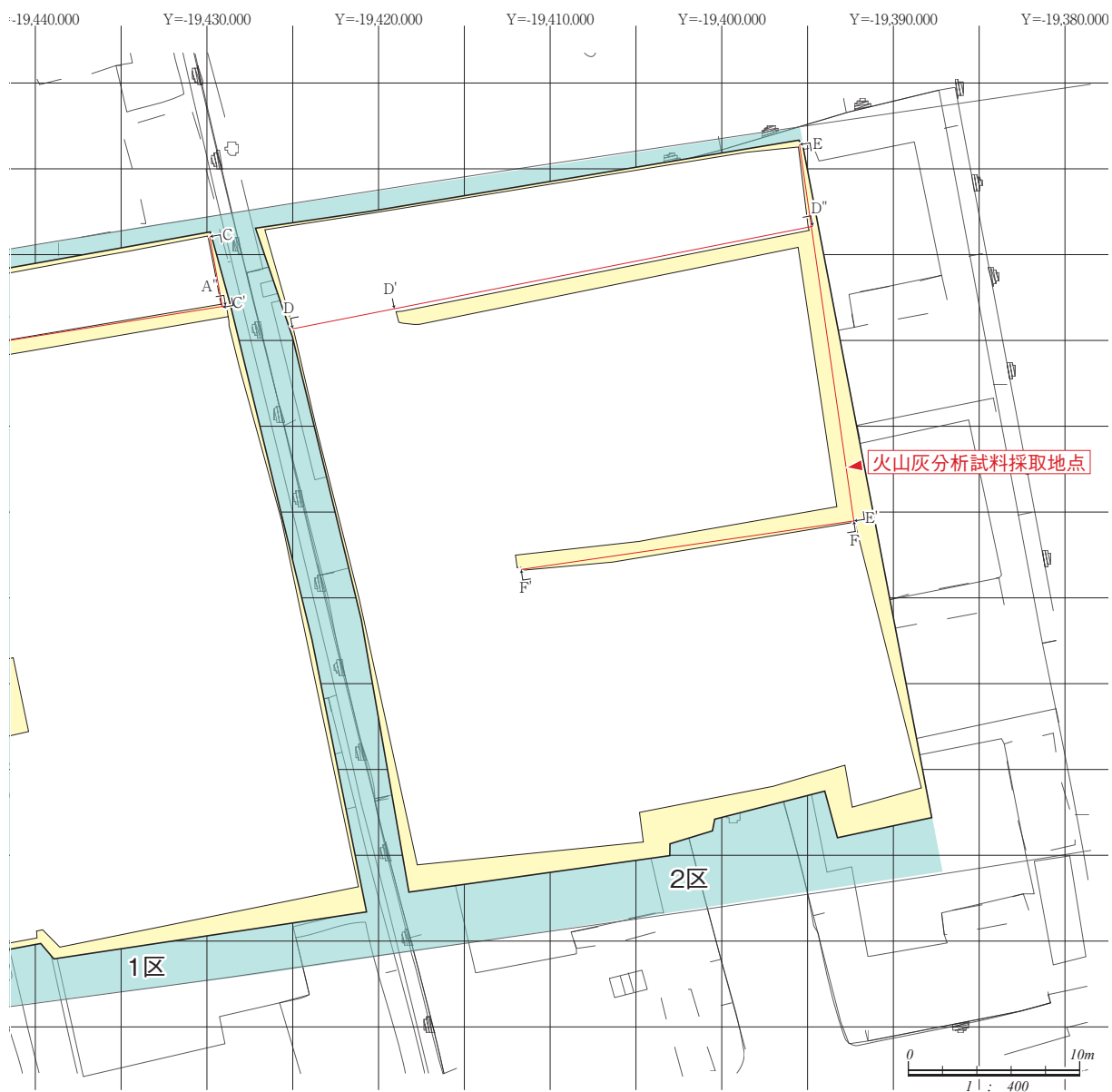


図148 2区東壁 火山灰分析試料採取地点

2 火山ガラス比分析

(1)分析試料と分析方法

火山灰試料について、最初にテフラ粒子の検出を兼ねたテフラ検出分析を行い、次に火山ガラスの形態(一部色調)別含有率、軽鉱物および重鉱物の含有率を求める火山ガラス比分析を実施した。

- 1) 試料の高純度部から、電子天秤を用いて8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器をもちいて80℃で乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や色調などを観察(テフラ検出分析)。
- 5) 分析篩により、2~3φ(1/4~1/8mm)および3~4φ(1/8~1/16mm)の粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、2~3φ(1/4~1/8mm)の火山ガラスの色調形態別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める(火山ガラス比分析)。

火山ガラスの形態分類は町田・新井(2011)や早田(1999)に基本的に従い、バブル型、塊状の中間型、軽石型に区分した。軽石型については、さらにスポンジ状と繊維束状に分けた。なお、色調はバブル型ガラスを対象に記載を行い、無色透明、淡褐色、褐色に区分した。

(2)分析結果

テフラ検出分析の結果を表14に示す。火山灰試料には、火山ガラスがとくに多く含まれている。火山ガラスには、無色透明、淡褐色、褐色のバブル型のほか、無色透明の繊維束状軽石型が認められる。重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石がわずかに含まれている。

表14 テフラ検出分析結果

試料名	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
東壁側溝トレンチ				****	bw>pm(fb)	無色透明, 淡褐, 褐	(opx, cpx)

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない. bw: バブル型, pm: 軽石型, fb: 繊維束状.

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ()内は量がとくに少ない鉱物.

次に、火山ガラス比分析の結果の内訳を表15に、またダイヤグラムを図149に示す。火山灰試料には、火山ガラス、軽鉱物、重鉱物が、順に92.0%、2.0%、1.6%含まれており、火山ガラスの含有率が非常に高い傾向にある。火山ガラスとしては、無色透明のバブル型(65.6%)、繊維束状軽石型(18.0%)、淡褐色バブル型(5.2%)、分厚い中間型(2.8%)、褐色バブル型(0.4%)が認められる。

表15 火山ガラス比分析結果

試料	bw(cl)	bw(p-br)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
東壁側溝トレンチ	164	13	1	7	0	45	5	4	11	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, p-br: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状. 数字は粒子数.

3 屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

日本列島とその周辺に分布するテフラに関しては、同定精度向上のために火山ガラスや鉱物の

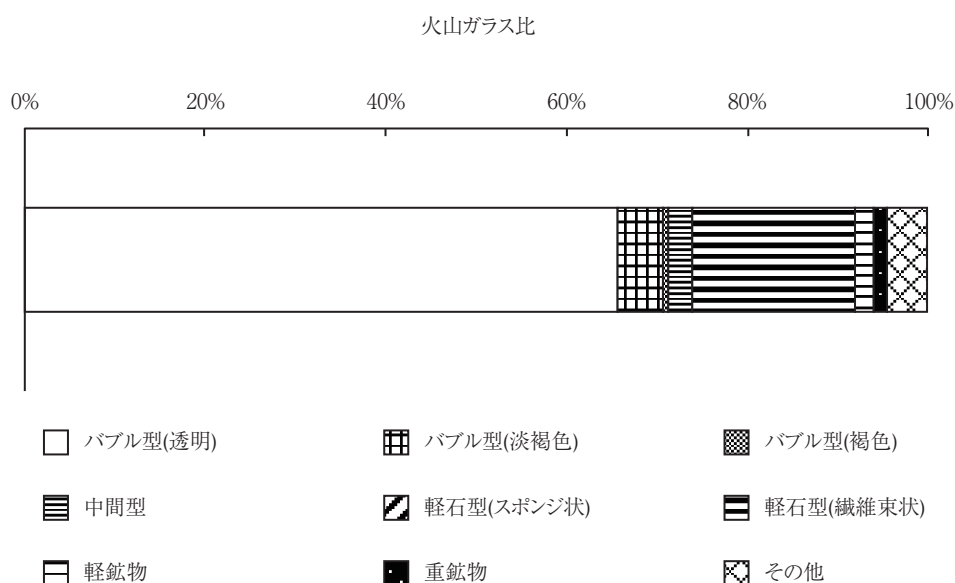


図149 中村田所遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム

屈折率測定がよく行われている。そこで、火山灰試料中に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定を実施することになった。測定方法は温度一定型屈折率測定法(壇原,1993)で、テフラ検出分析後の篩別により得られた3~4φ(1/8~1/16mm)粒子中の火山ガラスを対象に測定を行った。

(2)測定結果

屈折率の測定結果を表16に、値の内訳を付表に示す。火山灰試料に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)は、1.508-1.512である。

4 考察

火山灰試料に含まれる火山ガラスの屈折率特性は、四国地方に分布する後期更新世以降の指

表16 屈折率測定結果

試料・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率 (n)	測定点数	
調査区東壁側溝トレンチ・火山灰試料	1.508-1.512	31	1)
四国地方に分布する代表的な指標テフラ			
鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah,7.3ka)	1.508-1.516		2)
始良 Tn(AT,28 ~ 30ka)	1.498-1.501		2)
阿蘇 4(Aso-4,85 ~ 90ka)	1.506-1.510		2)
鬼界葛原 (K-Tz,95ka)	1.496-1.500		2)
阿多 (Ata+B8105ka)	1.508-1.512		2)
阿蘇 3(Aso-3,130-133ka)	1.512-1.540		2)

1) 本報告, 温度変化型屈折率測定法 (壇原, 1993).

2) 町田・新井 (2011), 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993).

ka:1,000 年前.

標テフラと比較すると、約10.5万年前に南九州の阿多カルデラから噴出した阿多火山灰(Ata,長岡,1989,町田・新井,2011など)と、約7,000年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,町田・新井,1978,2011など)によく似ている。火山灰試料の層位や産状、火山ガラスの形態や色調、さらに前者が四国地方において一次堆積層で認められること自体まれなことなどから総合的にみると、火山灰試料にはK-Ahに由来するテフラ粒子がとくに多く含まれていると考えられる。

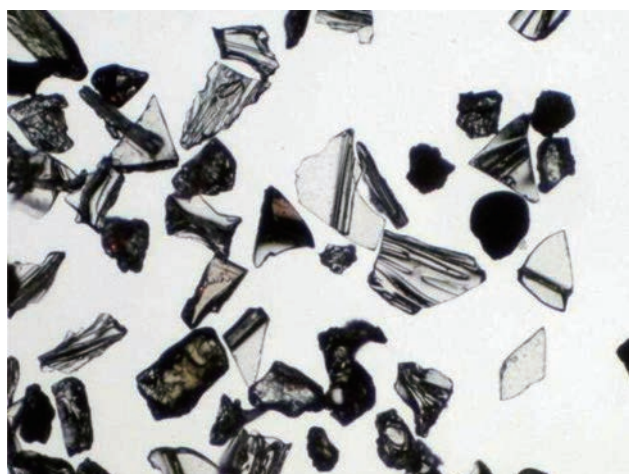
なお、高純度であることから、遺跡にK-Ahの一次堆積層が存在した可能性は高いが、樹木根などによりブロック状になり、本来の降灰層準から移動したK-Ahも多いことから、土層の状況を詳細に把握して、K-Ahの一次堆積層や降灰層準を認定する必要がある。

5 まとめ

新居浜市中村田所遺跡において採取された火山灰試料を対象として、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、指標テフラの検出同定を実施した。その結果、試料中に鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)に由来するテフラ粒子が非常に多く含まれていることが明らかになった。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロロジーの基礎的研究.第四紀研究,11,p.254-269.
 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」,p.136-149.
 壇原 徹(1993)温度変化型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」,東京大学出版会,p.149-158.
 町田 洋・新井房夫(1978)南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰.第四紀研究,17,p.143-163.
 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」.東京大学出版会,336p.
 長岡信治(1989)九州の第四紀テフラと地形編年.九州活断層研究会編「九州の活構造」,p.23-43.



調査区東壁側溝トレンチ・火山灰試料
透過光で撮影。

中央など：バブル型ガラス(無色透明),

中央左：褐色バブル型ガラス,

中央右下：繊維束状軽石型ガラス,

左下(有色鉱物)：斜方輝石.

0.2mm

図150 火山灰顕微鏡写真

第4節 SK7出土炭化材の放射性炭素年代測定

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(^{14}C)の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村,2000)。

2 試料と方法

測定試料は、2区で出土した集石土坑(SK7)で採取された炭化物1点である。表17に測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。試料は、前処理・調整後、加速器質量分析計(コンパクトAMS:NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。

表17 測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
1	SK7(2区)	炭化材	超音波洗浄, 有機溶剤処理(アセトン), 酸-アルカリ-酸洗浄(塩酸, 水酸化ナトリウム)	AMS

※ AMS(Accelerator Mass Spectrometry)は加速器質量分析法

3 結果

加速器質量分析法(AMS:Accelerator Mass Spectrometry)によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(^{14}C)年代および暦年代(較正年代)を算出した。表18にこれらの結果を示す。

(1) δ (デルタ) ^{13}C 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2)放射性炭素(^{14}C)年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から現在(AD1950年基点)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いている。統計誤差(±)は 1σ (シグマ)(68.27%確率)である。 ^{14}C 年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

(3)暦年代(Calendar Years)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、放射性炭素(^{14}C)年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値及びサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20、較正プログラムはOxCal 4.4である。

暦年代(校正年代)は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により 1σ (68.27%確率)と 2σ (95.45%確率)で示した。校正曲線が不安定な年代では、複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

表18 測定結果

試料番号	測定No. (PED-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (年 BP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (年 BP $\pm 1\sigma$)	暦年代 (西暦)	
					1σ (68.27%確率)	2σ (95.45%確率)
1	44369	-24.91 \pm 0.15	3449 \pm 22	3450 \pm 20	1870-1848 cal BC (18.43%)	1878-1841 cal BC (23.32%)
					1772-1738 cal BC (31.97%)	1825-1793 cal BC (10.89%)
					1714-1694 cal BC (17.87%)	1782-1688 cal BC (61.24%)

BP : Before Physics (Present), BC : 紀元前

4 所見

中村田所遺跡で出土した集石土坑の構築年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定を行った。その結果、集石土坑の埋土から検出された炭化物は、補正 ^{14}C 年代が 3450 ± 20 年BP、 2σ の暦年較正值は1878 cal BC-1841 cal BC(23.32%)、1825 cal BC-1793 cal BC(10.89%)、1782 cal BC-1688 cal BC(61.24%)であった。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

Lanting, J. N., Aerts-Bijima, A. T. and van der Plicht (2001) Dating of Cremated Bones. Radiocarbon, 43(2A), 249-254.

中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と暦年代校正.環境考古学マニュアル.同成社, p.301-322.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards,

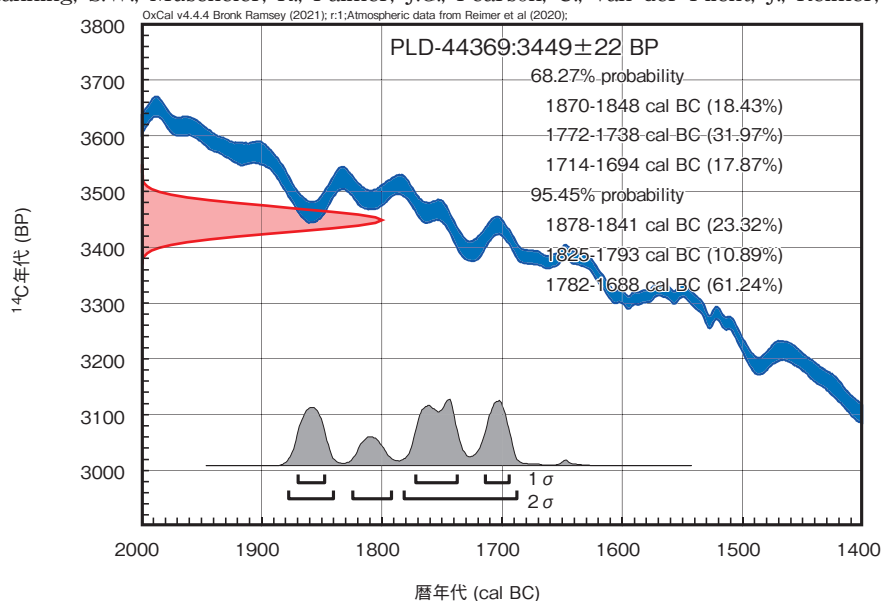


図151 暦年校正結果

D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第5節 SK7出土炭化材の樹種同定

1 はじめに

木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、遺構から出土したものを検討することにより、木材利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2 試料

試料は、縄文時代後期と考えられる2区SK7の埋土を水洗選別して得られた炭化材である。3～8mm角程度の炭化材が6片ほどある。いずれも水洗の際に摩耗しており、接合関係は不明である。最大片1点を分析試料とする。

3 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

4 結果

炭化材は広葉樹のコナラ属コナラ節に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

環孔材。大型の道管が配列する孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

5 考察

同定できた炭化材は、約8mm角の小片であり、コナラ節に同定された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワの4種がある。山地・丘陵地に生育する落葉高木であり、コナラは二次林(雑木林)の主要な構成種でもある。コナラ節の木材は、重硬で強度が高い。

炭化材は、縄文時代後期と考えられる2区SK7の埋土を水洗選別して得られたものである。同定試料の他にも5片ほどあるが、いずれも小片である。いずれも炭化している状況から火を伴う

用途に利用されたことが推定される。なお、同定試料以外も実体顕微鏡による観察を実施したが、その中にはコナラ節とは明らかに異なる特徴を持つものがあり、複数種類が混在していることが推定される。

伊東・山田(2012)のデータベースを用いて、愛媛県における縄文時代後期・晩期の事例をみると、船ヶ谷遺跡(松山市)と矢田八反坪遺跡(今治市)で報告例がある。その結果を見ると、木製品では常緑広葉樹の利用が多く、用途不明品等を合わせても落葉広葉樹の利用は認められない。一方、香川県では、林・坊城遺跡と居石遺跡(共に高松市)で調査事例があり、加工材や杭材にコナラ節の利用が確認できる。今回の結果は、愛媛県においてもコナラ節が生育していたこと、またその木材を利用していたことを示す結果として注目される。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,444p.

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

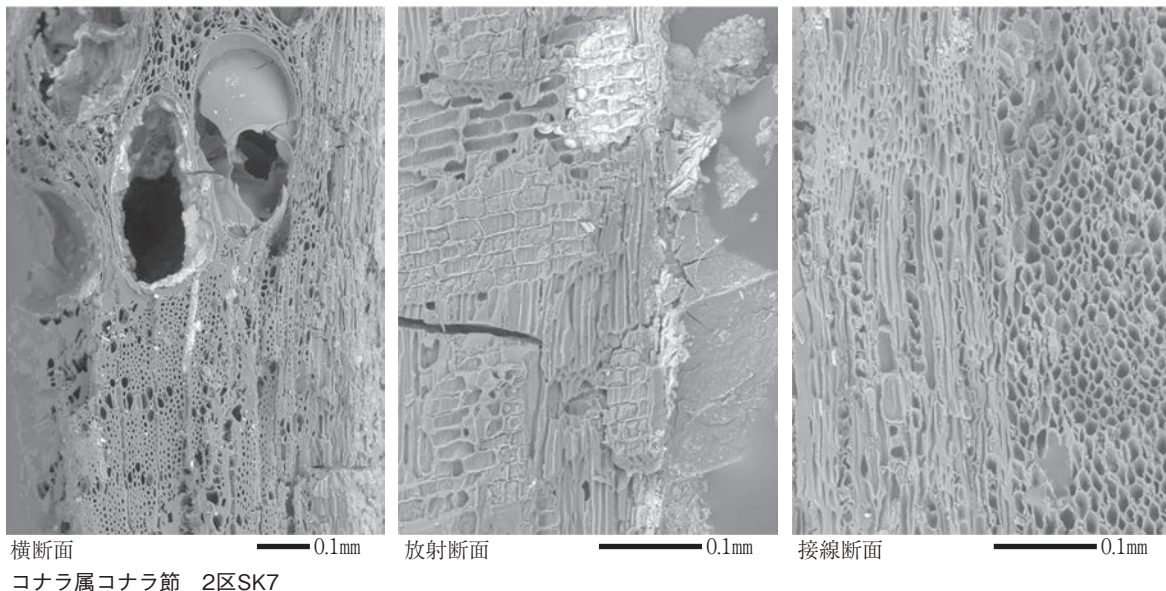


図152 SK7出土炭化材顕微鏡写真

第6節 SI2～4出土炭化材の樹種同定

1 はじめに

木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、遺構から出土したものを検討することにより、木材利用状況や流通を探る手がかりにもなる。中村田所遺跡の発掘調査では、弥生時代後期末頃とされる火災住居跡が検出された。そこで、出土した炭化材について樹種同定を実施し、当時の木材利用を検討することになった。

2 試料(図153～155)

試料は、SI2から出土した12点(試料番号1～12)、SI3から出土した1点(試料番号13)、SI4から出土した7点(試料番号14～20)の合計20点である。

3 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)

表19 樹種同定結果

試料番号	遺構	位置	取上番号	形状	樹種
1	SI2	①-1区	No.1	分割状	コナラ属クヌギ節
2	SI2	①-3区	No.1	板目板状	マツ属複維管束亜属
3	SI2	①-3区	No.3	破片	コナラ属クヌギ節
4	SI2	②-2区	No.2	破片	センダン近似種
5	SI2	②-2区	No.4	破片	コナラ属クヌギ節
6	SI2	③-1区	No.4	ミカン割状	マツ属複維管束亜属
7	SI2	③-3区	No.2	破片	ツブラジイ
8	SI2	③-4区	No.1	柾目板状	コナラ属クヌギ節
9	SI2	④-2区	No.1	破片	コナラ属クヌギ節
10	SI2	④-2区	No.3-4	柾目板状	スダジイ
11	SI2	下層 SP239	柱材	ミカン割状	クスノキ科
12	SI2	下層 SP240 周辺	柱材	破片	マツ属複維管束亜属
13	SI3		No.2	破片	スダジイ
14	SI4	1区	No.1	分割状	コナラ属クヌギ節
15	SI4	2区	No.2	柾目板状	コナラ属クヌギ節
16	SI4	2区	No.3	柾目板状	コナラ属クヌギ節
17	SI4	3区	No.2	板目板状	コナラ属クヌギ節
18	SI4	3区	No.5	ミカン割状	コナラ属クヌギ節
19	SI4	3区	No.6	柾目板状	コナラ属クヌギ節
20	SI4	4区	No.2	柾目板状	コナラ属クヌギ節

を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

4 結果

樹種同定結果を表19に示す。炭化材は針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)と広葉樹5分類群(クスノキ科、コナラ属クヌギ節、スダジイ、ツブラジイ、セン

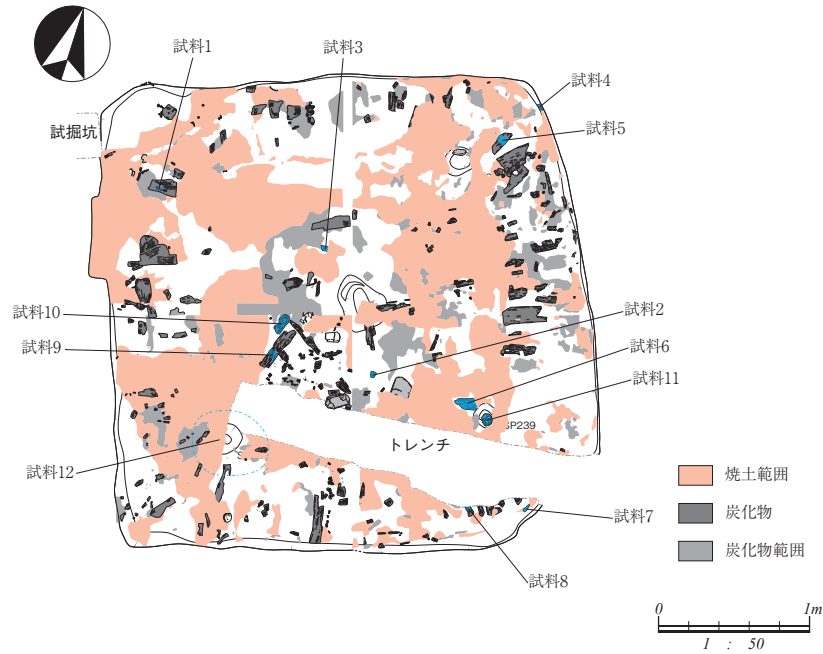


図153 SI2炭化材試料採取地点(試料1~12)

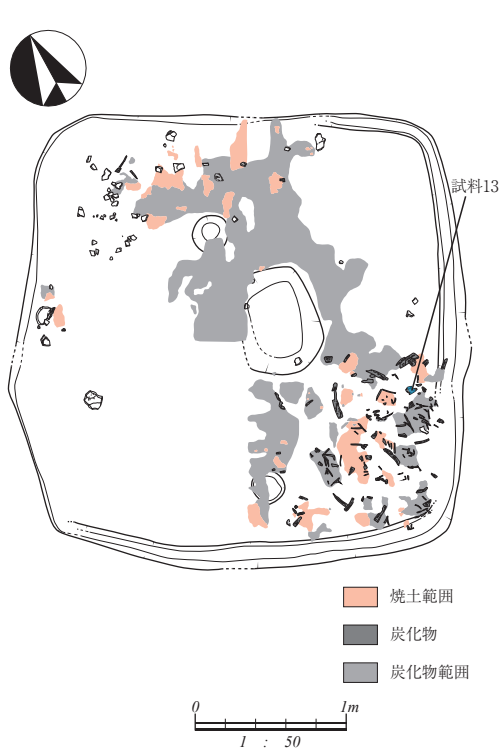


図154 SI3炭化材試料採取地点(試料13)

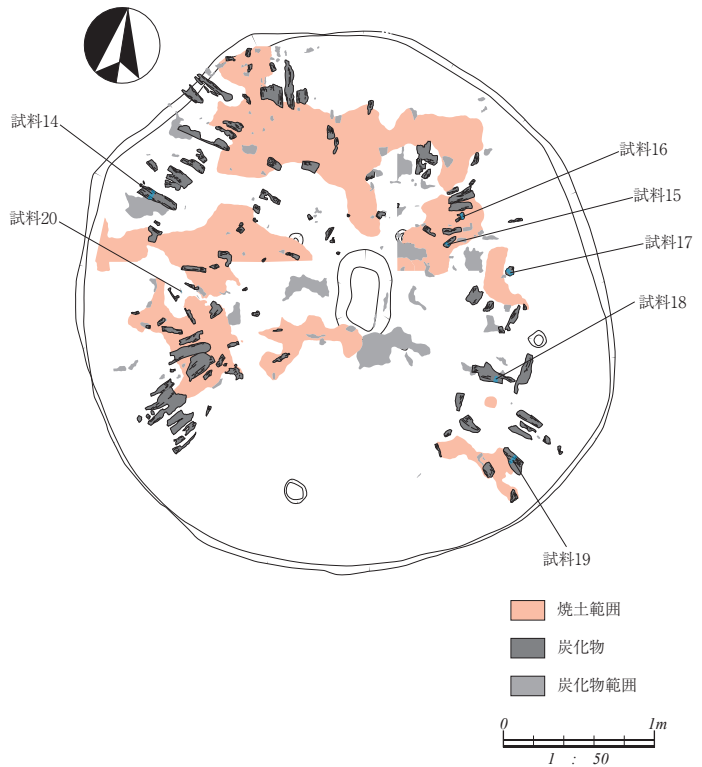


図155 SI4炭化材試料採取地点(試料14~20)

ダン近似種)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科

軸方向組織は、基本的に仮道管と垂直樹脂道で構成されるが、観察範囲内で垂直樹脂道が認められなかった試料もある。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クスノキ科 *Lauraceae*

散孔材。道管は単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

・コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Cerris* ブナ科

環孔材。孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、小径の道管が単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・スダジイ *Castanopsis sieboldii*(Makino)Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba subsp. *Sieboldii*
ブナ科シイ属

環孔性放射孔材。道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外でやや急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

・ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky ブナ科シイノキ属

環孔性放射孔材。道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

・センダン近似種 cf. *Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel センダン科センダン属

試料は小片。道管は5～6個が塊状に複合して配列する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、1～4細胞高、1～30細胞高。

柾目でやや大型の道管が認められること、木口面の道管が塊状に配列する状況から、環孔材の晩材部分と判断できる。道管や放射組織からセンダンの可能性があるが、観察範囲が狭いために道管配列が確認できず、近似種とした。

5 考察

弥生時代後期末頃とされる住居跡から出土した炭化材には、合計6種類の樹種が認められた。各種類の材質をみると、針葉樹のマツ属複維管束亜属は、四国ではアカマツまたはクロマツである。海岸や二次林等に生育する常緑高木であり、木材は強度や保存性が比較的高い。広葉樹のス

ダジイとツブラジイは、暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木であり、木材は比較的重硬で強度が高い部類に入る。クヌギ節は、二次林や河畔等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。クスノキ科には、常緑性と落葉性があり、高木から低木まで含まれる。木材は比較的重硬な種類から軽軟な種類まで幅がある。センダン(近似種)は、沿海地等に生育する落葉高木であり、木材は比較的強度が高い部類に入る。確認された種類から、弥生時代後期末頃の遺跡周辺では、丘陵地等にシイ属(スダジイ・ツブラジイ)を主要素とする常緑広葉樹林が見られ、沖積地の河畔にはクヌギ節、海岸や集落周辺にはマツ属複維管束亜属等が生育していたことが推定される。

遺構別にみると、SI2は住居のほぼ全面から屋根の構築部材等と考えられる炭化材が出土しているほか、下層のSP239およびSP240周辺から柱材と考えられる炭化材が出土している。屋根の構築部材等と考えられる炭化材は、クヌギ節を中心にマツ属複維管束亜属、スダジイ、ツブラジイ、センダン近似種が認められ、5種類の木材が混在して利用されたことが推定される。また、柱材と考えられる2点はクスノキ科とマツ属複維管束亜属であった。出土地点別にみると、住居跡の壁沿いで放射状に出土している炭化材では、5点中3点がクヌギ節、センダン近似種とツブラジイが各1点であり、クヌギ節の利用が多い傾向がある。また、住居跡の中央部から出土した炭化材では、クヌギ節とマツ属複維管束亜属が各2点、スダジイが各1点である。壁沿いの炭化材と比較すると、クヌギ節やシイ属の利用は同様であるが、マツ属複維管束亜属が利用される点は異なる。

SI3は、住居の南東部と北西部から炭化材が出土している。分析試料は、南東部から出土した炭化材から抽出された1点で有り、スダジイに同定された。1点のみの結果であるが、スダジイの利用はSI2の結果とも同様である。

SI4は、床面が円形を呈しており、他の2件とは床面形状が異なる。炭化材は、南側の一部を除くほぼ全面から出土しており、軸方向が住居の中心から放射状に延びるものが多い。選択された5点は全てクヌギ節に同定された。クヌギ節はSI2でも比較的多く確認されており、同様の木材が利用されているが、クヌギ節以外の種類が利用されない点はSI2とは異なっており、種類構成が異なっていた可能性がある。

伊東・山田(2012)のデータベースによれば、周辺では本郷I遺跡の弥生後期～古墳初頭とされる柱材にアカマツ(マツ属複維管束亜属)が確認されており、本遺跡の結果とも整合的である。また、時期はやや古くなるが、久枝II遺跡の弥生時代中期とされる竪穴住居から出土した炭化材にはアカガシ亜属に混じってツブラジイが確認されている。

既存の調査例と比較すると、本遺跡ではアカガシ亜属の利用が認められない一方、周辺で利用例が報告されていないクヌギ節の利用が多い。こうした違いは、局所的な植生の違い等を反映している可能性がある。なお、クヌギ節については、本遺跡から距離は離れるが、祝谷アイリ遺跡(松山市)の弥生後期～古墳初頭とされる垂木に、アカガシ亜属と共に確認された例がある。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,444p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

第7節 まとめ

火山灰分析では鬼界アカホヤ火山灰由来のテフラ粒子が多く含まれており、当資料はブロック状の堆積であるが、周辺に一次堆積層が存在する可能性も想定できることが判明した。

SK7出土の縄文時代の炭化物については、材質はコナラ節であり、放射性炭素年代測定により補正¹⁴C年代が3450±20年BPの結果が得られた。

弥生時代終末期の焼失竪穴建物の炭化材樹種同定では、SI2ではクヌギ節を中心にマツ属複雑管束亜属・スダジイ・ツブラジイ・センダン類似種の5種類の使用が判明しており、多様性を持つことが当建物の特徴である。SI3では1点のみの分析であったが、スダジイの使用が捉えられ、SI4では複数の資料全てがクヌギ節であった。SI2とそれ以外では使用材の種類数に差異が認められ、SI2とSI4では遺構の近接状況や土器様相より若干の時期差が想定できることから、使用木材の違いには竪穴建物が構築された時期の差も関係している可能性がある。(首藤)

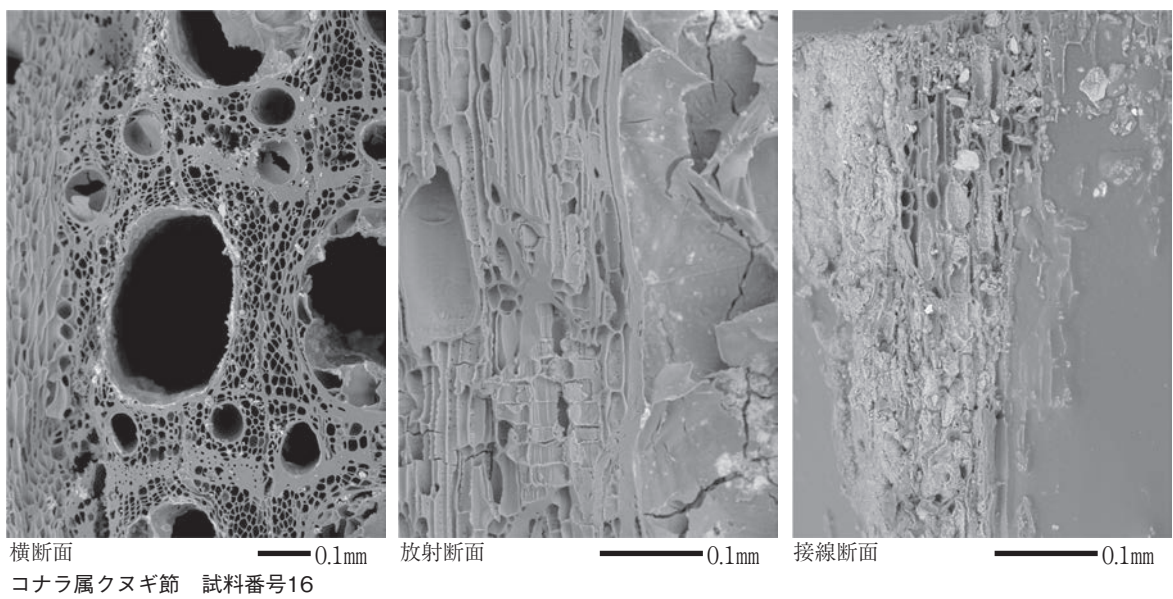
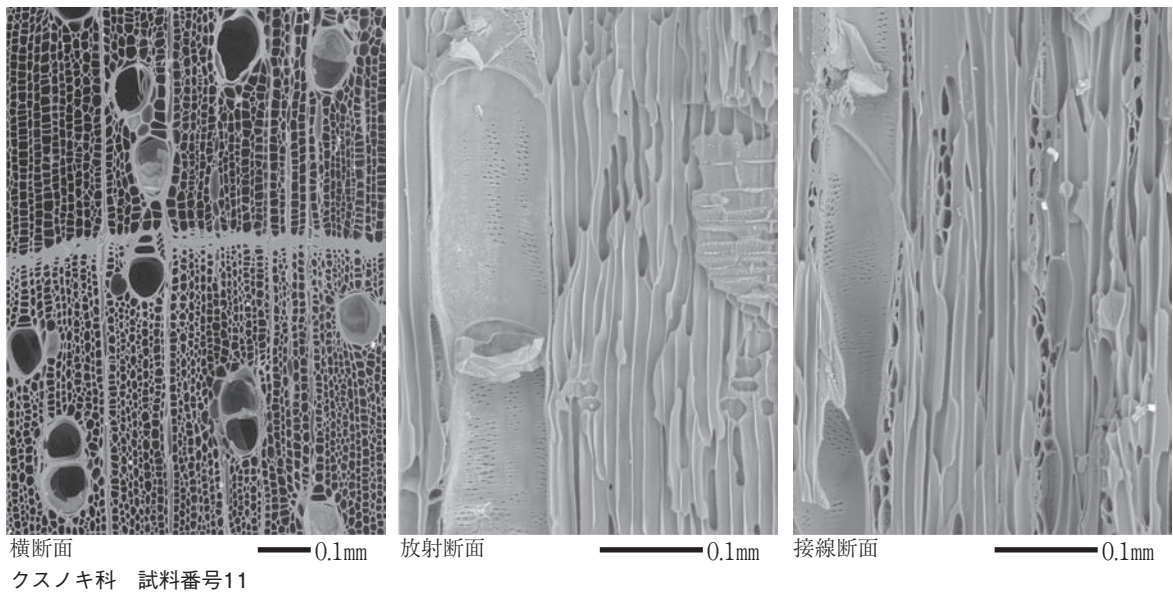
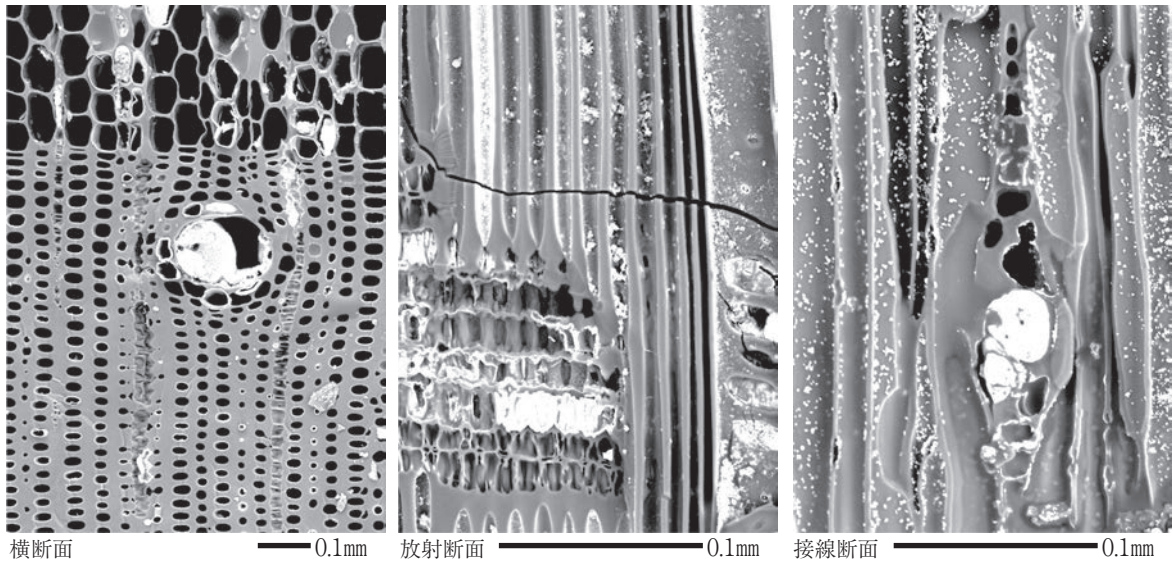


図 156 S11~3 出土炭化材顕微鏡写真(1)

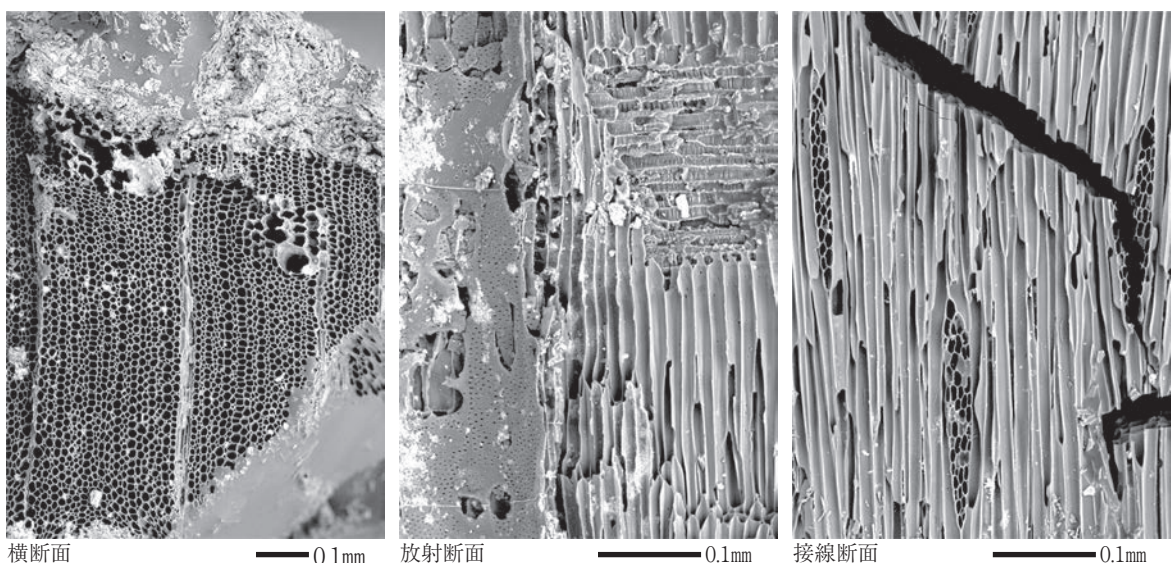
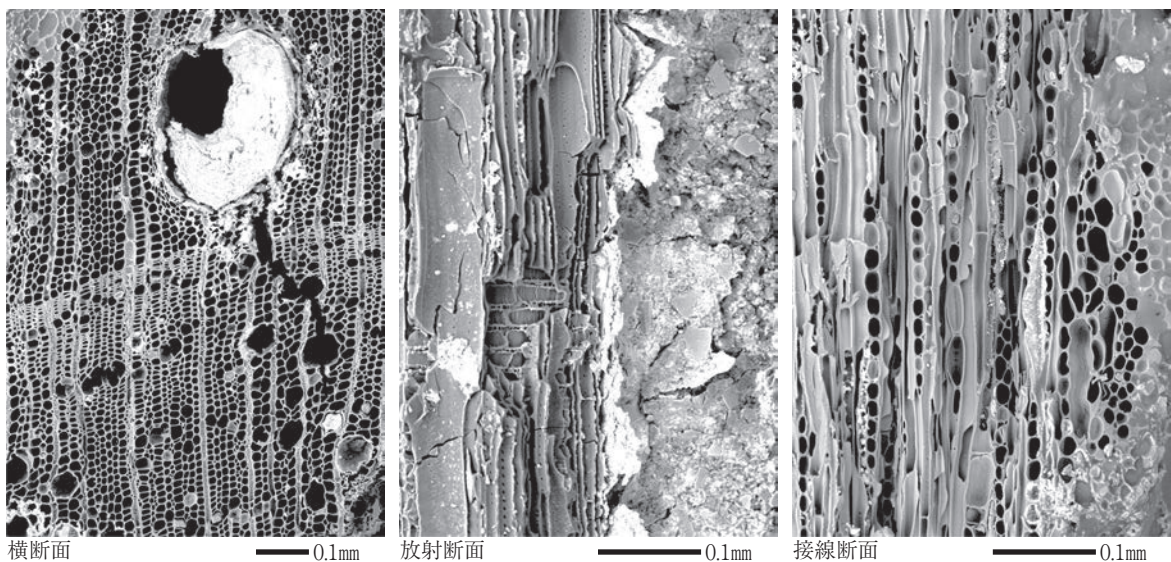
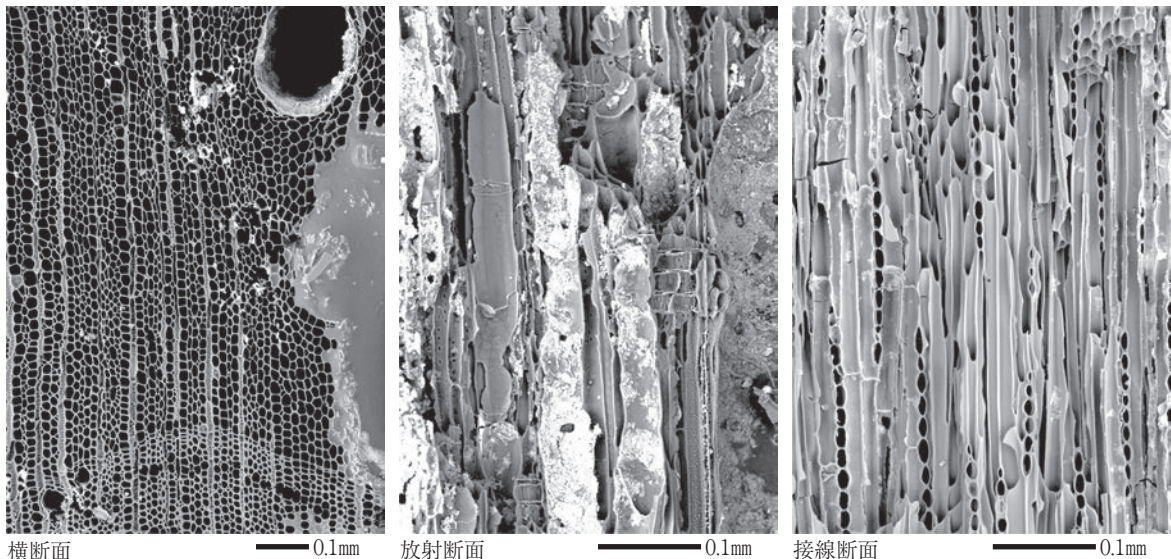


図 157 S11~3 出土炭化材顕微鏡写真 (2)

第7章 総括

第1節 遺構の変遷(図158・159)

1 縄文時代以前

中村田所遺跡で検出された火山灰は、理化学分析で鬼界アカホヤ火山灰と同定された(第6章第3章参照)。鬼界アカホヤ火山灰はブロック状堆積が観察されたことから二次堆積と考えられる。2区から東方向に広がると推定されるものの約300m東側の中村田所東遺跡ではみられないため、広範囲にはおよばないものとみられる。

中村田所遺跡では縄文時代後期前葉を中心とする縁帯文期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査では竪穴建物が検出されず居住の痕跡がみられないことから、当時の人々が移動中に一時的な滞在をした場であった可能性が高い。キャンプサイトなどに関連する可能性がある遺構は北方向に広がるものと考えられる。

2 弥生時代

今回報告した3遺跡において主となる時期である。尻無川左岸に近接した中村田所東遺跡にて、前期末～中期前葉を中心とする小規模集落が検出されている。出土遺構は竪穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑2基などであり、当時の最小生活単位的一端を捉えている可能性がある(柴田2006)。なお、南側で出土した小規模河川SR1は土器から若干の時期幅が認められるが、ここでは集落と同時並存の可能性も考えておきたい。SR1は、その位置から尻無川より分水した生活用水としての利用や、新居浜地域では未発見ではあるが下流域における水田域の存在も想定できる。

尻無川右岸に接する西喜光地遺跡では、中期中葉が中心の集落遺跡が検出された。対岸の中村田所東遺跡と一時期並存していた可能性がある。主体となる掘立柱建物は柱穴が小さい傾向があり、出土遺物が全体的に少ないため明確な時期が判断できる例は多くはないものの、資料を提示できたSB2,7,8は少なくとも弥生時代中期中葉と考えられる。集落は微高地である南方向へ広がるものと推定され、掘立柱建物や土坑のほか、竪穴建物も存在していた可能性がある。河川近くに立地していた可能性があるSB2より、当集落は河川と有機的な関係も想定できる。また、石斧や石庖丁、石鏃の出土から周辺において稲作を含む農耕のほか狩猟など複数の生業形態が推定される。SK2ではサヌカイト製と在地産石材である泥質片岩製石庖丁が共伴し、当地域における弥生時代中期の石材利用状況の一端がうかがえる。1区でSB2が検出されており、尻無川左岸には中村田所東遺跡が位置することをあわせると、少なくとも弥生時代以降の調査区周辺では尻無川の川筋が大幅には変更されていないものと考えられる。

弥生時代終末期になると、中村田所遺跡において集落が営まれる。市内における後期前後の集落遺跡はこれまで調査例が少なく、当遺跡は貴重な事例である。主要遺構は竪穴建物4棟と掘立柱建物1棟である。西側のSI1と東側のSI2～4は約25m離れているため、焼失状態の有無など埋没

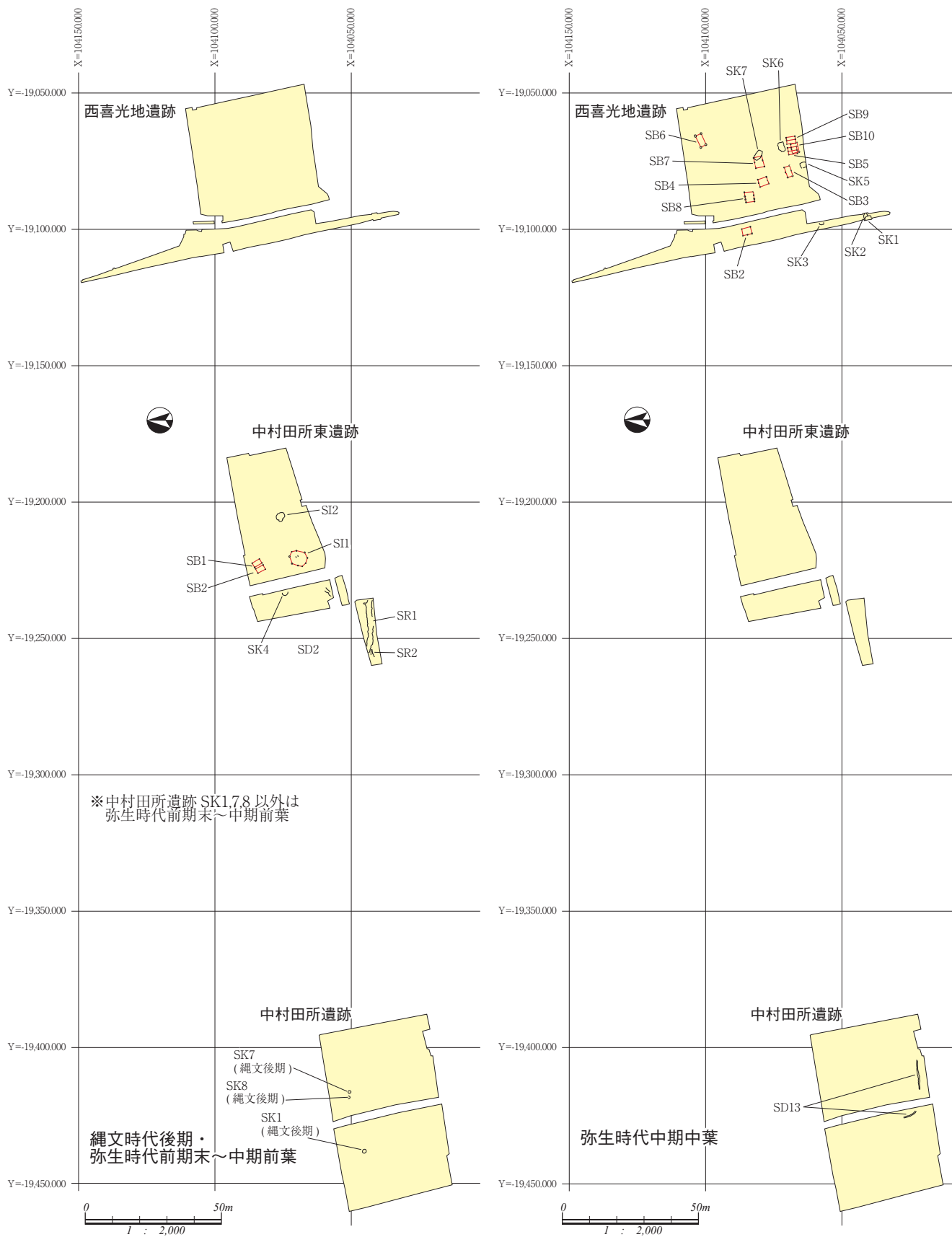


図158 中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(1)



図159 中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(2)

状況の違いなどからも異なる生活単位である可能性がある。東側3棟の平面形は方形2棟・円形1棟であり、いずれも焼失建物であった。そのうち、方形のSI2と円形のSI4は大型であり位置関係より両者は並存しないものと考えられる。甕の形状からは、SI2に比べSI4出土の胴部が若干丸みを帯びる傾向にあるため時期差が認められ、後者がより新しい様相と推定される(柴田2000b)。また、この両竪穴建物と小型方形であるSI3とは、並存関係の確定には至らなかった。

3 古代以降

今回の調査では古墳時代の遺構・遺物は確認されていない。古代以降の遺構については西喜光地遺跡の溝群があり、注目される遺物としてSD7より出土した布目瓦の細片がある。出土遺物に時期幅がある点に留意する必要があるが、出土瓦片は周辺地域において唯一瓦を伴うことが判明している河内廃寺遺跡以外の古代瓦葺き建物が存在していることを示唆している可能性もある。

中世では中村田所遺跡で柱穴祭祀を伴った掘立柱建物などが出土しており、集落は南側に展開すると推定できる。西喜光地遺跡では明確な遺構は少ないが、溝群が検出されている。また、3遺跡共に瓦器椀や土師質土器が、中村田所遺跡や西喜光地遺跡では内面黒色土器や白磁碗などの中世前期遺物が出土しており、尻無川中流域周辺にも中世前期集落が展開している可能性が高いと考える。

西喜光地遺跡では、前述の微高地に相当する2区南西側を中心に筋状の攪乱が数多くみられ、包含層が安定的に遺存しないこととあわせて広範囲に攪乱の影響がおよんでいると考えられる。この攪乱は、田畑の上下の土を入れ替える天地返しと考えられ、近隣住民の証言も勘案すると実施時期は昭和期であろう。新居浜市内では、別子銅山の鉱毒による土壌汚染問題の対応策として、昭和30年代より上部地区や川西地区の一部を中心とした天地返しを大規模に行っている(新居浜郷土史談会2002)。今回調査区内で確認された攪乱もこれに関連するとみられ、同様の攪乱は星原市東遺跡や松原遺跡でも検出されていると思われることから、新居浜地域における近現代史の一側面を捉えていると考えられる。

第2節 特徴的な遺構・遺物

1 中村田所遺跡出土の火山灰

中村田所遺跡で確認された鬼界アカホヤ火山灰は、約7,300年前に鹿児島県の鬼界カルデラより噴出したとされ、新居浜地域ではこれまでに報告された事例はなかった。近隣では、西条市の池の内遺跡2次で同火山灰が確認されており、ほかに始良丹沢火山灰なども報告されている。また旧小松町の明穂I東岡東遺跡でも鬼界アカホヤ火山灰の報告例がある。

愛媛県内の鬼界アカホヤ火山灰は、松山平野の枝松遺跡群において比較的まとまった範囲で捉えられており、北井門遺跡でも報告されている。南予地方では高見I遺跡・東峰遺跡・上井遺跡で鬼界アカホヤ火山灰・始良丹沢火山灰が、音地遺跡で鬼界アカホヤ火山灰が認定されている。

このように、愛媛県内の多くの地点で鬼界アカホヤ火山灰の存在が確認されており、今回新居

浜地域での例が新たに加わったことになる。

2 中村田所東遺跡出土のサヌカイト石器

弥生時代前期末の竪穴建物SII-SK2からはサヌカイト製の剥片やチップなどを含めた石器が100点近く出土している。いずれも肉眼で観察する限りすべて金山産サヌカイト製とみられる。

この資料について、製品・石核・剥片に分類し、剥片はさらに打法ごとに分類した(上峯2006、乗松2020b)。なお、1.0cm未満の資料については、調査時の取り上げの際のバイアスを避けるために分析から除外した。図160には石器の大きさの1.0cmごとの階級別グラフを示した。このグラフからは、2cm未満の小サイズの剥片で多数を占めることが分かる。図161・162は石器の種類ごとの点数比のグラフである。剥離方法が確認できる剥片はすべて両極打法による剥片で、直接打法剥片は認められない。約8割に達する打法不明の剥片の多くについても両極打法に伴う剥片の可能性はある。石核のうち1点は両極打法による石核(いわゆる楔形石器)で、この点は両極打法剥片で占められる剥片の状況と整合的といえる。唯一の製品は石鏃(123)である。

以上のことから、SIIでは両極打法を用いて小サイズの剥片を得ていたと判断できる。また、ここで得られた剥片は石鏃の素材であった蓋然性が高い。

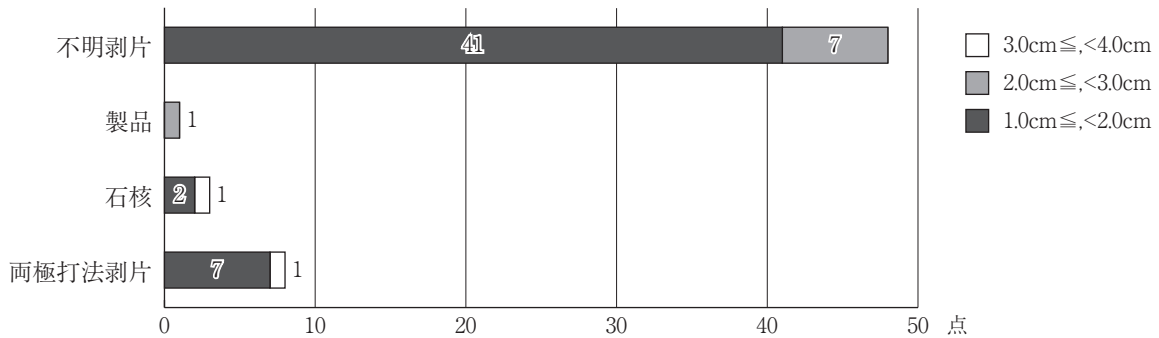


図160 石器の大きさの階級別点数

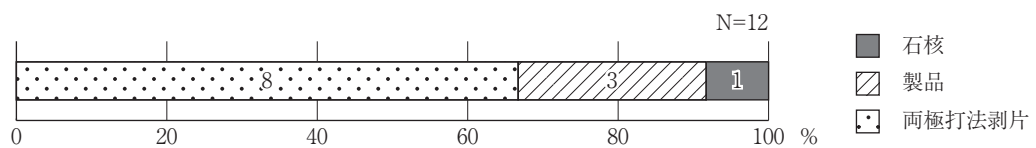


図161 石器種類別点数比率(不明剥片除く)

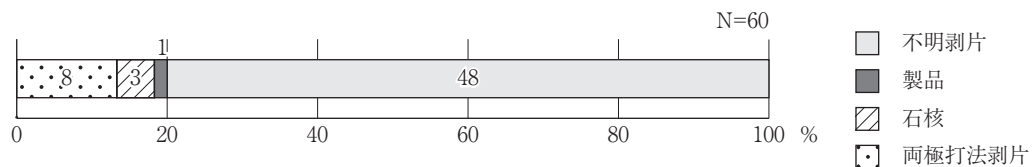


図162 石器種類別点数比率

3 西喜光地遺跡出土の掘立柱建物

西喜光地遺跡で検出された直径約30cm弱～50cmの小さい掘り方を持つ弥生時代中期の掘立柱

建物は、これまで同時期の県内ではあまり報告例がなかった。隣県の香川県では図163のように前期～中期中葉として龍川五条遺跡で2例・成重遺跡で9例、後期前半として旧練兵場跡遺跡19次で1例、後期の上林遺跡で2例の報告事例があり、愛媛県でも同様に小規模な柱穴をもつ竪穴建物の存在が今回明らかになった。

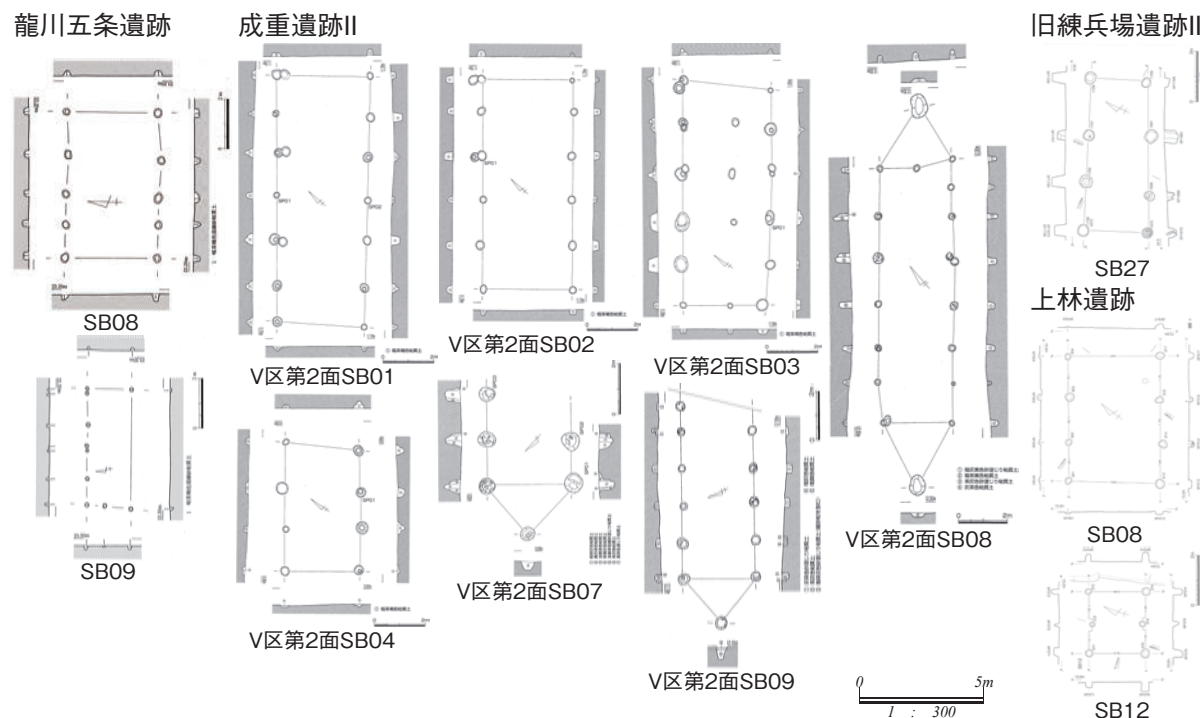


図163 香川県における弥生時代の掘立柱建物事例

4 中村田所遺跡出土の讃岐系土器

中村田所遺跡では、弥生時代終末期のSI3・SI4などから角閃石を含む香東川下流域産土器が出土している。多くが破片であり全体形状が把握できるものは限られているものの、当遺跡より出土した数少ない搬入土器である。近隣に位置し、ほぼ同時期と推定される政枝遺跡からも出土が報告されている(梅木2001)。管見の限りではあるが、東予地方において出土が報告されている遺跡の分布を図164にまとめた。調査面積等の偏りもあるが、報告点数からはおおむね一遺跡当たり数点程度の出土量にとどまるものとみられる。今治地域では集中しており、松山平野でも津田中学校構内遺跡1次・宮前川遺跡などの例がある。

5 中村田所遺跡出土の壺棺墓

中村田所遺跡より出土した壺棺墓ST1は、棺身に棺蓋を被せる典型的なものとは異なる複雑な構造をしており、埋葬状況の復元は果たせなかった。竪穴建物との位置関係からST1は居住域北西端の緩斜面中に単独で営まれたものと評価できる。最も近いSI1とは約17m・2区のSI2とは約40m・SI4でも約50mの距離であり、ST1とほぼ同時期と考えられることから、仮にいずれかの居

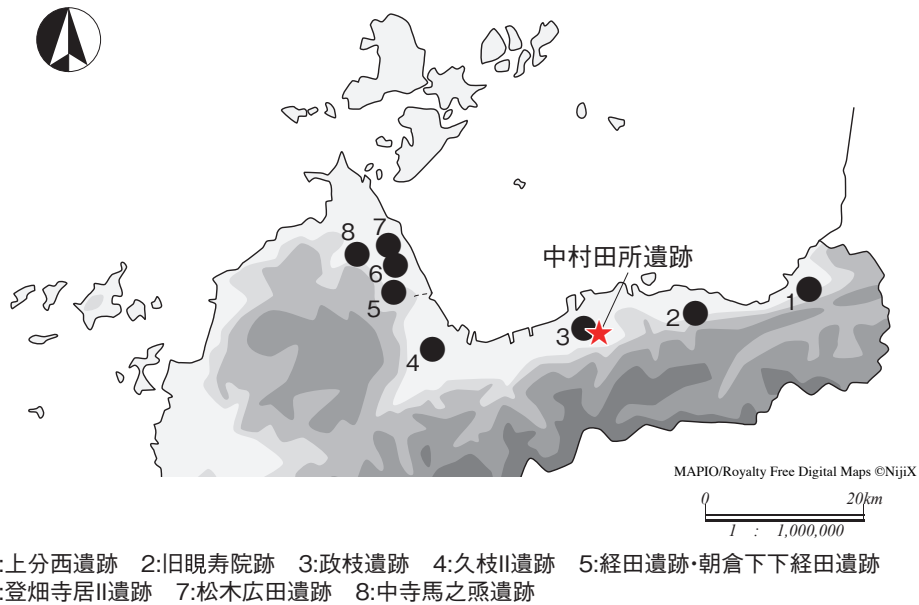


図164 東予地方における讃岐系土器の出土遺跡

住関係者が葬られたとしても居住場所にほど近い墓と考えられる。

弥生時代後期を中心として、居住域近隣に単独もしくは少数の壺棺墓が見られる例は、東予地方では、四国中央市旧睨寿院跡・西条市北竹ノ下II遺跡・今治市杣田池田遺跡・朝倉下下経田遺跡・新谷古新谷遺跡2次などがある。これらの壺棺墓は、いずれも近接する居住域から20m以内の距離である。

以上のような事例から、集団墓とは異なる居住域に隣接する小規模な墓制も一定程度認められ、このような墓制のあり方は周桑地域・今治地域のほか松山地域を含め広くみられるようである(梅木2001)。

6 中村田所東遺跡出土の瀬戸美濃卸皿

中村田所東遺跡で出土した中世陶器の瀬戸美濃卸皿(185)は、使用方法などに不明な点があるが、愛媛県内における出土遺跡の性格より一般的に使用されたものではなく武士をはじめとする上位階層と関連する可能性がある(首藤2015)。表20の通り、県内では一部13世紀を含むものの多くが14世紀～15世紀にかけての事例で14遺跡が確認されているが、新居浜地域ではこれまで出土例が確認されていない。今回出土の遺物は底部片であり、周辺よりの流れ込みと考えられ、詳細は不明ながら中村田所東遺跡周辺に上位階層を伴う中世遺跡の存在も想定できる。

第3節 出土した弥生土器について

1 弥生土器の変遷

今回調査を行った3遺跡で主たる出土遺物である弥生土器について、現在のところ良好な一括資料に恵まれているとは言えないが、ここでは弥生土器の変遷について、一括資料を中心に使用

表20 愛媛県内の瀬戸美濃卸皿

市町名	遺跡名	出土場所等	点数	時期
四国中央	上分西	7区 SP70	1	14世紀前半
新居浜	中村田所東	遺構外	1	
西条	久枝	2区包含層	2	14世紀後半～15世紀前半
今治	古谷古屋敷	SP33	1	13世紀中頃～後半
	能島城跡	包含層・トレンチ	3	14世紀後半～15世紀前半
東温	拝志古窯群	未掲載		
松山	湯築城跡	SK303・内堀	2	15世紀後半
	道後町	未掲載		
	石手寺村前2次	SP481	1	14世紀前半
	千足	SK32	1	
	北斎院地内4次	包含層	1	15世紀後半
	樽味5次	包含層	1	
	北井門2次	2区 SK19	1	14世紀前半
	別府	3区 SD002	1	14世紀前半

し変遷を概観する。なお、前後する時期における状況の参考として、同じく新居浜バイパス関連調査の星原市東遺跡と松原遺跡の竪穴建物一括資料を図165・166へあわせて掲載した。

前期末～中期初頭では、星原市東遺跡B区SI001で壺・甕が出土している。壺は頸部に沈線を複数施すものや口縁部内面または胴部外面などに連鎖状刻目突帯文がみられる。甕は水平気味で刻目を持つ貼付口縁が多く、胴部に複数の沈線が巡る。

前期末～中期前葉の中村田所東遺跡SK1では、前時期同様に貼付突帯文を持つ壺があり、口縁部が短く立ち上がり外反する短頸広口壺も継続する。貼付口縁の甕も当時期まで確認できる。高杯はみられない。

中期前葉～中葉になると、西喜光地遺跡SB2・8の壺は貼付突帯文が頸部のみとなり、頸部が若干長くなる。ほかに胴部に文様が描かれる無頸壺がみられる。甕では、くの字状の折り曲げ口縁のみとなり、倒卵形を呈する胴部が主体となる。

中期後半～後期初頭では松原遺跡1区SI3出土土器がある。器種が増加し、壺・甕のほか高杯・鉢・蓋・水差などがみられる。壺・甕には凹線文が施される。

後期初頭以降は調査例が不足しており、現状では様相が不明である。終末期では、中村田所遺跡SI2で甕・鉢が出土している。両者とも多くにタタキが施されており、法量差がみられる。鉢は形態的に多様性がある。ほかに壺や高杯なども少量出土している。

今回報告した遺跡では詳細な考察ができなかったが、胎土が他地域と異なる土器が一定量あり、胎土の違いは使用した粘土や含有物に由来すると想定される。

第4節 新居浜バイパス関連遺跡群における遺跡分布と弥生時代集落

1 これまでの調査状況

表21 新居浜バイパス関連発掘調査一覧

遺跡名	調査期間	調査面積 (m ²)	調査機関	主な年代	報告書名
星原市東	2000.7 ~ 2001.1	4,260	愛媛県埋蔵文化財調査センター	縄文~弥生・中近世	2001『星原市東遺跡・星原市遺跡』第109集
星原市	2001.6 ~ 2001.8	1,400	愛媛県埋蔵文化財調査センター	中世	2001『星原市東遺跡・星原市遺跡』第109集
松原	2003.7 ~ 2005.2	5,300	愛媛県埋蔵文化財調査センター	弥生・中近世	2006『松原遺跡』第127集
本郷2次	2010.4 ~ 2010.6	1,200	愛媛県埋蔵文化財調査センター	古墳・古代	2012『本郷遺跡2次・喜来遺跡』第173集
喜来1次	2011.10 ~ 2011.11	564	愛媛県埋蔵文化財調査センター	古代	2012『本郷遺跡2次・喜来遺跡』第173集
喜来2次	2014.6 ~ 2014.7・ 2014.12 ~ 2015.1	320	愛媛県埋蔵文化財センター	古代	2015『喜来2次』第187集
中村田所	2017.9 ~ 2018.3・ 2019.10	2,772	愛媛県埋蔵文化財センター	縄文~弥生・中世	本書報告
中村田所東	2018.4 ~ 2018.8・ 2020.4	2,004	愛媛県埋蔵文化財センター	弥生・中世	本書報告
西喜光地	2020.4 ~ 2020.7・ 2020.10 ~ 2020.12	2,969	愛媛県埋蔵文化財センター	弥生・古代~中世	本書報告

平成12年度より実施された新居浜バイパス関連の埋蔵文化財調査は、今回調査した3遺跡を含め合計8遺跡におよび、これまで刊行された報告書は表21に示す通り計5冊を数える。国領川~渦井川の約5km間の断続的な調査により、新居浜平野の低地部における遺跡の動向が部分的ながら捉えられてきた。

2 遺跡の分布傾向

これまでの新居浜バイパス関連の調査成果から、低地部においては東西方向に遺跡が確認されていない範囲が存在することが判明している。図1~4に示すように少なくとも試掘調査が行われた本郷遺跡~松原遺跡間においては、遺跡の間に埋没河川を含む不安定地形が広がる状況が捉えられており、安定した人的活動を営むには不向きであったと考えられる。同様に、3遺跡の周辺でも現状で小水路となっているものを含む新旧河川・埋没河川により、遺跡の展開が分断されているものと推定される。また、図6のように南北方向に分布する遺跡も捉えられており、新居浜地域の低地部では、扇状地の南北方向に長い自然堤防上などの微高地に遺跡が営まれる傾向が想定できる。

3 弥生時代集落の変遷

新居浜バイパス関連調査のなかでも弥生時代の調査事例は一定量が蓄積されつつある。ここでは、今回調査した3遺跡を含めた弥生時代遺構の大まかな変遷を把握し、図167・168に示す集落の推移を検討したい。

前期末~中期初頭には、国領川左岸に位置する星原市東遺跡に竪穴建物3棟や平地式住居・土坑などが出現する。中期前葉では、尻無川左岸の中村田所東遺跡に竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟や土坑を伴う集落がみられるが、いずれも小規模である。中期前葉~中葉では、尻無川右岸の西喜光地遺跡で掘立柱建物群を伴う集落が形成され、ほかに土坑がみられるが竪穴建物は検出されていない。中期後半~後期初頭では、松原遺跡において東西約3kmの範囲に2箇所程度のまとまりをもつ竪穴建物が合計10棟検出されている。後期では一時様相が不明瞭となるが、終末期の中村田所遺跡は竪穴建物4棟を伴う集落であり、そのうち2棟は方形を呈する。

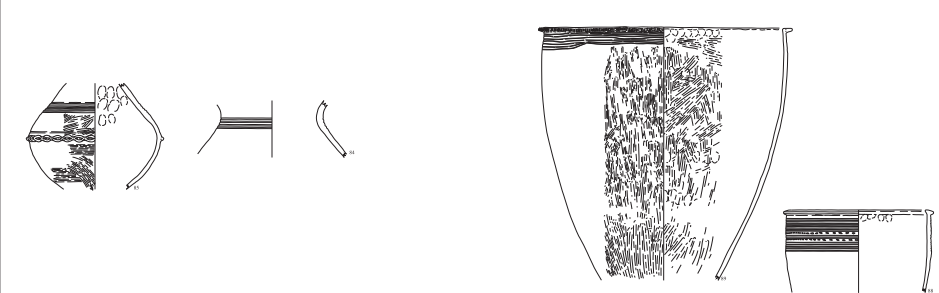

時期	遺跡・遺構名	壺	甕
前期末 ～中期 初頭	星原市東 B区SI001		
前期末 ～中期 前葉	中村田所東 SK1	<p>長頸広口壺 126</p> <p>短頸広口壺 124</p> <p>短頸広口壺 125</p> <p>短頸広口壺 127</p>	<p>128</p> <p>129</p> <p>130</p>
中期中葉	西喜光地 SB2, 8	<p>190</p> <p>193</p> <p>188</p> <p>189</p> <p>無頸壺 (SK5) 214</p>	<p>194</p> <p>195</p> <p>196</p>
中期中葉	(上郷遺跡)		
中期 後半	松原 1区SI3		
+	+	+	
終末期	中村田所 SI2	<p>29</p> <p>30</p> <p>31</p> <p>32</p> <p>0 20cm 1 : 12</p>	

図165 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(1)

時期	遺跡・遺構名	鉢	高杯	その他
前期末 ～中期 初頭	星原市東 B区SI001			
前期末 ～中期 前葉	中村田所東 SK1			
中期中葉	西喜光地 SB2, 8			
中期中葉	(上郷遺跡)			
中期 後半	松原 1区SI3			水差形
+	+		+	
終末期	中村田所 SI2			

図166 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(2)

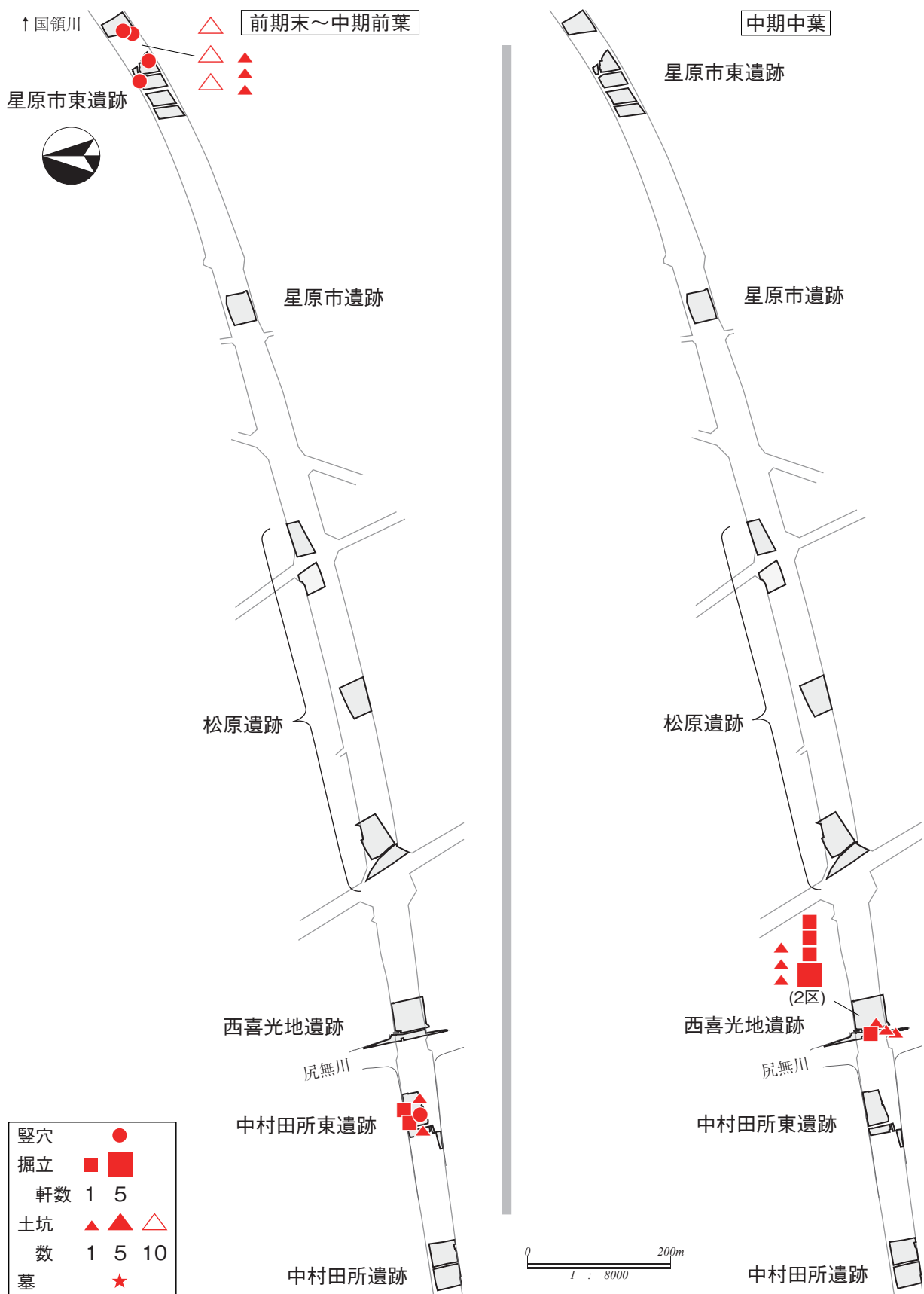


図167 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(1)

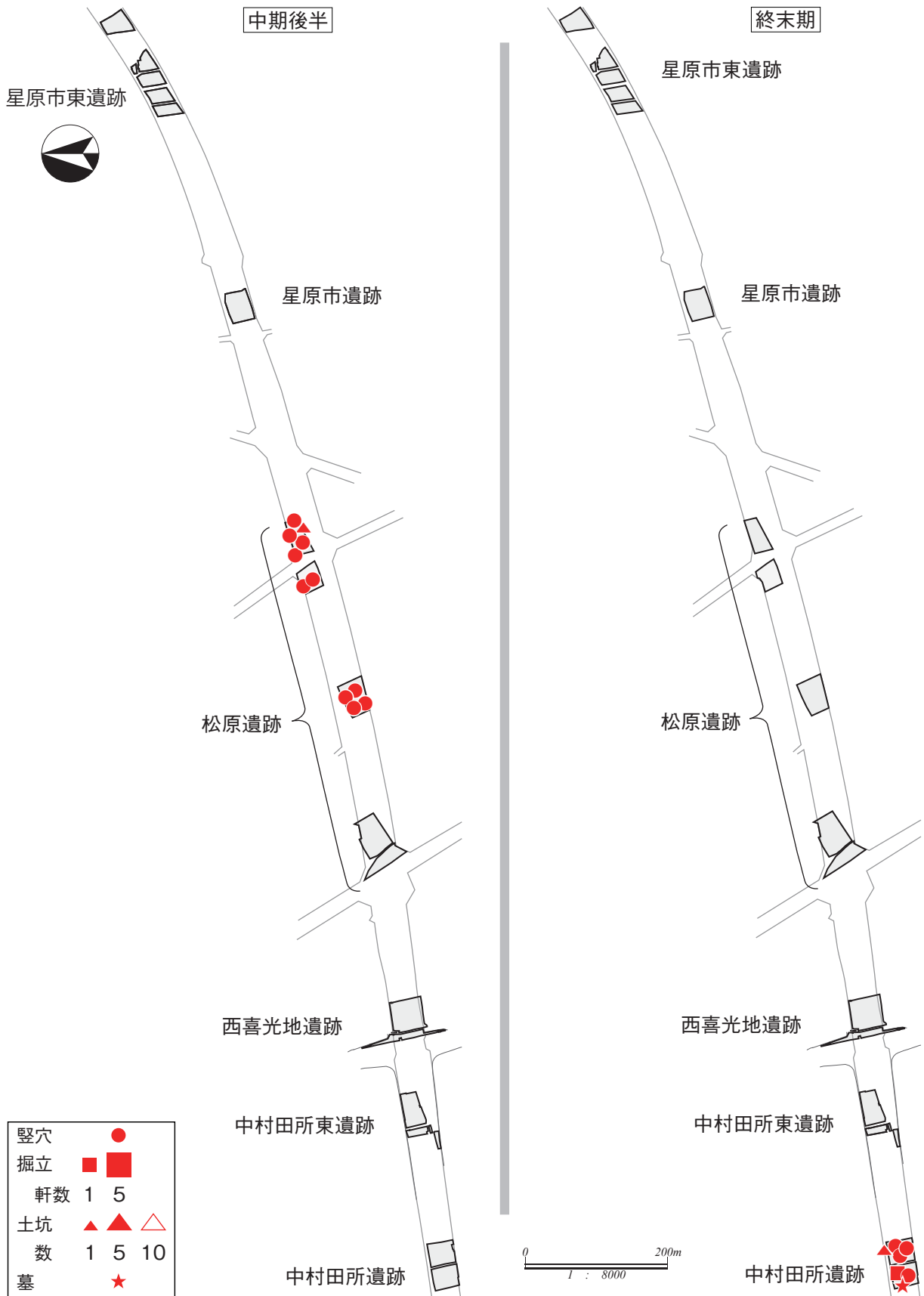


図168 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(2)

このように、新居浜地域の低地部においては弥生時代前期末の国領川や尻無川など比較的規模の大きい河川周辺での小規模な居住から、中期中頃以降には集落が拡大する傾向がうかがえる。しかし、基本的には小規模かつ比較的短期間の集落移動を繰り返した例が多いものと考えられ、これは市内山麓部に位置する上郷遺跡の傾向とも一致する(愛媛県埋蔵文化財センター2009)。道前地域の久枝II遺跡にみられる小型環状石製品や武器形石器・多種におよぶ搬入土器・祭祀関連とされる区画溝を伴うような弥生時代遺跡は、新居浜地域では現在のところ未発見である。

今回実施した中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜地遺跡の調査では、新居浜地域低地部においてこれまで不鮮明であった時期の弥生時代集落を捉えることができた。特に、中村田所東遺跡では弥生時代前期末の石器製作の具体像がうかがえ、西喜地遺跡では小規模な柱穴を有する掘立柱建物のみで構成される空間を把握できるなど、重要な知見が得られた。こうした成果は、低地部のみならず山麓部の遺跡も含めた検討を可能にし、さらには新居浜市域全体の弥生時代集落の解明に寄与することになるだろう。

注

*1 土岐幸司氏よりご教示いただいた。

参考文献

- 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史別編窯業2中世・近世瀬戸系』愛知県
- 幸泉満夫2011「第6章第1節 愛媛県上分西遺跡出土縁帯文土器群の編年学的考察」
『上分西遺跡・上分西乗安地区』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 幸泉満夫2012a「津雲A式土器の細分に向けた若干の考古学的考察」『南久米片廻り遺跡・久米窪田森元遺跡』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 幸泉満夫2012b「初期縁帯文土器群をめぐる諸問題」
『第23回中四国縄文研究会愛媛大会初期縁帯文土器群の成立と展開』
- 犬飼徹夫1993「平城II式の再検討」『古代吉備』15
- 上峯篤史2006「両極打法による剥片剥離実験-異種剥離方法の同定を基礎とした資料体作成に向けて-」
『旧石器考古学』68
- 梅木謙一2000「伊予中部地域」『弥生時代の様式と編年-四国-』木耳社
- 梅木謙一2001「附章2 政枝遺跡出土資料」『斎院の遺跡II』松山市教育委員会・
(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 大久保徹也1990「第10節下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前期半の土器について」『下川津遺跡』
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
- 蔵本晋司1999「第3節弥生時代終末期の土器様相について-下川津B類土器の動向を中心として-」
『中間西井坪遺跡II』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
- 蔵本晋司2019「第5章第2節香東川下流域産土器群の基礎的研究」『上林遺跡』香川県埋蔵文化財センター
- 古代の土器研究会編1992～1994『都城の土器集成1～3』
- 柴田昌児2000a「伊予東部地域」『弥生土器の様式と編年-四国編-』木耳社

- 柴田昌児2000b「湯道を残す鏡と後期弥生土器」『紀要愛媛』創刊号
- 柴田昌児2005「弥生土器総論」『久枝遺跡・久枝II・本郷I遺跡』
- 柴田昌児2006「北四国(瀬戸内海南岸)地域における前・中期弥生集落の居住形態」『弥生集落の成立と展開』
第55回埋蔵文化財研究集会発表要旨集
- 柴田昌児2009「松山平野における弥生社会の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集
- 柴田昌児2012「愛媛県上分西遺跡の調査成果」
『第23回中四国縄文研究会愛媛大会初期縁帯文土器群の成立と展開』
- 首藤久士2015「愛媛県内出土の東海系中世陶器」『研究紀要』11,(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編』
- 千葉豊1989「縁帯文系土器群の成立と展開」『史林』第72巻6号
- 千葉豊1999「縄文土器研究の展望近畿から四国」『縄文時代』10号
- 中世土器研究会編1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 戸沢光則1994『縄文時代研究辞典』東京堂出版
- 中野良一2007「中世伊予国の煮沸具について」『紀要愛媛』第7号,(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 中野良一2013「第6章まとめ」『辻堂遺跡』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 乗松真也2020a「弥生時代中期における金山産サヌカイト製石器の流通」
『さぬき野に種をまく「片桐さん」退職記念論集』さぬき野に種をまく「片桐さん」退職記念論集刊行会
- 乗松真也2020b「弥生時代中期の備讃瀬戸沿岸におけるサヌカイト製石器生産」『古文化談叢』85
- 山崎真治2003「縁帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要』第18号
- 吉田広2003「文京遺跡の弥生時代前期集落」『立命館大学考古学論集III-1』

報告書

愛媛県

- 明徳I東岡東遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1995
『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X-小松町編III-』
- 朝倉下下経田遺跡:(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2020『朝倉下下経田遺跡』
- 池の内遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009『池の内遺跡2次』
- 枝松遺跡:松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1996『東本遺跡4次・枝松遺跡4次』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2008『枝松遺跡7次・8次・9次・10次』
- 音地遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2003『常定寺遺跡・音地遺跡・伊勢越遺跡』
- 上井遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1999『上井遺跡』
- 上郷遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009『上郷遺跡』
- 上深谷遺跡:新居浜市教育委員会2007『上小深遺跡』
- 北井門遺跡:(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2012『北井門遺跡2次』
- 北竹ノ下II遺跡:(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2021『北竹ノ下II遺跡現地説明会資料』
- 旧観寿院跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2010『旧観寿遺跡』
- 喜来遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2012『本郷遺跡2次・喜来遺跡』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター

2015『喜来遺跡2次』

正光寺山古墳群:新居浜市教育委員会2012『正光寺山古墳群』

杣田池田遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009『杣田池田遺跡2次・3次』

高見I遺跡・東峰遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2002『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XVIII-双海町編III-』,(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2018『高見I遺跡2次』

滝の宮遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2011『本郷遺跡3次・滝の宮遺跡』,新居浜市教育委員会2013『滝の宮遺跡2次』

津田小学校構内遺跡:松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2001『斎院の遺跡II』

新谷古新谷遺跡:(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2016『新谷古新谷遺跡2次現地説明会資料』

星原市遺跡・星原市東遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2004『星原市東遺跡・星原市遺跡』

本郷遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2010『本郷遺跡』,(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2012『本郷遺跡2次・喜来遺跡』,(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2011『本郷遺跡3次・滝の宮遺跡』

政枝遺跡:新居浜市教育委員会2006『政枝遺跡』

松原遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2006『松原遺跡』

宮前川遺跡:(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1986『宮前川遺跡』

横山遺跡・横山古墳:新居浜市教育委員会1987『横山古墳発掘調査報告書』

香川県

上林遺跡:香川県埋蔵文化財センター2019『上林遺跡』

旧練兵場遺跡:香川県教育委員会・独立行政法人国立病院機構善通寺病院2011『旧練兵場遺跡II(第19次調査)』

龍川五条遺跡:香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団1996『龍川五条遺跡I』

成重遺跡:香川県教育委員会・日本道路公団2005『成重遺跡II』



版

凡 例

1. 遺物写真の縮率は、特に指定のないものについては約 1/3 である。
2. 遺構写真は現場担当者が、遺物写真は岡が撮影した。



遺跡遠景(滝の宮公園より)



1区調査前状況(南西より)



2区調査前状況(北東より)



1区東半遺構検出状況(南東より)



1区中央北半遺構検出状況(南東より)



1区西半北側遺構検出状況(南東より)



1区東半南側遺構検出状況(北東より)



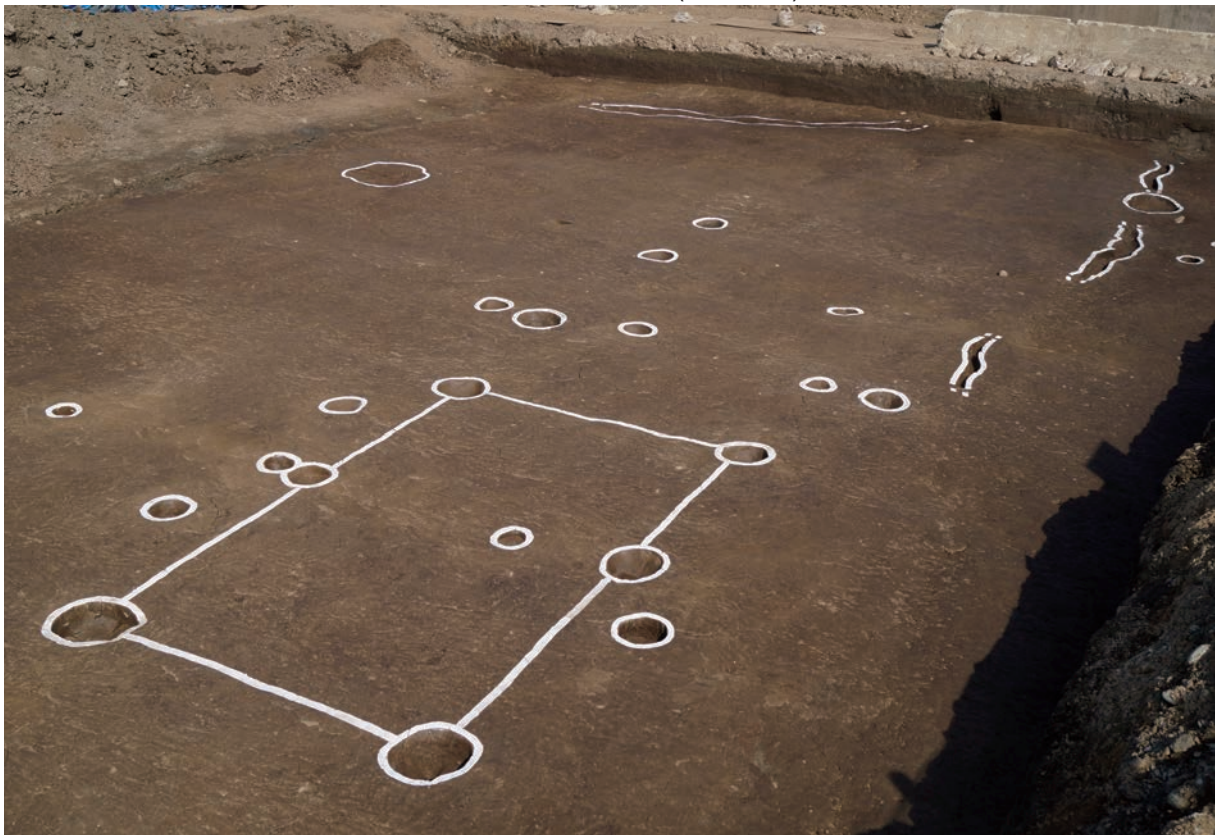
2区北半遺構検出状況(南東より)



2区南半遺構検出状況(北西より)



1区東半北側完掘状況(南西より)



1区東半南側完掘状況(南西より)



1区西半北側完掘状況(南東より)



1区北端部完掘状況(南東より)



2区南半完掘状況(北西より)



2区北端部完掘状況(北西より)



2区北半完掘状況(南東より)



S11完掘状況(東より)



S11土層断面(北西より)



S11土層断面(南東より)



S11遺物出土状況(北西より)



SI2完掘状況(西より)



SI2土層断面(北西より)



SI2土層断面(南東より)



SI2遺物出土状況(南東より)



SI2遺物出土状況(北東より)



SI2焼土・炭化物出土状況(西より)



SI2焼土・炭化物出土状況(南より)



SI2焼土・炭化物出土状況(南東より)



SI2焼土・炭化物出土状況(北西より)



SI2焼土・炭化物出土状況(北より)



SI2下層遺物出土状況(北西より)



SI2下層遺物出土状況(南より)



SI2下層遺物出土状況(北西より)



SI2-SK10土層断面(北西より)



SI2-SP239土層断面(西より)



SI3完掘状況(南より)



SI3土層断面(東より)



SI3土層断面(西より)



SI3焼土・炭化物出土状況(南より)



SI4完掘状況(北西より)



SI4土層断面(北西より)



SI4土層断面(南東より)



SI4床面検出状況(北西より)



SI4焼土・炭化物出土状況(北西より)



SI4焼土・炭化物出土状況(西より)



SI4焼土・炭化物出土状況(南東より)



SI4下層遺物出土状況(南東より)



SI4下層遺物出土状況(北西より)



SI4下層遺物出土状況(北東より)



SI4下層遺物出土状況(東より)



SI4-SK12遺物出土状況(南西より)



SI4-SK12土層断面(南東より)



SI4-SP244土層断面(南より)



SI4-SP246土層断面(南西より)



SB1完掘状況(南東より)



SB1-SP169礫出土状況(西より)



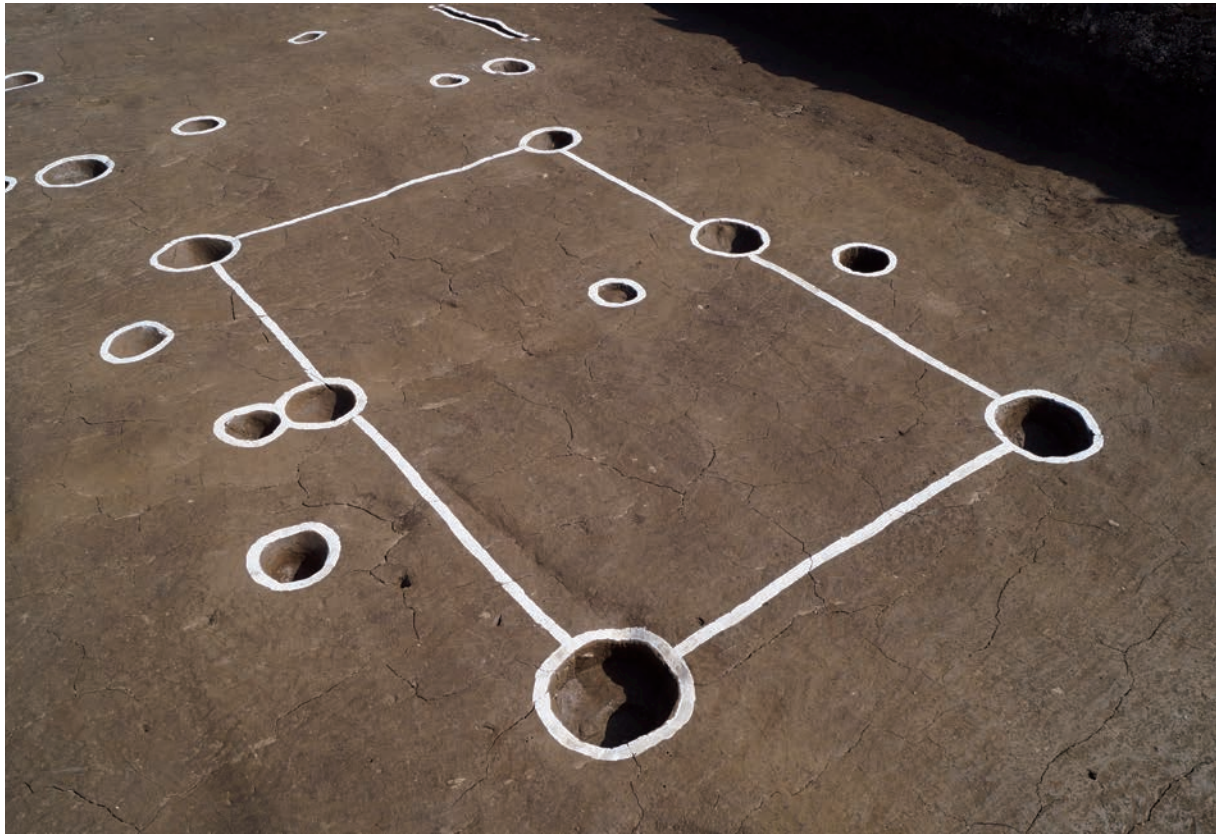
SB1-SP174礫出土状況(西より)



SB1-SP169土層断面(西より)



SB1-SP171土層断面(南西より)



SB2完掘状況(北西より)



SB2-SP177遺物出土状況(北より)



SB2-SP177土層断面(南東より)



SB2-SP181土層断面(南より)



SB2-SP182土層断面(南西より)



SK1遺物・礫出土状況(北より)



SK1完掘状況(北より)



SK1土層断面(南より)



SK1土層断面(北より)



SK7,8完掘状況(南東より)



SK7遺物出土状況(南東より)



SK7土層断面(南東より)



SK8遺物出土状況(南西より)



SK8土層断面(南東より)



SK9遺物出土状況(西より)



SK9完掘状況(南西より)



SK9土層断面(南東より)



SK3土層断面(南より)



SK5完掘状況(西より)



ST1内部完掘状況(北より)



ST1検出状況(北より)



ST1内部完掘状況(下層)(北西より)



ST1内部土層断面(北より)



ST1土層断面(北より)



1区東半北側溝群完掘状況(北西より)



SD10,11完掘状況(西より)



SD12完掘状況(北西より)



SD13西半完掘状況(南より)



SD13東半完掘状況(東より)



SD1b-b'土層断面(北より)



SD2土層断面(北東より)



SD6土層断面(南より)



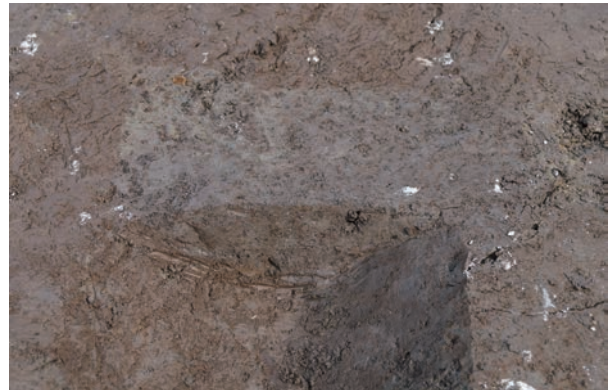
SD8土層断面(東より)



SD10土層断面(西より)



SD11土層断面(西より)



SD12土層断面(西より)



SD13a-a'土層断面(北より)



SD13b-b'土層断面(西より)



SP8土層断面(北より)



SP112土層断面(東より)



SP113土層断面(南東より)



SP113土層断面(南東より)



SP140遺物出土状況(北西より)



SP142遺物出土状況(南西より)



SP144土層断面(西より)



SP183土層断面(南東より)



SP236土層断面(南より)



SX1土層断面(南より)



1区北壁(A-A'-A'')東半断面(南西より)



1区北壁(A-A'-A'')西半断面(南東より)



1区西壁(B-B')断面(南東より)



2区南壁(F-F')断面(北西より)



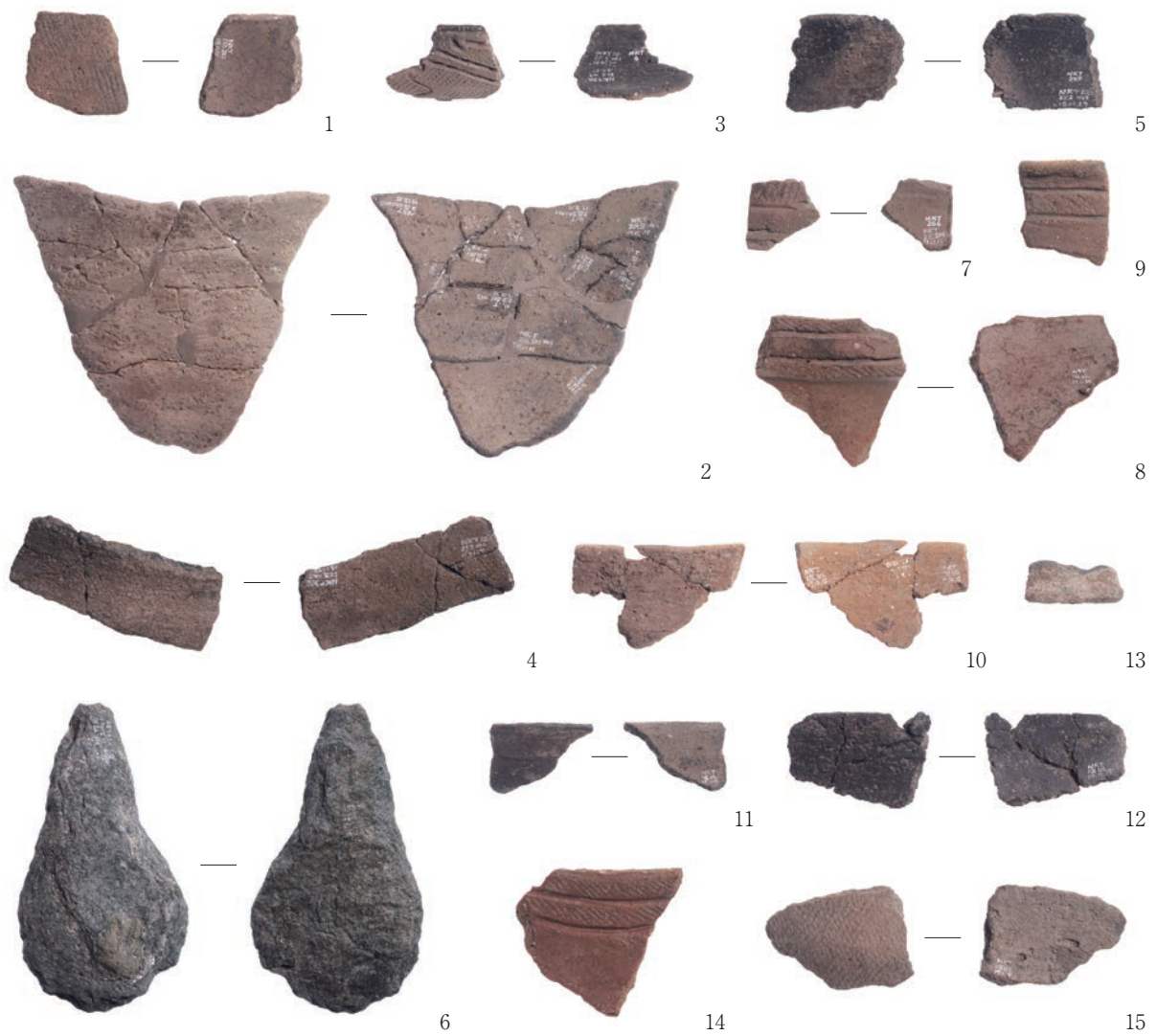
2区北壁(D-D'-D'')断面(南西より)



2区東壁(E-E')断面(南西より)



出土遺物(弥生時代)



図版28 縄文時代出土遺物 包含層・出土地不明 / 弥生時代出土遺物 SI





31



36



29

42



32



37



39



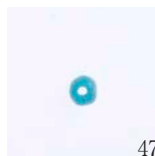
40



41



43



47



38



49



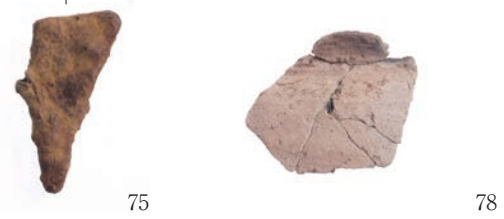
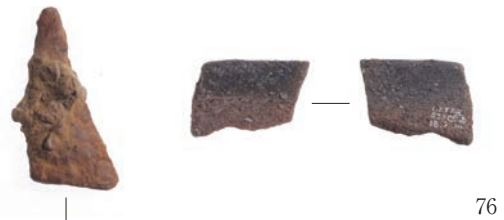
50



48

図版30
弥生時代出土遺物
SI





図版 32
弥生時代出土遺物
SI・SK・SD・SP・包含層





80



81



82

図版34 弥生時代出土遺物 包含層 / 中世出土遺物 SB・SP・包含層





図版35 弥生時代出土遺物 包含層 / 中世出土遺物 包含層



1区東側調査前状況(南東より)



1区西側調査前状況(南西より)



2a区調査前状況(北より)



1区中央遺構検出状況(北西より)



1区東側遺構検出状況(南東より)



1区西側遺構検出状況(南より)



2a区遺構検出状況(北東より)



2c区東半遺構検出状況(西より)



1区中央完掘状況(南西より)



1区東側完掘状況(南東より)



1区西側完掘状況(南西より)



2c区東半完掘状況(西より)



2a区完掘状況(南より)



2b区完掘状況(北東より)



SI1完掘状況(南東より)



SI1-SP170土層断面(南より)



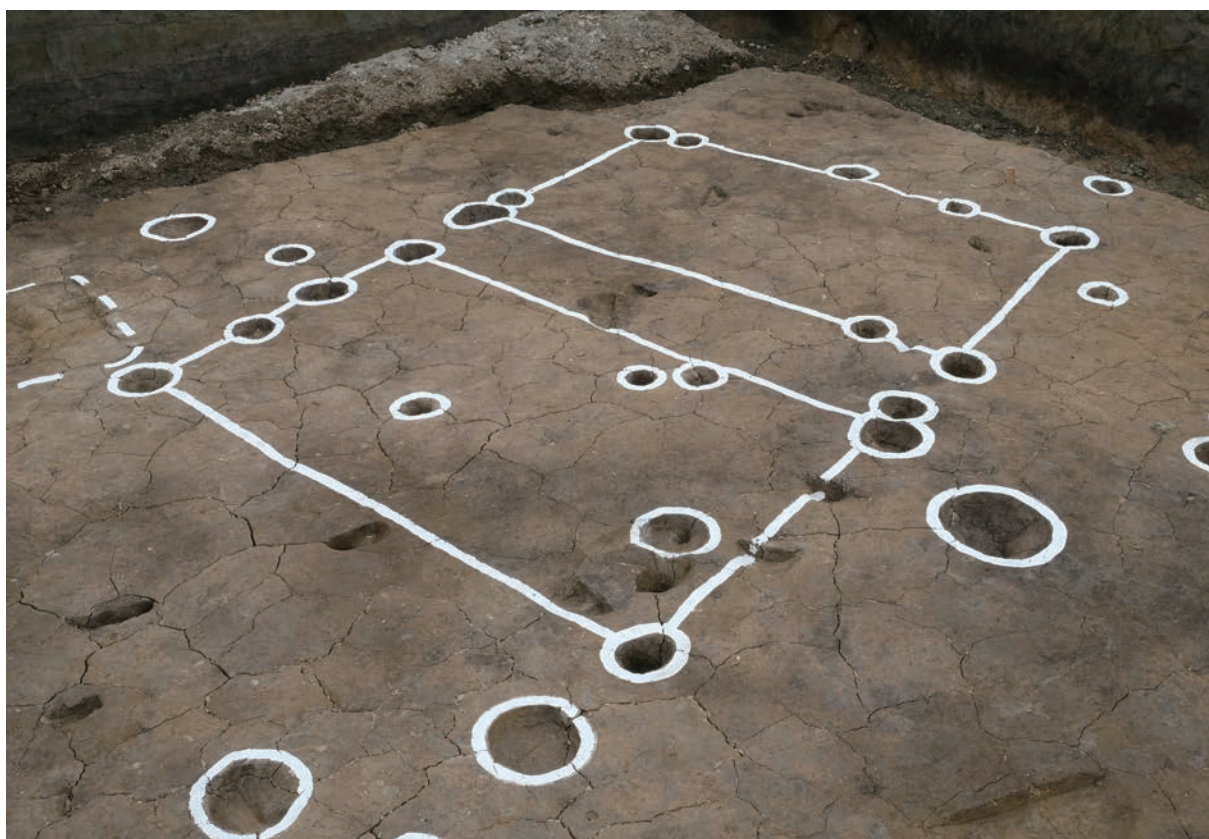
SI1-SK2土層断面(南より)



SI1-SK2土層断面(北西より)



SI1-SK2周辺焼土・炭化物出土状況(東より)



SB1,2完掘状況(南西より)



SK4完掘状況(南西より)



SK4土層断面(北より)



SK4遺物出土状況(南西より)



SK4遺物出土状況近景(南西より)



SK1完掘状況(南西より)



SK1土層断面(西より)



SK1土層断面(北より)



SK1遺物出土状況(南東より)



SK3完掘状況(南西より)



SK3土層断面(南西より)



SD1完掘状況(南より)



SD1土層断面(北東より)



SD3完掘状況(北より)



SD3土層断面(南西より)



SD2土層断面(南西より)



SX1土層断面(南より)



SR1完掘状況(東より)



SR1a-a'土層断面(西より)



SR1b-b'土層断面(東より)



SR2c-c'土層断面(東より)



SR2遺物出土状況(北東より)



SP72遺物出土状況(南東より)



SP332遺物出土状況(北東より)



1区北壁(D-D'-D'')西半断面(南西より)



1区北壁(D-D'-D'')東半断面(南東より)



1区北壁(C-C')断面(南東より)



1区東壁(A-A'・B-B')北半断面(南西より)



2a区北壁(F-F')断面(南より)



2a区東壁(G-G')断面(北西より)



2b区西壁(H-H')断面(東より)



2c区東壁(J-J')断面(南西より)



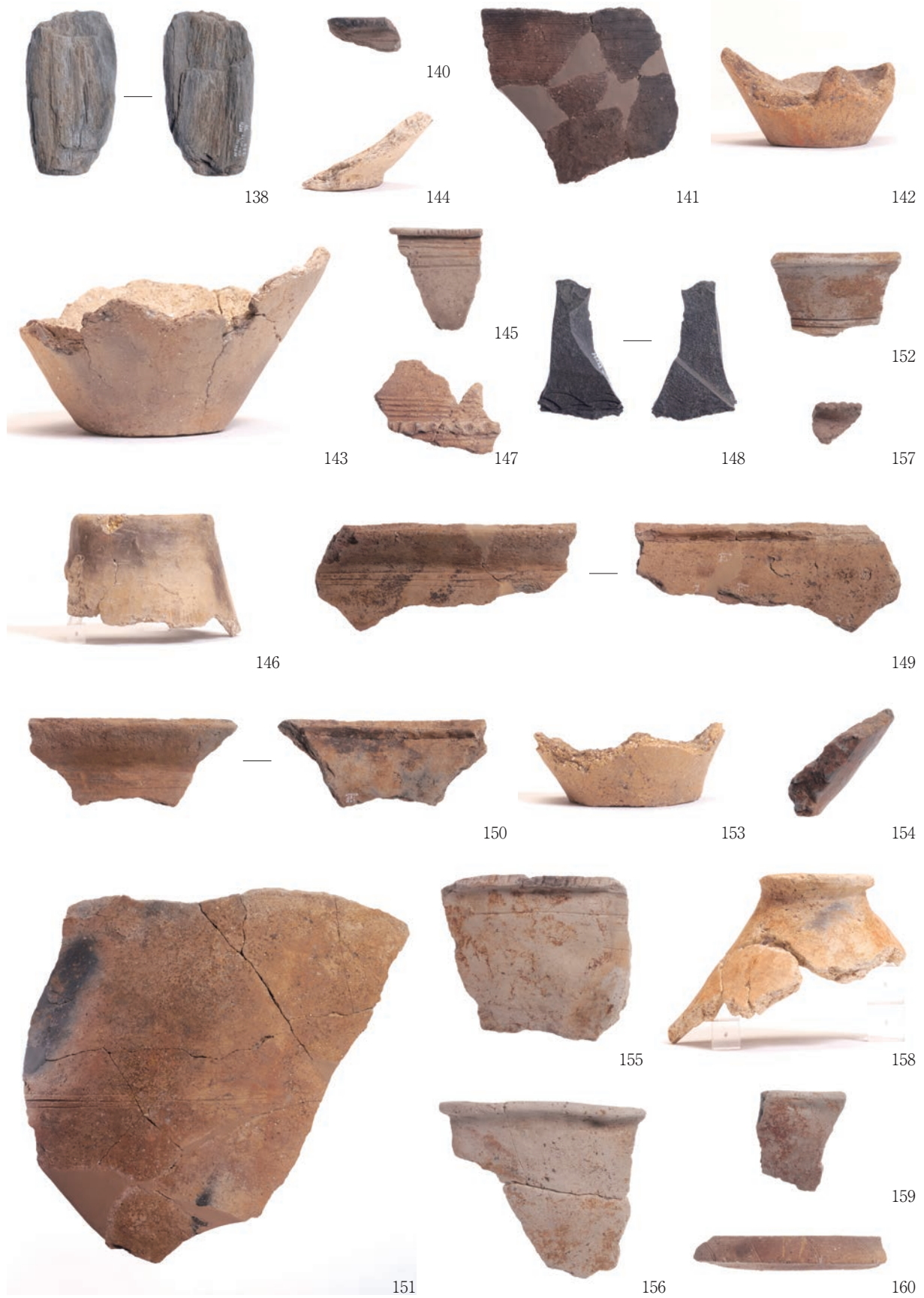
2c区北壁(I-I')断面(南西より)



出土遺物(弥生時代)



図版48
弥生時代出土遺物
SK・SD・SP・SR





図版 50 弥生時代出土遺物 包含層・出土地不明 / 中世出土遺物 SP・包含層





1区調査前状況(南東より)



2a区調査前状況(南西より)



1区中央部南半遺構検出状況(北より)



1区中央部北半遺構検出状況(南より)



1区南端部遺構検出状況(南より)



1区北端部遺構検出状況(南より)



2a区南半西側遺構検出状況(北より)



2a区南東側遺構検出状況(北東より)



2a区北端部遺構検出状況(南東より)



2a区北側遺構検出状況(西より)



2a区中央部遺構検出状況(西より)



1区中央部南半完掘状況(北より)



1区中央部北半完掘状況(南より)



1区南端部完掘状況(北より)



1区北端部完掘状況(北より)



2b区完掘状況(北より)



2a区南半完掘状況(北より)



2a区北半完掘状況(南より)



SB1完掘状況(南より)



SB2-SP1遺物出土状況(南東より)



SB2-SP1土層断面(南より)



SB2-SP2遺物出土状況(北東より)



SB2-SP2最下層遺物出土状況(北東より)



SB2-SP2下層遺物出土状況(北東より)



SB3完掘状況(北西より)



SB3-SP346土層断面(南西より)



SB4-SP355土層断面(北より)



SB4完掘状況(北西より)



SB5,9,10完掘状況(北西より)



SB5-SP358土層断面(北西より)



SB5-SP360土層断面(南東より)



SB9-SP381土層断面(北東より)



SB10-SP388土層断面(北東より)



SB6完掘状況(北西より)



SB6-SP365土層断面(南より)



SB6-SP367土層断面(北東より)



SB7北半完掘状況(北東より)



SB7-SP368遺物出土状況(南より)



SB7-SP153礫出土状況(東より)



SB8完掘状況(南東より)



SB8-SP376礫出土状況(南より)



SB8-SP372遺物出土状況(南より)



SB8-SP372下層遺物出土状況(北西より)



SB8-SP375遺物出土状況(南東より)



SB8-SP375土層断面(北東より)



SB8-SP377遺物出土状況(北西より)



SB8-SP378遺物出土状況(南より)



SK1,2完掘状況(南西より)



SK1,2遺物出土状況(北西より)



SK1,2遺物出土状況(北西より)



SK1,2遺物出土状況(北より)



SK1,2遺物出土状況(南より)



SK1土層断面(南東より)



SK5完掘状況(北より)



SK5遺物出土状況(北より)



SB5,10・SK6完掘状況(北東より)



SK6遺物出土状況(東より)



SK6土層断面(南東より)



SK7完掘状況(南東より)



SK7遺物出土状況(南東より)



SK7北側遺物出土状況(北より)



SK3完掘状況(北西より)



SK4完掘状況(北より)



SD5,6土層断面(南より)



SD5b-b'土層断面(北より)



1区中央南半溝群完掘状況(南東より)



SD1a-a'土層断面(南より)



SD1b-b'土層断面(南より)



SD2d-d'土層断面(南より)



SD2f-f'土層断面(南より)



SD3土層断面(南より)



SD4土層断面(北より)



1区北側溝群完掘状況(北より)



SD6c-c'土層断面(西より)



SD9d-d'土層断面(北より)



SD10土層断面(南より)



SD7,8完掘状況(南西より)



SD7,19完掘状況(南西より)



SD15完掘状況(南東より)



SD14完掘状況(南東より)



SD7,8a-a'土層断面(東より)



SD7c-c'土層断面(東より)



SD15a-a'土層断面(南より)



SD19d-d'土層断面(西より)



SD19e-e'土層断面(東より)



SP30土層断面(西より)



SP51土層断面(西より)



SP277土層断面(西より)



1区西壁(A-A'-A'')南半断面(南東より)



1区西壁(A-A'-A'')北半断面(南東より)



1区西壁(B-B'-B'')南半断面(南東より)



1区西壁(B-B'-B'')北半断面(北東より)



2b区西壁(C-C')断面(北東より)



2a区西壁(D-D'-D'')南半断面(南東より)



2a区西壁(D-D'-D'')北半断面(南東より)



2a区南壁(E-E'-E'')東半断面(北西より)



2a区南壁(E-E'-E'')西半断面(北西より)



2a区東壁(F-F'-F'')北側断面(南西より)



2a区東壁(F-F'-F'')北半断面(南西より)



2a区東壁(F-F'-F'')南半断面(北西より)



出土遺物(弥生時代)







198



204



203



205



208



211



207





218



220



222



221



223



224



225



230



231



226



227



228



229



232



報告書抄録

ふりがな	なかむらたどころいせき なかむらたどころひがしいせき にしきこうじいせき									
書名	中村田所遺跡 中村田所東遺跡 西喜光地遺跡									
副書名	一般国道11号新居浜バイパス新居浜市道西喜光地町副道1号線埋蔵文化財調査									
巻次										
シリーズ名	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター発掘調査報告書									
シリーズ番号	第203集									
編著者名	首藤久士(編) 岡美奈子(編) 乗松真也									
編集機関	公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター									
所在地	〒791-8025		愛媛県松山市衣山四丁目68-1			TEL (089) 911-0502				
発行年月日	西暦 2022年 3月									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ^{m²}		調査原因	
		市町村	遺跡番号				平面積	総面積		
なかむらたどころいせき 中村田所遺跡	えひめけんにいほまし 愛媛県新居浜市 なかむらまつぎ 中村松木二丁目	38205		33°56'16"	133°17'23"	20170925 } 20180309 20191001 } 20191029	2,772	2,772	一般国道11号 新居浜バイパス 建設	
なかむらたどころひがし 中村田所東 いせき 遺跡	えひめけんにいほまし 愛媛県新居浜市 なかむらまつぎ 中村松木二丁目・ つちはし 土橋一丁目	38205		33°56'17"	133°17'33"	20180418 } 20180831 20200414 } 20200417	2,004	2,004	一般国道11号 新居浜バイパス 建設	
にしきこうじいせき 西喜光地遺跡	えひめけんにいほまし 愛媛県新居浜市 にしきこうじちょう 西喜光地町	38205		33°56'18"	133°17'36"	20200420 } 20201228	3,122	3,122	一般国道11号 新居浜バイパス・新居浜市道 西喜光地町1 号線建設	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項				
中村田所遺跡	集落	縄文時代・ 弥生時代・ 中世	竪穴建物4棟・掘立柱 建物2棟・土坑10基・ 壺棺墓1基・溝15条・ 小穴250穴・性格不明 遺構1基	縄文土器・弥生土器・ 石器・鉄製品・ガラス 製品・土師器(古代・中 世)・瓦器・土師質土器		新居浜地域における低 地部の弥生時代集落遺 跡群。弥生時代前期末 ～中期の遺構のほか、 当地域で調査例が少な い弥生時代終末期の集 落が検出された。また、 鬼界アカホヤ火山灰の 自然科学分析を行 なった。				
中村田所東 遺跡	集落	弥生時代・ 中世	竪穴建物1棟・掘立柱 建物2棟・土坑4基・溝 3条・小穴435穴・自然 流路2条・性格不明 遺構1基	弥生土器・石器・瓦 器・土師質土器・中世 陶器						
西喜光地遺跡	集落	弥生時代・ 古代・中世	掘立柱建物10棟・土坑 8基・溝19条・小穴397 穴	弥生土器・土師器(古 代)・土師質土器・須 恵器・瓦器・陶磁器・ 石器・瓦						
要約	<p>新居浜平野中央部に立地する、弥生時代の前期末～中期中葉ならびに終末期の集落遺跡群である。ほかに縄文時代や古代・中世の遺構・遺物が出土している。</p> <p>中村田所遺跡では、鬼界アカホヤ火山灰の二次堆積が検出され、縄文時代後期前葉の土坑・小穴が出土した。弥生時代終末期では、焼失竪穴建物や掘立柱建物・壺棺墓などが出土している。</p> <p>中村田所東遺跡では、弥生時代前期末～中期初頭の竪穴建物や土坑・自然流路が検出された。竪穴建物からは一定量のサヌカイト剥片が出土し、石器製作の痕跡が捉えられた。</p> <p>西喜光地遺跡では、弥生時代中期中葉の掘立柱建物群や土坑が出土しており、当期の集落の一部を構成していると考えられる。</p>									

埋蔵文化財発掘調査報告書 第203集

中 村 田 所 遺 跡
中 村 田 所 東 遺 跡
西 喜 光 地 遺 跡
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4年3月

編集・発行

公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター
愛媛県松山市衣山四丁目68-1
TEL (089) 911-0502

印

刷

岡田印刷株式会社